非合法時代の日本共産党中央機関紙

複刻版

☆一九三一・一〇・二〇―一九三一・七・二☆

第二一巻

三一書房刊

非合法時代の日本共産党中央機関紙

『赤旗』

第二巻

（第56号＝1931.10.20～
特別号＝1932. 7. 2）

日本共産党中央機関紙
アカハタ本局編

三一書房刊

赤旗特別附録

大衆的デモで武力干渉の包囲からソヴエート同盟を守れ！
8月1日！
国際的反戦デー
ソヴエート同盟
日本共産党
支那共産
台湾共産党
朝鮮共産党

8月1日は街頭デモへ!!

世界プロレタリアートの革命的共同斗争万才！
帝国主義戦争を打ち仆せ！
ソヴエート同盟を守れ！
中国の革命的勤労者を守れ！
朝鮮・台湾の独立万才！
ソヴエート日本万才！

附録

刊行のことば

一九五四年三月一日、日本共産党中央機関紙『アカハタ』は、平和と民主主義、民族の独立を切実にのぞむ国民のいかりと闘いに支持されて、ふたたび日刊をかちとった。この日を記念して、戦前から戦時中にかけて、半封建的な天皇制の残忍なテロルにも屈せず、平和と民主主義のために一貫して闘いつづけた日本共産党が、中央機関紙として地下で発行をつづけた『赤旗』の復刻版を、四分冊にわけて出版する。

『赤旗』は、一九二八年二月一日、第一回普通選挙の実施をまえに、創刊された。それは、第一次世界大戦後の大恐慌の前夜であった。わが国では二七年いらい金融恐慌がひろがり、鈴木商店の破産、銀行の取つけさわぎにつづいて、中小企業の破たんと、資本の合理化政策がすすみ、生活の権利をまもろうとする労働者の闘争（野田大争議、東京市電ストなど）や農漁民の騒擾（秋田、高知など）が発展しはじめて、日本の帝国主義者をおびえさせていた。田中反動内閣は、吉田茂なども参加した東方会議で、中国にたいする強盗的侵略戦争の準備に専念すると同時に、労働者、農民の革命的な闘争にたいしてざんこくな弾圧を加え、この闘争の先頭に立って闘っていた日本共産党を破かいするために狂ほんしていた。

一九二二年七月の党創立いらい、断固として党綱領に天皇制の廃止をかかげ、民主主義とわが国民の豊かな生活をめざして闘っていた共産党は、書記長渡辺政之輔を先頭に、党を大衆的基礎に置き、『この「赤旗」を通じて、大衆のまえに公然とあらわれ、プロレタリアートの厳格なヘゲモニーのもとに、全勤労民衆のあらゆる革命的闘争を指導し、組織する任務をもっとも忠実、もっとも果敢に遂行せん』（創刊の辞）として、『赤旗』の発行を断行し、破滅的な侵略戦争の危機にたちむかったのである。

創刊の辞をかいた渡辺政之輔書記長は、その年の十月に台湾の基隆で、官憲と闘い、虐殺さ

第二巻　目次

はしがき …… 1
第56号 (1931.10.20) …… 5～16
第57号 (1931.10.26) …… 17～26
第58号 (1931.11. 1) …… 27～43
第59号 (1931.11.16) …… 44～58
第60号 (1931.12.13) …… 59～75
第61号 (1931.12.23) …… 76～92
第62号 (1932. 1.21) …… 93～103
第63号 (1932. 3. 2) …… 104～113
第64号 (1932. 3. 8) …… 114～124
第65号 (1932. 3.15) …… 125～136
第66号 (1932. 3.22) …… 137～142
第67号 …… 欠
第68号 (1932. 4. 1) …… 143～149
第69号 (1932. 4. 8) …… 150～155
第70号 (1932. 4.13) …… 156～161
第71号 (1932. 4.18) …… 162～167
第72号 (1932. 4.23) …… 168～175
第73号 (1932. 4.28) 印刷中押収さる …… 欠
第74号 (1932. 5.16) …… 176～183
第75号 (1932. 5.20) …… 184～191
第76号 (1932. 5.30) …… 192～199
特別号 (1932. 6. 1) …… 200～203
第77号 (1932. 6. 5) …… 204～211
第78号 (1932. 6.15) …… 212～219
第79号 (1932. 6.20) …… 220～223
第80号 (1932. 6.25) …… 224～229
第81号 (1932. 7. 1) …… 230～235
特別号 (1932. 7. 2) …… 236～239

れた。『赤旗』を守り、育てた党内外の革命的な闘士たちが、あるいはたおされ、あるいは捕えられた。『赤旗』もまた、あるいは印刷所を破かいされ、あるいは発送直前におそわれて、欠号となったこともあり、党全体が大弾圧をうけて、一時発行がとだえたこともある。たとえば一九三〇年六月十五日付の第三十三号は、ほとんど全部を敵の手に奪われて、第三十四号の再刊まで（日付は一月二十五日になっているが、二月十五日のあやまり）党は、中央機関紙なしに闘わなければならなかった。また第四分冊の第百八十七号以後は、東京地方版と、関西地方版が発行され、後者が中央委員会の指導のもとに、ふたたび中央機関紙『赤旗』となった。

戦後、日本共産党が合法政党として活動をはじめると同時に、アカハタ編集局は、党史資料委員会と共に、『赤旗』を完全に揃えるため、全党の同志と読者の協力を訴えた。それいらい、今日までに、大部分が集められたが、なお敵の手に奪われて還らないものもある。だが、現在では、これ以上をのぞむことができないので、欠けている部分は、『赤旗』にのこされた傷あととして、このままで出版することにした。なお、ここには中央機関紙として発行された ものだけを收め、地方版は何れも除いてあるが、中央機関紙『赤旗』の号外などは、集められた限り、全部收めてある。

この『赤旗』の歴史は、そのまま、わが日本の労働者階級と国民大衆の不屈のたたかいの歴史であり、こんにちの日本国民のたたかいと国民の綱領――新綱領は、このながいたたかいの経験の土台のうえになりたっているのである。われわれは、日本の革命運動の現在と将来をたしくつかむために、ぜひとも、過去の歴史をただしくつかむ必要がある。この『赤旗』復刻版は、そのための血のにじんだ、貴い資料であることを確信する。

一九五四年五月

アカハタ本局

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！

革命的反対派の任務

全國労働組合同盟大会を前にして

(1)

全口労働同盟　全口大会は後旬日に迫ってゐる。求むるべき大会の意義は、表面丈けでも革命的に張ふてゐた同盟の指導者連が日本労働クラブ参加問題でその馬脚を表したのに対し、一般組合員側からの反抗が全口的に拡大されつゝあると云ふ点に、求めることが出来る。何故かの9・労働クラブへの加盟問題は全口同盟の根本的方針と切り離して考へ得られない問題である。全口労働同盟の指導方針——従ってヨリ根本の理由が労働クラブへの加盟に依って明るみへ出されること 換言すれば、旧日組合にはいつたばかりの労働者にもハッキリと全口労働の改良主義的性質が会つたのである。

総同盟の第二次分裂（組合同盟の結成）、更に組合同盟よりの大阪側の脱退（大矢、山内等）、その次に、後者二つの同盟——此の全過程を通じて我々は彼等の非革命的性質、改良主義的本質をバク口して来た。そして事態は正に我々が理論した通りに行つた。

組合同盟の生れた時、我々は言つた。「それは革命的労働組合運動の線に沿ふ所の革命的反対派が結成されてゐる。この反対派が幾箇月での解盟せざる限り、左翼化しつゝある大衆の進行を妨げるのみと。大阪側の大矢、山内等が分裂した時我々は指摘した。「左翼化しつゝある大衆の眼を胡魔化さんが為と、もう一つは椅子の割り当てとの為に分裂したのである。彼等指導者が全口協議会の指導下に立たざる限り結局には改良主義的なものにならぬと。で、今日どうか？望月源次は全口労働同盟の関東地方に於てすらダラ幹としての名誉をはしいまゝにしてゐる。大矢、山内はどうか？労働クラブへの参加に賛成の先頭に立つてゐる。皆では革命的言辞をほいた上條愛一も労働クラブ参加の急先鋒である。現在では加藤勘十が昔からの煮ても焼いても食へない様にでどうやらこうやら残つてゐるが、併し全口労働全体に於ける彼の地位はみじめである。労農一派から智三を借りては来るが、善吉等はやつぱり善吉等に過ぎず、況や、吹き込みが「労農」丈けんだからにおてをやだ。

斯くて幾度

かの様に次ぐに次ぐに分裂の内部に、今や、革命的労働組合運動の線に沿ふ所の革命的反対派が結成されてゐる。この反対派が幾箇月での解部反対と異るところは、それはこの反対派が我党及び労働組合全口協議会に依つて指導されてゐる事である。

我々は裏切者

であり、憶測者であり、中傷者である。「口先だけの中間派」とすら呼び得ないであらう。望遠と斧便との間に相の区別があるか？国家と松脚の間にどれ丈けの相違があるか？又、総同盟のストライキ破りと全口同盟のストライキ「戦術上との間に区別を見付け出し得るか？

全口同盟内の大衆は、全口協議会に指導されてゐる革命的反対派に於て彼等が長い間探し求めてゐたものを発見したのである。

(2)

けれども、全口労働内の革命的反対派は一般組合員大衆の要求を完全に充

週刊 赤旗 第56号

國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼革命的反対派の任務……一頁
▼小岩井浄君の村議当選に就て……四頁
▼中口に於ける新しき革命的指導
中口革命を防衛せよ！……六頁
▼飲の火花……八頁

『赤旗』全四巻　総目次

第一巻

はしがき……1
第1号（1928. 2. 1）写……5
第2号（1928. 2.15）写……8
第3号（1928. 3. 1）写……13
第4号（1928. 3.15）写……20
第5号（1928. 3.22）写……27
第6号～第26号……欠
第27号（1929. 3.20）……32～37
第28号～第33号……欠
第34号（1931. 2.25）……38～44
第35号（1931. 3. 1）……欠
三・一五記念特輯号（1931. 3.10）…45～53
第36号（1931. 3.17）……54～64
第37号（1931. 3.25）……65～77
第38号（1931. 4. 8）……78～86
第39号（1931. 4.22）……87～96
第40号（1931. 4.27）……97～103
第41号……欠
第42号（1931. 5.17）……104～118
第43号（1931. 5.31）……119～134
第44号（1931. 6.15）……135～148
第45号（1931. 7. 6）……149～161
第46号（1931. 7.15）……162～177
第47号（1931. 7.29）……178～186
第48号（1931. 8. 5）……187～195
第49号（1931. 8.12）……196～205
第50号（1931. 8.22）……206～216
第51号（1931. 8.30）……217～226
第52号（1931. 9. 6）……227～237
第53号（1931. 9.15）……238～247
第54号（1931. 9.21）……243～257
第55号（1931.10. 5）……253～257

第二巻

はしがき……1
第56号（1931.10.20）……5～16
第57号（1931.10.26）……17～26
第58号（1931.11. 1）……27～43
第59号（1931.11.16）……44～58
第60号（1931.12.13）……59～75
第61号（1931.12.23）……76～92
第62号（1932. 1.21）……93～103
第63号（1932. 3. 2）……104～113
第64号（1932. 3. 8）……114～124
第65号（1932. 3.15）……125～136
第66号（1932. 3.22）……137～142
第67号……欠
第68号（1932. 4. 1）……143～149
第69号（1932. 4. 8）……150～155
第70号（1932. 4.13）……156～161
第71号（1932. 4.18）……162～167
第72号（1932. 4.23）……168～175
第73号（1932. 4.28）印刷中押収さる…欠
第74号（1932. 5.16）……176～183
第75号（1932. 5.20）……184～191
第76号（1932. 5.30）……192～199
特別号（1932. 6. 1）……200～203
第77号（1932. 6. 5）……204～211
第78号（1932. 6.15）……212～219
第79号（1932. 6.20）……220～223
第80号（1932. 6.25）……224～229
第81号（1932. 7. 1）……230～235
特別号（1932. 7. 2）……236～239

第三巻

はしがき……1
第82号（1932. 7. 5）……5～10
第83号（1932. 7.10）……11～14
第84号（1932. 7.15）……15～20
第85号（1932. 7.20）……21～24
第86号（1932. 7.25）……25～28
第87号（1932. 7.30）……29～32
第88号（1932. 8. 5）……33～38
第89号（1932. 8.10）……39～42
第90号（1932. 8.15）……43～46
第91号（1932. 8.20）……47～50
第92号（1932. 8.25）……51～54
特別号（1932. 8.29）……55～56
第93号（1932. 8.30）……57～69
第94号（1932. 9. 5）……63～66
第95号（1932. 9.10）……67～68
第96号（1932. 9.15）……69～72
第97号（1932. 9.20）……73～74
特別号（1932. 9.22）……75～76
第98号～第99号……欠
第100号（1932.10. 5）……77～84
第101号（1932.10.10）……85～90
第102号（1932.10.30）……91～98
第103号（1932.11. 5）……99～102
第104号（1932.11.10）……103～108
第105号（1932.11.15）……109～114
第106号（1932.11.20）……115～118
第107号（1932.11.25）……119～122
第108号（1932.11.30）……123～128
号　外（1932.12. 4）……129～130
第109号（1932.12. 5）……131～134
第110号（1932.12.15）……135～136
第111号……欠
第112号（1932.12.30）……137～142
第113号（1933. 1.10）……143～146
第114号（1933. 1.20）……147～150
第115号（1933. 1.25）……151～154
第116号（1933. 1.30）……155～158
第117号（1933. 2. 5）……159～164
第118号（1933. 2.10）……165～168
第119号（1933. 2.15）……169～174
第120号（1933. 2.20）……175～178
第121号（1933. 2.25）……179～182
第122号（1933. 2.28）……183～184
第123号（1933. 3. 5）……185～188
第124号（1933. 3.10）……189～192
第125号（1933.　）……193～194
第126号（1933. 3.15）……195～198
第127号（1933. 3.20）……199～202
第128号（1933. 3.25）……203～206
第129号（1933. 3.30）……207～210
第130号（1933. 4. 6）……211～214
第131号（1933. 4.11）……215～218
第132号（1933. 4.15）……219～220
第133号（1933. 4.26）……221～224
第134号（1933. 5. 1）……225～226
第135号（1933. 5.11）……227～230
第136号（1933. 5.16）……231～232
第137号（1933. 5.21）……233～234
第138号（1933. 5.26）……235～236
第139号（1933. 6. 1）……237～240

第四巻

はしがき……1
第140号（1933. 6. 6）……5～8
第141号（1933. 6.11）……9～12
第142号（1933. 6.16）……13～14
第143号（1933. 6.21）……15～18
第144号（1933. 6.26）……19～22
第145号（1933. 7. 1）……23～26
第146号（1933. 7. 6）……27～30
第147号（1933. 7.11）……31～34
第148号（1933. 7.16）……35～38
特別号（1933. 7.20）……39～40
第149号（1933. 7.21）……41～44
第150号（1933. 7.26）……45～48
第151号……欠
第152号（1933. 8. 6）……49～52
第153号（1933. 8.11）……53～56
第154号（1933. 8.16）……57～60
第155号（1933. 8.21）……61～66
第156号（1933. 8.26）……67～70
第157号（1933. 9. 6）……71～72
第158号（1933. 9.11）……73～76
第159号（1933. 9.16）……77～80
第160号（1933. 9.26）……81～84
第161号（1933.10.10）……85～88
号　外（1933.10.17）……89～90
第162号（1933. 11.7）……91～94
第163号（1933.11.28）……95～98
第164号（1933.12. 4）……99～102
第165号（1933.12.11）……103～106
号　外（1933.12.24）……107～110
第166号（1934. 1.10）……111～114
第167号（1934. 1.17）……115～118
第168号～第171号……欠
第172号（1934. 3. 1）……119～122
第173号（1934. 3. 8）……123～126
第174号（1934. 3.22）……127～130
第175号（1934. 3.29）……131～134
第176号（1934. 4.23）……135～138
第177号（1934. 5. 5）……139～142
第178号（1934. 5.14）……143～148
第179号（1934. 5.29）……149～154
第180号（1934. 6.20）……155～158
第181号（1934.10. 3）……159～162
第182号（1934.10.23）……163～166
第183号（1934.12. 4）……167～170
第184号（1934.12.21）……171～174
第185号（1935. 1.15）……175～178
第186号（1935. 2. 3）……179～184
第187号（1935. 2.20）……185～190

日本共産党再建準備委員会
機関紙第1号（1936. 8. 1）……191～198

赤旗号外（1932.1.30～1933.6.16）……199
号　外（1932. 1.30）……200～201
号　外（1932. 2. 4）……202
号　外（1932. 2. 5）……203
号　外（1932. 2. 6）……204～205
号　外（1932. 2. 8）……206～207
号　外（1932. 2.13）……208～209
号　外（1932. 2.14）……210
号　外（1932. 2.19）……211
号　外（1932. 2.26）……212
号　外（1932. 2.26）……213
号　外（1932. 2.28）……214～215
号　外（1932. 3.11）……216
号　外（1932. 3.16）……217
号　外（1932. 3.24）……218
号　外（1932. 7.　）……219～220
号　外（1932. 9.　）……221～222
号　外（1932.10. 1）……223
号　外（1932.10.11）……224
号　外（1932.10.15）……223
号　外（1932.10.23）……225
号　外（1932.10.25）……226
号　外（1932.10.25）……227
号　外（1932.10.26）……228
号　外（1932.10.28）……229
号　外（1932.10.29）……230
号　外（1932.10.30）……231
号　外（1932.10.30）……232～233
号　外（1932.11. 4）……234
号　外（1932.11.5）……235
号　外（1932.11.14）……236
号　外（1932.12.　）……237
号　外（1932.12. 5）……238
号　外（1932.12.24）……226
号　外（1933. 6.16）……239
赤旗参考年表……241～248

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万口の労仂者団結せよ！

してねると云ふには遅すぎ退い。例へば日本労仂クラブ参加反対の声が全口的に捲き起つてゐる時に、それを一つにまとまつた形で討論の際に述べることもせずに方向へ結集させるといふ組織的活動がなされてゐない。それと同時に、労仂クラブ参加反対の声が何故全口的にまり得ないかの基本的問題を明白にしてゐない。だからこそ労仂クラブ参加問題をそれ丈けの問題に留めてきくと云ふ日和見主義的態度が生れてくるのである。革命的反対派の任務は、口改良主義組合の下にある大衆をまとまつたグループとしてそれ〴〵の産業別革命的組合に獲得するにある口（プロフインテルン）。其の為に凡ゆる事件が利用されねばならぬ。労仂クラブ参加問題もその一つではあり得る。併し、基本的には革命的組合運動の戦略戦術を恒久的活動すること。それを改良主義的戦略戦術と対立せしめて大衆に説明することである。この説明の材料としてダラ幹（裏切的幹部）の私行をアバクことも必要である。けれ共、彼等の裏切を個人的行動としてのみ説明し、それが組合の指導方針と如何に結び付いてゐるかを説明しないならば、この裏切りのバクロも効果が少いであらう。

其処で問題

は来るべき大会に対して革命的反対派は如何に活動すべきか？

第一、大会に於て革命的組合運動の戦略戦術を積極的に述べること。今日までの如く改良主義的幹部の行動を批判するとか云ふ態度に止まつて居てはなら

ね。その為に、特別の組合テーゼを作製し、それを大会に提出すること。それが間に合はないならば、何等かのまとまつた形で討論の際に述べること。その内容を極く簡単に言へば次の如し。

経済危機

の源刮化、資本の攻勢、大衆的識首、失業者の増大、労仂階級の貧困化、革命的団体、及び個人に対する弾圧、迫口協議会である。我々はこの組合の方針の下に進まねばならぬ。階級斗争の実践的経験がプロフインテルンに加盟してゐる全口協議会の指導の正しい事を証明した。我々はこの組合とこそ協力すべきである。……云々。

第二、以上は革命的反対派が大会に於て採るべき根本的方針である。依つて此は全労中央委員会の報告に対する代案の討論として行はるべきものである。他の問題はこの根本方針を生かす為め附付ける為に提出されるべきである。一例をあげれば、全労中央委員会の報告に関する質問に於て次の如き問題を提出すべきであらう。

(イ)仕反斗議の時、三十有余名の革命的労仂者を何故警察へ渡したか？労仂者大衆を太泥に斗ふ反抗に動員すべしと云ふ全協の戦術は何故採られなかつたか？

(ロ)ストライキ委員会を大衆自身の選挙に依つて結成する事。此委員会が大衆自身と緊接に結合しており、交渉の一歩一歩が大衆に報告され斗争打切りか否かを全員総会で決定すべきであるのに、それがなされずに幹部の一存で

(ハ)デモンストレーションを組織した時官憲の攻撃に会ひ、我々の同志が多く捕はれた時に何故断固主義的戦術を取らなかつたか？大衆を広く広汎に動員するの為に代りに、「告訴口と云ふ如き合法律闘争を出すのは、大衆の斗争意欲をにぶらせブルジョア法律が労仂者の利益を守る様に公平に出来てゐると云ふ幻想を抱かせるものである。幾くの如く、労仂者大衆をブルジョアの利益擁護の為に作られた法律に縛らせるのは全労の指導精神なのか？

(ニ)二月二十五日、失業反対口際デーに参加しなかつたのは何故か？その主唱者プロフインテルンであると云ふ事に依つて、労仂者階級が口際的に団結して資本主義制度打倒に生ずる失業に反対すべくデモを組織することに反対するのは、実践的に労仂者階級の利益を裏切つて居ることにはならないか？

(ホ)反戦デーにデモを組織し得なかつたのは、全労が帝口主義戦争の危険を無視してゐるのか、それと帝口主義戦争に賛成なのか？若し賛成にとすればその理由如何？若し反対だとすればそれは何故実践的にやらなかつたか？

(ヘ)昨年六月六日の口際青年デーに大会（東京地方評会？）を開いたのはこの日デモンストレーションをやらぬことを正当化するためである。若しそうでないとすればそれは何故此の日にデモ

をやる為に具体的状況をしなかつたか？青年の利益を現実的に守つてゐる全協の政策に反対せんが為なのか？

(ト)十一月革命記念日にデモをやることは口際プロレタリアートの任務である。ソヴエート同盟における社会主義建設の五ヶ年計画は重要部門では二ヶ年半で終了し、全般的にも四ヶ年で衆々と完成する展望を持つてゐる。そこでの勝利は日本の我々をも含む口際プロレタリアートの為の勝利である。故に此の日にデモを組織し、口際的ソリダリテイ（連帯性）を示すことは我々労仂者の任務である。我々はデモをやらねばならぬ。中央委員会はこの日の為に如何なる対策をとつてゐるか？

(チ)現在の如く如何に小さな経済斗争と雖も官憲が手荒く弾圧せざるものはない。労仂者がそのことに就て明白な理解、即ち、工場閉鎖の斗争とプロレタリア独裁の為の、資本革命の為の斗争との間には切り離し得ない結合のあることを理解してゐなければ今日の

斗争に勝利

を得ることは殆んど不可能であらう。我々の知る限りにおては全労中央部は右翼との協力的斗争ではなしに、観念的な談笑である。此の妥協同盟の粉砕、赤松と何等異つてゐない。中央部はそうした方針を以て進むことが労仂者の利益を守ることだと考へてゐるのか？

我々は是以上例をあげる必要があるだらうか？恐らくあるまい。要するに口名を借りて革命的組合運動の方針を歪め、それと同時に改良主義的

肯定的反対

（勿論口先きだけではあるが）を每へに場合には、その肯定的答とクラブ参加が根本的に矛盾することを徹底的にバクロし、彼等改良主義幹部が、最早口先きだけでも革命的言辞を弄さないならば彼等の裏切的性質を決定的にバクロしなければならぬ。

労仂クラブの問題は、それ自体としては大衆に何等の説明もなし得なくなると云ふ結果に陥らぬ様に注意すべきである。共産主義者は、革命的労仂者は敵と斗争する時、斗争心に燃えてゐるだが氷の如く冷き個数の意志を以て敵の策動に対さねばならぬ。我々が冷静を失ふ時、勇態は我々に不利となるであらう。革命的言辞にのみ根はれることなく、

革命的大衆

に於ける斗争の具体的説明をなし得ることが必要である。我々が大会で斗争するのは、革命的言辞を振り廻さんが為ではなく、革命的組合政策を大衆に理解させる為であり、この革命的政策の下に組合員大衆を実質的に獲得

方針を歪め、それと同時に改良主義的幹部の裏切り的本音を叩かせる様とすることである。そして彼等の答を書き止めて置いて討論の時にそれを反駁するの事が必要である。エド、フインメンの問題、労仂クラブの問題等々皆然りである。尤も大会では労仂クラブの問題を特別の試題とされるであらうが、我々が右に示した要領に（此の外に沢山あるだらう）対し、全部

肯定的反対

（勿論口先きだけではあるが）を每へに場合には、その肯定的答とクラブ参加が根本的に矛盾することを徹底的にバクロし、彼等改良主義幹部が、最早口先きだけでも革命的言辞を弄さないならば彼等の裏切的性質を決定的にバクロしなければならぬ。

労仂クラブの問題は、それ自体としては大衆に何等の説明もなし得なくなるとの問題に切り離さるべき性質のものではない。現在の日本に於て労仂クラブが演ずる政治的反動的役割をバクロすることが必要である。アムステルダムの出店だからと云ふ反感では全く不充分である。日本の労仂階級の利益を裏切つてゐる（と事実をあげて）海員組合、総同盟等の反動組合が更に大さく労仂者の利益を資本家に売り渡さんが為に作つたものであるから、即ち、労仂者大衆の日常利益に反するからいけない。真に労仂者大衆の利益を守る為に斗争するもの、斗争してゐるものとの下からの統一戦線の樹立こそ我々日本の労仂者全体の望むところである。

第三、我々は以上のことを出来る丈け完全になし得べく我々的にも巧妙であらねばならぬ。如何に根本的に方針が正しからうとも　我々の同盟者　革命的反対派の諸君が徒らに興奮して改良主義幹部のワナに引つかゝつたり、官憲の手に捕へられたりして、結局には大衆に何等の説明もなし得なくなると云ふ結果に陥らぬ様に注意すべきである。共産主義者は　革命的労仂者はその運動の革命的意義をすら大衆の前にかくしてゐる改良主義幹部の正体をバクロする様にしなければならぬ。

第三、我々は以上のことを出来る丈け完全になし得べく我々的にも巧妙であらねばならぬ。如何に根本的に方針が正しからうとも　我々の同盟者　革命的反対派の諸君が徒らに興奮して改良主義幹部のワナに引つかゝつたり、官憲の手に捕へられたりして、結局には大衆に何等の説明もなし得なくなると云ふ結果に陥らぬ様に注意すべきである。共産主義者は　革命的労仂者はその運動の革命的意義をすら大衆の前にかくしてゐる改良主義幹部の正体をバクロする様にしなければならぬ。

準備

それは組合員大衆並びに組合員以外の末組織労仂者大衆の間に革命的反対派の政策を公然と宣伝煽動することである。即ち、大会での活動の基礎を工場、職場に置くこと——これが準備の基本である。

(3)

然らば我々は如何なる準備を必要とするか？大会で如何に活動すべきか？は右に答へた。この大会での活動を充分に行ふ為に我々は準備しなければならぬ。

準備

それは組合員大衆並びに組合員以外の末組織労仂者大衆の間に革命的反対派の政策を公然と宣伝煽動することである。即ち、大会での活動の基礎を工場、職場に置くこと——これが準備の基本である。

革命的反対派

は大会準備の為に組合員の会合を独自的に組織すべきである。改良主義幹部の催す会合を待つて居たり、又はその会合のみを利用するといふ態度ではいけない。自ら会合を組織する様にしなければならぬ。組合員の会合で我々の意見が採用されたら、（採用されない時も同じだが）職場の中で、公然とそのことを話し合ふこと、職場大会、従業員大会を開いて、そこで全工場労仂者の名を以てその政策を大会で主張すべきことを選ばれた代議員に義務付けることが必要である。又組合員が我々に反対の場合には、其組織大衆の間に我々の政策を持ち込むことをより積

小岩井淨君の府議當選に就いて

（A）

モップル大阪支部の活動家として年歳に相ばれてゐる小岩井淨君が府会議員に挙げられた。このことは大阪府警察部をして極度に緊張せしめて居る。

小岩井君は東成区で候補者以外に唯一人当りを見れば、前者が一、二〇大、後者が一、九九三であるべきであらうか？労農一派にきばせればよい程、それ

そこでは政友・民政の候補者以外に唯一無産政党の候補が立つた、社民党の神岡小之助、関西民衆党（八木信一一派）の岡本栄吉（川北電気の人事課長）、労大衆の安藤口松と云ふ具合に。今名候補者の得票数をあげれば次の如くである。

小岩井 ——二、七四二
村井 ——一、五八九
岡本 ——一、一八二
安藤 ——九二五

大阪地方での府議選挙戦でも無産政党の候補で当選したものは労農大衆党三名と小岩井君だけである。社会民衆党員が一人も当選してゐないとゐふことは、現在の制限選挙の下に於てすら、社会民衆党の勢力が減少してゐることを意味してゐるではないか。社民党と労大衆党との大阪府下に於ける絶得票を見るならば、社民党——一二、〇五六、

労大衆党——二九、八八三となり、候補一人当りを見れば、前者が一、二〇大、後者が一、九九三であるべきであらうか？労農一派にきばせればよい程、それは又ギヤの政策の強弱指導に制限さるべきでない。実際ギヤ者を起すことはより以上に必要である。実践的斗争こそ大会への準備に於ける最も良きものである。

革命的反対派は大会開会日前に集合して（若し全部が出来なければ代表者会議）大会に於ける統一的行動を決定しなければならぬ。そしてこの反対派の大会に於ける全活動を指導すべき特別小委員会が組織さるべきである。労農主義者はこの小委員会の組織が党のフラクションと同一であるを様K活動すべきである。若しそうならないとしても党フラクションは、最も精力的K活動することK依つて革命的反対派の全活動に対する指導を確保すべきである。

政民主義的野郎は革命的分子の除名を提案するだらうか？無識的に分裂させるだらうか？是等の問題も充分審議さるべきであらうが、玆では只一言だけ言ふ。我々は如何なる場合に於ても大衆を革命的政策の下に出来るだけ多く結集させる為に斗はねばならぬ。その為に必要な手段は残るところなく研究されねばならぬ、と。

我々はよく準備しなければならぬ。

日我々の準備がよければよい程、それだけ我々は労働者大衆の支持を得るであらう。日（レーニン）。

工場内労働者大衆の支持を得ること——こゝに準備の中心がある。

かくて大会準備の活動は下からの共同戦線樹立の実践と組織に結び付けられねばならぬ。大会準備——それは又ギヤの政策の強弱指導に制限さるべきでない。実際ギヤ者を起すことはより以上に必要である。実践的斗争こそ大会への準備に於ける最も良きものである。

革命的反対派は大会開会日前に集合して（若し全部が出来なければ代表者会議）大会に於ける統一的行動を決定しなければならぬ。そしてこの反対派の大会に於ける全活動を指導すべき特別小委員会が組織さるべきである。労農主義者はこの小委員会の組織が党のフラクションと同一であるを様K活動すべきである。若しそうならないとしても党フラクションは、最も精力的K活動することK依つて革命的反対派の全活動に対する指導を確保すべきである。

政民主義的野郎は革命的分子の除名を提案するだらうか？無識的に分裂させるだらうか？是等の問題も充分審議さるべきであらうが、玆では只一言だけ言ふ。我々は如何なる場合に於ても大衆を革命的政策の下に出来るだけ多く結集させる為に斗はねばならぬ。その為に必要な手段は残るところなく研究されねばならぬ、と。

我々はよく準備しなければならぬ。

日我々の準備がよければよい程、それだけ我々は労働者大衆の支持を得ることが出来るであらう。日（レーニン）。

故K全口労農大衆党の日勝利日は勝利ではなくして、今日社会民衆党が得た政治的地位を受けとる過程への参加者に過ぎぬ。労大党K投票せる労働者農民大衆は、彼等の選挙せる議員が彼等の利益の代表者でないことを知るのは遠いことではあるまい。

（B）

我党大阪地方委員会は公認候補として岡本鍋山、徳田（共産）、三田村、楠山を立て、小岩井君K対しては共産党推挙としました。我々は小岩井君が新労農党を作つて我党K反対した丁実的罪悪を忘れはしない。そのことは彼が将来において要求に失産主義の為に献身するならば、党員並びに革命的労働者全体が思ひ出す必要のないものとなるであらうが、丁実の上に汚された過去はその価値消失しはしないであらう。小岩井君は自己の被選を認めた。そして所謂労農党解消派の一人となつて、大山等のダラ幹と斗争した。そして労農党からの脱退後はモップルその他の革命的労働運動の途を歩んだ。彼はそうすることに彼の犯した階級的汚点を清める方法を見出したのである。

彼及び彼と共に労農党と分れた労働者諸君の進んだ道は正しかつた。是等の諸君は革命的実践に依つて労農党との分離、絶縁を証明せんとしたのである。この行動は大阪地方に於ける労働者の間に於ける我党の影響を拡め、且つ小岩井君等に対する信用を恢復するに至つた。

だからこそ、支配階級は小岩井を理由なくして投獄したのである。我党大阪地方委員会が彼を支持したのは彼が革命的方向K向つて居たこと、現実K労働者農民の利益擁護の為に斗争した四つからである。

我党推挙の意味は右の如く解さるべきである。君々の推挙は口先きだけでないことは云ふまでもあるまい。党・全協組合員、合法組合員等々の革命的労働者大衆は敵身的K斗つた。大阪の労働者は日本共産党が公然と推挙せる候補者に投票した。そして、その候補者は、獄中にあるにも拘らず、見事当選したのだ。これは大阪の労働者諸君の勝利であり、日本プロレタリアートの勝利である。然りこの勝利は勝利と云ふべく余りにも小さい勝利ではある。我党の候補者たる同志鍋山、三田村の為の運動には、当局は権力弾圧を加へ、ビラ、宣伝隊員は検束を行ふ等（鍋島新聞九月二十九日）最正を加へたが、日小岩井氏等は共産党員とは表面上の立場を異にこそするがその表示される思想行動は軌を同うするものとの見解から同様可成りの取締りのきが加へられた日（ママ）。

当局の行動は全く妨害にもなるわけで、更に重大なのはこれが前例となつて日活を為す如何なる重罪嫌疑者でも立候補を為しさへ踏めば当選するとゐふことが出来るといふことを一般に知らしめたことで、極左弾圧に苦心して来た政府、司法等の各当局者にとつては日民思想は全く不明である。だが大阪府での我党中、無効投票が三、四八五ある。これが全て我党に投票されたものと考へることは不当であらう。しかし港区の四五〇、東成区の三一〇、堺市の一八五といふ数は非常に興味ある数字である。労働者町及び全口農民組合を異にの勢力が比較的強い所で無効投票数が多いといふことは我々の予想を裏切るものではないであらう。ともあれ、我々は大阪地方の同志からの報告に依つてこの点を明白にすべきである。

（D）

大阪地方K於ける革命的労働者の任番は府会議員に当選した小岩井君の即時無罪釈放要求の大衆的カンパニアを起すにある。小岩井君が無罪であることは今度の当選で積極的に過激民衆の手で判決された。吾党等が小岩井君に彼等の政治を托すべき信任を表明した。支配階級のあらゆる弾圧を蹴つて当選したい小岩井君こそが真に民衆の代表者であるのだ。支配階級は小岩井君の当選を無効ならしめんが為に全力を傾そそねる。何故ならば日もし被告見断になつたり、徹底不充分で無罪の判決でもあればどうを現収したり弾圧を加へた当局の行動は重苦

◇中國に於ける◇
新しき革命的指頭
中國革命を防衛せよ！

(一)

資本主義世界の經濟危機は植民地半植民地に於ける空前未曾有、政治危機の激化によつて益々深められてゐる。滿蒙中國は帝國主義列強の一時的妥協によつて一應は南京政府と奉天政府、蔣介石と張學良との握手となり、表面だけ、名称だけは統一國家を形成したかに見えたのであつた。併し乍ら南京政府はブルジヨア民主々義革命の基本的任務たる農業革命も、それから帝國主義的勞力の駆逐も、國内の統一も、何も遂行し得なかつた。土地を要求する農民の武裝蜂起は依然として續けられ、都市プロレタリアートの革命的鬪爭の指導下に中央支那より南方地方の省にソヴエート政權を樹立するに至つた。蔣介石が國一ケ月前には共産軍を全滅すると大言壯語し、帝國主義側からも武器並びに物質的援助を受けたにも拘らず、事態は全く反對に進んだ。ソヴエート領域は擴められる所か却つて拡大され、共産党の勞力は最も野蛮な追求にも屈せず益々強まつてゐる。蔣介石は帝國主義への約束を実行し得なかつた。

南京政府の樹立は南京政府内にあるアメリカ資本の勞力に対抗するイギリス政府の策動と見られる。南京を中心とする新支那一帶（但しソヴエート區域を除く）は事実上イギリス帝國主義の勞力範圍である。アメリカが金を送り、飛行場を建設したりして揚子江を中心として勞力を扶植するのをイギリス帝國主義は黙視し得なかつた。共産党鎭壓を約束しての

日露一日戰爭の犠牲の上に滿洲の支持も決定的となつた時に、日本帝國主義の手先となつた時に、日本帝國主義の一時的妥協によつて一應は南京政府と奉天政府、蔣介石と張學良との握手となり、表面だけ、名称だけは統一國家を形成したかに見えたのであつた。併し乍ら南京政府はブルジヨア民主々義革命の基本的任務たる農業革命も、それから帝國主義的勞力の駆逐も、國内の統一も、何も遂行し得なかつた。土地を要求する農民の武裝蜂起は依然として續けられ、都市プロレタリアートの革命的鬪爭の指導下に中央支那より南方地方の省にソヴエート政權を樹立するに至つた。蔣介石が國一ケ月前には共産軍を全滅すると大言壯語し、帝國主義側からも武器並びに物質的援助を受けたにも拘らず、事態は全く反對に進んだ。ソヴエート領域は擴められる所か却つて拡大され、共産党の勞力は最も野蛮な追求にも屈せず益々強まつてゐる。蔣介石は帝國主義への約束を実行し得なかつた。

南京政府の樹立は南京政府内にあるアメリカ資本の勞力に対抗するイギリス政府の策動と見られる。南京を中心とする新支那一帶（但しソヴエート區域を除く）は事実上イギリス帝國主義の勞力範圍である。アメリカが金を送り、飛行場を建設したりして揚子江を中心として勞力を扶植するのをイギリス帝國主義は黙視し得なかつた。共産党鎭壓を約束しての

戰爭の危險は滿洲より、蒙古、ソヴエート同盟へ波及するのである。

以上の事實は南京の國民党政府が夢にも、幻にも描いてゐた中華民國の統一が全く失敗に期したことをもう一度実証したことを意味する。

(二)

日本の帝國主義擴張に依る滿洲の占領は中國全土に亘つて反日本帝國主義運動の新しい波を捲起した。就中香港においてそれは強力である。漢口で、上海で、ハルピンで（尤もハルピンの報導は若干割引で見なければならぬ。何故なら日本人自身が政府の命令でバクダンを投げたりするのだから）と、今や反日本帝國主義の運動は中國全土に燎原の火の如く燃え上りつゝある。

中國共産党はこの運動の先頭に立つて指導してゐる。中國に於ける反帝國主義運動は現在では反日本帝國主義をその第一のスローガンとして行はれてゐる。若し乍らそれは日本帝國主義に反対する丈けでなく、帝國主義列強の勞力を中國より全然駆逐する爲の運動である。一九二七年以後、ソヴエート區域の拡大された地方を除く殆んどすべての地方で苛酷な斗爭をつゞけて来た中國共産党は今や全中國に亘る運動の中心勞力となつて活動してゐる。單に日本武裝隊はこの活動の先頭に立ち、この運動を組織するために現在迄に斗爭してゐるし、且つ将來益々擴大的につゞけるし、そして我党のみがこの活動を行ひ得るのだ。

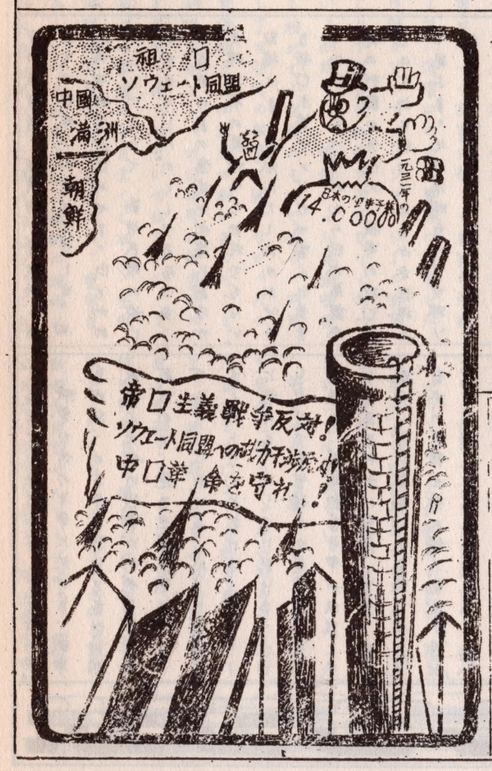
社會民衆党が帝國主義戰爭擁護なことは報知の事実である。全國勞農大衆党は結党式の時に帝國主義戰爭反対を唱へたが、そして今では相当の力を有すると自稱するが、何等民衆的活動を行つてゐない。解党派（勞働者派中央委員会と稱する一派）も同勞農大衆党も実体的に何事もなし得ず、只、口我々は種々な機会にその原因を明してゐるのである。

(三)

日本の勞働者農民の前には、斯くして中國革命支持の問題が最も具体的に日程に上されてゐる。一片の決議では駄目だ。ストライキ、街頭示威、武器彈藥品輸送の拒絶、階級的政治犯人の即時釈放等々の具体的活動が一分一秒も爭はれぬ程の緊急問題となつてゐる。

現実性を帶びた事はない。我々は中國、朝鮮、白露等の國内と堅く手を握つてこの斗爭に激起し、斗ひ抜かねばならぬ。それは勞働者農民のソヴエート政府樹立への途を近くするものである。

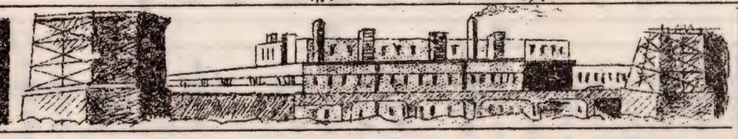
【附記】社会ファシストのバクロなど彼等の意見が発表されてからより具体的にやる。



「小岩井淨君の前説……」（続）（五頁終り）

府会議員選挙戰は如何に手ぎわれたかの問題に対する統括的批判は彼の機会に譲つて茲では小岩井君の当選の意義のみを述べよう。我々は各地方の同志達が同我地方でも様な斗爭を如何に遂行したか9・日を通つて学ぶべき事を要求して置く。

モツプル大阪地方委員長小岩井淨君の即時無罪釈放要求の大衆的力ンパーニアを起せ！



帝国主義戦争絶対反対だ!

"全日の婦人労働者勤労婦人諸君へ"

勝子

「……プロレタリアートと勤労農民との戦性に於て恐慌を解決しようとする資本主ギの努力は資本主ギ諸国の勤労大衆に対する全線に亘る資本の総攻撃と、それと合時且つ不可分に、ソヴエート同盟に対する戦争の強行的準備とを甚さ起してゐる。進展しつゝある世界経済恐慌は、販売市場の為の帝国主ギ列強の仮借なき斗争を通じて一切の帝国主ギ的対立を深めそれに特別の鋭さを与へてゐる。帝国主義列強間の軍事的紛争の危険は増大しつゝある。然し帝国主義者の利益相互間の矛盾の増大はソヴエート同盟に対する干渉戦争の危険を弱めないばかりでなく、反対に米熟化させてゐる。国(コミンテルン)ネット一国プレナムテーゼ)」。

戦争! それは既に今日の問題だ。切迫せる!・来るべき!・戦争ではない。既に点火された帝国主ギ・ソヴエート同盟干渉戦争である。

広大な、有望な支那市場両分割を中心とする帝国主ギ列強・殊に米・日・支那ブルジョアジー間の関係、加ふるに既に強固なソヴエート地域を持つ支那プロレタリアートの偉大なる前進、そして今や輝かしき社会主ギの時代にその巨大な勝利の歩みを進めつゝある全世界プロレタリアート農民の祖国ソヴエート同盟の厳然たる存在、之等によってがもし蚊される日・支の政治的・経済的・階級的な関係を以日本ブルジョアジーは、日露戦支那を打懲らせ!・日とわめくことによって、勤労民衆の前にひたかくしにかくしてゐる。支・日支戦の真の意志が何處にあるか、支那政府の暴慢でも無礼でもない。証據は!・日本にだし抜かれそうな帝国主義アメリカが盛んに気をもみ出した。それから日本参謀本部の行動の方向だ。彼等の砲口がどの方向に向つてゐるかを注視して見よ!・それは明白に、支那ソヴエート地方に於ける、前島、上海方面に於ける中国共産党に率ひられた労働者農民の打倒帝国主ギソヴエート支那樹立の活動の方向に、そして又自国内プロレタリアートに、より進撃に向けられてゐるではないか。而して日本帝国主義軍隊の主力は北へ!・北へ!・ソヴエート同盟の国境へ!・と集中されてゐる。これらは昨日今日のブルジョア新聞に於てさへ明らかに観察出来る事だ。

進展し強化する社会主義ソヴエート体制と崩壊し滅亡に瀕する資本主義体制との正面対立!・労働者か、金持か・ソヴエート体制か、資本主ギ体制か・これこそ新帝国主義戦争・既に点火されたこの戦争の持つ所の不可避の時長なのだ。

そしてこれをこそ全労働者・農民・勤労婦人の凡てがはつきりと知つてゐなければならないことなのだ。

戦争反対の斗争に於ける、戦争を内乱への斗争に於ける勤労被搾取婦人大衆の役割が如何に重要であるかは、過る世界大戦に於て、ベルリンに於ける、パリに於ける、オーストリーに於ける、イタリーに於ける、ロシアに於ける、プロレタリア勤労婦人が身を呈しての力強き、英雄的な斗争が厳然と示してゐる所だ。日清・日露・欧洲戦争と常に戦勝国の立場にあつた日本の民衆が、殊に婦人勤労大衆は欧洲の婦人に比して遥かにたへて戦争がプロレタリア階級にもたらす悲惨を自覚してゐない。未だに排外的祖国擁護的な煽動に乗り易い状態だ。我々はこの様な不利な條件を打破しなければならぬ。日本に於ては特に戦争反対の斗争が実に精力的に遂行されなければならない事がはつきりと理解される。

勤労婦人大衆の間にある共産主義者・戦斗的な労働者・勤労婦人の一人々々はこの際最大のイニシアティーブを発揮して国戦争が起つたら景気がよくなるだらう?」とか、「ヤンコロ(支那人)、ロスケ(ソヴエート同盟をツアー・ロシアと同じに思はせるデマ語)」等の人種的偏見を利用した排外気分。帝国主義的な祖国擁護の思想、無自覚な労働者大衆の間にあるこれ

らの最悪の傾向と決定的に斗ひなければならない。そして帝国主義戦争の正体・帝国主ギ戦争とその準備が勤労大衆をますく搾取し、抑圧することに依つて強行される事・戦争は労働者階級を最右の血の一滴まで搾ること。資本主義の国家は労働者農民の祖国ではないということ。ソヴエート同盟こそ国際プロレタリアート勤労民衆の唯一の祖国であるといふこと。だから支那ソヴエートを樹立する為めに斗つてゐる支那の労働者農民運動の支那革命を援助しなければならないのだといふことを自国帝国主義の打倒!・ソヴエート同盟擁護!・の為に斗はねばならないといふ事をトコトンまで説明しなければならない。社会ファシスト(社民・労農大衆党・労働者派)共や、各党系の婦人組織の反動、平和主義や・御用婦人団体や宗教的組織の祖国擁護主義をペチャンコにまでやつつけねばならない。

工場の婦人を、特に軍事関係のエ場の婦人を帝国主ギ戦争反対のデモやストライキに積極的に引き入れる事、反帝組織に婦人の広汎な層を入れる事、併に、看護婦・現役中の兵士の家族・戦死者・負傷者の家族・在郷軍人及その家族の中に進入つて彼等の結合を創り、戦争反対斗争の無條件的に強固な地盤を作らねばならない。

帝国主義戦争を打仆せ!

M・Y生

これは現実の問題だ。紙の上で百万べん叫ばねばならぬ叫と繰り返した所で駄目だ。実際にこれらの大衆の中に進入つて行つて宣伝する事だ。組織する事だ。自分の親爺やおふくろに説明する様にやるのだ。戦争は絶に初まつてゐる。

帝国主ギ戦争絶対反対!

支世界プロレタリア婦人の革命的伝統を守れ!

支労働者農民の祖国ソヴエート同盟を守れ!

戦戦争を内乱へ!

全日国際的連帯万才!

文句や理屈は後でよいから実際にやらう。日本における反戦斗争の先頭の任務は吾々婦人労働者のものだ。これは世界大戦以来の世界的な革命的伝統なのだ。

全日の婦人同志諸君!・職場よりをかけてやらう。

日本の外務省下級官吏の非公式の個人的の言によれば、満鉄爆破事件は参謀本部が計画的に行つた事で、九月十八日夜、中国兵の演習地に接近した日本軍は予ての計画に従つて鉄路の爆破を企て爆音と共に演習中の中国軍隊に突撃したのだ。吾々は得々としてブルジョアジーの秘密を満洲せるこの下級官吏の言を真実なりと考へざるを得ない。何故なら「爆破」は列車通過後数分、しかも極めて小規模のもので僅々一時間を以て修理し了る程度の被害に過ぎなかつたこと、次の列車通過まで四時間の暇があつたことは、直接爆破を目的として中国軍隊が計画的に行つたものとは考へ得られないではないか。この日本の軍隊は今日までしばく馬賊をして満鉄爆破の芝居を巧みに演つて、豊富な経験を有すること。これが第二。爆破の現場に丁度折よく行き合せたのだと強調すること。これが第三。之等は中国軍隊による鉄道爆破に対する反証にすぎぬ。資本家地主天皇政府が如何に慎重に計画的に満洲占領を準備したかは赤旗前号の論文に書かれてある通りだ。しかも吾々が一度日本ブルジョアジーが満洲を占領し、中国革命を圧殺し、やがて結ばるべき中国ソヴエートと外蒙古及ソヴエート同盟との連帯を切断することに必死になるべき客観的政治的経済的情勢にあることに想倒するならば、ブルジョア新聞が如何に巧妙じみた宣伝にこれつとめやうとも、ブルジョア政府が如何に「自衛」を云々し、「満洲住民の安寧」を口にすとも、又、「満洲事変」の修称によつて一は口際的に労働者農民被圧迫民衆を偽瞞し、一は戦死者、戦傷者に対する「恩賞」をカスメ取る一石二鳥的偽瞞策を講じやうとも、この彼等の所謂「満洲事変」が強盗的侵略的帝国主ギ戦争であることに一点の疑もさしはさむことは出来ない。

彼等は今や満洲に於てその権力を完全に握つた。今や彼等の方策は満洲を中国より分割奪取することと、満洲に於ける革命的労働者農民を虐殺することに集中され、旧軍閥張学良を逐ひのけて彼等の為のまゝになるブルジョア乃至軍閥政府を建設せんとしてゐる。彼等は対中国交渉に於て「満洲地方の

麦稈運搬車→ ←【キカントの秋播き】連結農具のついた【連結トラック】が活動してゐる。

実かある政权の確立を待つて交渉するしと要求し、いる政权確立まで完全に日本軍隊の手中に权力を握ってはなさないことを言明してゐる。彼等はこの形勢を更に有利に展開し、錦州の軍隊を撃破し、南方揚子江沿岸(全露)諸都市には邦人擁護と称して陸戦隊を編成して軍艦を増派し中ロプロレタリアートの蜂起、中ロソヴエートの圧殺に努めてゐる。彼等は軍艦派遣を合理化せんが為に"露邦浪人"を使嗾して排日運動を支那の重要都市に煽動した。この間の消息を訊ねられた某参謀は「ロ民を根こそぎ立たす様には手段を振んでは居れない」と言明した。

東京及近畿に駐在する陸軍将校は殆んど前週、青山青年会館に近衛師団その他を会場に集会を持ってゐる。これは参謀本部の指導の下にあることは勿論である。筆者

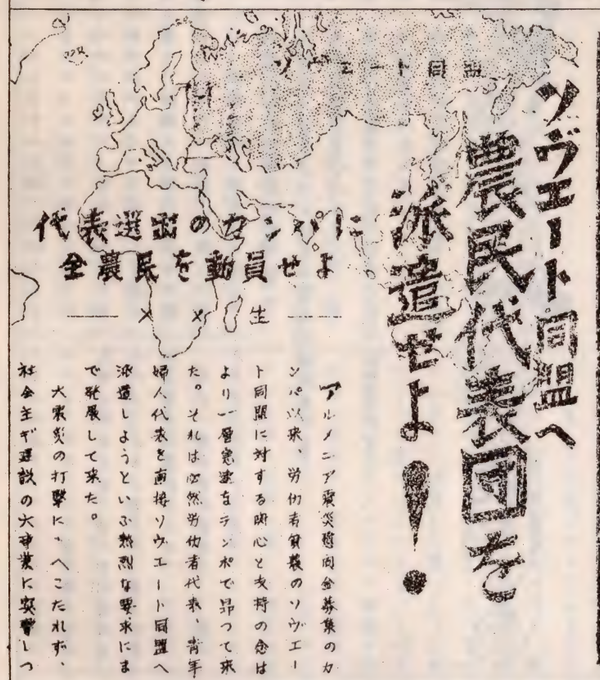
「この戦争はロシアをたいてアメリカをたいくのが最后の目的である。かく腹をきめた以上は徹底的にやるのだ。ロ内で労働者農民や赤い奴等がさわぐのは覚悟の前だ。もしさわがばこれを機会にロ内の大掃除をなすのだ。思想戦に死するも戦争に死するも事公にかわりはない、し

と。これはこの会合の空気を反映するものであり、従って参謀本部の方針を物語ってゐることは明らかだ。しかもこれは日本のブルジョアジーの根本方針であることは言ふまでもない。

同志諸君!我々には今や如何なる任務が課されてゐるか?帝ロ主義戦争反対!自ロ帝ロ主ギの打仆の斗争に立ち上る労働者大衆を動員することが之である。この為には大衆への政治的影響、大衆動員力に於ける一切の階級敵ブルジョアジー、社会ファシスト、ファシスト共の勢力を弱め、イニシアチーブを奪ひ取らねばならぬ。

吾々は日常的至る所的斗争、民族者の斗争、農村に於ける斗争の先頭に立ちこれを独自的に指導することによって最も広汎な大衆と結合し、彼等の信頼を獲得し、彼等を革命的目標に覚醒させねばならぬ!かゐる根本的任務の遂行には些かの猶豫もあってはならぬ。我々の側に大衆を獲得せよ!大衆に対するオルジョアジーの一切のイニシアチーブを我々の側に奪取せよ!帝ロ主ギ戦争打仆の斗争を経済斗争の独自的指導の基礎の上に、企業を中心とする下からの統一戦線、就労労働者失業者勤労農民の統一戦線によって遂行せよ!

ソヴエート同盟へ農民代表団を派遣せよ!

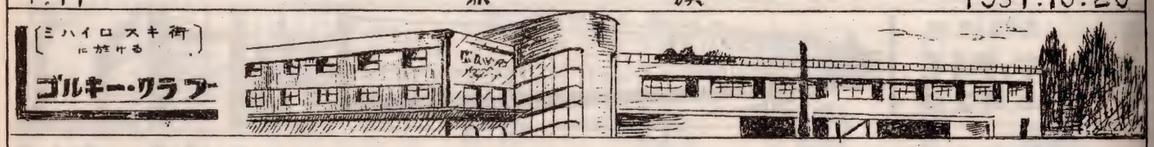


代表選出のカンパに全農民を動員せよ

アルメニア震災救恤金募集のカンパ以来、労働者農民のソヴエート同盟に対する関心と支持の念はより一層急速なテンポで昂って来た。それは必然労働者代表、青年婦人代表を直接ソヴエート同盟へ派遣しようといふ熱烈な要求にまで発展して来た。

大衆的の打撃に、へこたれず、社会ファシスト連盟の大神業に安着しつつある同志愛を感奮し、五ヶ年計画の総力的進行を激励すると共に吾々労働者、農民、青年、婦人自身の目で政治と経済と文化の資本主ギ口とは何から何まで正反対なプロレタリアート独裁、労働者農民の政府の支配する、搾取と抑圧の絶滅されつゝあるところの、如何なる場合でも切く者の福祉と向上とが第一義に考へられてゐる、吾等の唯一の祖口を、工場から農村、家庭から学校と隅々限なく見学視察し、どうしてソヴエート同盟の労働者農民達が幾十年来の搾取と隷属の鎖を断ち切って旧い資本家地主の政权を顛覆し、自分達で支配し、管理する社会主ギ口家を樹立することが出来たかを見、聞き、研究して帰り、日本の都市及び農村では労働者農民青年婦人は如何にしたらソヴエート同盟の兄弟達がなし遂げたやうな偉大な大事業に成功出来るかを報告し、有益な相談が出来る為にといふのが、今度の代表派遣運動の大目的なのだ。

この光輝ある代表派遣カンパの宣伝、煽動に関しては、プロレタリアートのイニシアチーブで労働者(農民代表を含めて)労働婦人の代表——といふ点に農民代表派遣に就いて決して無関心ではないのだが注意の向け方が少かったことは事実であった。



それは大いなる誤りである。

吾々は此処でもプロレタリアートが、農民問題に関する積極的な深い関心を持つことの意義の重大さについて警告せねばならぬし、革命的農民の発意と活動を強く要求せねばならぬ。吾々はまづ同志等の注意を一九二三年大震災の際のレニン号による救援の回顧に向けねばならぬ。(記憶せよ!この大震災が契機となって口際労働者救援会が生れたのだ!)此レニン号は(編注)日本の救援飯、救恤品を満載して横浜とソヴエート同盟との間を往復したものだ。しかもそれは僧るべき支配者と買収極まる最初者山川等などによって破棄的にも遮断されて仕舞ったのだ。

吾々は労働者農民の口際的連帯性と友愛を深く感じて、アルメニア震災に対してはソヴエート同盟の同志等の好意に答へる為に、曾って一九二四年(ママ)朝鮮水害救援に日本農民組合の組合員諸君がなした様な、素晴らしい活動が全農村に拡き起されねばならぬ事を強く訴へるものだ。

ソヴエート同盟は労働者農民の唯一の祖口だ!

農民代表は労働者青年婦人代表と手を携へてソヴエート同盟へ!吾々は急速に、猛然に最も広汎にこの労働者のイニシアチーブによる代表派遣カンパを農村に拡き起し、農民大衆の間から最も民主的な方法で農民自身の代表を選出し如何なる困難と障碍をも突破して吾々の祖口へ無事入口せしむる為め、即時、活動を開始しなければならぬ。

代表派遣カンパに関する農民代表はソヴエート同盟の現状を研究して来、報告すべきである。

第一に、ソヴエート同盟の兄弟達が如何なる組織と方法で土地をツアーや地主の手から奪ひ取り、自由な土地の上で自由な労働を享し得る様になったか、即ち土地革命を如何に成し遂げたかだ。

第二には、だが、地主の土地を奪取した上で、農業プロレタリア及貧農達が如何にして資本主ギ的残存物と手ひ、自分達の利益を擁護し得たのか。

農民は決して土地の奪取、分配或は自由な耕作丈けでは絶対的に解放されぬのだ。分散的、孤立的生産を社会主ギの線上に再組織(ソヴホーズ)生産農場への集団(コルホーズ)経営へと発展させた集団経営(ホーズ)に統一され、個々の農民の経営が統一された全口民経済の中に織り込まれる時、初めて凡ゆる技術の進歩は農村に取入れられ、組織化された労働により生産力は飛大な発展を遂げ、僅少な労働と多額な収穫と所得が可能になり、生活は向上し、同一水準の文化が確立される田舎の隅々まで行き亘るのだ。といふことを実際の経験と現状から学んで来るのだ。

第三に、農業革命に於て労働者農民の団結が如何に結ばれたか。

第四には、プロレタリアートは農村革命の斗争と貧農大衆の烈しの推進の為めに如何に農民を指導したか。

労働者農民の国際たる赤衛軍はその際どんな活動をなしどんな役割を果したか。

第五には、以上の総ての事柄は資本家地主の政权を顛覆してプロレタリア独裁の下に、労働者、農民、兵士代表のソヴエートを樹立し、权力を吾々の手に確保して初めて可能になるのだといふ事をだ。

第六　その他アルメニアやコーカサス地方の集団化の状態、五ヶ年計画の予定年数の中に日本の生産を遥ひ越さうといふ素晴らしい仕組、シベリア地方に於ける社会主ギの線上に再組織された集団経営(ソヴホーズ)と密接な関係にある方面を仔細に観察し将来の日本農業はどういふ方向をとるべきかを学んで来るのだ。そしてプロレタリアートやその代理人共の吹き廻る帰朝報告が全く取知らずの子マに過ぎぬ事を完膚なき迄にバクロしなければならぬ。

最后に、ソヴエート同盟の名誉こそ吾々を最有効的に解放する世界革命のテコであり、力の源泉だから、日本帝ロ主ギに対する吾々労働者農民の解放戦の最も信頼し得る同盟軍なのだからガツチリ、骨太の手で握手して同盟を強めて来るのだ。

世界各ロの労働者農民、植民地被圧迫階級は熾烈も幾回も非常な熱心で組織的にソヴエート同盟視察団や代表派遣を大規模にやってソヴエート同盟の兄弟豊の経験を学び革命運動の拡を強めて来てゐる。

我派派遣が日本では今度やっと実現されやうとしてゐるのだが、余り遅過ぎた計画だとさへ云ひ得る。

尤も一九二七年から幾一回も同盟や評議会の提唱で運動が進められて来たのだが、その中あの三・一五事件にブツツかり頓挫した形になってゐるのだが、今度こそは是が非でもどんな障碍でも突破して成功させねばならぬのだ。

日本帝ロ主ギの叛力はこの下からの革命的ロ際提携を極度に恐れ何時もの如く野獣的弾圧と代表派遣の阻止に狂奔することだらうが、吾々はどんなことを百も承知、二百も合点だ。大衆の燃え上った炎と力で焼き払してはならぬ。

吾々には如何に弾圧が非道く共代表を堂々と無事に渡航させる途は

Пролетарии всех стран соединяйтесь!
★万国の労働者団結せよ！

週刊
赤旗
第57号
国際共産党日本支部
日本共産党中央機関紙

目次

▼中国に於ける帝国主義諸国間の対立の激化とサヴエート同盟に対する武力干渉の危険——……一頁
▼「労働者農民の政府」のスローガンに就いて……二頁
▼全農兵員を分裂主義の通弊より救へ
今度の日会議の任務に関する書記局の決議の批判……六頁
▼歌の火花……八頁

中国に於ける帝国主義諸国間の対立の激化とサヴエート同盟に対する武力干渉の危険

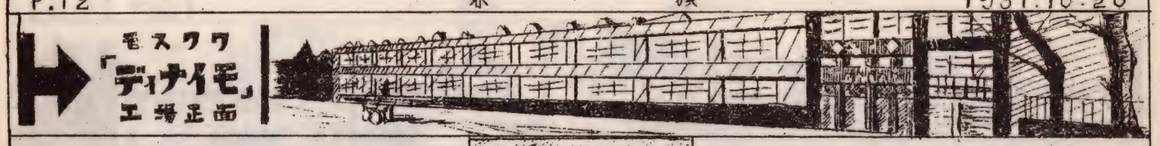
満蒙の情勢は次の如くである。挙天を初めとする主要都市は、日本帝国主義によつて保証占領され、満蒙は事実上日本軍隊の治下にある。関東軍司令部は事実上満蒙の総治部である。そして、正にこの日本帝国主義による軍事独裁の下に東四省の「独立政府」が樹立されている。之等の「独立政府」が如何に美辞麗句によつて国民党政府からの独立を宣言してゐようとも、それは日本帝国主義ブルジョアの計画になるものであつて、満蒙からの張学良、張作相の追放、旧軍閥の駆逐によつて作られた新軍閥の「独立政府」である。それは、国民党からの独立を意味するが、日本帝国主義に隷属し、満蒙に於ける日・支・鮮・露人労働者農民を弾圧し搾取する政権である。

日本帝国主義は、「支那政府の暴挙を絶滅せよ」との名目で、旧軍閥に対する徹底的な戦争を行つてゐる。之等は張学良の労力を一掃せんとする方針より行はれるものであり、それが如何に宇宙なる決意を以てなされてゐるかは最近の諸事件が示してゐる。例へば、郷州傀儡政府は満蒙より駆逐された張学良がからうじて満蒙に於ける自己の地位を維持したものであつたが、日本軍隊は、之を空中より爆撃し、事実に於て駆逐してゐる。之に関連する吉林省各職長（独立新政府）の態度は最もよく日本の金融資本団の陰謀を暴露してゐる。彼等は本庄関東軍司令官に次の如く依頼した。「二張（学良、作相）が万一再び東三省に帰来せば、三省は明らかに借りする悪政の下に立たねばならぬ。かくの如き場合には、吉林省は断然自衛手段に出るの要あり、依つてこの旨本庄軍司令官に呈請し、右二張の帰来を防止されたし。これは、満蒙の「独立政府」が如何に日本軍司令部と緊密であり、その治下に全く隷属してゐるかを示してゐる一方、今度の戦争戦争が、万端の用意を以て進行され、満蒙からの日民党勢力及び排日的張学良の駆逐を目的として、完全な植民化を目指してゐることを明らかにしてゐる。

中国に対する日本帝国主義の侵奪戦争は直接的には、満蒙に於ける最も反動的な日本帝国主義の手先である「独立政府」を生み出した。これは中国の新たなる分裂であり、不可避的に南京政府、広東政府、満蒙新政府を各々その手先とする合衆国、英国、日本の生粋帝国主義強盗団の対立を激化する。

国民党が支那革命を裏切つて以来、国民党による中国の統一は、トロツキー主義者の希望にも拘らず、不可能であることが今日程明らかとなつたことはない。民族ブルジョアジーは帝国主義金融団と結合し、中国は後者の融合すべからざる対立によつて分裂せしめられる。中国には、合衆国の六ツの大銀行、英国の三ツの大銀行及び、日本の三井、三菱、住友、正金等の大銀行の支店がある。これらの金融団は、中国を支配せんとして対立してゐる。各軍閥の手先である府小石による中国の統一は、幾千もなくして府小石と胡漢民との対立を生み、イギリス帝国主義による広東政府の樹立を以て分裂した。

Пролетарии всех стран соединяйтесь!
★万国の労働者団結せよ！


モスクワ「ディナイモ」工場正面

病床の同志片山へ送る

敬愛する同志片山！

あなたが重い病床にあることを知つた吾々日本のプロレタリアは深い憂ひに包まれてゐます。どうか一日も早く健康になつて元の様な元気な片山になつて下さい。思へば一ケ年前のあの世界革命の指導者としての輝ける金印象を、そしてその一つ一つの言葉を我々は今はつきりと思ひ出します。貴下は外口昭のわからない吾々労働者に対して非常な心づかひをして呉れました。そして何でもわからない中は積極的に理解出来るまで同志達に尋ねよ、労働者は勉強せんければいけない。といつて貴下は興味深い多くのソヴエート地方の旅行の話や、それらの地方の五ケ年計画の有様、労働者農民達の生活、又火自動車工場を中心に作られてゐる「社会主義の町」の事などを聞かせて呉れました。そして貴下はさつと、これらの話の後で、日本に帰つたら全労働者農民にこれ等の話をして労働者農民の祖国社会主義の国ソヴエート同盟の有様をよつく知らせねばいけないと云はれました。そして吾々はその事をシカと約束しました。又貴下は日本の労働運動に就いて沢山なこまかい注意まで与へて呉れた。我々は貴下の演説を今でも八ツキリと思ひ出す事が出来ます。

あなたは、いつも日本のプロレタリアは国家権力に対する斗争を実に強力に遂行せねばならない。部分的には例へば一人の同志一人の労働者の検束に対しても断じて沈黙してゐてはならない。強力な抗議を提出し斗争を組織してこれに答へねばならない。それについて日本の赤色救援会支部もこの斗争の先頭に、労働者農民戦士者の家族を動員し組織する事の為にもつと積力的に活動せねばならないこと、今や救援会はもつと大きな、そして活潑な組織とならなければならないことをも嘱願された。

今日本は資本主義最右の狂暴を反動の只中にある。帝国主義戦争ソヴエート同盟支那革命干渉戦争の火ブタを切つた日本ブルジョアジーのプロレタリアートへの攻撃はいよ〳〵血なまぐさく、いよ〳〵狂暴になつて来るであらう。

敬愛する同志片山よ！

日本に於ける貴下の意子達、娘達、孫達はあなたがよく候つてゐた言葉の如くわが党内の旗の下にプロレタリアの名に於て、貴下の呉れた「注意」そして貴下との「約束」に対して断乎として忠実である事を誓ふものです。

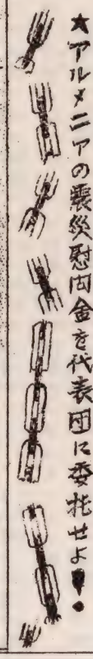
日本にも偉大なる革命戦の日は近づいてゐる。貴下をソヴエート日本へ迎入れる日も決して遠くはないのです。親愛なる吾等の父同志片山よ！　どうぞ一日も早く元気になつて日帰達もやつてのけた！！」とその日の貴下の愉快な小供達の噂がましい顔を見て下さい。

日支交戦の号外を聞きつゝ

日本プロレタリアートの名に於て　D・I

片山潜

日本プロレタリアートの父
同志片山潜と
その筆跡



懲罰斗争の準備をなせ！
このカンパには一九二七年の太平洋労働組合会議への労働者農民代表派遣斗争の正験を十分取り入れよ。

★一切の妨害を粉砕して労働者農民の祖国ソヴエート同盟へ吾々の代表を送れ！

★アルメニアの震災慰問金を代表団に委托せよ！

★ソヴエート同盟へ労働者、労働青年及び婦人代表と共に農民代表を送る基金を集めろ！

英口、合衆口の対立が、広東政府と南京政府との軍閥戦争の form をとって斗はれて来たの様に、今年の五月以降であった。この二つの強盗団の激化した斗争に驚じて、狡猾ないそして姦悪な日本帝口主義は、満蒙への侵略戦争を遂行したのだ。更にこの侵略は、蒋介石の中口赤衛軍討伐の失敗、水害による南京政府の困難な状態等々が考慮に入れられて行はれた。蒋介石の困難な状態を捉んで行はれた今次の侵略戦争は、日本帝口主義とその親分たる合衆口との対立を、かってなかった程度に激化し、両者の恐ろしい決斗を準備しつゝある。口際政治は、こゝに集中されて居り、世界戦争の危険を孕んでゐる。口際帝口主義の中心をなす合衆口の白堊館は主意をこゝに集中して居り、ヨーロッパの強盗団の表玄関である口際聯盟、又然りである。日本に於ては挙口一致内閣樹立の気運が急速に進展してゐる。

満蒙への侵略は、南京、広東両政府の対立を如何に喜じたか？南京政府は広東政府と妥協し、日本に対抗せんとしたが、事実はこの妥協がいかに深刻な、調和し得ない矛盾を持ってゐるかをバクロした。二の妥協は未だに物にならない。広東側は蒋介石の下野を要求して居り、蒋介石は、中口赤衛軍の討伐に失敗し、今又、対日政策に失敗してゐるにも拘はらず、浙江財閥によって支持されてゐる。最初に提出された妥協条件は既に無力になってゐる。

南京政府は、始頭し来った排日運動を利用してゐるにも拘らず、広東政府は始頭しし、排日運動より手を引き、広東政府は始頭しし来った排日運動を鎮圧してゐる。以上の事実は、合衆口と英口との対立が日本の侵略戦争によって益々激化してゐること、及び日本が英口を利用し、合衆口に対抗して英口と一定の妥協を結ばんとする傾向を持ってゐることを示してゐる。かゝるすべての事実は、帝口主義世界大戦の危険を極度に深めてゐる。プルジョア新聞は某国（合衆国）が秘密に弾薬武器を中口に輸送してゐることをバクロしてゐる。

だが、これらの激化した帝口主義口衆間の対立は、サヴエート口盟に対する武力干渉の為めに、不安定な妥協に転化し得る必然性がある。これに対する過少評価は有害であり、政治的幼稚さをバクロするものである。かゝる妥協は、何等中口に於ける統一と平和をもたらすものではなく、日本帝口主義の根拠戦争に対して、英口、合衆口及びフランスが自分の分け前を主張する為の対立を激化しつゝ、（だが、決定的な運命をかける手段をとらずに）中口のより以上の植民地化を来たすことは明らかである。口際聯盟は、この分け前と植民地化に関して討議するだらう。南京、広東、満蒙の各政権を基礎として、その激化する斗争を通じて中口の植民地化が強められるであらう。かくして幾千万の中口の労働者 農民

『労働者農民の政府』のスローガンに就いて

◇―労農一派の反動的理論を駁す―◇

『労働者農民の政府』といふ言葉は共産主義者にとって何等の疑もない程明白な内容を意味する。『コミンテルンにとっては、これは、民衆の言葉に言ひ表はされたプロレタリア独才の政府である』。（『労農』十月号九七頁）而して、同志高橋の言を借りるならば、この言葉は、『プロレタリア革命を前にしてゐる口ではプロレタリア独才を、ブルジョア民主々義革命を任務としてゐることに依うてのみ、自己の聴衆者たる合衆口との決定的衝突に至る為き機きの獲得を得てゐるのである。

世界経済危機は緩かもなく成長して居り、ファシズムは益々強まってゐる。帝口主義世界戦争とサヴエート同盟に対する武力干渉の危険は増大してゐる。かくしてファシズムと戦争に対する大衆運動を組織することは、我党の重要な任務である。かゝる任務は、我党が増大しつゝある大衆の不平不満を基礎とする斗争の直接の組織者となり、実際に大衆の日常利益を成功的に擁護する為に斗争する時にのみ果し得る。

プロレタリアートの祖口、サヴエート同盟擁護の為に、中口サヴエート擁護の為に、不撓不屈活動せよ！帝口主義世界戦争の危険に反対して大衆を動員せよ！成長しつゝあるファシズムに反対し日常利益を基礎として大衆を斗争へ動員せよ！

ある口では労働者農民の民主的独才を意味する口のである。コミンテルンはこのスローガンの革命的内容を歪曲せんとする日和見主義に対して斗争したのである。

然るに、日本には、この一定の内容を持つスローガンを全く同違った内容に解してゐる自称マルクス主義者がある。それは雑誌『労農』の理論的指導者山川均等である。彼及び彼の一派は決して自分等を共産主義者とは云はない。『最も斗的マルクス主義者』と云ってゐる。又、彼等はレーニン主義者であるとも云はない。彼等はマルクスの学徒ではあるがレーニンの学徒ではないといふのだらうか？共産党員ではない共産主義者なんて一人もゐないと云はれてゐるのでマルクス主義者位だと名乗ってゐるのかも知れない。そうするとマルクスは共産主義者ではないといふことになり、マルクス主義と共産主義とは別々のものの如くになって来る。――そこが彼等の望むところなのだ。併しながら、彼等が如何に自称しようとも、彼等はマルクス主義者では断じてない。況んや戦斗的マルクス主義者でなんか断じてない。

山川均の理解する『労働者農民政府』も又、彼がマルクス主義者でも、レーニン主義者でもないことに証明する一つの材料である。雑誌『労農』は既に五回に亘って『共同戦線党の検討』をのせてゐる。これは『跳梁者』の質問に対する山川均の答弁である。山川均の態度は常にノラリクラリとしてゐて、必ずどこかに逃げ道をこしらへて置く。雑誌『社会運動往来』の表現を借れば『山川氏の論法は、常に『概念』の上に立ってクラゲのようにつかみ所がない。一例をあげやう口。『一、共同戦線党は右翼か？・右翼か？・『そこで現在の社民党が……ブルジョア三党の役割を演ずるようになったと仮定する。ならば、この場合、共同戦線党はこのブルジョア中三党よりもより右翼的となることは自明である』……」（『労農』五月号八四頁）と即ち山川氏に依れば共同戦線党は右翼でもなければ右翼でもない。それより、より右翼的なものから見れば右翼的であり、より右翼的なものから見れば右翼である、と。……！口。だが吾々の為へによれば山川がかくの如くノラリクラリとウナギが手の中を逃げ廻るようにして問題を扱ってゐることこそ非マルクス主義的であり、非弁証法的であるのだ。マルクス主義者は決して事物を仮定の上からの空観察しはしない。一定の『史的条件の下に於ける、一定の具体的現象に対して『これはこうだ』と言ひ切ることは可能であるばかりではなくて、必要なことである。山川は『社民党が……！であったならば……！』といふ仮定から出発してゐるが、これは全然マルクス主義的ではない。社民党は一九三一年の日本に存在する一ケの政党である。この政党に対して評価を下すことは可能であるし、且つ必要である。プロレタリアートはその口々に於ける各政党に対する自己の態度を明白にしなければならぬ。マルクス＝レーニン主義はドグマではなく行動の指針である。抽象化された空虚なものではなしに、現実の階級斗争を指導する理論なのである。従ってプロレタリアートは自らび接触するすべてのものに対する関係をハツキリとしておかねばならぬ。『山川均なる裏切者であると仮定するならば、彼と斗争しなければならないであらう。併しそうでないとするならば若は反対となる』といふようなことは何等の指導的意見とはならぬ。階級斗争を基礎として生れた理論は遂に斗争を指導し、更にその斗争に依って豊富にされるのである。革命的理論は行動の述しるべであり、マルクス＝レーニン主義こそプロレタリアートにとって唯一の革命的理論なのである。吾々は断乎として言ふ『山川均は、そして彼一派は労働階級の利益をブルジョア地主天皇の利益に従属せしめてゐる裏切者である。彼等との間には決定的斗争あるのみ』と。プロレタリアートはかくしてのみ現実に斗争し得るのだ。山川の如く『……と仮定するならば……』である口といふことは階級斗争の実践から浮上った机上の空論家、精神病者の寝言でこそあれ、マルクス主義の看板すらないのである。

彼が『労働者農民政府』のスローガンを説明する場合も前の例と殆んど同様である。『労農』十月号九六頁

タリアートはその口々に於ける各政党に対する自己の態度を明白にしなければならぬ。マルクス＝レーニン主義はドグマではなく行動の指針である。抽象化された空虚なものではなしに、現実の階級斗争を指導する理論なのである。従ってプロレタリアートは自らび接触するすべてのものに対する関係をハツキリとしておかねばならぬ。『山川均なる裏切者であると仮定するならば、彼と斗争しなければならないであらう。併しそうでないとするならば若は反対となる』といふようなことは何等の指導的意見とはならぬ。階級斗争を基礎として生れた理論は遂に斗争を指導し、更にその斗争に依って豊富にされるのである。革命的理論は行動の述しるべであり、マルクス＝レーニン主義こそプロレタリアートにとって唯一の革命的理論なのである。吾々は断乎として言ふ『山川均は、そして彼一派は労働階級の利益をブルジョア地主天皇の利益に従属せしめてゐる裏切者である。彼等との間には決定的斗争あるのみ』と。プロレタリアートはかくしてのみ現実に斗争し得るのだ。山川の如く『……と仮定するならば……』である口といふことは階級斗争の実践から浮上った机上の空論家、精神病者の寝言でこそあれ、マルクス主義の看板すらないのである。

彼が『労働者農民政府』のスローガンを説明する場合も前の例と殆んど同様である。『労農』十月号九六頁

を読んで見る。『例へば資本主義の今後の発展について、社会民主々義者の見解をとるならば……実際に実現せられる新政府は必ずしも社会主義の範囲内に於て実現せられるところの労働者、農民、小ブルジョア下層内閣であって……』一言にすれば社会民主々義的内閣以外のものではあり得ない。かようにに資本主義の将来に対する社会民主々義的展望は、必然的に、社会民主々義的政府としての『労働者農民の政府』を予期せしめることゝなる口。彼はマルクス主義者として許すべからざる誤謬を犯してゐる。それは『社会民主々義的政府としての労働者農民の政府を予期せしめること』なる口といふ説明である。如何に彼が仮定の上に出発しようとも『社会民主々義的政府としての労働者農民の政府』を仮定したことは仮定し得ざることを仮定したことを意味する。かくの如き仮定がコミンテルンの立場と異ることは山川自身が引用してゐるコミンテルンの決議によっても明白である。『労働者農民の政府』なるスローガンは、コミンテルンにとっては……民衆の言葉に言ひ表はされたプロレタリア独才の政府である口。彼って、如何なる仮定に立たうとも『社会民主々義的政府としての労働者農民の政府』などとは考へられないのである。考へ得られないことを考へ得られるかの如く思ひ込ませるように労力するところに『左翼』社会民主々義者のゴマカシがあり、ズルさがあり、及

動性があるのだ。

吾々は次を聴まう。『然るに一方でレーニンは十一月革命後のロシアを、またプロレタリア国家では尤くて、労働者農民の国家であるとは云つてゐる。従つてその政府は労働者農民の政府であるとこゝでは労働者農民の政府といふ言葉の内容は、革命的な階級支配の政治形態を指すものとなる』と。こゝで山川は、あたかも『労働者農民の政府』の持つ内容が時と場所に依つて異るように書いてゐる。尚彼はこゝで『労働者農民の国家であるとは云つてゐる。従つてその政府は労働者農民の政府である』と書いてゐるが、そして、そのことは同志レーニン次『十月革命後のロシアを指摘したのであることも書いてゐるが、現在のソヴエート同盟（その中にはロシアソヴエート社会主義共和国联邦も含まれてゐるのだ）がどうであるかに就いては一言も触れてゐない。このことは彼が説明を都合よくするために故意にそうしたのか、それとも彼が事実を知らぬのかの何れかの結果である。

同志レーニンは十一月革命直後に於ける『ソヴエートロシアを労働者農民の国家と規定した。併し、その後（何時であつたかは記憶にないが）ロシア共産党大会の席上で同志ブハーリンが述べた所の次の言葉（吾々は正確に引用する自由を持たぬ、一冊の文献も手元にないので特に断つてない引用はすべて記憶によつてである）、即ち、

『ソヴエートロシアのプロレタリアートは誰人とも权力を分け合つてはゐない。プロレタリアートのみが权力を把握してゐる国家――それはプロレタリアートと農民の国家ではなしに、プロレタリア国家である』といふ言葉を正しい確認したのである。山川は十一月革命後に同志レーニンがこう言つたといふだけで現在までそうであるかの如く述べてゐるのは全く不当である。

更に、国家は労働者農民の国家だ。従つてその政府は労働者農民の政府だとするならばプロレタリア国家の下で言はれる労働者農民の政府といふのはどういふ意味か？これに対して山川は答へない。若し山川の言ふ如く『国家……従つて政府は……』とせんかソヴエート同盟の政府はプロレタリア政府だと言はなければならぬ。そうすれば、ソヴエート政府を労働者農民の政府と言ふのは間違ひか、ゴマ化しか、それとも冗筆に誤記かいゝから、宣伝のためのものだからといふことになるだらうか？西断じて否である。共産党のスローガンは常に科学的内容を持つてゐる。空宣伝のものは一つもない。同志レーニンの最も忠実な学徒であり、現在、国際プロレタリアートと被搾取者大衆から絶大な信頼と尊敬を享けてゐる同志スターリンはその著（『二つの手紙』か或は『二つのスローガン』）の中でこの問題に対する明確な答を与へてゐる。長約すると次の如くなる。

『ソヴエートロシアのプロレタリアートは誰人とも权力を分け合つてはゐない。プロレタリアートのみが权力を把握してゐる国家――それはプロレタリアートと農民の国家ではなしに、プロレタリア国家である』といふ言葉を正しい確認したのである。山川は十一月革命後に同志レーニンがこう言つたといふだけで現在までそうであるかの如く述べてゐるのは全く不当である。

更に、国家は労働者農民の国家だ。従つてその政府は労働者農民の政府だとするならばプロレタリア国家の下で言はれる労働者農民の政府といふのはどういふ意味か？これに対して山川は答へない。若し山川の言ふ如く『国家……従つて政府は……』とせんかソヴエート同盟の政府はプロレタリア政府だと言はなければならぬ。そうすれば、ソヴエート政府を労働者農民の政府と言ふのは間違ひか、ゴマ化しか、それとも冗筆に誤記かいゝから、宣伝のためのものだからといふことになるだらうか？西断じて否である。共産党のスローガンは常に科学的内容を持つてゐる。空宣伝のものは一つもない。同志レーニンの最も忠実な学徒であり、現在、国際プロレタリアートと被搾取者大衆から絶大な信頼と尊敬を享けてゐる同志スターリンはその著（『二つの手紙』か或は『二つのスローガンと』）の中でこの問題に対する明確な答を与へてゐる。長約すると次の如くなる。

『国家は階級的支配を意味する。ソヴエート同盟での权力はプロレタリア階級の手に握られてゐる（プロレタリア独才）。そして、前述の如く、プロレタリアートの了史的使命遂行を目的とする国家である。故にこれは本質的にプロレタリア国家である。けれども、資本主義より共産主義への転換の間には了史的に相当に長期に亘る過渡的時代が横たはつてゐる。この時代にあつては、プロレタリアートは食爰中農との同盟を結んで進まねばならぬ。（こゝでは革命の第一段階に於けるプロレタリアートと農民の関係にはふれないでおく）。この同盟は一定の物質的条件を基礎とする政治的同盟であつて、プロレタリア独才を維持するためにこ必要な日常現実的政策を実行するために必要な須的条件である。では如何にしてこの同盟が可能であるか？それはプロレタリア国家が受事の農民大衆の日常の利益を現実的に擁護する、向上させるといふことに依つて可能であるのかいる政策は何によつて行はれるか？それは政府である。ソヴエート政府――それはプロレタリア独才を維持するために必要な日常現実的政策を実行するす機関である。だからこの政府は何々の部分的日常政策に於て譲りを犯すことはあり得る』。だがプロレタリア国家は断じて譲りではない。国家の本質とその政策を日常生活の上に行つてゐる形態とを混同してはならぬ。前述した如く、プロレタリア独才は食爰中農（今日では集合経済に包含されてゐる食中農との）との同盟を必要とし、そのために彼者の直接的利益を擁護してゐるし、且つ擁護して行くのである。この意味に於て、ソヴエート政府は労働者農民の政府である。そのことはソヴエート国家の本質がプロレタリア国家であるといふこと、何等矛盾しないのである。

山川均が『労働者農民の政府』を如何に理解してゐるかは、以上に依つて稍々分つたと思ふ。更に進んで、我々は彼の奇妙奇天烈な論旨をのぞかう。彼は云ふ、

『イギリスの労働者党の勝利の結果は、ブルジョア・デモクラシーの拡内にある労働党内閣の出現にすぎなかつた。しかるに日シアに於ける社会民主労働党の勝利の結果は、全く本質を異にする政府の出現となつた。この相違は、政权を握つた政党そのものゝ性質の相違によつても、或る程度までは説明し得られるが（傍点は山川）、それだけの説明では、なほ皮相な説明である。この二つの政党の政权把握の結果を根本的に異らしめたものは、如何なる形勢の下に――即ち、階級闘争の発展のどの様な形勢と関係とのうちに――政权の把握が実現せられたかといふことである（傍点は山川自身のもの）』と。

『この短い引用の中から吾々はマルクス主義の極く小さなカケラでも発見することが出来るだらうか？。蔦んでもないことだ。汚濁の沼に良質を放

つ社会民主々義あるのみ。才一トイギリスの労働者党は何等場利を得たか？マクドナルドの労働党は労働者階級の党ではなく、ブルジヨアのための政党ではないか。それの裏切的性質は今日、最早やピオニエールの眼にも明かである。それを、労働者党の勝利と見せかけることは――そしてそのあとで書いてゐることと結びつけるることばは――社民党の安部、赤松と少しも変らない。オ二、ロシア社会民主党（ボリシエビキ）と英国労働党とを並列さすことによつてこの二つの政党の持つてゐる根本的相違をおしかくしてゐる。政党は階級の部である。ボリシエビキ党はロシアプロレタリアートの頭であり、その最も勝れた部分の集一体である。英国労働党は『労働階級内部に派遣された』ブルジヨアジーの手先き』であるのだ。この根本的相異が他の一切の問題を決定するのだ。然るに山川にあつては、この階級的根本的相異に依つて説明出来るのは『或る程度まで』であり、そうすることは『皮相の説』であるといふのだ。そこで彼の階級的相異が『その結果を根本的に異らしめ』るのではなくて、その時『階級斗争の発展のどの様な形勢』であつたかに依つて説明されねばならぬとなふことになる。これを吾々の言葉に訳すとこうなる。即ち、英国労働党は政党ではない。英国労働党が政府を作つたことゝボルシエビキ政府の相異の根本は、この両者が如何なる階級の利益を代表してゐたかにあるのだ。この根本的相異こそがボリシエビキをして十一月革命に於ける成功を確保せしめたのである。山川均にあつては、それ〳〵の政党がその構成過中に労働者があるといふことだけが重要であり、決定的なものであつて、その政党の綱領などは問題でない、いのである。では何故山川はかくの如く問題を本末顛倒させてゐるのか？吾々は簡単である。そうしなければ英国戦線党の存在理由がなくなるからである。

山川の共同戦線党の理論的根拠は次の如くである。『現在のあらゆる条件の下に於ては――就中政治勢力の相対関係の現状、またはこれに近い状態の下においては――革命的プロレタリアートの最尖端部分は広汎な反ブルジヨア大衆と同一組織の下において結合することを阻止せられてゐる……。この条件が、やがて職業的革命家の組織のほかに、大衆政党の組織を必要とし、また可能としてゐるものである』。これが英国戦線党である。『そこでこの（右に述べた様な）条件が消滅したならば（如何にして消滅さすべきかは彼の問題とする所でない）、労働者党（どうしてそれが出来るかは問題でない）、他方にはブルジョア政治勢力の内部から起る自壊的作用……によつて成り立つものである』。

然でも明白な如く、山川は『……であるのか？・あるとするならば……天々山とやつてゐる。彼及び彼一派の見解に依れば、日本の現在には大衆的政党としての共産党は存在し得ないのである。即ち彼は云ふ『われ〳〵では現在の諸状勢に急激な（然り！・）変化のない限り、所謂る前衛党は大衆的政党としてではなく、少数の職業的革命家の結合としての形成長し得るものだと仮定する』と。ところが彼等の実践は、これが次して『仮定』ではなくて、そうした『認識』の上に立つてゐることを実証してゐるのだ。我々にとつて重要なことは『急激な変化のない限り』といふ様な問題の扱ひ方ではなしに現在の状勢を如何にプロレタリアートの為に有利に展開さすべきかなのである。政治勢力の相対関係の変化はプロレタリアートがその唯一の党たる共産党の指導下に積力的にブルジヨア地主天皇と斗争することに依つてのみ可能なのである。共産党以外にこの斗争を行ひ得る政党はないのである。ところが山川は先づオ一に日本の現状では共産党などは作れつこないんだぜ、それを作ることはマルクス主ギに反するのだぞと仰言るのである。『ブルジヨアジーの政治的支配力が著しい動揺状態に陥入り、従つて階級の力の関係が急激に変化する時である』かゝる瞬間は、一方にはプロレタリアの相対的な勢力の増大により（どうしてそれが出来るかは問題でない）、他方にはブルジヨア政治勢力の内部から起る自壊的作用……によつて成り立つものである』。

のである。

一八四七・八年、ドイツ・フランスはブルジョア革命の前夜にあつた。その時にカール・マルクス、フリードリヒ・エンゲルスは「共産党宣言」を発表したのである。一九三一年、ソ同盟に於ける社会主義建設の第十四週年を含日を前にして居り、コミンテルンが出来てから十余年を至てゐる時、山川均はマルクスの名に於いて共産党反対を唱へてゐるのである。

我党は日本に於て労働者農民政府を樹立することを戦略的目的としてゐる。それはプロレタリア独裁を「民衆の言葉で言ひ表はした」ものに外ならぬ。此の困難に於ける如何なる動揺も許されない。我々はこのスローカンの持つ革命的意義を労働者農民大衆の間に広く説明しなければならぬ。農の労働者農民政府とは如何なるものか、その為に斗争し得る、そして斗争してゐる政党は如何なる政党か（共産党のみ）を分り易く説明しなければならぬ。

「プロレタリアートのヘゲモニー」を否定し他の小ブルジョア層と同列に並べて考へてゐる山川及びその一派の反動的性質及マルクス主義的性質は徹底的にバクロされ、それに対しては決定的に斗争しなければならぬ。

マルクス＝レーニン主義からの凡ゆる偏向に対する徹底的斗争を行ふことなくしてはプロレタリアートはブルジョアジーの政力打倒の斗争で成功的勝利を得ることは不可能である。

全農左翼を分裂主義の過誤より救へ！

"全農全国会議の任務に関する書記局の決議の批判"

九月二十四日附全農全国会議準備委員会によって発表せられたる「全国農民組合の革命的と全農全国会議の任務に関する決議」は大体に於て、八月京都会議に於ける決定及びその会議内に現れたる有力なる意向を基礎としてなされたものであるが、この中には重大なる分裂主義的過誤が現はれてゐる。

我々は今これをあらゆる努力を挙げて急速に克服しなければならない。この誤謬は従来我々が我々自身の組織を確立し、我々自身の確乎たる政策を実行し得なかつた為に大衆団体内の左翼が犯し来つた誤謬・右翼との執拗なる斗争を抛棄し、家族的に固まらうとする日和見主義と極左主義との連続である。今これを克服し清算することは我々に課せられた緊要なる任務である。

決議の誤謬は最後の段「決定的任務」の項に最も要約的に表はれてゐる。

即ち、「全農全組合員の意志を統一反映せしめたる全国会議をひらき、総本部に対する除名解任取消しの要求及現中央委員解任を同題とする大会の開催を要求する。」といつてゐる所は同意ではない。だが若し現総本部が全国会議で決定せる構成で大会を召集しなかつた場合には我々は脱退することなく全国会議決定の構成による（右翼を含めたる）全国会議（全国大会の誤記）を召集しなければならない。そこで前記の問題は解決され、左翼によつて全農総本部が樹立されるのだ。」と規定せる点は明らかに全農左翼の一部に残存してゐる分裂主義的誤謬をあらはした箇所である。従来、全農左翼の中には総本部が飽に除名解体を企じた以上は大会へ参加することは不可能である。遂かに別個の大会を持たなければならないとする意見があつたが、これは既に解体されても大会に出席し得るのである。否出席して総本部の悪意の除名と合法政党支持強制に対して斗争しなければならないのである。左翼は必ず大会に於て勝利を得るように斗争を通じて組合員の圧倒的多数を左翼に引きつける様に、又未組織の広汎なる農民層を左翼に組織する為に機構に戦はなければならない。

左翼の最も重要なる任務は如何なる比率による構成の大会であらうとも必ず勝ち得る様に在作的大衆を左翼に獲得することである。これが根本的要件である。この基礎に立つて更に有利に勝ち得る大会の構成を要求して戦ふのではない。

だが、大会の構成の比率は本質的な問題ではない。現総本部が全国会議で決定要求せる構成で大会を開かなくても、我々はこれから脱退して別個な大会をもつてはならない。何故なら此の方向はやはり依然として分裂主義であつて、たゞ敗北を合理化せんとするものにしかすぎない。

我々は不利な構成の大会の内部でもなほ機動に戦はなければならない。我我は大会で敗れても決して脱退してはならない。飽くまで踏み止つて隠忍し機動なる斗争により更に大衆を獲得し臨時大会の開催を要求し、根強く斗はなければならない。これを以て日和見主義の如く考へるものがあるがそれは間違ひである。

大衆を右翼の指導の下に委ねてこれから離れて行くことこそ日和見主ぎである。飽くまで内部にあつて斗つて大衆を奪ひ取らなければならぬ。吾々は単なる勢力争ひや大衆の奪ひ合ひをやるのではない。大衆を資本家地主の御用

人に引渡すこと位非階級的非共産主ぎ的意気地り行為は他にないのだ。吾々は勤労農民の解放のためにこそ斗ふのだ。

次に総本部派は官憲の力、暴力を用ひて左翼を大会から除外するだらうから左翼は既に大会場面での右翼との斗争を見限り、別個な自分たちの大会を持たなければならぬとする見解があるが、これも敗北主義である。官憲や暴力と投力する総本部の正体を内部に暗み止つてなほも機関に大衆に対して曝露して大衆を奪ひ返すことこそ任務である。

全国会議は全農内でこの卒様強い反対派活動を続けなければならぬ。

全国会議は全農内の圧倒的多数に支持されてゐる。そして圧倒的多数の行動を指導統制してゐる。全国会議は実質上の全農の本部であると云へる。だが今現実には少数派である右翼が官憲と暴力によるクーデターで我党を乗とつてゐる。だから実質上本部たるべき全国会議の活動は現実には「少数派運動、反対派活動」の方法を採用しなければならない。それは決して自から分裂して別個の大会を開くのではなく内部に留つて困難なる忍耐的斗争を遂行することである。

「決議」に関して批判すべき要点は以上の如くである。

日本に於ては大衆団体内に於ける左翼の忍耐強き有効なる斗争遂行の訓練が乏しい。総同盟より評議会の分裂の例を始めとして日農と全日の政治的意見の相違により分裂主ぎ的誤謬の苦々しい経験を多くもつてゐる。我々は幾度も同一の誤謬を犯しながら、それを当然のことゝ思つてゐる。

今こそ我々はこれを深く批判し、分裂主ぎ、極左宗派主ぎ、日和見主ぎを実践的に克服しなければならない。

そのために必要なことは大衆団体内の我々自身の組織（フラク）の確立強化と、全農全国会議の反対派戦術の誤りなき運用の実現である。

我々の任務は重いのだ。正しい政策戦術の適用に努力せよ。

極左的敗北主ぎを克服せよ！

卒様強い下からの統一戦線の戦術を強行せよ！

大衆行動を決死的に遂行せよ！

★　★　★

あとがき

「全農左翼を分裂主ぎの過誤より救へ」の中に述べたことは主として全農全国会議書記局の「決議」に現はれたる誤謬に関してゞあり、対策については主として大会に対する態度を指示するに止めた。

然し乍ら誤謬は決して「決議」の中にのみあるのではなく、日常のあらゆる行動にあらはれてゐる。対策は決して全国大会に関する斗争のみが問題なのではない。

最も必要なことは誤謬の根本を排除することである。これは決して一二の論文や会議で完了し得るものではない。我々は現在如何なる情勢の下にあるか、如何なる活動が我々の緊急の任務なるかを理解し、それを勇敢に実践し続けることによつてのみなされるのである。

即ち、深まり行く経済危機に労働者勤労農民の窮乏化と反抗とは増大してゐる。革命の客観的条件は成長してゐる。現在、帝国主ぎ戦争は現実に開始されてゐる。この時期に於ける我々の緊急の任務は労働者及び貧農の大衆的獲得をそのボルシェビキー的組織の確立である。

一、我々の農村細胞の確立は先づ第一の任務である。細胞は直ちに勇敢なる独自の斗争を遂行しなければならない。（現在社会民主々ぎ者の策動下にある農村で彼等の政策を根本的にバクロして勤労農民の利益を真に擁護する政策を対置し得るものは我党のみであり、これを農村で遂行するものは我々の細胞及藤委員会である。今まで社会民主々義者排撃の斗争は細胞及藤委員会の独自の活動としては不充分にしか実行されてゐない。この事は急速に改められねばならない。）

二、農民委員会の組織、農村のプロレタリアの組織の重視は直接に努力しなければならぬ重要なる急務である。

三、全農に対しての独自の対策が立てられなければならぬ。農民組合に関する問題が我々の内部の全部ではないのだ。我々の独自の立場を活動の立場を忘れて農民組合の活動のみに没入したり我々の課題である全国農民組合にのみ全部課して了ふことは重大なる誤謬を犯すことになる。農民組合内に我々はフラクを確立しなければならない。我々の政策を農民組合をして支持せしむる為にこのフラクを組合内で活動せしむるのだ。現在我々がフラクを通じて農民組合をして実行せしむる重要なる問題は次の如くである。

△…小作争議其他貧農の要求を把へ日常のあらゆる斗争を勇敢に遂行させる。貧農の基本的要求「土地を勤労農民へ」の斗争を最も果敢に遂行させ発展させる。かくして広汎なる貧農の大衆右翼影響下並に未組織大衆をも広汎に獲得する。

△…農民委員会の組織其他各種の方法により農村の勤労農民の要求を支持し農村の広汎なる被搾取層を味方に引入れる仕事に参加する。

△…農村のプロレタリアの組合の組織を促進させ、労働者と農民の革命的同盟の戦術を強固にする仕事を強化する。

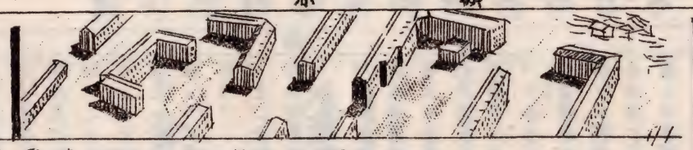
△…帝国主ぎ戦争反対の斗争を都市労働者と共同し遂行せしめる。これは当面の緊急任務である。

△…社会民主々義排撃の共通の斗争を遂行せしめる。

之等の事を必ず実現する事が必要である。この基礎の上に立つて、全農左翼は飽らず自己の日常活動を遂行する事が出来る。而してこの日常の精力的斗争を基礎としてこそ全国会議の社会民主々ぎ者排ぎの斗争は成功するであらう。

鉄の火花

ドンバスのゴルロフカ第一號炭坑の婦人突撃隊の同志



新一神エ地に
設ソウ田國カ
のヴフ工カ
ェ場フ
ト労働者住宅地

ムズシアフ婦人団体を撲滅せよ！

××子

廿日の新聞は財団法人社会教化団体希望社がその附属事業の勤労女学校及日本印刷学校の生徒を教化団体・学校の美名にかくれて、言語に絶した非人間的搾取をしてゐるたといふ事実、社長・舘主の素乱生活、不正行為の実状を曝露した。ブルジョア社会教化団体なるものゝ正体が何んであるかを、彼等自からが、最も具体的な方法で曝露したよい例ではないか？政府並にブルジョア御用新聞は、この事実をば勿論黙殺個人のいたすところ！として、おさめ様としてゐる。後藤静香一人を希望社から引退さす事によって、反動団体希望社の、引いては凡ての所謂この種の団体の現実の正体を民衆の眼から完全にかくしおはせる事に努力してゐる。一体日本に於ける婦人反動組織は決してドイツ、イタリー等外口に比して微力ではない。愛口婦人会、隣保館事業、大日本女子青年団、処女会、日本赤十字篤志看護婦人会、希望社等々々。中でも、大日本女子青年団（他も同様である。）の下に、工場（セン斗産業の多くに）、農村、鉱山の婦人労働者、勤労婦人の団体に、多数を組織してゐる事、及び今後も尚ら農村・企業を目指してゐると云ふ点から見て我々は特に此等を重要視せねばならない。

大日本青年団は、地方、農村の処女会を基礎に全口的に統一し結成されたもので、全口に百八十万からの巨大な勤労婦人を組織してゐる。我国統としての処女の友口を掌行してゐる。諸君目標は、農村、工場の若い勤労婦人、特にセン斗工場の若い婦人労働者を主要目標にしてゐる。

（一）軍人（現中央課本部関係）の婦校を中心とする、ファシヨ御義政権樹立の運動が着々として進められてゐる。と云ふ噂は、今では殆ど公然の秘密になつてゐる。中には、この運動の前衛中に、既に秘密我国統の発行あり、と断言する者もある。この運動には少壮士官の共鳴頗る強しとの噂である。

満蒙の戦争は、全く彼等の計画であると実に、陸軍々用タンクが発送されたのは八月末のことである。参謀本部に於ける一陸軍退役将校が激烈な排日のアジ・ビラを作製したのは、排日を激化し、之に対して日本口民の口愛口心を喚起し、戦争の機会を作るためであつたこと、勿論である。（一九三三年九月関東大震災の時に朝鮮人虐殺をやつたと同じ方法だ。）

（二）この新戦争煽動のカンパーニアに、活動した在郷軍人会の意義は極めて重大である。既中、この在郷軍人会の集会に於て、死んど現役将校がヘゲモニーを握つており、陸軍刑法の禁止に喰着せず、公然と政治を論ぜしこと、及び常に対支問題に論旨を止めず、対露攻撃問題を高調せしことは、注目されねばならぬ。

斯かる意味に於て、日協（日本主義戦線統一協議会）が画策せる、「戦争を以て口内改革の手段とせよ」とのスローガンは、意味が深い。参謀本部——在郷軍人会——口家主義団体のファシスト独裁への運動は、対外関係の緊張と共に、加速度的に進展するであらう。既に、現在に於て議会政党は、これ等の努力に圧倒されてゐる。

（三）満蒙独立計画

口軸党は日本軍部の意のまゝになる絶対的服従者を主権とする独立口となるであらう。日本軍部は該新独立口をして、東亜侵道のサヴエート構造を徹底的に駆逐せしむるであらう。今回の戦争は、日露大戦のプロローグにすぎぬとも云ふことは口家主義者が今や公然と口にしてゐることであり、その後の事件の推展は、漸次この説を実証きしてゐる。

たゞ反サヴエートの大義が次行せられるために残されたる問題は、日本帝口主義とフランス帝口主義の協定のみではないかと考へられる。

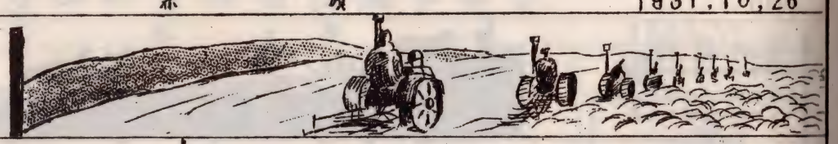
以上の報告にもつても、固然に着取し得るであらうが、僕の意見としては、現在の支那情勢政治権力及に、軍部・口家主義反動団体と他方に議会政党との二つの勢力の対立を認めるっ後者は前者に引きずられてゐる。が依然として対立してゐる。

最高級官吏の間でも口戦端が開かれた後までも、対外声明書が四日も五日も口家改で激論せねば出来ぬ様では困ると訪し合はされてゐるのは、蓋し、右の対立に相違あるまい。

併し、軍部、口家主義団の努力を以て、以前の様に、絶対専制勢力とみることは僕は反対である。個々の軍人、個々の口祥論者の観念の中には、極めて強烈なる絶対主義的思想を有するとは云へ——従つて、その言論は極めて専制的絶対主義或は封建的色彩を表はすとしても、それが行動に於て、彼等が金融資本の先・ファシストとしての統制を有合黙すであらうし、

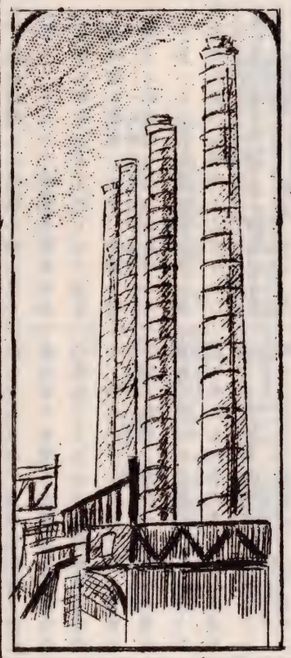
トラクター従隊

トラクターの荷作はざが全て平地に盛り上つてゐる。



ファシストニュース

—AZM生—



プロレタリア文化聯盟、新興組合、工場スポーツ、等々を含む）、及びその我関紙、工場新聞、等々・特に二の事に於て重要な任務を持つものは、革命的労働組合、労働組合革命的反対派並にプロレタリア文化聯盟の工場、農村内に於ける階級的文化教育活動であらう。特にプロレタリア文化聯盟の我関紙口プロレタリア文化口とその婦人を対象とした我関紙は最も広汎な女婦人労働者農民をも容易に読者としなければならぬ。

企業から、農村から大衆の中から反動組織を叩き出せ！

革命的婦人委員会でかためろ！婦人活動双活動方式！

日本共産党の旗の下に！

ブロレタリアートの覇権の下に
勝利せる十月革命

十月革命の勝利は国際プロレタリアートの勝利である

『……今では総ての大都市に於て幾千、幾万の労働者が蜂起してゐる……』警察は労働者を圧迫し、彼等を牢獄に叩き込み、裁判もせずに故郷やシベリアへさへ流刑する。政府は法律によって労働者の団結や集会を禁止してゐる。『けれども労働者は官憲や政府と斗争を遂行してゐる。』『政府はこれがために躍起となって労働者を追求してゐる。政府は彼等を弾圧する為軍隊さへ動かす。』『けれども労働者は尚ほ屈しない。彼等は斗争を継続してゐる。彼等は云ふ、如何なる迫害も、追求も、流刑も、死も、俺達を恐れしめない。俺達の行動は正しいのだ。俺達は労働する総ての人々の自由と幸福のために戦ってゐるのだ。俺達は、幾千万、幾億の民衆の圧制や圧迫や、貧困からの解放の為に戦ってゐるのだ。……俺達はどんな迫求にも拘はらず勝つであらう。』（改造文庫『農村問題』レーニン著八六―八九頁）

『都市における労働者大衆が、事に――『専制政治を倒せ！』と――継叫して街頭を練り歩くためのみではなく、偉大な、決定的斗争のために奮起する日が、労働者が一人のやうに固まって『我々は斗争の渦中で死ぬか、然らずんば自由を獲得せん！』と叫ぶ日が、斗争の渦中で愉援され、戦死した百人の代りに、千人の新しい、尚ほヨリ決心の堅い斗士が奮起する日が、速かに到来するであらう。その時には農民も、全ロシアに亘って奮起し、都市労働者に援助を与へ、農民及び労働者の自由の為に最後まで戦ふであらう。その時にはツアー側からのどんな弾圧も対抗し得ないであらう。勝利は労働者大衆の上に来るであらう。そして労働者階級は、全労役者をあらゆる束縛から解放すべく広々とした大道を進んで行くであらう』（同上一九三―一九四頁）。

ロシア革命

の偉大なる指導者同志レーニンが一九〇〇年代の始めに書いたこのことは一九一七年十月に事実となった。ボリシェヴィキ党をその頭部に持つロシアのプロレタリアートは広汎な貧農をその同盟軍として遂にブルジョア的支配を広大な地域から追ひ払った。プロレタリアートが国家権力を握ることに依って『全労役者をあらゆる束縛から解放することが始めて可能であること』が厳史的事実となった。ツアーの専制下に於ける圧制、資本家とその手先であるメンシェビキ、社会革命党の下に於て受けた迫害、追求はボリシェビキの勝利に依ってケシ飛んでしまった。

『農民はプロレタリアートの指導なしに搾取と圧制から脱れることは出来ない』ということは理論的に正しいのみならず一九一七年十月後の欧洲に起つた事実がその正しいことを証明した。それと同時に『プロレタリアートは広汎な被搾取農民大衆と革命的同盟をー―そしてその同盟に於てはプロレタリアートがヘゲモニーを握らねばならぬ――結んでのみ成功的勝利に到達し得るといふことも厳史的事実に依って証明された。

労働者農民の革命的同盟――それはこの両者を一つの政党にまとめることではない。それは地主に対する、農村ブルジョアジーに対する被搾取農民大衆の革命的斗争を都市の工業プロレタリアートが積極的に援助し、指導すること、後者のストライキ、争議に対する前者の精力的援助を意味するのである。何等か一定の組織形態の中へこの両者を押しこめなければ同盟が不可能であるかの如く考へることは、マルクス＝レーニン主義のイロハを知らぬ大

週刊 赤旗 第58号
日本共産党中央機関紙 国際共産党日本支部

目次

▼プロレタリアートの覇権の下に勝利せる十月革命 一頁
十月革命の勝利は国際プロレタリアートの勝利である……
▼十月革命と勤労農民……六頁
▼中央執行委員会の再編成に就いて 十頁
――第二回無産者新聞を党中央機関紙とする――
▼鉄の火花……十四頁

馬の従隊

たくましい馬が従隊を作つて水田地を耕す光景

編輯部より

同志AZMは若干の誤謬を犯してゐる。同志AZMは局部的問題を全般的問題との関係に於て見ておらない。第一の問題の戦争は全て彼等の計画であるといふことは皮相的な観察である。参謀本部は戦争の技術的方面丈けを扱ふものと思つたら大間違ひである。『戦争は敵の異つた政治である』といふクラウゼヴィッツの言葉は何の為に戦争を始めたのか？何の為に満州を占領したのか？日本帝国主義ブルジョアジーがそれを要求したからに外ならぬ。その要求を実行する為に行動したのである。『戦争の開始は議会や、参謀本部で決定されるのではなく金融資本家の社交クラブで決定されるのだ』といふことは明白な事実である。

第二、日本でもファシスト的独裁制が布かれるであらうといふ展望は正しい。それがどんな編隊であるかは今の所問題でない。深刻化する世界的経済危機、日本における二百五十万の失業者、労働者大衆の斗争への進出、農民斗争の激化、都市小ブルジョア層の急速な没落化、不安、動揺、植民地における革命運動の新しき抬頭、ソヴエート同盟に於ける社会主義の成功的建設――之等の諸条件がブルジョアジーをして益々露骨に労働者農民大衆を搾取弾圧する方法へと向はせてゐる。ブルジョアデモクラシーの一片すらない様な日本でも、支配階級は現在より、もつと残虐な、惨忍な方法で労働者大衆を搾取抑圧せんと待ち構へてゐる。戦争熱を高め、愛国主義――それは天皇主義と結び付けられる――の強調、排外主義の宣伝煽動が行はれてゐる。これと同時に支配階級は一般労働大衆の中に、彼等が行ふ弾圧政策に対する大衆的支持を求めてゐる。ムッソリニが小ブル層の中、労働階級中の遅れた層の中に自己の支持者を求めつゝ金融ブルジョアジーの利益の為に尽してゐるそれと同じ様にやらうとしてゐるのだ。だから日本の『労働者農民党』も『資本家の機関』を五年だけでは『資本家の機関』を五ふ。これは没落しつゝある小ブルジョア層の人気を得ること、結び合ひであらう。然しそれ丈けでは駄目だ。といふので用ひられるのが『社会主義』といふ言葉だ。これは労働階級中の遅れた層をごまかす為に多く用ひられる。社会民衆党の『社会主義』、『労働者農民党』の『日本社会主義』、『国家社会主義』等々皆その類だ。而して、是等すべては天皇中心主義たることに於て一致する。斯くて日本でのファシスト的独裁実現は金融資本家にとつて必要なるが故に着々準備されつゝある。この問題に関してブルジョアジーの内部に若干の動揺があるとしてもそれは本質的対立ではない。

同志AZMは、『議会政党はこれらの勢力（軍部の）に圧倒されてゐる』と言ふが、議会政党の構成要と新聞雑誌などもカとの間に確然たる区別をどうしてつけるか？支配階級としてのブルジョアジー、地主が別の支配形態を必要としてゐるといふことをこそ強調すべきでもつて、右手が左手よりも強そうだと言つて同一の身体についてゐるものが恰も対立してゐるかの如く考へることは或る危険を伴ふ小ものである。勿論そう言つたからとしても、彼等の間の動揺を無視しろと云ふのでは断じてない。それを正当に評価しなければならぬと云ふのみである。

同志AZMと共に我々は『更に強力に、具体的に』一歩から足まで武装したファシスト独裁『の芸術』に対する詳細明確なバク口をしなければならぬ。

軍事の盟国同盟ソヴエート
守る社会主義祖国を

「ソヴエートの友」より

馬鹿者か、故意に、そう思はせることに依つて両者を同一の立場に――即ちプロレタリアートの覇権（ヘゲモニー）を否定する――置くところの日和見主義者である。十月革命にあつては、ロシアプロレタリアートは直ちに農民に土地を与へた。農民大衆は積極的に都市プロレタリアートの革命斗争を援助した。新しいプロレタリアートの権力は地主の土地没収の為に武装蜂起せる農民大衆が支持しなかつたならば忽らくは一週間も継続しなかつたであらう。又、十月後の反革命軍に対するプロレタリア軍の勝利は現実に於ける労働者農民の革命的同盟であつた。

プロレタリアート

は農民の革命的要求を実践的に支持し、それの貫徹の為に斗争する事に依つてのみその同盟に於ける覇権を確保し得るのである。権力を得た後のプロレタリアートは勤労農民大衆の経済的政治的社会的生活を実質的に向上せしむる所の政策を実行する事に依つて彼等との堅き同盟とその中に於けるヘゲモニーとを確保し得たのであるし、且、確保してゐるのである。

労働者農民の革命的同盟とその中に於けるプロレタリアートのヘゲモニーの確保の思想はマルクス主義の重要なる原則である。労働階級は如何に農民に対すべきかに就いてエンゲルスはその著『ドイツに於ける階級斗争』の中で明白に規定してゐる。マルクスは未だプロレタリアートが若くして遭遇した一八四八年のドイツのブルジョア革命に就いて、この『革命がもし『農民共同農場に組織されるに至らしめた戦争の再燃』に依つてさへ支持されたならば、それは『輝しき』ものとなるであらう』（スターリン）と云つてゐる。レーニンはその著書の実に多くの個所でこの事に触れて居り、この事の重要性を強調してゐる。『けだし百姓の恐るべき貧困、無智蒙昧、無権利、卑屈はわが国のあらゆる制度の上にアジア的烙印を捺してゐるからである。そして若しも社会民主党がこの斗争に有りとあらゆる支持を与へないならば、自己の義務を果したとは言へぬ』と一九〇五年代の始めに書いてゐる。（『労働者党と農民』）。

共産主義者

は農民に向つても決して虚偽を言うたり、空約束をしたりはしない。共産主義者はプロレタリア独裁のみが広汎な被搾取農民大衆を地主と資本から解放し、安らかな生活に向ひ得る事を主張する。そして私有財産制的精神を濃厚に所有する農民に向つて、共同経営の有利なる事を公然と主張する。然しその事は権力を握つたプロレタリアートは直ちに全土地を没収し、それを共同経営化するといふのではない。『実例』に依つて辛棒強く農民にその事を納得させるといふ方法でこれを徐々に行ふのである。エンゲルスはこの事を繰返し〳〵述べてゐる。而して、ソヴエート同盟ではこの方法に依つて行はれたのである。就中な宣伝煽動と『実例』に依る熱心な説明とは、一九三一年度に於て既に『農民の六〇パーセントが共同農場に組織されるに至らしめた（東京朝日新聞、一九三一年一〇月二〇日）。ブルジョアジー、地主並びにその手先共（日本では社会民衆党、労農党、顧覚派等）は農民が一般的に小ブルジョア的イデオロギーの所有者であることを利用して『共産党は農民の土地を全部没収するぞッ』と言つて彼等を脅かしてゐる。だが事実は正に反対である。ロシアでも、ドイツでもその他何れの国でも、日本でも農民の土地を『没収』もしてゐるのは大地主、富農、ブルジョアジーである。日本で所謂五反百姓なるものはたとへ少しばかりの土地を持つてゐるとしてもそれは殆んど全部借金の担当になつてゐるのであつて、実際上彼等は銀行、地主、富農の土地を借りて耕作してゐるのと何等変りはないのである。

十月革命

当時ボリシエビキ党は社会革命党の農業綱領をその儘実行した。社会革命党はボリシエビキに向つて言つた『諸君は我々の綱領を盗んだ』と。ボリシエビキは答へた。『然り、我々は社会革命党の農業綱領をその儘採用した。諸君は二月から十月までの間にその綱領の中一つも実行しなかつた。農民は諸君の政府に反対して武装蜂起をやつたのだ。我々は諸君がやり得ない事、しかもロシアの農民が切実に要求してゐるものを満足させたのだ。問題は誰が先に言つたかではなしに、誰がそれを実行したかにあるのだ』と。メンシエビキも社会革命党（エス・エル）もプロレタリアートの党ではなかつた。彼等はブルジョアジーと斗争する代りにそれと手を握り、革命的労働者と農民、兵士を売渡して獲得した権力をブルジョア地主の下へ返す為に働いたのである。だから彼等はロシアの勤労農民の要求を一つも満足させる事が出来なかつたのである。唯一つの党、レーニンに指導されてゐたボリシエビキ党のみがブルジョア地主と決定的に、徹底的に斗争し得たのである。この党のみが貧農中農の広汎な大衆の要求を満足せしめ得たのである。そしてこの党のみが労働者農民の革命的同盟を結び、前者の後者に対するヘゲモニーを確保し得たのである。それは如何にして可能であつたか？

× × ×

一九一七

年二月（旧暦）ツアーは退位を余儀なくされた。ブルジョアジーはツアーの退位といふ事だけで国民の大多数を欺瞞し様と努めた。そしてブルジョア臨時政府が出来た。それと同時に労働者農民兵士代表者会議（ソヴエート）が、各都市に設立された。かくて二つの権力が存在した。

四月、ペトログラード（今のレニングラード）のフインランド停車場前の広場はクロンシュタットの革命的水兵の捧げる銃剣が林立した。その中へレ

ーニンが、偉大な指導者レーニンが迎へられた。かくてボリシエビキの有名な四月のテーゼが発表された。その中では『ブルジョア民主々義革命の段階は終つた。我々が主張した労働者農民の民主的独裁は労働者農民兵士ソヴエートとして実現された。我々は革命のオニの段階たるプロレタリア革命へ進まねばならぬ』といふ主張が基本となつてゐる。ボリシエビキがこのレーニン的テーゼを採用する事なく、同志カーメネフ等の主張せる如き『ブルジョア民主々義革命の段階は未だ終らぬ、我々の主張せる労働者農民の民主的独裁は未だ存在しない』といふテーゼを採用したならば、十月の日に、ロシアのプロレタリアートは勝利を得る事は不可能であつただらう。同志カーメネフ等は革命が空想し得ないやうな複雑な形態をとるといふ事、労働者農民の革命的臨時政府といふ形態ではなしに、ソヴエートといふ形で民主的独裁が存在してゐる――何故なら当時のブルジョア的臨時政府はソヴエートに抗して何事も為し得なかつたのであるからである』――といふ事を充分理解し得なかつたのである。『革命は全人同能力の特別な昂揚、緊張の時に於て、最も激しい階級斗争に激たれた数千万人の意識、意志、熱情、想像によつて実行される』のである（レーニン）。

同志レーニン

は、此の当時权力のソヴエートへの移動は武装蜂起なしに可能であると考へてゐた。ソヴエートの中で熱心に、執拗に、宣伝煽動することに依つてソヴエートを革命的なものになし得ると考へられたからである。而してスローガンは『全ての权力をソヴエートへ！』であつた。併しながら、

ロシアの民衆

が要求した『自由』『パン』、『平和』は未だ与へられなかつた。エスエル党よりケレンスキーを迎へた臨時政府はブルジョア的政策をその儘継げた。『勝つまで戦へ！』といふスローガンが投げ与へられた。そしてメンシエビキもエス・エルもこのスローガンを支持した。ソヴエートの中ではエス・エルやメンシエビキが勢力を占めてゐた。彼等は言つた『ソヴエートは臨時政府の頭にツキつけられたピストルである』と。ボリシエビキは彼等の無力をバクロして言つた。『併し、そのピストルには弾丸がないのだし』と。かくして『全ての权力をソヴエートへ！』のスローガンは下げられねばならなかつた。何故ならこのスローガンはこの時にはメンシエビキやエス・エルへブルジョア地主の手先となつたところの〳〵に权力を渡す事を意味したからである。

かくて六月には臨時政府に反対する革命的水兵のデモンストレーションがペトログラードで行はれた。臨時政府はこれに対して械関銃の弾先で答へた。メンシエビキとエス・エルはこれを支持した。レーニン、ジノビエフを始めとするボリシエビキの有力な指導者の多くは非合法下に追ひやられた。プロレタリアートが平和の裡に権力を獲得するといふ条件はなくなつた。ボリシエビキは武装蜂起による権力奪取の必要を痛感し主張した。

他方農村では臨時政府に対する不満がボツ発した。大地主の邸宅の焼き拂ひ大地主の土地没収が農民の武装反乱によつて行はれた。戦線にあつた兵士は銃を持つた儘帰郷し始めた。ボリシエビキの政策はかくの如き激化せる斗争と大衆自身の政治的経験とに依つて並々の多くの人々の間で支持を受けるに至つた。革命的労働者農民兵士が再び『全ての権力をソヴエートへ！』のスローガンを、ボリシエビキの指導の下に呼び出した。それは八、九月頃からである（文献が手元にないので正確を期し得ないのを遺憾とする）。

九月より十月

にかけて、同志スヴエルドロフ、スターリン、ブブノフ等に（たしか五名だと記憶する）依つて構成されたボリシエビキの革命軍事委員会は具体的に武装蜂起の準備をしてゐた。工業都市のサヴエートではボリシエビキは既に可成りの多数になつてゐた。モスコーではソヴエート過半の五十一％がボリシエビキであつた。ボリシエビキは少数ではなくして多数の支持に依つて権力を獲得する条件を作り出したのである。同志レーニンは当時の事を特に強調して言つた『我々は既に少数ではない。我々は多数である。我々は工業都市もモスコーにおいて五一％を占めた為に、ロシアのプロレタリアートは我々を支持してゐるのだ』と。

十月十六日

（塡）の中央委員会々議でレーニンは立つた『十月二十四日（新暦では十一月六日）では早過ぎる、何故なら地方からの代議員はまだ全部集まらないから。二十六日ではおそすぎる、何故なら敵に会議（第二回全露ソヴエート会議）は成立してしまふから。我々は二十五日に行はねばならぬ』と。

十月二十五日（新暦の十一月七日）臨時政府の各大臣は捕縛され、ペテロパウルスクの要塞監獄へ入れられた。官庁は数千の革命家を投じたこの厚い壁の中に、労働者農民兵士の押へきれない程の憤怒と共にブルジョア大臣が投げ込まれた。ケレンスキはアメリカ大使館の裏を掲げることに依つて漸くペテログラードから逃れることが出来た。

ペテログラードの労働者はボリシエビキの後に応じて銃を持て起つた。冬宮（宮城）はこれらの労働者と革命的兵士とでとり囲まれ、駆逐艦オーロラは革命的砲弾を、数百年間奴隷に甘生せる貴族、ブルジョアジー、地主、ツアーが誇つてゐた冬宮に向つて発砲した。

権力はボリシエビキに指導されたる革命的プロレタリア、兵士、農民ソヴエートの手に握られた。工場から、戦線から、兵営から、軍艦からこの新しい政府に対する支持と声援の電報が山

積された。而全ての権力はソヴエートへ！」のスローガンはプロレタリアートの武装蜂起に依つて実行された。そしてこの武装せるプロレタリアートに依つてロシアの勤労農民は、土地を手に入れることが出来たのである。

新政府の宣言

の中には彼の有名な「万国労働者農民は喰ふべからず」が「クツキリと謳ひ出されてゐた。

戦争停止は直ちに始められた。労働者は自ら自由を獲得し、労働者人の労働に寄生する輩は「富者

十月革命と勤労農民

(一)

一九一七年の秋、社会革命党（当時農民の間に最も優勢であつた党）とメンシエビキの党に依つて支持されてゐた「革命的共和政府」の指下で農民一揆がスバラしい勢で発展し始めた時最も卓越せる政治家レーニンは言つた。

『全ロ的な危機が成熟した時と。

農民ロシアにおける農民の此の偉大な動きに対するレーニンの評価は決して過大でなかつたのだ。レーニンのこの評価が全く正しかつたことは今にしてアリ〳〵それを実証してゐる

ロシアの農民は封建的貴族大地主に対して自由主義的ブルジョアジーが曲一個の革命的勢力であるかの如き見せかけてゐた時代には、彼等は自由主義的ブルジョアジーの党カデット党にたよることによつて自己の解放が可能であると考へて彼等を支持した――日本の勤労農民は今、政友会や民政党にダマされて居りはしないだらうか。ギマン的な自作農制定（地主の土地売逃げ策）やブルジョア的産業組合等にダマされて居りはしないだらうか。帝国主義強盗の階級同胞殺戮戦争にかりたてられて居りはしないだらうか。――次から次へと生産する彼等の裏切り、彼等とソアールを先頭とする封建的貴族大地主との野合の申実を見せつけられ、彼等から土地を得る代りに戦死と戦時負担とを要求されて後、始めて農民はカデットを離れて、今度は当時農村で最も革命的な言辞を弄してゐた社会革命党（エスエル党）を支持した。

『地主から土地を解放し それを労働する農民に譲与せよ』と云ふことは一八六一年に廃止された農民の大きな要求であつたが、農民はこの土地解放を一九〇五年の革命からも、国会からも騙されなかつた。この同じ希望にもえて農民は一九一七年の革命に進出した。一九一七年の春には、彼等は実に地主の土地――自分達に帰属しに――に植くことが出来るだらうと深い確信と切なる希望とを抱いてゐた。なんとならば『土地と自由』とを農民に与へることを約束した社会革命党員が今支配者となつてゐるのだから。しかし既に七ヶ月も経過し、政府は会議も投り、資本家地主の利益のためにはあらゆることがなされ、メンシエビキや社会革命党はあらゆる特権と官吏のスワリ心地よい椅子とを分け取りしたにも拘らず、農民には何一つ与へられなかつた。

然しカデットやエスエル党も彼等が先きに農民に空約束しておいた土地解放についてなんとか更にゴマカシをやらなかつたら大変な事態が発生することをよく知つてゐた。彼等は農民に向つて云つた。『土地は何とかする、だが、それは憲法会議ですからそれまで待つてゐなければならぬ』と。

彼等のトリックはあまりにも口コツでおつた。即ちレーニンが云つた様に、『土地は憲法会議まで待て、憲法会議は戦争終結までまて、戦争の終結は完全な勝利まで待てと云ふのであつた。実に彼等はウマイ手を云ふ。

最も偉大なる革命家にして最も忠実なる農民の友たるレーニンに率ひられたるボルシエビキのみが断固として次のように絶叫した。

一、すべての地主の土地及び私人の土地、並びにすべての皇室領、寺領等々は、何等の賠償なく即時民衆に交附されねばならぬ。

二、農民は即時、組織的方法で、彼等の農民代表サヴエートによつて、あらゆる地方に於て全土地を取得して経済的に利用せねばならぬ。かゝる為に、憲法会議によつて、若しくは、民衆が中央ロ家権力をサヴエートの全露サヴエートに支附する如き場合においては、さうしたサヴエートのサヴエートによつて、行はるべき農業関係の最後的規制权を先取するものに非ず。

三、土地の私有は一般に廃止されねばならぬ。即ち、全土地に対する所有权は勿論の如く全民衆に帰属するが、之に反して土地の処分权は地方の民主的な機関に与へられねばならぬのである。

四、農民は、土地の処分を即時規制する目的で地主と地方的ロ協調ロをなすことに関する資本家、地主及び彼等の臨時政府の提議を斥けねばならぬ。土地の処分は、各地方の農民のき数者の組織的な決議によつて行はれねばならず、多数者即ち農民と少数者、而かもあるか無きかの少数者、即ち地主との協調によつて行はれてはならぬ。

五、すべての地主の土地を無償で農民に交附することに対しては、今日に於ては僅に地主のみならず、資本家――極めて偉大なる力、而かも全力を挙つて

ねるばかりでなくまた新聞によつて、資本の支配に慣れてゐる信史などによつて未だ物のわかつてゐない大衆に影響を及ぼす力を持つてゐるところの――も亦、全力を挙して斗争してゐる。それ故、すべての地主の土地の農民への無償の交附は、農民大衆のあひだに於て資本家に対する信頼が破壊されることなくしては、農民と都市の労働者との革命的勢力であるかの如き見せかけるブルジョアジーの党カデット党にたよることによつて自己の解放が可能であると考へて彼等を支持した――日本の勤労農民は今、政友会や民政党にダマされて居りはしないだらうか。ギマン的な自作農制定（地主の土地売逃げ策）やブルジョア的産業組合等にダマされて居りはしないだらうか。帝国主義強盗の階級同胞殺戮戦争にかりたてられて居りはしないだらうか。――次から次へと生産する彼等の裏切り、彼等とソアールを先頭とする封建的貴族大地主との野合の申実を見せつけられ、彼等から土地を得る代りに戦死と戦時負担とを要求されて後、始めて農民はカデットを離れて、今度は当時農村で最も革命的な言辞を弄してゐた社会革命党（エスエル党）を支持した。

『地主から土地を解放し それを労働する農民に譲与せよ』と云ふことは一八六一年に廃止された農民の大きな要求であつたが、農民はこの土地解放を一九〇五年の革命からも、国会からも騙されなかつた。この同じ希望にもえて農民は一九一七年の春には、彼等は実に地主の土地――自分達に帰属しに――に植くことが出来るだらうと深い確信と切なる希望とを抱いてゐた。なんとならば『土地と自由』とを農民に与へることを約束した社会革命党員が今支配者となつてゐるのだから。しかし既に七ヶ月も経過し、政府は会議も投り、資本家地主の利益のためにはあらゆることがなされ、メンシエビキや社会革命党はあらゆる特権と官吏のスワリ心地よい椅子とを分け取りしたにも拘らず、農民には何一つ与へられなかつた。

然しカデットやエスエル党も彼等が先きに農民に空約束しておいた土地解放についてなんとか更にゴマカシをやらなかつたら大変な事態が発生することをよく知つてゐた。彼等は農民に向つて云つた。『土地は何とかする、だが、それは憲法会議ですからそれまで待つてゐなければならぬ』と。

彼等のトリックはあまりにも口コツでおつた。即ちレーニンが云つた様に、『土地は憲法会議まで待て、憲法会議は戦争終結までまて、戦争の終結は完全な勝利まで待てと云ふのであつた。実に彼等はウマイ手を云ふ。

最も偉大なる革命家にして最も忠実なる農民の友たるレーニンに率ひられたるボルシエビキのみが断固として次のように絶叫した。

一、すべての地主の土地及び私人の土地、並びにすべての皇室領、寺領等々は、何等の賠償なく即時民衆に交附されねばならぬ。

二、農民は即時、組織的方法で、彼等の農民代表サヴエートによつて、あらゆる地方に於て全土地を取得して経済的に利用せねばならぬ。かゝる為に、憲法会議によつて、若しくは、民衆が中央ロ家権力をサヴエートの全露サヴエートに支附する如き場合においては、さうしたサヴエートのサヴエートによつて、行はるべき農業関係の最後的規制权を先取するものに非ず。

三、土地の私有は一般に廃止されねばならぬ。即ち、全土地に対する所有权は勿論の如く全民衆に帰属するが、之に反して土地の処分权は地方の民主的な機関に与へられねばならぬのである。

四、農民は、土地の処分を即時規制する目的で地主と地方的ロ協調ロをなすことに関する資本家、地主及び彼等の臨時政府の提議を斥けねばならぬ。土地の処分は、各地方の農民のき数者の組織的な決議によつて行はれねばならず、多数者即ち農民と少数者、而かもあるか無きかの少数者、即ち地主との協調によつて行はれてはならぬ。

五、すべての地主の土地を無償で農民に交附することに対しては、今日に於ては僅に地主のみならず、資本家――極めて偉大なる力、而かも全力を挙つて

ラードにて発行の第八十八号）紙上に於て発表された左の様な要求指示書である。

土地に関する要求指示書

土地に関する問題を全般的に解決し得るものはたゞ全ロ民的憲法会議あるのみである。

土地問題の最も正しき解決は、次の如くでありねばならぬ。

一、土地に対する私有権は永久に廃棄せらるべし。即ち、土地は、売買、賃貸、或は抵当、其の他如何なる方法によつてゞも、譲り渡すべからず。一切の土地、即ち、ロ有地、ツアーの所有地、寺院及び教会の所有地、私有地、世襲地、個人の所有地、共有地、農民所有地及びその他全ての所有者のそを離れ、全人民の所有に帰し、且つ勤労人民の使用に移さる。

所有関係の変革に依つて生活に関する者に対しては、新しい生活条件に適応するに必要な期間中、社会的支援を受ける権利だけは認める。

二、一切の天産物、即ち、鉱物、石油、石炭、塩岩々、並びに一般、山林、国重要性を有する森林、水利等は国家の独占的使用に移す。一切の小さな河川、湖水、森林等は、地方自治機関管理の条件を附して、地方共同体の使用に移す。

三、高度の文化的経営を有する地所即ち大庭園、果樹、植物園、苗床、温室等は、変つにも分割せずに、模範主営となし、その大きさと重要性の如何に依ひ、国家又は地方共同体の独占的使用に移す。

都市及び農村に於ける庭園地は宅地及び菜園地と共に、現在の所有者の使用に残しておき、その地所の広さ、使用税額は法律により規定さる。

四、種馬飼育場、国営及び私営の種畜農場は没収せられ、全人民の所有に帰し、その大小及び重要性の如何に依ひ、国家又は地方共同体の独占使用に移す。賠償の問題は憲法会議の審査に委す。

五、押収されに土地経営に用ふる一切の役畜及び農具は、その大小及び重要性の如何に依ひ、無償にて国家又は地方共同体の独占使用に移す。

役畜農具の押収は小農には及ぼさず。

六、一切の国家の公民にして（男女の区別なく）その家族と共かして、或は耕作組合には入つて、自らの労働により土地を耕作せんと欲する者は自ら耕作し得る期間中に限り、土地の使用権を有す。賃銀労働はこれを禁ず。

農村団体の会員にして、不時の事故により労働不能に陥れる場合は、農村団体は、二ヶ年の間は、当人が労働能力を回復するまで、土地の共同耕作によりこれを救助する義務を有す。

老衰又は虚弱の故に、永く自ら土地を耕作し能ばざる農業経営者は、土地の使用権を喪失するも、その代りに国家より年金を受ける。

七、土地の用は平等であらねばならぬ。即ち、土地は労働或は消費の標準による地方的条件に鑑みて、勤労者個に部分されるものである。

土地の使用形態は全く自由であらねばならぬ――即ち、パツポール式（農家が集団村落をなして耕地とは別の所にあるもの……訳注）フートル式（各耕地の中にその使用者の家が在るもの――訳注）又は地方共同体耕作組合等々の形態の如く、各村各字に於て決定されるであろう。

八、全て土地は、その収用と共に、全ロ民の土地資財に編入さる。勤労者個の土地分配を行なふものは、民主的に組織された、地位の上下なき農村及び都市の共同体を始め、村団に至るまでの、地方及び中央の自治体である。

土地資財は、人口の増加、農村経済の生産力及び文化の増進に応じて定期的に分配の変り直しをする。

分配地の境界を変更する際には、最初の中心点はそのまゝ残れずにおかればならぬ。

配置せる会員の土地は得た土地資財の中に編入さる。その場合、被服還者の地所借り受けの優先権は、当人の最も近い身寄りの者、若しくは当人によつて指定された者の手に帰す。

土地に投下された施肥良な土地改良（即ち根本的改良）の価格は、分配地を土地資財に返還する際に利用し尽さされてねない限り、持ち去されねばならぬ。

若しも、個々の地方に於て現在の土地資財が当該地方の全住民の欲求を満し得ない時は、住民の過剰部分は他に移住しなければならない。

移住の組織並びに移住の費用及び農業用具の供給は、国家自らこれを取り扱はねばならぬ。

移住は次の如き順序を以て行はる。即ち、土地を有せざる農民にして移住を希望してゐる者、次に共同体員にして、脱走者等の如く配給せる者、最後に抽籤または所合ひによつて決つた者……」

斯くて一八六一年以来実に五十有余年の長い間ロシアの農民が待ちに待つた土地問題はボルシェヒキの指導の下に労働者と農民のソヴエート政府の手によつて政府が樹立されたその日の中に解決されたのだ!!

（三）

現在ソヴエート同盟の勤労農民はどんな暮しをしてゐるだらうか。

(1) 工業の助けをかりて農業に技術的設備を供給すること。（例へばトラクターや化学肥料等）

(2) 貧農及び中農の状態の改善

(3) 大規模の国営耕作、協同経営組織及び協同組合の発展の促進

(4) 農民全体の文化的水準の向上等々。

即ち農業労働の生産性の急速度な成長、機械、技術及び土地の科学的耕作を基礎として、農業に於ける社会主義

建設への突進をなしつゝあるソ五ヶ年計画とがどんな成績を納めてゐるかを見ることに依つて、吾々はそれを日本帝国主義の栽培が発表した「ソヴエート聯邦年鑑」（一九三一年）をして語らしめるであらう。吾々はわざとブルジョアジーの発表を選んだのだ。

「土地革命の影響」……一九二〇年末欧露三六県の不労所有地（耕作しないでツアールや寄生遊食してゐた大地主の所有地――筆者）二二、八四七、一九二二デシヤーチン（註（一町歩））中より、二一、四〇七、一五二デシヤーチンは農民に、三九二、六一四デシヤーチンは共営農業に、一、〇四九、五一〇デシヤーチンは公営農業に移され、斯くして農民の使用地は九四、七二〇、六二八デシヤーチンより、二六、一二七、七八〇デシヤーチン、即ち全可耕地の八〇%より九九%に増加した。中部ロシア三二県の例に見れば、一九〇五年には全耕地の七六・三%なりしものが、一九二九年には九六・三%までが農民の使用に帰し、ウクライナにては同じく五五・四%が九六%となつた。

不労所有地は全部無償にて農民の手に移され、仏統的に久しく行はれて来た大地主其の他の大土地所有者と農民との斗争が一先づ終結し、農民は地主に支払ふべき借地料四億五千万ルーブル及び購入地に対する二億一千五百万ルーブル、即ち農民の総収入に対する一三・三%丈出負担が免ぜられた。

斯くして従来力説せられし農村不振の一主要原因は除却せられたりと。（この）同志諸君！ブルジヨア年鑑も承認せざるを得ぬ事実を諸君は果非共勤労農民に訴さなければならぬ。

次に「五ヶ年計画」第二度の成績を示す。

▽……五ヶ年計画の履行（自 一九二八、二九年 至 一九二九、三〇年）

	単位	予定	履行	履行%
国民収入	一〇億ルーブル	五八・三	五九・五	一〇二、
国家予算	一〇億ルーブル	一七・〇	二一・〇	一二四、
社会化部分基金投資	各年現価格一〇億ルーブル	一二・七	一三・八	一〇九、
計画工業生産額	一九二六―二七年度の価格による一〇億ルーブル	二九・三	三〇・五	一〇四、
（食料品工業を含む）				
機械面積	百万ヘクタール	二三九・〇	二四五・八	一〇三、
商品穀物生産額	百万センタネル	二二一・二	二六七・三	一二一、
貨物運輸	百万噸	三五〇・九	四〇九・二	一一七、

（註――一デシヤーチン＝約一町一段、一ヘクタール＝約一町一段。）

次に農業関係の二三の報告を引用してスバラしいその成功の一端を明示する。

(イ) トラクター

「農業生産方法と形式とを変化し、随つて又その社会主義的関係を変化せしめるトラクターに就て見ると、

	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年
台数	一九、五九一、	二五、七二九	二九、七〇二	四二、一三六	七三、四九八
総馬力数	一九九、六五三	三六五、六〇三	三八五、五九三	四〇七、八六三	九八四、六七三
増加比率	一〇〇%	一三一、三%	一九一、六%	二一五、一%	三七五、二%

石炭の如くである。二の飛躍的増大を見よ。そして毛頭資本主義ロの停滞又は減少傾向と対比せよ。

(ロ) 共営農業の成績

「一九三〇年の春及び秋に於ける共営農業の播種面積は、五ヶ年計画最終年度の予定が二〇・六百万ヘクターなるに対し、四三、四百万ヘクターであつた。之は五ヶ年計画の最初の二ヶ年の間に、既に五ヶ年計画を二倍位上も超過せることを示すものである。

斯くして全社会化部分の播種面積は（公営農業の四・八百万ヘクターを加算し）四八・〇二百万ヘクターに達し、同年の収穫せられし穀物の商品として売られた部分中社会化部分の占める比重は、五ヶ年計画最終年の予定が四三%なるに対し、今日既に約五〇%である。」と。

ロ家の穀物買付内訳

	公営農業	共営農業	個人農業	計
一九三〇年	七・七	二五・一	六七・二	一〇〇%
一九三一年	一四・三	三八・三	四七・四	一〇〇%

以上二三の例からハツキリ観取出来る社会化進展のこの奇蹟的事実を見よ！二ヶ年の実績は以上の表からもわかるように五ヶ年計画の予定を遥に突破したので、今日では「五ヶ年計画を四ヶ年で」完成することが可能になり、このスローガンの下にソヴエート同盟の兄弟が猛烈に活動してゐる。

労働者農民が今ソヴエート同盟で物質的にも、政治的にも、又文化的にもどんなに素しい生活をしてゐるかについて吾々は既にズツト以前の赤旗でその一端の数字を示したからこゝでは省略する。

Пролетрий всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！

では、凡てこの資本主義国の農民の状態は現在どうであるか。それは国走詰君が最もよく知ってゐる。日本農村の兄弟達の状態を想起すれば十分だ。これは独り日本だけのことではない。資本主義国の共通の現象なのだ。小麦と綿花の大暴落になげむアメリカの農業被害は好景気の神様フーバーを完全に不景気の貧乏神にたゝき落して了ったではないか。

（三）

共産主義者はヤシではない。労働者や勤労農民をゴマ化したり、ロウラクしようとは爪のアカ程も考へてはゐない。又そんなことは何時かはバケの皮が剥げざるを得ない。丁度ロシヤのカデットやエスエルやメンシエビキの様に。

幣文、松脚、赤松、麻生、山川、大山、イノマタ、そして解党派のスパイの面々のゴマ化しの正体を日本の労働者勤労農民大衆がハッキリ見極める為には彼等の体験が必要であるだらうか。丁度ソヴエート同盟の労働者勤労農民が神はされたと同じ様に。我々は日本プロレタリアートと全農があんなに長い間のそしてあんなに多くのギセイを払はされない先に、一日も早く社会民主々義者の階級的裏切を見極めて彼等と手を切り、プロレタリアートの唯一の党であり全勤労民衆の唯一の解放者である日本に於けるボルシエビキ党を支持し、その影響下に斗争するこそ

を切望する。だが、我々が唯一の先だけで奴等は資本家地主の手先だ。我々農村のみが諸君の唯一の友である。我々偉じよと云ふだけでは駄目だと云ふことを良く知ってゐる。我々は最も正しい方針を立て最も規律あるプロレタリア英雄主義を発揮して、大衆のために斗ふことによって、一日も早く大衆の信頼と支援とを高め、急速に大衆を獲得することに努力しなければならぬ。

人類史上最も偉大なるロシア革命の第十四週年記念日を我々は満洲白衛戦争の真只中で向へたのだ。

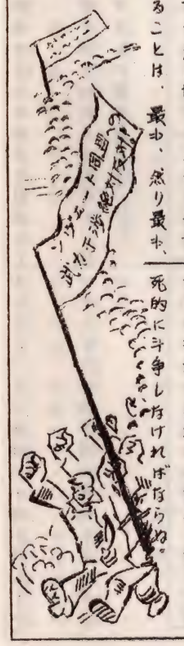
帝国主義反動は日露戦争以来一度も聞いたことのない重臣会議を開き、唯一の花形西園寺を中心とする第二内閣を要望してゐる。臣町村役所の兵事係は動員の準備の為めに日曜も休まないで働かされてゐるが、伍世係沖では陸軍が、三方々原では陸軍がそれぐ陸海軍始まつて以来始めての大がゝつた実弾爆撃演習をやつてゐる。（それぐ十数万円の巨費を一瞬にして空費して了つた。）天皇は警視庁へ行幸して一万二千の警官をゲキレイしなければならなくなつた。首相、内相、陸相、内閣書記官長、内務次官、警保局長、警視総監は緊張して日治安維持の為に働いて「重大な局面」なくなつたのだ。

サヴエート同盟干渉戦争、帝国主義出兵戦争は決して遠のいたのでも止めたのでもない。浜口前首相幸のゴマ化

しに乗つてはならぬ。それは甚だしく危険である。

帝国主義反動は日露戦争以来一度も聞いたことのない重臣会議を開き、唯一の花形西園寺を中心とする第二内閣を要望してゐる。臣町村役所の兵事係は動員の準備の為めに日曜も休まないで働かされてゐるが、伍世係沖では陸軍が、三方々原では陸軍がそれぐ陸海軍始まつて以来始めての大がゝつた実弾爆撃演習をやつてゐる。（それぐ十数万円の巨費を一瞬にして空費して了つた。）天皇は警視庁へ行幸して一万二千の警官をゲキレイしなければならなくなつた。首相、内相、陸相、内閣書記官長、内務次官、警保局長、警視総監は緊張して日治安維持の為に働いて「重大な局面」なくなつたのだ。

サヴエート同盟干渉戦争、帝国主義出兵戦争は決して遠のいたのでも止めたのでもない。浜口前首相幸のゴマ化



効果的な方法だ。尊厳は何よりも理論だとかふことをもう一度ハッキリ銘記する必要がある。我々がソヴエート同盟の現状に就いて語れ語れと常に要求するのはワケもなくソヴエート同盟の偉大成績をするのではないのだ。それこそが生きた何よりの証拠なのだからだ。抽象的な理論が絶対に持ち得ない迫力があるからだ。

かくて日本の勤労農民が、工地不足と飢餓と野蛮と文盲とから徹等を解放するものは、天皇・資本家・地主の政府ではないこと、日本のエスエル党やメンシエビキである社会民衆党や全国労農大衆党や労働者組合ではないこと、日本に於けるボルシエビキに指導されるプロレタリアートのみであること。又そのためにはプロレタリアートのヘゲモニーの下に労働者と農民の同盟が絶対不可欠の条件であること、（農民が労働者の指導と援助とを欠いたときには革命は断じて成功し得ないことはドイツ・スペイン等に沢山実例がある。）農民革命を伴ふプロレタリア革命によつて資本家地主天皇の政権を打仆し、労働者と農民のソヴエート政府を樹立することなくしては絶対に不可能なることを一日も早く政等に理解せしめるために戎産主義者は心神疲く説し、決死的に斗争しなければならぬ。

ПРОЛЕТАРИИ ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЙТЕСЬ
★万国の労働者団結せよ！

中央機関紙の再編成に就て

▼第二無産者新聞を党中央機関紙とする▲

一、

発展深化しつゝある経済危機は労働者農民大衆の新たなる革命的昂揚と共に益々広汎なる大衆を「現存秩序」に対する不安と動揺に引き入れつゝある。これに伴つてブルジョア独裁の民主的形態はその破産を曝露しつゝ新たなるファシズムの危機を切迫せしめてゐる。社会民主々義の労力の失墜と露骨なる社会ファシストへの傾向も亦現在に於ける階級対立の激化を物語る特徴的事実である。日本の帝国主義者による満洲の占領がかゝるファシヨ化の過程を更に急速におし進めるであらう事は明らかであるが、満洲占領の口実的喜劇はそれが切迫せる世界帝国主義戦争の事実上の第一歩であり、反ソヴエート同盟干渉戦争の危機を極度に火鋭化せしめた点にある。そして日本の帝国主義者は口実帝国主義戦争若くは干渉があらうとも武力による占領地の確保を続けるであらうし、ソヴエート同盟攻撃の極東に於ける指揮官となるであらう。（満蒙独立王国の要

点と不充分性を反省してゐる。口露共産党第十一回総会に於て党活動の主要欠陥として指摘された党の遊離主義傾向は吾党に於ても除外例たるを得ない。我々は今や有利なる情勢を利用して党の立ち後れを克服する為めに新たなる段階に於ける組織的任務につかねばならぬ。

吾々がこゝに取扱はんとする党中央機関紙の問題は実にかゝる任務遂行の最も重要なるものゝ一つである。

吾々は従来「赤旗」を党の中央機関紙として指導者として党の全般的政治教育の機関誌となす事が出来るであらう。かゝる組織的分業は一面に於ては党教育の分野に於ける我々の重要なる一歩前進であり、同時に党の政治的影響を大衆の間に獲得する為の大衆的宣伝煽動の分野に於ける我々の同様に重要なる一歩前進である。

吾々は今や第二無産者新聞の党中央機関紙への再編成に関する具体的問題に就いて語らねばならぬ。（赤旗の編輯発行等については更めて別の機会に述べる。

二、

第二無新は今日まで党の補助機関紙と決定されてゐた。而もそれは多分に独立の活動に放任されてゐた形であつた。それは第二無産者新聞社として存在し、独立の編輯と独立の組織活動とをなしてゐたのでないことは勿論だ。だが吾々の第二無新に対する規定――補助的機関紙といふ規定――が既に示してゐるやうに、吾々の第二無新に対する態度は中途半端であつた。編輯に対しても組織に対しても。この政治的並に組織的独立性は必然に吾々の第二無新に対する関係が吾々の赤旗に対する関係のやうに緊密でなかつたことを反証してゐる。そこから発生する不便と不都合とは特に党の組織活動に最も顕く現れてゐたのだ。例へば大衆行動への動員を例にとつて見よう。党細胞による動員と第二無新読者網による動員とが互ひに対立して存在してゐたとすれば、それが何等かの場合互ひに食ひちがひや時には対抗することすら起り得るであらうことは想像に難くあるまい。それは吾々の力を二分して甚だしく吾々の勢力を弱めたばかりでなく、党細胞の拡大強化を妨げ更にスパイや解党派――本質的には恐るべき組織化されたスパイ団だが――の潜入に機会を与へる結果となつてゐたのだ。

又政治的見解や組織的方針に関しても中央委員会の方針――即ち赤旗に書

かれてある方針――と一致しない場合があった。中央委員会の方針が正確に徹底に第二無新上になされ得なかったことは枚挙にいとまがない程沢山である。万一第二無新が少しでも政治的＝組織的に不十分さや誤りやを犯したやうな場合には直ちに、我党中央部の誤りとして社会民主々義者共のデマに利用されて来た。社会民主々義者共が何とデマらうとそんなことは大した問題でないとしても、プロレタリアートが第二無新の方針を党中央部の方針だとして受け取ってある場合には事態めて重大だ。それは党に対する信頼と党の拡大強化とに直接悪影響を与へる。プロレタリアートの前衛であり、指導者であり、司令部である党にとってそれは最も重大なのだ。中央委員会と第二無新との間の一つの関係から、若し我がプロレタリアートの陣営にほんの僅かでも混乱と失望とを招来することがあったとすればそれがどんなに小さいものであったとしても吾々にはそれを軽視することは断じて出来ないのだ。

吾々が第二無新の全体的批判を迫られた理由は決してこれだけに止まるものではなかったが、とまれかくの如くして吾々は今第二無新に対して明確な地位を与へ彼の任務を決定するに至ったのだ。

三、

吾々は第二無新を党の中央機関紙として規定した。同時に第二無新の編輯、印刷、配布等の組織の上に根本的変革を実行しても貰ひたい。

「との共産党でも、機関紙は大部分多かれ少かれ独自的な活動をやってある。……だが今やかやうなことは、止めなければならない。」と同志ベウエルが教へてあるところを見るとこうした不十分さは独り吾党だけのものではないやうだが、だが、その事はいさゝかも吾々の不十分さの糊塗にはならない。

吾々は編輯と配布について、許される限りに於て、稍々具体的にのべなければならぬ。それは吾々の果すべき当然の義務だと考へる。

1. 編輯について

(1) 責任編輯者は、中心指導部の成員が当る。

(ロ) 中心指導部の会議で毎号の批判をし、次号の編輯に対する基本的方針を決定し、一定の重要論文を準備する。重要な大衆行動（ストライキ、デモンストレーション等）に面した場合等には中央指導部は特別の注意をこれに払ふ。

(ハ) 編輯会議を必ず定期に持ち、毎号の第一面から最終面に至るまで逐一厳密に批判する。そして次号の全内容と分担とを決定し、書くべき内容と、その取扱ひ方、編輯の仕方、示さるべき組織の形態、スローガン等を要項書にして分担記者に与へるやうにする。

(ニ) 新らたに直接工場に働いてゐる労働者二人を記者として送り込む。

(ホ) 各記者の専門分担を決定し、各記者は夫々の受持ちに関係ある事件を一つも見逃さないで取り上げるやうに努力する。

(ヘ) 各細胞並に核心との連絡を緊密にする。例へば全協や労働新聞との連絡には労働組合記者が当り、国際や、レーニン青年、無産者との連絡には青年運動記者が当るといふ工合にして、各組織並に各核心が緊密な一致的連帯をとるやうにする。

(ト) 記者は原則としてどこかの細胞――出来るだけ大工場の工場細胞――に所属させる。

(チ) 出来る限り、頻々、直接工場で働いて居る細胞員を編輯会議に参加させる。

(リ) 全読者の意見を編輯会議に反映させる方法をとる。例へば紙上編輯会議を持ったり、工場内で読者会を開く等。

(ヌ) 労青通信員運動の拡大強化は特に重要である。

(ル) 工場細胞がその会合で必ず第二無新を研究し討論し、意見を送ること。これは我の規律の要求するところで今更いふ必要はあるまい。

(ヲ) 工場新聞の編輯部との緊密な連絡、等々。

これらすべての方策は、無條件に、そして急速に実践されねばならぬ。

2. 配布について

第二無新はこれまで独自の配布組織を持ってゐた。それが党大衆化の組織活動に与へた価格については吾々は既に見た。第二無新の配布についての我々の討論の結果は次の如く要約することが出来る。

(1) 第二無新独自の組織を急速に党同盟組合その他の組織に再組織する。

(ロ) 稍々具体的に説明するとかうだ。

工場内の第二無新の読者班を急速に党細胞に再組織する。だが、勿論機械的に、それをそっくりそのまゝ党細胞に再組織するのではないことは云ふまでもあるまい。

党細胞の存在せぬ工場では第二無新読者中の共産主義的分子をして急速に党細胞を組織させる。

(ハ) この再組織に当って、吾々は決して同志の単なる理論的水準等を云々しはしない。第二無新のに於いて与えられた吾党の方針に従って斗争して来たし、自ら非合法活動の訓練をも積んでゐる。彼等の多くは実質上党細胞のやうな活動を不十分乍らやってゐるのだ。だからこそ吾々にして、二つの細胞二つの組織が存在してゐるかの如き現象をすら呈してゐる程だ。従ってこの再組織は決して無謀なものでもなければ、むしろもっと早く党に組織さるべきであった。彼等はそれを今か今かと待望してゐたのだ。

又この過程に於て是非とも慎重に考慮しなければならないことは、

(1) スパイや排党派――同じくスパイなのだが――の潜入を絶対に防がなければならぬといふことだ。

(ロ) 党細胞としての生活は政治的組織

的に最も厳格な鉄の規律が必要であり、ボルシエビキーたることが要求されなければならぬといふことだ。第二無新の組織も今日全く非合法的存在であり、それは必然に鉄の規律を必要としたが、党細胞のそれは文字通り、この方面に於ても革命的飛躍を必要とすることを銘記しなければならぬ。党細胞は単なる読者班とは異なり、党の基本的組織であるのだから。又第二無新の読者である場合と、コミンテルン日本支部の党員としての生活との間には質的変化が要求されなければならないことは、わかり切つた話である。

(2) では第二無新は今后どんな風にして配布されるか。

党中央機関紙となった第二無新の配布は赤旗の配布と同じ形式によるのだと考へれば一番わかり易い。勿論赤旗配布係と、第二無新の配布係とは別人であり、無新由係通信のアドレスと赤旗関係通信のアドレスとは全然別のところでなければならないといふことは厳密に要求される。この決定を破ることは断じて許されない。吾々は単に赤旗と無新との責任者や通信のアドレスを全然別個にすること丈では満足しない。両方共第一、第二の候補を通告して置くことを希望する。以上具体的に説明すれば、

党中央機関紙部、地方委員会、区又は聯委員会、小地区委員会及び細胞に夫々一人乃至数人の第二無新係を定めておく。新聞は中央組織部の第二無新係りから全口の地方委員会の無新係に送附される。地方委員会の無新係は、更にそれを区又は聯委員会の無新係へ、それらの係は更に小地区委員会の係へそれが各細胞の第二無新係へ渡す。各細胞の係はそれを全読者に配布する。といふ具合になるのだ。各細胞の無新係は細胞の周囲に広汎な無新の読者班を組織する活動の責任を引受ける。各読者の意見や、感代は配布と逆コースをとって中央組織部へ送達され直ちに無新の編輯部並に中央委員会へ反映される。この場合新聞送附のアドレスと無新に関する連絡通信のアドレスとを別に作ること、第一、第二の候補アドレスを決定して通告して置くことは細胞の組織的生活の活溌さを反証するものである。

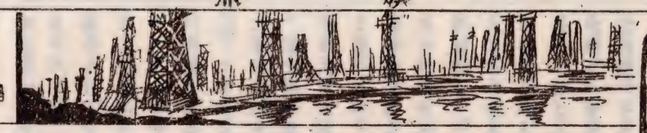
細胞は必ず毎号の無新を研究討論しニルに対する細胞の意見を決定しなければならぬ。それを具体化して貫徹にうつさなければ全く無意味だ。さうしないで朗読し、送附や配布に多大の労力と危険とを冒すことが全く徒労に終るのだ。無新を非合法に受取ったり配布したり読んだりすることだけで何かすばらしい英雄的行動をやってる様に感じてそれ丈けでイヽ気になって居る同志がある。そんな小供じみた気分主義は徹底的に打破しなければならぬ。第二無新を具体化し、実践にうつすこと。大衆を宣伝煽動し、大衆行動の先頭に立ち大衆を組織することこれがなされて始めて命がけなるべく〳〵の非合法的活動が質を結ぶのだといふことを銘記しなければならぬ。無新に対する批判や感見、特にそれを実践にうつした結果の報告や結果から見た批判等をどし〳〵編輯部へ送達することは細胞の怠ってはならぬ任務である。無新係は不況な読者班を組織するばかりでなく、それらの同志の間から永久的恒常的な通信員団を組織することを忘れてはならぬ。

最後に、紙代の納入について一言する。紙代納入の圣路が新聞配布と逆のコースをとって中央機関紙事務局にまで送達される事はこゝに説明するまでもない事であって、我々がこゝで言はうとする点は読者が一人残らず紙代党納の義務を負ふてゐると云ふ事である。然るに従来は紙代未納者があまりにも多かった。同志諸君はこゝに奮めて中央機関紙発行の財源が紙代にある事を忘れてはならぬ。だが吾々は金銭についてのみ語ってゐるのではない（大いに酷らねばならぬのではあるが）バットを節約して紙代を納めるといふ事が吾々の統一された規律と組織に他ならぬ事を自覚せねばならぬ。紙代を納めるか否かと云ふ事は決して些細な問題ではない。同志諸君、今後紙代は必ず党納せよ。

こゝに述べた事は何一つ新しい事はない。只一つ今度こそは是非とも総ての同志がこれを普つて貰ひたいのだ。吾々は同志諸君がこれを実行するに当って天々の工場の拡大強化事情を考へてイニシアチーフを発揮するであらうことを確信してゐる。

附記

吾々は今日の情勢の下で先づ最初になさるべき基本的任務の一つたる大衆に対する宣伝、煽動並に組織の執拗の周編成に関して中央部に課せられた任務を以上の如く遂行した。だがこの事に関して同志諸君に要求されてゐる任務を読者自身が直ちに積力的に実行する事なくしては吾々の決定は甚だしく不十分であり、否実現され得ないであらう。



バクーの石油
海上に並ぶ石油噴出井の櫓

一九二七年七月テーゼの問題に就いて（一）

センバンコウ生

一

「七月テーゼは間違つてゐた」と云つて盛にデマつてゐるのは云ふ迄もなく解党派の紳士諸君と、彼等を手下に持つてゐる天皇の司法省である。

彼等は一致して七月テーゼが全然誤謬であつたといふ風に思込ませる事に依つてコミンテルンの权威を完全に叩き落そうとしてゐるのだといふ事は余りにも明かだ。彼等はプロレタリアートの利益の為に正しい事を言はうとするのではなくてコミンテルン並に其一支部たる日本共産党に対するプロレタリアートの絶大なる信頼をブツコワしてプロレタリアートから彼等の唯一の指導党を切離し彼等の解放を無限の彼方に押しやらんが為にのみ苦ふのだ。七月テーゼを否定する事に依つて吾党の輝ける戦士達のあの偉大なあの英雄的活動を鈍弱にし同志達に対するプロレタリアートの今日の絶大な信頼と尊敬を失はしめ様とするのだ。

これが彼等の「七月テーゼ否定論」の主なる政治的意義なのだ。

二

吾々はこゝで七月テーゼを同志達がも一度よく検討する事を切望するが、この前提でそれをつくすことは不可能だ。

だが以上の如き情勢に対して吾々が七月テーゼの果したあのスバラしい功績――それはあの当時から斗争してゐた同志ならヒシ〳〵と思ひ出す事が出来る――の一端だけでもこゝで想起することは絶対に必要だ。

日本の党は「創立の当初から一九二七年に至る迄プルジョア民主主義革命を当面の自己目的とする程に重要視してゐたのだ。特に福本イズムの支配下にあつてゐる水野成夫、岸野晃等の紳士諸君（筆者）達によつて一層重要視されてゐたのだ。実が当時日本を嵐の如く風靡してゐた意見であつた。福本イズムのいとべ革かなりし当時を想起せよ!!これに対して七月テーゼは「自己目的」視されてゐた、民主々義革命を強調する代りに却つて社会主ギ革命の前提条件が成熟してゐる事を強調し其を前面に押出したのだ。当時誰れもコミンテルンがなしたマルクス＝レーニン主義の革命的理論と豊富なる革命的経験の权威に驚嘆しなかつた者は一人もない。夫こそ故も味方も一人残らず七月テーゼの偉大さの前に瞠目をたれたではなかつたか。そして最もアザヤかに早代りしたものは誰あらう今日のスパイ水野成夫岸野晃の紳士諸君であつたのは滑稽である。

七月テーゼは吾々の党を導いた方向へ、導いたとでもいふのか。断然反対だ。プロレタリア独裁の問題がこの当時程明確に提出された事はなかつた。党が工場細胞を基礎とする独自の大衆党にまで飛躍すべき事を明示したのはこの七月テーゼではなかつたか。「解党主義――山川主義と福本主義――的偏向」を徹底的に批判したのは実にこのテーゼではなかつたか。

吾々はこのテーゼに依つてプロレタリア独裁の樹立をめざして猛然と斗争を進めこの時始めて党を工場細胞を基礎とする独自の大衆党にまで再組織したのだ。そして一九二八年二月の第一回のギマン的普選による総選挙に「候補」共産党（筆者註＝候補しむれば）の旗を公然と示したのだ。日本プロレタリアートの警告は実にこのテーゼにはつくし得ないだらう。吾々は当時を回想して今でもハツキリあの時のカン喜にひたることが出来る。一九二七年七月テーゼは文字通り日本労働運動史上に於けるエポックメーキング（劃期的）な出来事だ。

今日解党派のスパイやブルジョアヤ判官共がヤツキになつて七月テーゼを否定し様とも当時日本帝国主義ブルジョアジーが七月テーゼの偉大な功績を正当に評価したといふ事を否定する事は出来ないであらう。三・一五の厂史的大検挙の事実が厳存するのだから。解党派の諸君！かくも矢がかりな大弾圧をそれ以前の日本労働運動史から探出す事が出来たら示して貰ひたい。いやこれと比較し得る大検挙は一つもなかつたのだ。全くケタ違ひの大検挙だといふ事は彼等と雖も否定する事の出来ない事実である。これこそ何よりの証拠ではないか。

そして七月テーゼがどんなに資本家地主階級にとつて恐しいものであつたか、他方反対にプロレタリアートと勤労農民にどんなに信頼され支持されたかが、七月テーゼの実行者である三・一五事件の輝ける戦士に対する弾圧の上に、明白に現はれてゐるのだ。即ち、資本家地主側からの限りなき憎悪と労働者農民側からの限りなき支持となつて現はれてゐるのだ。

あまりに長くなり過ぎた。吾々は最後に強調する。

吾々は今こそ七月テーゼの革命的意義を最も正当に評価し宣揚しなければならないのだと!!

三

七月テーゼは当時吾々の持ち得た最高の所産であつたと云ふ事を特に強調する事が必要である。

だが、七月テーゼは「プルジョア民主々義的任務を広い範囲に抱擁するプロレタリア革命」と云ふ規定は、一九二八年第六回世界大会で初めて綱領に定式化された迄であつてその為にはボーランドの五月と展望が大きな衝撃を与へ、日本の情勢も重要な参考であつたのであつて、一九二七年七月テーゼ起草の当時にあつては何人もそれをハツキリ規定する事が出来なかつたのだ。

だが、七月テーゼの内には同志ブハーリンの誤謬の片リンだにも表はれてゐなかつた。七月テーゼは絶対に正しかつたのだと云ひ切る事は一考を要するだらう。

四

「地球が太陽の周りを廻るのではなくて太陽が地球の周りを廻るのだ」と云ふ事は「地球が太陽の周りを廻るのだ」と云ふのが客観的真理であつたが、それ以後は「地球が太陽の周りを廻るのだ」と云ふのが客観的真理に転落したのだと云ふ事は出来ぬ。我々の思惟が――科学がそれに到達した以前以後に関係なく、独り、「地球が太陽の周りを廻るのだ」と云ふ事のみが客観的真理であつて「太陽が地球の周りを廻るのだ」と云ふのは正しくない。それは明らかに「誤謬」であつたのだ。

一九二七年七月テーゼ起草の当時にあつても「プルジョア民主々義革命」であつたのだ。

一九二七年七月テーゼ起草の当時にあつては、日本の情勢も重要な参考であつたのであつて、一九二七年七月テーゼ起草の当時にあつては何人もそれをハツキリ規定する事が出来なかつたのだ。

だが、七月テーゼの内には同志ブハーリンの誤謬の片リンだにも表はれてゐなかつた。七月テーゼは絶対に正しかつたのだと云ひ切る事は一考を要するだらう。

四

「地球が太陽の周りを廻るのではなくて太陽が地球の周りを廻るのだ」と云ふ事は「地球が太陽の周りを廻るのだ」と云ふのが客観的真理に到達する以前にはあく迄も正しかつたとは云へない。それ以前は「太陽が地球の周りを廻るのだ」と云ふのが客観的真理であつたが、それ以後は「地球が太陽の周りを廻るのだ」と云ふのが客観的真理に転落したのだと云ひ切る事は一考を要するだらう。

「プルジョア民主々義的任務を広い範囲に抱擁するプロレタリア革命」なる規定が現在の革命の段階に於ける戦略規定として全く正しいものである限り、「プルジョア民主々義革命から社会主義革命への急激なる転化」なる規定は一九二七年当時の戦略規定としても解決して正しかつたとは云へない。（日本資本主義の現状に対する評価や労農政党の問題等々に至る迄の即ち七月テーゼを全体的に検討する事はこゝの問題ではないのだ。）

五

一九二七年に吾党の蒙しい混乱と恐るべき頽廃とを指摘し吾党を始めて大衆的な共産党に迄飛躍せしめたものは実にコミンテルンではなくて天皇主義であり社会ファシズムであるといふかも知れないが）コミンテルン第六回世界大会がこの規定に到達した事はコミンテルンのマルクス＝レーニン主義的偉大さをも一度明白に吾々に示したものであつて実に劃期的事件ではあるまいか。

吾々こそが最も客観的真理に忠実であり最忠であるが故に又、吾々こそが労働者の唯一の指導党であるが故に、その故にこそ、吾々は最も大胆にソ同盟に真理を語り得るのだ。

党中央委員会が、政治テーゼ（草案）廃棄に際して発した檄の中で、「七月テーゼに含まれてゐた誤謬の訂正と云つた次のは、正にかくの如く解釈さるべきであり、それ故に決して間違つてゐないと吾々は考へる。吾々は党中央委員会の意見を絶対に支持する。それは断じてプレハノフ主義ではない。

ケルチエンスキー大冶金工場の鎔鉱爐
訂正 P.17のカットは「トラクターの処女運転式」

船荷陸揚げの機械化

代表派遣斗争を下からの統一戦線で拡大せよ！

赤壁生

躍進しつゝある社会主義体制と腐朽しつゝある資本主義体制との対立が永遠有の強さに展開しつゝある現在に於て世界帝国主義のより高度なより全世界的な反ソヴエート戦争の危険は全世界のプロレタリアートにとつて直接的危険となりつゝある。全世界のブルジョアジーはプロレタリアの唯一の祖国社会主義の勝利的建設の口を倒壊する事に依つて世界の六分の一の自由なるプロレタリアートを再び資本主義的搾取の鎖につなぎ自己のプロレタリアートに対する搾取と収奪を一層強化しようとするのだ。

我々はこれこそ真のマルクス＝レーニン主義なのだ。それは決して「反コミンテルン」ではなくて、反対にコミンテルン並に吾党に対するプロレタリアートの信頼を一層強化するものであると考へる。

一九二八年のコミンテルン第六回世界大会で決定された偉大なるあのコミンテルンの綱領や一九三〇年二月の日本の情勢革に対するコミンテルンの指令や同志ヴオルケの重要な論文「日本に於ける革命運動の緊急問題」や及プロフインテルン第五回大会の日本問題に関する一革命期に重要な一決議等の七月テーゼの中に含れて居た更等の点を訂正してゐるとはいえ、コミンテルンが公然明白な形で此等に就て公表してゐないのだから吾々は急遽にコミンテルンに上申して、この点に関する決定的な指令を受け取と報導を一層強化し以て益々拡大しつゝある世界情勢を切り抜けんと狂奔しつゝある。

プロレタリアートの党全な統一でありブルジョアジーの完全な従属であり社会フアシスト首領はこの反ソヴエート戦争に積極的に協力しつゝある。

反ソヴエート戦争の極東に於ける組織者である日本帝国主義は社会フアシストの援助の下に自己のプロレタリアートの革命的運動を暴圧すると共にその大量の軍隊新兵器を満洲に送つて之を占領するなどによつて既に反ソヴエート戦争の第一段階に入つてゐる。

我々は今かゝる情勢の下にロシア革命の第十四週年記念日五ヶ年計画の決定的部門完成の日を迎へんとしてゐる。

従つて我々はソヴエートの擁護反ソヴエート戦争粉砕の斗争を更に更に強化する事によつて革命記念日を斗はねばならぬ。

我々は今日迄ソヴエート擁護の旗を実際的に守り来つた大衆最近に於てはアルメニア震災救援金募集と共に次いでプロレタリアートの革命的イニシアテイブに依つて始められた代表派遣運動を通じてソヴエート擁護の斗争を実践的に更に一歩前進せしめて来た。此事は今日の情勢に於て例へ様のない重要性を持つてゐる。而して実故にこそ其斗争を以て来た充分な

革命記念日を代表派遣で斗へ！

レーニンの指導せる党ボルシエビキ党によつて資本家の独裁を打ち倒しプロレタリアの独裁を打ち立てたロシアの労働者農民はこの十一月七日に革命の第十四週年祝念を迎へ様としてゐる。

今から十四年前ロシアの労働者農民はプロレタリア独裁を打立てもやいなやツアールと資本家地主の企んだ帝国主義戦争によつて引起された国内の窮乏と国乱夫に加へるに大饑饉を追出す為に斗つた国内戦の打撃によつて彼等は苦しい国内の復興事業を仕遂げなければならなかつた。然しロシアの労働者農民はレーニン及彼の最もよい後継者スターリンと共に指導された強の如き国家を成遂げ、四方を取巻く帝国主義諸国の重砕囲陣の攻撃を撃退し国内に策動する資本家地主の陰謀を粉砕して一九二八年迄に戦争前の状態を優に凌駕したのである。そしてそれ以来この地球に始めてのある社会主義建設の大きな事業を五ヶ年計画といふ形でやり始めた。

資本家の為に骨と皮になる迄搾られてゐる俺達資本主義下の労働者と違つて助いた丈が能局自分達の為になるソヴエートの労働者達は社会主義戦争挑発者ダラ幹共（工場で勇敢な労働者達が自ら模範的に能率をあげる為に組織したもの）といふ様な方法でぐんぐん生産を高め遅延を仕遂げなければならない。

全日本の労働大衆は職場で工場で下からソヴエートへの代表派遣委員会を作つてソヴエートの労働者は郎と苦しい労働に悩んでゐるととんでもないデマを飛したりスロ先丈でソヴエートの味方の様

よつて吾々はブルジョア政府のデマゴークの正体を曝露し労働者大衆の政治的教育を無限的に高め得る機会を持つであらう。かくの如く代表派遣自身が自己の経験によつて更等の様な正しい事を確信するに至らしめる所のボルシエビキ的戦術の広汎な適用によつてこそ吾々は「党の指導は大衆自身の経験となり得る」事を得ブルジョアジーと社会フアシストの共同攻撃に抗して労働者階級の多数者を吾々の側に獲得し、プロレタリア独裁への道に向つて力強い前進をなし得るであらう。

革命記念日を代表派遣で斗へ！
職場で工場で下からの統一戦線で
代表派遣委員会を作れ！
ソヴエート同盟を守れ！
ブルジョア独裁を打倒せ！
プロレタリア独裁万才！
レーニンの党ロシア共産党万才！
日本共産党万才！
コミンテルン万才！

ケルチエンスキー大治金工場の鉱鉱

革命記念日を代表派遣で斗へ！

レーニンの指導せる党ボルシエビキ党によつて資本家の独裁を打ち倒しプロレタリアの独裁を打ち立てたロシアの労働者農民はこの十一月七日に革命の第十四週年祝念を迎へ様としてゐる。

今から十四年前ロシアの労働者農民はプロレタリア独裁を打立てもやいなやツアールと資本家地主の企んだ帝国主義戦争によつて引起された国内の窮乏と国乱夫に加へるに大饑饉を追出す為に斗つた国内戦の打撃によつて彼等は苦しい国内の復興事業を仕遂げなければならなかつた。然しロシアの労働者農民はレーニン及彼の最もよい後継者スターリンと共に指導された強の如き国家を成遂げ、四方を取巻く帝国主義諸国の重砕囲陣の攻撃を撃退し国内に策動する資本家地主の陰謀を粉砕して一九二八年迄に戦争前の状態を優に凌駕したのである。そしてそれ以来この地球に始めてのある社会主義建設の大きな事業を五ヶ年計画といふ形でやり始めた。

資本家の為に骨と皮になる迄搾られてゐる俺達資本主義下の労働者と違つて助いた丈が能局自分達の為になるソヴエートの労働者達は社会主義戦争挑発者（工場で勇敢な労働者達が自ら模範的に能率をあげる為に組織したもの）といふ様な方法でぐんぐん生産を高め遅延を仕遂げなければならない。

全日本の労働大衆は職場で工場で下からソヴエートへの代表派遣委員会を作つてソヴエートの労働者は郎と苦しい労働に悩んでゐるととんでもないデマを飛したりスロ先丈でソヴエートの味方の様

よつて吾々はブルジョア政府のデマゴークの正体を曝露し労働者大衆の政治的教育を無限的に高め得る機会を持つであらう。かくの如く代表派遣自身が自己の経験によつて更等の様な正しい事を確信するに至らしめる所のボルシエビキ的戦術の広汎な適用によつてこそ吾々は「党の指導は大衆自身の経験となり得る」事を得ブルジョアジーと社会フアシストの共同攻撃に抗して労働者階級の多数者を吾々の側に獲得し、プロレタリア独裁への道に向つて力強い前進をなし得るであらう。

革命記念日を代表派遣で斗へ！
職場で工場で下からの統一戦線で
代表派遣委員会を作れ！
ソヴエート同盟を守れ！
ブルジョア独裁を打倒せ！
プロレタリア独裁万才！
レーニンの党ロシア共産党万才！
日本共産党万才！
コミンテルン万才！

週刊
赤旗
第59号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

「スローガン」戦略、戦術に就いて（一ノ二）

日本共産党労働者派中央委員会の戦略批判

この論文は「赤旗」の為めに書かれた論文ではなかつたのを赤旗編輯局の要求が容れられてこゝに載せる事が出来たのである。それ故に労働者諸君の批判に待てられた[ル]が書て「赤旗」に連載され近く第二篇新パンフレット「労働者派テーゼ批判」となつて現れる論文と一部分重複してゐる事を断つておく。（被帝国主義的傾向と手を握つた解党派を粉砕せよ及び解党派の組織テーゼとは何か？）

赤旗編輯局

戦略と戦術。中心スローガン・通俗的スローガン。部分的スローガンの意味や区別やそれ等の相互関係が、一言でおへばそれらに対する明確な理解が多くの同志の間で欠けてゐる。多くの同志からこれらに関する説明の要求が来てゐる。そして今、現に、この点がハツキリしてゐないことがいろ〳〵な実践的＝政治的に甚しい誤謬と混乱とが引起されてゐるので此処で必要な限度で此の問題の説明に立ち入ることにする。

並し、「レーニン主義の戦略と戦術とはプロレタリアートの革命的斗争の指導科学である。」（スターリン）戦略戦術並にスローガンに就いて明確な理解なくしてはプロレタリアートは自らに課せられた偉大な歴史的使命を、プロレタリア独裁樹立を、成功的に達成することは不可能である。

同志諸君！

日本プロレタリアートは今確かに未だ嘗て出つ喰はしたことのない重大な危機に面して立つてゐる。今日程吾々が誤うざる戦略、戦術、並びにスローガンの確立を要求されたことはない。

「レーニン主義の――革命斗争に於ける指導科学」に習熟することは、だから、同志諸君に課せられた最大緊急任務の一つであるのだ！！

一 戦略

「戦略は、当然の革命的段階に於けるプロレタリアートの主要攻撃の方針を確定し、革命的努力（主要予備軍と副予備軍）の配置に就いての適当な計画を立て、且つ、この計画を当然の革命的段階の全経過中に完全に遂行する為の斗争である。」（スターリン）

「戦略は革命の原動力及びその予備軍と関係がある。戦略は、一つの段階から他の段階へと革命が推移するに伴れて変更されるが、然しその基礎は、当然の段階の全期間を通じて一定不変である。」（スターリン）

「戦略は例へばツアーリズム若しくはブルジョアジーとの斗争を最後まで戦ひ抜くことを目標とするものである――」（スターリン）

（一）労働者派の戦略と吾々の戦略とは決して一致してゐない

――労働者派の戦略は反革命的戦略だ――

日本共産党労働者派中央委員会が、『政治テーゼ草案』を読みて日本共産党中央委員会に与ふ」（八月二十日附）の中で彼等の戦略と吾々の戦略とが根本に於て一致してゐる。そして彼等は吾々が彼等の政治テーゼをセツ盗したのだといふ風に思ひ込ませる様に書いてゐる

「中央委員会発表の戦略が根本に於いてわが労働者派の政治方針にのべられた戦略と一致してゐることは諸君の推測し得るところであらう。これは、確かに、日本共産党中央委員会の一歩前進である。

目次
▼戦略、戦術、スローガンに就いて ――日本共産党労働者中央委員会の戦略批判―― ……一頁
▼全農青年部全国大会の意義と任務 ……四頁
▼農村細胞組織者の質問に答ふ ……七頁
▼鉄の火花 ……十一頁

「諸君の知る如く、我々は一九三〇年春以来、七月テーゼの根本的修正＝党戦略の基本的変更を主張して強く戦つて来た。」

「前説の如く同テーゼを読み、且つ、その一ケ月前わが労働者派中央委員会によつて発表された政治方針並に組織方針を之と比較する者は、両者の接近に驚くほどである。

「苦難の中に斗つて来た努力が今や一つの成果を結んだ」と彼等。彼等の分派策動の「努力」が、如何なる「革命の段階」であるか。

（二）「革命の段階」

プロレタリア独裁を樹立しやうとしてゐる吾々が現在立つてゐる段階は如何なる「革命の段階」であるか。

「帝国主義の時代に於て著しくなつた資本主義の発展の不均等は、革命の型の更に大きな多様性を持ち、革命の成熟度の差異を持ち、そして個々の国に於ける革命過程の多様な特殊な諸条件を持つてゐる。」（コミンテルン綱領）とコミンテルンが指摘してゐる様に、各国の革命の型は多種多様であり、では日本のプロレタリアートが当面してゐる革命の型はどんなものであるか、従つて日本のプロレタリアートが立つてゐる、革命の段階は何んであるか、を明白に決定することがプロレタリアートの前衛たる日本共産党に課せられたる実に重大な任務である。これは当該の革命の段階に於ける「階級対階級」の斗争の一切の方針の基準となるものであつて、若しこの規定を間違へたら「革命の段階」を吾々と同じ様に規定してゐる。即ち、

「断くて日本に於いては農村革命、農民革命を主要内容とするブルジョア民主々義的性質の広汎なる任務をもてるプロレタリア革命」の段階である。

（註）日本の民衆の間には天皇中心主義のイデオロギーが強く残有してゐる。だからこのイデオロギーを巧みに利用し様と考へた昨日の天皇主義者が、日本のプロレタリアートの政治的成長の故に、予想がスツカリはづれてマンマと失敗したので、今日、彼等は日本共産党労働者派、即ち、日本共産党の「本流」だと僭称して現はれたのだ。

だが、彼等の意図――即ち天皇、資本家地主の指令――彼等の役割の客観的評価はその為に却つて、比戦にならぬ程反革命的なものとなつたのだ。

彼等はコミンテルンその他の正しい方針を、又吾々の輝ける先輩同志が起草したすぐれた文献を自由に検事局、内務省から受け取ることが出来、それを参考にすることが出来る。又一切のブルジョア政府を利用することが出来る。更に又吾々が刻々に発表する諸文書を検事局内務省その他の方面から刻々入手し得ることが出来るのだから、彼等の出版物が非常にすぐれたもの――望ましいものであるのが当然だ。然るにそれは自らに課せられた偉大な歴史的使命を、プロレタリア独裁樹立を、成功的に達成することは不可能である。

同志諸君！

日本プロレタリアートは今確かに未だ嘗て出つ喰はしたことのない重大な危機に面して立つてゐる。今日程吾々が誤うざる戦略、戦術、並びにスローガンの確立を要求されたことはない。

「レーニン主義の――革命斗争に於ける指導科学」に習熟することは、だから、同志諸君に課せられた最大緊急任務の一つであるのだ！！

一 戦略

「戦略は、当然の革命的段階に於けるプロレタリアートの主要攻撃の方針を確定し、革命的努力（主要予備軍と副予備軍）の配置に就いての適当な計画を立て、且つ、この計画を当然の革命的段階の全経過中に完全に遂行する為の斗争である。」（スターリン）

「戦略は革命の原動力及びその予備軍と関係がある。戦略は、一つの段階から他の段階へと革命が推移するに伴れて変更されるが、然しその基礎は、当然の段階の全期間を通じて一定不変である。」（スターリン）

「戦略は例へばツアーリズム若しくはブルジョアジーとの斗争を最後まで戦ひ抜くことを目標とするものである――」（スターリン）

（一）労働者派の戦略と吾々の戦略とは決して一致してゐない

――労働者派の戦略は反革命的戦略だ――

日本共産党労働者派中央委員会が、『政治テーゼ草案』を読みて日本共産党中央委員会に与ふ」（八月二十日附）の中で彼等の戦略と吾々の戦略とが根本に於て一致してゐる。そして彼等は吾々が彼等の政治テーゼをセツ盗したのだといふ風に思ひ込ませる様に書いてゐる

「中央委員会発表の戦略が根本に於いてわが労働者派の政治方針にのべられた戦略と一致してゐることは諸君の推測し得るところであらう。これは、確かに、日本共産党中央委員会の一歩前進である。

「マルクス＝レーニン主義に対する彼等の無知の故に、お気の毒乍らそれも又失敗だ!!」彼等の文書が完全であればある程一層憎むべき裏切的効果をあげ得たのであらうに。

彼等はプロレタリアートに呼びかけるであらう「同志諸君！俺等の方針を見てくれ、こんなに正しいのだ。俺等こそが正しいのだ。日本共産党の本流だ。俺等を支持してくれ！」と。勝手にウソをつけ!!」彼等がマルクスの名を利用することを禁止出来ないのは、当然が任意の商標や任意の看板や任意の広告を利用するのを咎めることが、出来ないのと同じである」（レーニン）

彼等の出版物が問題ではなくて、彼等の分派的策動、彼等のスパイ行動、彼等の今日までの実践が問題なのだ。

同志諸君！この点をハツキリ腹の底に入れてゐないと、奴等の術中にマンマと陥込むことになるぞ!!

彼等のお為ごとく彼等の方針が一致するものゝごとく見立るとしてもそれは単なる外観上の「一致」にすぎないのだ。彼等はコミンテルンの綱領から以上引用した文句をこの文句の意味や内容を何等正しく理解することなく、只切り取つて来てハリつけたにすぎないのだ。とお為ごとを以下ハツキリ示すであらう。

(三) 目標

「打仆日本帝国主義」
「打仆天皇制」

吾々の「目標」——
労働者派の「目標」——「打仆日本帝国主義」

彼等の政治テーゼ草案に従へば「君主制は、今日、最早プロレタリアートの主要斗争目標ではない。」(傍点は彼等の附したるものだ——筆者)と云ふのだ。

ルジョアだ」規定した。例へば「金融資本と農村地主との間の対立は本質的には単なるブルジョア階級内部の対立にすぎず、金融資本と産業資本との間の対立と何等の相違もないものだ。」と云ふスバラしい迷論に於て見るように。

(3) だから、次の結論がトビ出すのは誠に当然だ。即ち、

「日本現在の政权はかくて完全にブルジョア政权である。

「資本家地主の政府といふ規定は——固執ひである。」といふのだ。

これはドイツの反革命ヒルファデイングの抽象的「金融資本論」に更に環をかけた公式的抽象的帝国主義論だ。彼等に従へば、日本は「純粋な資本主義国」——そんなものは厂史上地球上に存在しない——でなければならぬ。かくの如き規定から引き出される戦略は、当然に、純粋な型の「プロレタリア革命」といふことにならざるを得ないのだ。

彼等が「打仆日本帝国主義」といふ時、それは、全く斯くの如き仮空的な「純粋資本主義」の打仆を意味してゐるのだ。広汎なブルジョア民主々義的任務の解決——重要な、恐らく決定的に重要な——は、完全に何処かへスツトンでしまつてゐるのだ。この事は例へば「君主制は、今日、最早プロレタリアートの重要斗争目標ではない。」と云ふ彼等の主張の中にも明白に現はれてゐる。

(II)「君主制は、今日、——プロレタリアートの重要斗争目標」である。

王政——君主制——は封建社会の典型的支配形態であつた事は世界厂史の示すところだ。そして又、ブルジョア民主々義的共和制がブルジョア国家の典型的なものだと云ふことも勿論だ。

日本における天皇制——君主制の一種——が多分に封建的性質を持ち越して来てゐること。そしてそれが農民に於ける半封建的諸関係、並にその他の政治的社会的諸関係に於ける封建的性質の残存と決して無関係に存在してゐないことを吾々は一日も忘れたことはない。だから、「打仆天皇制」は「ブルジョア民主々義的性質の広汎な任務を持つプロレタリア革命」といふ戦略的規定の「ブルジョア民主々的任務」の解決、即ち農業革命の遂行並びに封建的半封建的反動の打仆と決して無関係ではない。だが、日本共産党労働者農民中央委員会の政治テーゼ草案やイノマタ一派が云つてゐる様に、君主制は決して「半世紀も前にその物質的基礎を失つた」「単なる遺制」でもなく「単なるイデオロギー的存在」でもない。天皇は今日確かに帝国主義日本の国家形態であるのだ。巨大な官僚と巨大な軍隊等々を持つて日本、朝鮮、台湾、中国等の労働者農民勤労被搾取被圧迫民衆を現に搾取し、弾圧し、虐殺しつゝあるものなのだ。天皇支配を外にして日本帝国主義の政治は今日存在しないのだ。それ故に「打仆天皇制」は帝国主義的反動と共に封建的反動をも打仆することを示すのだ。この意味に於て「打仆天皇制」は「打仆日本帝国主義」と共に明らかにプロレタリア革命の段階に於ける「主要斗争目標」なんだ。この意味に於て今日「打仆天皇制」は「打仆日本帝国主義」と同じなんだ。「君主制は、今日、最早、プロレタリアートの主要斗争目標ではない」といふのは完全に誤りだ。

日本共産党労働者農民中央委員会並にイノマタは今日立憲天皇制を離れて別に日本帝国主義の支配があるかのように考へてゐるか、然らずんば彼等が帝国主義ブルジョアジーの支配(半封建的)にする時、金融資本の独裁を叫ぶ時、彼等は単に経済的領域に於ける支配関係を見るに止まつて政治関係を全然見得てゐないのだ。その何れの場合にも彼等はマルクス＝レーニン主義の国家理論、否マルクス＝レーニン主義の「イロハ」さえ知つてゐないことを証明するものだ。

経済的に支配する階級は又一般に、政治的に支配する階級である。斯くてオロギー的存在」でもない。天皇は今日確かに帝国主義日本の国家形態であるのだ。巨大な官僚と巨大な軍隊等々を持つて日本、朝鮮、台湾、中国等の労働者農民勤労被搾取被圧迫民衆を現に搾取し、弾圧し、虐殺しつゝあるものなのだ。天皇支配を外にして日本帝国主義の政治は今日存在しないのだ。それ故に「打仆天皇制」は帝国主義的反動と共に封建的反動をも打仆することを示すのだ。この意味に於て「打仆天皇制」は「打仆日本帝国主義」と共に明らかにプロレタリア革命の段階に於ける「主要斗争目標」なんだ。この意味に於て今日「打仆天皇制」は「打仆日本帝国主義」と同じなんだ。「君主制は、今日、最早、プロレタリアートの主要斗争目標ではない」といふのは完全に誤りだ。

日本共産党労働者農民中央委員会並にイノマタは今日立憲天皇制を離れて別に日本帝国主義の支配があるかのように考へてゐるか、然らずんば彼等が帝国主義ブルジョアジーの支配(半封建的)にする時、金融資本の独裁を叫ぶ時、彼等は単に経済的領域に於ける支配関係を見るに止まつて政治関係を全然見得てゐないのだ。その何れの場合にも彼等はマルクス＝レーニン主義の国家理論、否マルクス＝レーニン主義の「イロハ」さえ知つてゐないことを証明するものだ。

経済的に支配する階級は又一般に、政治的に支配する階級である。斯くて

彼等は口実機関の援けを得て一層有利に搾取し、圧迫するのだ。金融資本は今日経済的に日本を支配してゐる。彼等は必ず政治的にも支配してゐるに違ひない。彼等はでは如何なる形態で政治的に支配してゐるか。それは立憲天皇制と云ふ政治形態で支配してゐるのだ。

こんなことはマルクス＝レーニン主義の口実理論を知らなくとも現実の実情を見た丈けでも充分わかることだ。

然るに日本における真正マルクス主義者であると広言する労働者派やイノマタ派が天皇制を「単なる遺制」であると言ひ、「君主制は、今日、最早、プロレタリアートの主要斗争目標ではない。」と主張するのは何等かの「目標」があるからだと云はざるを得ない。そう解釈しないなら、それはあまりにマルクス主義者を以て任ずる彼等紳士諸君を侮辱することになる。

では、彼等は如何なる「目標」を持つてゐるのか。「すべての階級斗争は政治斗争である。不可避的に内乱に転化するこの斗争の目的は政治権力の獲得である。」(レーニン)これは暴力と強力。武力と武力との斗争を不可避的とする。天皇の軍隊と天皇の官吏軍とを破壊することなくして、即ちブルジョア国家機関を破壊することなくしてはプロレタリア独裁はあり得ない。常時三十五万の軍隊を持ち、七十万の官吏軍を持つて、足の爪先から頭の天辺まで最新の武器で武装してゐる天皇制——ブルジョア独裁の搾取、支配、虐殺の機関——即ちプロレタリアートの「政治権力獲得」の斗争に於ける敵の主力たる口実機関を指差して「主要斗争目標でない」と主張する彼等は、口実に対するプロレタリアートの階級的認識と階級的斗争を阻止するものであつて、それは結局ブルジョア独裁を永久化せんとするものである。然り！「ブルジョア独裁の永久化!!」これがイノマタ派や日本共産党の本流と倍称する日本共産党労働者派の神聖にして冒すべからざる「目標」なんだ。

我々はこの問題——「打仆天皇制」と「打仆日本帝国主義」との関係の問題——にあまり屢々立ち止りすぎると非難されるだらうか?!! 否、百回も万回も否だ！この問題は戦略的目標に関する問題である。実に決定的に重要な問題であるのだ。プロレタリアートの日常当面の諸問題に直接関係がないかの如く考へて——実は事実に関係してゐるにも拘はらず——この決定的に重要な問題に対してハツキリした見解を徹底させておかないならばそれこそ吾々はエンゲルスから、かの悪意なき日和見主義者——それ故に一層よくない日和見主義者——として徹底的に非難されるであらう。将に天皇に対する封神秘的イデオロギーが民衆の間に強力に存在する日本に於て決定的にこの問題は重要であるのだ。そして解党派はこの問題の故にこそ発生したのだと彼等自身公言してゐる。そして彼等は又この問題の故にこそ決定的にマルクス＝レーニン主義から、転落したのだ。何処へ？云ふまでもなく天皇主義へ！である。

君主制廃止のスローガンを下すことを主張したばかりでなく、進んで天皇を奉戴する天皇主義者たる彼等は、ここで公然大胆に「日君主制廃止」のスローガンを下せ！」「天皇を奉戴せよ！」と主張すべきであつた。何も遠りくどく「君主制は今日最早プロレタリアートの主要斗争目標ではない」等と云つて恩はせぶる必要はない筈だ。だが、ところが彼等にはヤニ分に必要があるのだ。昨日の天皇主義者が今日は日本共産党の本流だと構して登場してゐるのだから。（続）

全農

青年部全國大会の意義と任務

全農青年部は一九二九年全農オ二回大会に於て独立部門として認められて以来、一度も全国大会を持つてゐない。本年に入つて以来六月の東部協議会、七月の全国代表者会議、八月の常任委員会と準備を進め、最近、秋田に、茨城に、千葉に創立大会を開き、愈々十一月七日全国大会開催を決定した。然るに最近の情勢によれば、十二月初旬に延期との事である。理由は準備不足だ。既に八月中旬、期日を決定して以来、大会準備斗争は殆んど進捗せず、殊に青年部本部に於ける組織活動は、多くの難関を感たしめてゐる。全国を通じて、大会に対する熱意は動かず。ニュースや基金募集の程度に於り、全農青年部の重要性、大会の意義について徹底なアヂプロがなされず、青年部本部は之に関して明確な指令を出してゐない。吾々は、全農青年部の同志諸君、殊に農村細胞を全農及び青年部のブラクシヨンの同志諸君が全農青年部の当面せる諸任務、全国大会の真意義を充分把握されることの必要を強調する。

全農青年部の當面の諸任務

帝国主義戦争、反ソヴエート戦争は、今現実に日本帝国主義のすに依つて火蓋を切られ、進行しつゝある。吾々は、現在の時期が「戦争と革命の時期」であることを強く意識して、総ての斗争を進めて行かねばならぬ。世界資本主義は深刻な危機にあり、各

民地半植民地諸国の被圧迫勤労大衆は斗争に立ち上つてゐる。全満洲と内蒙古併合を目的とする日本帝国主義ブルジヨアジーの侵略行動は、まさに第二次世界帝国主義戦争とソヴエート同盟に対する国際的武力干渉の危機を我々の極東に於て最も尖鋭化せしめてゐる。否危機と現実との間に明瞭な境界線を引く事は現在に於ては困難である。日本の帝国主義者は占領地を放棄して軍隊を徹退し得ない情勢は急速に変移して来たレヌレつゝある。一方国内に於ては大衆の極度の窮乏化は、深刻なる工場ストライキ、デモンストレーション、頻々たる農村の大衆行動を激発せしめ、それ等の多くは吾々の意識的指導とは独立に自然発生的形態に於て爆発して居り、例外なく国家権力——警察、裁判所——と衝突し、厚々一時的にしろ之等を占領し、その機能を破壊して居る（最近では——農村——栃木、埼玉、茨城、富山等）かゝる情勢に加へて、今や極度の凶作が全農民を飢餓と暗黒に突き落してゐる。南満の暴落、女工賃銀不払、肥料統制による高価な肥料購買、出稼仕事の喪失、之等は、農村プロレタリア及び全勤労農民をして、嵐の如く憤起せしめるであらう。

斯かる客観的情勢に対して、吾々の党の組織的力は未だ非常に後れてゐる。この間隙を埋める為めに、労働者の多数者獲得、及びプロレタリア革命の同盟軍としての勤労農民の獲得が喫緊の任務であり、帝国主義戦争に対する斗争を強行すること、自然発生的六大衆行動を、意識的計画的に準備し指導し組織して、より高い段階に導くことが最も必要である。殊に、農村勤労青年は、全兵士の四割を占め、直接帝国主義戦争の肉弾に供せられ、戦争準備の搾取を殊に強く受け、軍国主義的愚民政策の毒素を注入されてゐる資本家地主の恐慌切抜の為めの犠牲は最も弱き層たる勤労青年及婦人の上に押しつけられ、殊に、農村青年労働者は失業、苛酷な労働条件に苦しめられ、貧農青年は殆んど完全にプロレタリア化し、中農青年は急激にプロレタリア要素に転落しつゝある。彼等を広汎な同盟に組織することは、農村に於ける共産主義者の活動——同盟軍としての勤労農民の多数者獲得及反戦斗争——の最重要事の一つであり、これに依つて、

農村の組織活動の重要な支点たらしめねばならぬ。口に社会主義を唱へながら大衆を欺瞞し、実際には之を裏切り、資本家地主に貢ぎ渡す、社会ファシストに対する斗争は、これ等の斗争と不可離なものであり、殊に帝国主義戦争に賛成し、「祖国擁護」を大衆に強制する、彼等の裏切に対抗する為に不可欠のものである。

全農青年部は、小作人の青年を中心とするとは言へ、広汎な層を含み、且つその大部分は農村プロレタリア分子である。それは常に斗争の先頭に立ち組合の中心勢力となつてゐる。青年部は、この党及同盟の立場より、重要規約されねばならぬ。青年部は、農村に於ける共産主義青年同盟の有力な財水泡たらしめねばならぬ。

(1) 全農第四回大会以来ファッショ化せる現総本部の社会民主々義者共の狂暴なる分裂主義的攻撃に対する青年部本部の斗争は微弱であり、日和見であつた。例へば所謂「陳謝問題」と称せらるゝ総本部の不当の戒告に対する拙劣な態度、之に対し大衆的抗議をやらなかつた事、更に甚だしきは、青年部本部及びその書記に対する不当な解体除名に対して、何等の抗議斗争、取消要求の斗争をも計画しなかつたこと等々、

青年部はこれまで、常に全農内の社会民主々義者と斗つて来たのだ。今や、青年部は、現総本部が、分裂策動の一枝翼として作り上げた、似而非青年部を粉砕すると同時に、社会ファッショの現総本部の改革、解任要求の為の大衆的斗争を捲き起し、全農全国会議の反対派活動を支持し協力しなければならぬ。そして速かに全農を革命化する為の強力な斗争の主要勢力たらねばならぬ。

全国大会は、この斗争の為めの、全国的斗争方針と展望を決定しなければならぬ。

(2) 漸別な農業恐慌は、中農青年をまでプロレタリア化した。全農青年部の大部分は農村プロレタリア及半プロレタリアである。之を全農青年部に組織するは勿論、極力、農村プロレタリアートの組合に組織し、その青年部に組織すること、青年失業者を失業者同盟に組織する事は緊急を要する事である。吾々は、農民運動を軍に地主に対する農民の旧代斗争に止めてはならぬ。大土地所有の没収と全民衆の所有、その用益の勤労農民への分配、日本帝国主義政力の顛覆、更に完全なるプロレタリア革命へと進まねばならぬ。

農村プロレタリア分子の斗争の当面の指導と組織、半プロレタリアの小作争議其の他の広汎なる斗争への積極的参加、都市プロレタリアートとの具体的斗争を通じての種々なる形態による共同斗争は、もつと〳〵盛調されねばならぬ。

大会は、農村労働者対策委員会を設置し、具体的活動方針を決定せねばならぬ。

更に、都市プロレタリアートとの革命的同盟の為の種々なる形態の共同斗争の具体的方法を決定せねばならぬ。（例へば、ストライキ応援の為の諸活動、争議の激発の都市との間の大衆団体の代表者交換、労働者農民の代表者会議、等々、都市に拡持せる所では、文化娯楽等の問題で協同することが非常に便宜であらう。）

(3) 農村青年労働者及び勤労青年の多数者獲得の為めには、農村青年委員会及その斗争が不可欠に必要である。

従来の青年部は、大体に於て小作人の青年を主とし、その斗争は二つの傾向を持つてゐる。即ち、一つは青年部のみ固つて、広汎な青年大衆から孤立し組織すること、青年失業者を失業者同盟に組織する斗争を強行すること、自然発生的六大衆行動を、意識的計画的に準備し指導し組織して、より高い段階に導くことが最も必要である。殊に、農村勤労青年は、全兵士の四割を占め、直接帝国主義戦争の肉弾に供せられ、戦争準備の搾取を殊に強く受け、軍国主義的愚民政策の毒素を注入されてゐる資本家地主の恐慌切抜の為めの犠牲は最も弱き層たる勤労青年及婦人の上に押しつけられ、殊に、農村青年労働者は失業、苛酷な労働条件に苦しめられ、貧農青年は殆んど完全にプロレタリア化し、中農青年は急激にプロレタリア要素に転落しつゝある。彼等を広汎な同盟に組織することは、農村に於ける共産主義者の活動——同盟軍としての勤労農民の多数者獲得及反戦斗争——の最重要事の一つであり、これに依つて、

農村の組織活動の重要な支点たらしめねばならぬ。口に社会主義を唱へながら大衆を欺瞞し、実際には之を裏切り、資本家地主に貢ぎ渡す、社会ファシストに対する斗争は、これ等の斗争と不可離なものであり、殊に帝国主義戦争に賛成し、「祖国擁護」を大衆に強制する、彼等の裏切に対抗する為に不可欠のものである。

全農青年部は、小作人の青年を中心とするとは言へ、広汎な層を含み、且つその大部分は農村プロレタリア分子である。それは常に斗争の先頭に立ち組合の中心勢力となつてゐる。青年部は、この党及同盟の立場より、重要規約されねばならぬ。青年部は、農村に於ける共産主義青年同盟の有力な財水泡たらしめねばならぬ。

(1) 全農第四回大会以来ファッショ化せる現総本部の社会民主々義者共の狂暴なる分裂主義的攻撃に対する青年部本部の斗争は微弱であり、日和見であつた。例へば所謂「陳謝問題」と称せらるゝ総本部の不当の戒告に対する拙劣な態度、之に対し大衆的抗議をやらなかつた事、更に甚だしきは、青年部本部及びその書記に対する不当な解体除名に対して、何等の抗議斗争、取消要求の斗争をも計画しなかつたこと等々、

青年部はこれまで、常に全農内の社会民主々義者と斗つて来たのだ。今や、青年部は、現総本部が、分裂策動の一枝翼として作り上げた、似而非青年部を粉砕すると同時に、社会ファッショの現総本部の改革、解任要求の為の大衆的斗争を捲き起し、全農全国会議の反対派活動を支持し協力しなければならぬ。そして速かに全農を革命化する為の強力な斗争の主要勢力たらねばならぬ。

全国大会は、この斗争の為めの、全国的斗争方針と展望を決定しなければならぬ。

(2) 漸別な農業恐慌は、中農青年をまでプロレタリア化した。全農青年部の大部分は農村プロレタリア及半プロレタリアである。之を全農青年部に組織するは勿論、極力、農村プロレタリアートの組合に組織し、その青年部に

農村細胞組織者の質問に答ふ

日本共産党中央委員会組織部

(一)、共産党はプロレタリアート の党である。

唯一の革命的階級たるプロレタリアートの前衛であり、司令部である。プロレタリアートは工場、鉱山、船舶、車輛等にゐる。工場は吾等の要塞である。企業(特に工場)細胞はそれ故に吾党の基礎である。吾党組織の主要努力の方向は実にこゝに向けられてゐる。農村の同志の前にも吾々はこのことを些かも隠さうとはしない。何となれば吾々はそれにも拘はらず今日農村細胞の組織を明日に延期したりサボツたりしてゐないから。否反対だ。吾々は農村細胞組織に絶大な努力を払つてゐるのだ。その事は農村の同志が誰よりもよく知つてゐる。では何故に吾々は農村細胞の組織にそんなに力瘤を入れてゐるのか？

1. 農村人口——殊一には農村プロレタリアートと半プロレタリアート——は吾口人口の多数者を構成してゐる。

2. これ等の農村人口に対する金融資本・独占資本・商業資本・高利貸等並に国家公共団体特に寄生地主に依る搾取と収奪・支配と虐殺とは実に言語に絶してゐる。

3. 工業都市と農村とが革命前のロシア等とは異り甚だしく隣接してゐる。農家の子弟で直接農村から工場へ通勤する場合が甚だ多い。多くの地方では工業と農業とが交錯してゐる(例へば濃尾平野に於ける織物業、長野山地に於ける製糸業の如く)。農家自体が工業に織り込まれてゐる地方も決して稀ではない。農村地方に工業労働者が多数住んでゐる。

4. 近々数十年の間に急激に成長した資本主義日本にあつては都市プロレタリアートの多くは農村人口の直接の子弟であり姉妹である。

5. 製糸工業が尚重要な部分を構成してゐる日本の工業に於ては農家の子女が年々おびたゞしく農村と都市大工場との間を交流してゐる。

6. 日本の家族制度の故に二百五十万を越ゆる失業労働者の少くとも四割は農村へ帰村してゐる。

7. プロレタリアートと同盟して資本家地主の政権を打仆し労働者と農民のソヴエート同盟の勤労農民のある主要努力の方向は実にこゝに向けられてゐる。農村の主要な生活の事実に依る偉大なる教訓。日本農村人口が今日吾々の見る如く偉大な革命的エネルギーを発揮し——口家官憲が大都市(例へば東京等)のそれに比較して手薄であるにもせよ——彼等が屢々警察力を圧倒して部落の全権を掌握したり、裁判廷を占領したり、等々一言にして云へば、彼等が故にこそかくも偉大なる革命的努力として登場しつゝあるのだといふ事をこそ実証してゐるのだ。

(二)、党員の資格に就いて、

質問はそれ故にこそ党の組織を構成する党員に依存するところが大である。党員の資格の問題はそれ故に原則的な地位を占める。

「共産党と共産主義インタナショナルとの成員は、その口の共産党と共産主義インタナショナルとの綱領及び規約を承認し、党の下部基本組織の一つに所属し、そしてその中で積極的に活動し、党と共産主義インタナショナルとのすべての決定に服し、そして正規に党費を納付するものをいふ」(共産主義インタナショナルの規約)

も少し具体的に説明すると、——

第一、綱領及び規約を承認する同志でなければならぬ。然しこのことは決して凡ての党員はマルクス・レーニン主義の優れた理論家でなければならない等といふのではない。福本イズムの当時には「党はマルクス主義的に思考する人々の集団」でなければならなかつた。かくてそれはインテリゲンツイアが重心を形成する結果を導き、労働者の間では「斗争する前に先づ理論的研究を」といふ傾向を生み出し、革命家を工場から家庭へ、大衆から孤独へ、斗争場裡から書斎へ、と逃避させた。吾々は今日決してそんなことを要求するのではない。農業革命とプロレタリア革命とに依つて天皇・資本家地主の叛力を打仆すること、日本帝国主義を打仆すること、そして労働者と農民のソヴエート政府を樹立すること、プロレタリア独裁を打ち建てることの不可避な

ことを承認し鉄の規律に服しそのために一身を犠牲にして斗ふことを期してゐる同志は党員たるの資格があるのだ。字が読めなくともよい。七六ケしい理論——革命的理論を些かも軽視するのではない——が無くともよい。今日常員採用の資格に就いて所謂「理論」を最も重要な条件とする傾向が尚残存してゐる。これは直ちに改めなければならぬ。

第二、党が戦術上特別に禁止しない限り党員はいづれかの細胞に所属し、その中で積極的に活動する同志でなければならぬ。「ボルシェヴイキは独裁として追跡され、ボルシェヴイキはその瀬に唾を吐きかけられ、ボルシェヴイキは逮捕され、立ち所に銃殺されにも拘らず、ガリレイの「而も尚運動す」と同様に、ボルシェヴイキはビクともしないで斗つた。到る処に憚まず、憚まず、「あらゆる権力をソヴエートへ！・資本家と地主を仆せ！・」と、刻み込み、そして、大衆の間に一人のボルシェヴイキでも居れば、何処でも彼は直ちに組織的な役割を演ずるのである。」(カガノウイツチ)

ボルシェヴイキは最も困難な反動の時代にも又支配的地位についた今日の時代にも、如何なる時代にも決してひるむことなく、恐れることなく、倦むことなき能動的なプロレタリアートであつたのだ。「ボルシェヴイキの此の重大な特徴、彼の能動性、彼の堅固性、彼の訓練、——これ等は吾が党の政治的細部と結合してゐる——党の大衆的基礎を作つてゐるのだ。」(カガノウイツチ)

第三、党と共産主義インタナショナル(コミンテルン)のすべての決定に服する同志でなければならぬ。

日本の同志の最大の欠点の一つは此の決定に服さない点だ。と言つて勿論意識的に服すまいとするのではない。むしろその反対だ。自分では服さうと決心してゐるばかりでなく服してゐるつもりなのだ。だが、服してゐるつもりでも客観的に現実に服してゐるとは限らない。忘々にして服してゐるない場合があるのだ。「決定」に対して真剣さが足りないのだ。日本の同志は未だ切迫した斗争の経験が無いので「決定」に服しなかつたために生起する味方の莫大な損失を将来も沢山実験することなくしては、「決定に服する」ことの無条件に必要なことを学び得ないだらうか。吾々はそうは考へない。

第四、鉄の規律に服する同志でなければならぬ。

鉄の規律が実行されない共産党があり得るか。そんな共産党は共産党ではない。日本の党は鉄の規律が厳重に実行されてゐるか？他口の共産党に劣るとこゝろはないか？その点から吾々は大胆に「そうだ」と答へることに躊躇する。鉄の規律は次して厳重に遵守されてゐるとは言へぬ。

日本共産党の最大の欠点の一つは実にこゝにある。それ故に、「吾々は党に加入しやうとする者のすべてに対して断つ云ふ、君はボルジェヴイキの規律の重さを引き受ける用意があるか？若し同意が出来てゐないなら、もつと見合した方がよい。何故なら入党することに依つて、君は君の意志と生活とを党全体の意志と運命とに従属せしめる事になるのだから。」(カガノウイツチ)

第五、正規に党費を納める同志でなければならぬ。財政的基礎なくしては如何なる党活動も不可能である。だが、吾々が党費や紙代を完納せよと繰返し強調する理由はそれ丈に止まらない。党費や紙代を完納するといふことは立派に党の規約に従ふことであり、鉄の規律を遵守することを示すものだ。党費を納めることに依つてこの同志の党に対する関係が甚だしく真剣となるのだ。党費を納めない程の同志にどうしてそれ以上に苦しい鉄の規律を要求することが出来やうか。だから、党費が党員数の何割位完納されてゐるかを調べればその党の強さの大体観察がつくときへ言はれてゐる位だ。日本の党員は過去に於て党費を完納したとは言へない。今日では大変成績がよい。だが、決して全党員が党費を納めてゐるとは言へない。吾々は全党員が時期をも違へず正確に党費や紙代を完納する日を是非共最も近い内に斗ひ取らなければならぬ。

党費は収入の百分の一だ。失業者でも生活費の二百分の一を必ず党費として納めなければならぬ。月収五十円の同志は月に五十銭納めるのだ。月十円で生活してゐる失業者は月に五銭納めるのだ。重ねて云ふが金高が問題でないのだ。例へ月五銭でも必ず納めなければならぬ。紙代は定価が記入されてある。

(三)、如何にして日本共産党の一員とされるか

一般に千人以上の党員の推薦する同志(主としてプロレタリアート)を細胞が十分経厂、斗争関厂、家庭関係、交友関係等を吾々がこれまで記した条件と合せて調査し審議して採用不採用を決定するのだ。決定した場合には直ちに上部機関に報告して承認を求めなければならぬ。

党員採用に当つて現在の時期に於て注意しなければならぬ特殊点は、スパイ(又は将来スパイになる危険性のある者)の党への潜入を絶対に防止する事だ。スパイでない限り以上の条件を

備へてゐる同志はドシ〳〵党員に採用せよ・貧農勞働農民を採用する場合彼を貧農として又は勞働農民としての優れた交通路、水路に沿ふてゐるとか、重要で採用するのではない。彼の身分の如何に拘らず彼をプロレタリアートとしてプロレタリアートの光輝ある前衛として採用するのだ。何となれば一旦党員に採用された以上はプロレタリアートの前衛として行動するのであつて、彼の出身如何を問ふのではないから。

党員採用に際しても吾々は可成り多くの誤謬を示してゐる。当然党員に採用すべき同志を依然として非党員の儘残して置き而も彼には党員と同様な規律や統制に服すべき事を要求してゐる。これは明らかに觧党主義の極を的表はれである。簡單に言へばスパイかあかを最も峻嚴に精密に調査せよ。スパイでない革命的分子はドシ〳〵党員に採用せよ。今日の時機はスパイ以外の同志に対して大胆に党の入口を開放すべき時機だ。農村細胞には工場細胞に比してスパイが潜入し易いといふ事を附記しなければならぬ。

党員に採用して彼をウンと鍛え上げるのだ。非党員に無理な規律や統制に服することを強要してゐる癖に、党員の鍛え上げ方が甚だ足りない。

（四）農村細胞はいかなる地点に組織するか？

重要農村とは、いろ〳〵の意味を持つてゐる・（イ）農業生産上重要な地帶と

重要農村を目指さなければならぬ。

いふ意味（ロ）プロレタリアの運動上戰術的に形勝の地といふ声、例へば二つの都市をつなぐ要点に当るとか、重要な交通路、水路に沿ふてゐるとか、單事上の重要地点に当つてゐるとかの意。（ハ）又は蘇田農場其他の如く経営の様式が重要な意義を持つてゐる個所とか（ニ）栃木県の那須野ヶ原の如く、大地主が支配してゐて、重要な敵を控へてゐる所とか、（ホ）山梨、山形の如く貧農の密集してゐる所とかである。我々はこれ等のどの一つの定義のみを採用して他を顧みないでよいといふ訳には行かぬ。上記の色々な意味での重要さを考慮しなければならぬ。

これについて注意しなければならぬ事は、重要地点を獲得し確保する為には決して机上戰術的に其の地点のみを狙つて他を忘れて策を立てる事ではなく、実践的に接続地や抵抗の弱い小地主地帶にそれぞれ手を延し、其処での成功を確保してから漸次に進む方法を忘れてはならない事である。即ち重要地を目標とした為に敵の弱い点を衝く事を忘れてはならぬと同時に敵の弱所を衝く事にばかり気を取られて、強い所へ、即ち決戰地の獲得へと進むことを忘れてはならぬ。

この二つの注意事項は従来の農民組合運動では兎もすれば看過されてゐたことである。従来、自然発生的にも争議が多く起り農民組合運動の進んだ所は大体に於て重要農村だつたとは言へる。が、未だ〳〵重要な地点が勿論組合や富民協会や実行組合に依つて反動にとられてゐる。

（五）如何なる區域に（どれだけの広さに）組織するか？

（イ）例へば台南製糖の農園とか、蘇田農場とかには、大工場の工場細胞の如く、農場單位の農場細胞といふものが作られるべきであらう。（ロ）其他一般普通の農村では、部落別が適当と考へられる。（ハ）かつて、全農新潟県聯が提起した如き地主別斗争の重要さも考慮しなければならない。従つて山形の本回家や越後の白瀬家の様な所では地主別の細胞も可能であるが、これとても部落別の組織を強化する事に依つて実践に動員し戰ひ得るのであるから部落別を原則とし、大地主の場合はその地主別に特殊な強固な提携を計る組織体を工夫したらよいであらう。（ニ）農村に於ては一般に部落が共通の生活の單位になつてゐるから複雑な各種の政治生活もこの單位が適当であるが、斗争に於て共同する單位、即ち大衆動員の單位は農民組合運動の経験の教ふる所に依るも、所謂「地区」（即ち数ケ村）が適当であらう。

この範囲の協力の為に部落別細胞を基礎に農村地区委員会を選出して、斗争を指導すべきであらう。

実際の組織の過程では部落を細胞の原則的区域と決定しながらも最初は地区單位ぐらひしか出来難いかも知れないがこれは地区委員会準備会として置くより遥かに細胞として、細胞生活を開始せしむることが望ましい。そして急速に目標を定めて細胞を分裂させ拡大強化させるのだ。

（六）何人位で組織するか？

どんな同志で組織するか？これが実際に当つては幾々難問題と考へられる。けれどもそれは今迄細胞を持たなかつた時の考へ方や、感情に支配されてゐるのである。も一度繰返して述べると、勇敢に誠実に、決意を以て戰つてゐる人は大胆に組織していゝのであらう。理論とか政治の手腕とかは最初から完成された人は望めない。特に農村に於ては斗争の展望等今迄はつきり持ち得なかつたし、誠実に左翼陣営を困難に耐えて固守して来た同志諸君には屢々一徹な強固な毅さへも出来てゐる。これらは組織を作つて、その組織的活動に依つて批判して清算するのだ。互ひにその事を理解して、今迄兎もすれば持つてゐた狭量さや固陋さを批判して進まねばならぬ。特に農村の労働者出身の同志は重要視しなければならぬ。スパイを絶対に入れるな！何人位と人数を限つて基準を立てることは出来ないが、一部落に二人でも三人でもあればそれで細胞を作るべきであらう。数十人数百人になる事は全く以てスバラしい夢だ。細胞が若しそんなに大人数になつたら例へば字を單位に組に分ける事は警察の弾圧を防ぐために効果的であらう。然し数百人でも矢張

り一細胞である。その細胞が場つかの組から構成されることになるのだ。この点についてはそれが現実の問題となつた時に又述べる。

（七）細胞員の活動仕事の分担

農村細胞はその村落の一切の斗争の中心たらねばならぬ。細胞員は定期に総会を開き、一切の政治問題を討議し夫々の活動を決定しなければならぬ。仕事は出来るだけ同志の間に分担し、その割当てられたる仕事は正確に遂行するやうにしなければならぬ。少数の同志のみ仕事が溜つて他う同志に仕事が廻らないやうな事があつてはならないやうすべての同志の能力を有効に発揮せしむる様にしなければならぬ。

仕事の種類に依つて分類し夫々係を作つて責任を以てその部門を分担させることが必要である。

部門としては、農民委員会の活動、農民組合の活動、農村婦人の間に於ける活動、農村細胞の新聞の活動、失業者との結びつき、労働者との結合、協同組合の活動、新兵の間の活動、農村青年細胞等との協力、近くの無細胞村落への働きかけ、文書の頒布、赤旗、オニ無新、モツプルの活動、労農救援会の活動、ソヴエート友の会の活動、官製青年団、在郷軍人会、青年訓練所、消防組等の内の活動、赤色自衛団等がある。これらの部門を細胞員の間に適当に分業するのだ。

（八）地区委員会縣委員会地方委員会

各細胞からは代表者を一名づつ出して地区單位に会議を持つて地区委員会を選出する。地区委員会からは又代表者を出して縣委員会を選出する。

各縣委員会は代表者を出し大工場都市を中心に地方委員会を選出する。この縣内の工場都市には都市委員会を作る。これは他の農村地区の地区委員と同列に縣委員会は属するのでなく縣委員に直接することが適当であらう。地方の小都市の工場細胞はその附近の農村と一緒に地区委員会を作る場合もあり得るが他の最近将の都市の工場細胞と一緒に都市委員会を作ることが便宜であらう。

（九）党費や紙代に就いて

党費の定期的納入は規律の才一歩である。

党費の額は農村に於ては都市と同一には行かないであらう。都市に於ては月収の百分の一である。失業者はその生活費の二百分の一と定められてゐる。農村では賃銀が決定してゐる訳でないから収入を測るのに困難であるから生活費から算定し、都市の失業有の負担額を参考し、月額平均二十銭―三十銭―四十銭位にしてはどうかとおもふ。機関紙代は別に正確に納入しなければならぬ。

これらの金額は細胞の係に依つて取りまとめ、上部の組織へ納付されなければならぬ。

細胞の財政については上部の組織に依つて党費の内一定額の支出を受け、又特別に財政計画を立てなければならぬ。

結語

農村細胞は永だぼんの僧かの処方にしか組織されてゐない。それは農村入口のあのスバラしい革命化に基だしく立ち後れてゐる。農村細胞が組織された二三の地方の斗争の発展は今吾々に偉大な事実を教へ込んだ。農村細胞は今迄況に組織されなければならぬ。貧農大衆の絶対多数が尚ほ如何なる組織にも引寄せられないで放置されてゐる理由、農民委員会今活動が尚ほ甚だしく不十分である理由、全農の五賢化が圧倒的であるとは言へ、尚ほ決定的でない理由、組織さるべき諸斗争が尚ほ自然発生的な運動に委せられてゐる理由等々は偏へに共産主義者の農村に於ける活動が尚甚しく不十分であるが為に外ならぬ。日本の農村は今爆発の一歩手前まで追詰められてゐるのだ。

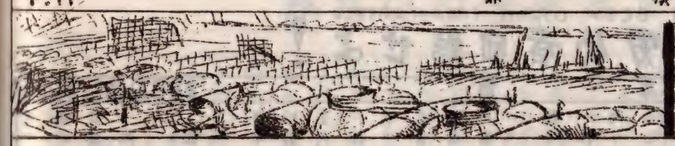
一人の共産主義者が入込む事に依つてスバラしい革命的大衆行動が怒ちの間に組織されてゐる事実こそがこの事を何よりも確実に物語つてゐるのだ。

革命的労働者諸君！・党員諸君！・農村の兄弟姉妹に面を向けよ！・援助と指導の為にプロレタリアートの鉄のカイナをさしのべろ！・農村入口―才一に農村プロレタリアートと貧農―の金幅の支持なくしては、プロレタリアートのヘゲモニーの下に労働者と貧農の同盟を強めろ（相棒となるであらう！

―続―（本六頁より）

「全農青年部全国大会の意義と任務」

アツシヨの全農総本部の改革、戰斗的青年部の結成、全農青年部の革命化の斗争の支持を次試し、大会に代表者を派遣し、メツセージを送らねばならぬ。更に開催地及び近隣の労働者は会場警備隊を派遣し、社会ファシスト及び支配階級の計画的弾圧破壊に対抗し、防衛しなければならぬ。これは労働者と農民の同盟を強めろ（相棒となるであらう！



ドニエプストロイに於ける
六万キロワットのタービン
1932年5月から
電力の供給を開始す。

所謂「独自的細胞」組織の誤謬に関し農村出身の一プロレタリアより

——農村出身の同志への回答——

(一) 革命的危機の諸條件が急速に成熟しつゝある現在に於て党の影響と組織のギヤップを精力的に克服して客観的條件に立ち遅れになつてゐる主観的條件を前者に対応するものになさゞればならぬと云ふ事は君の主張の通り吾々共産主義者に課せられた是非解決せねばならぬ最も重大な当面の課題である。

僕も全く同一の見解を持ち君の正しい主張を百%に支持する者だ。

然らば農村に於ける吾々の課題をより具体化したら何うなる乎僕の意見と見透しを述べれば、

a、先づ農村細胞を急速に確立拡大し、全体の斗争が統一された革命的指導の下に置かれる事だ。

b、次に農民委員会、各種の斗争委員会（小作争議委員会が大きな題目になつて来る）等の新しい形態によつて農民多数者に共通する適切なスローガンを real に与へて彼等を（各層全体、中農の下層迄も）共産主義者の指導する斗争に動員組織し、

c、全農民組合の統一を実現し、それを赤色農民組合化する為の党のフラクを強化して革命的大衆活動を活潑に展開する事にある。と云ふ事になる。

(二) 然るに現実には組織の手が尚まだ充分に限々迄伸びてゐぬ事は遺憾下ら事実の様だ。

かゝる際党のラーゼを見一般的な組織方針やその形態を理解した、君の所謂「恥がしからぬ行動の決意」を持つた共産主義者は、徒らに組織の手が伸びて来る迄安閑として腕を拱いてゐるのではなく、

a、自己の革命的衆意により、何さかけが、何時、あつても、直ちに、それを受け入れて、

b、強固な農村細胞に、より積極的な努力をする事を是非やらねばならぬ義務と感じねばならぬのだ。それは又充分可能な事でもあるのだ。活動さへ活潑に展開するならば誰も捨てゝ置かぬし、やがて連絡がつく事は確実だ。活動なき所へは党の方でつけ廻にも困難な事なのだし、勿論掛け声許りで大きいのや論説許りで実践活動が確実に遂行せぬ連中など問題になり得ぬ。

(三) 全口的にかゝる自発的なイニシアティヴが下から澎湃として現れ、党に向モリ〳〵やり出してゐるらしいのは党拡大の重要な前提條件を造るものとして実に良い傾向だ。吾々の展望は益明るくなつて来つゝあると云へる。

× 地方に於ても親愛なる同志等によつて熱意と精力を以てかゝる実質的活動がなされ初めた事は当然な事だとは云へ、僕としては自分の永く居た地方といふ特殊な関係もあり、諸君の活動の発展に最大の関心を持ち且つ期待をかけて居るのだ。この活動の為めの客観的情勢は最近数次の君の通信によつて、明らかに成熟して居ると観る事が出来る。そして君の云ふ「農民組合を農や赤色農民組合指導部によつて求して代置されるものでない」処の統一的な強力な革命的指導が現実に要求されて居るのだと充分合点する事が出来る。

(四) 君が「かゝる一切の傾向（前記の日和見的傾向といふ意味だらうね）と断乎として戦ひ」「凡ゆる障害を突破して部落々々に樹立」せねばならぬ革命的細織とはもつと具体的に云つたらどんな規定と内容を持つたものを指す事になるだらう。

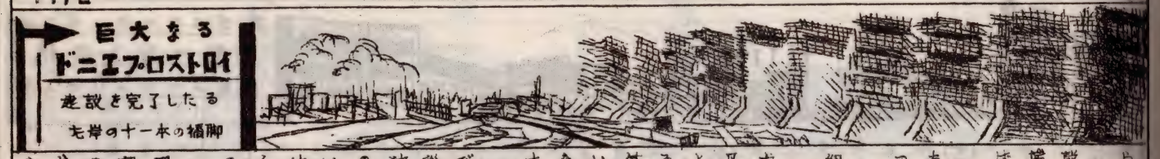
僕の考では、それは

a、実質的に農村細胞の内容を持つた自発的に厳格な規律と統制を維持した準備組織でなければならぬし、

b、組織の基礎を、都市に於て工場職場に置く如く、農村に於ける生産の場所に置かれねばならぬのだ。

c、生産の場所を基礎として、（この原則は最大に尊重される必要がある）その準備会（この自発的準備組織をかく呼ぶ事は便宜であるし、抵触する点が最も少いと思ふから以下之を用ひる）は県委員会に発展されねばならぬ。

d、こゝ（県委）では、テーゼやすべき針（之を見得る機会は努力すれば何欠でも余り困難でないだらう）が具体化され、当面するその地すの問題に対する一切の具体的政策が決定され統一的指導がなされるだ



う。

c、農村青年部に対するフラクを強化し強化して大衆と結び着く末端迄統一的指導が及ぶ様にされねばならぬ。

d、中間右翼団体或は其指導下にある団体、全農支部にはフラクを作つて反対派運動を起さす。

e、各種のアヂ・プロ活動の統一的組織的活動等。

吾々後進的共産主義者の現在要求されてゐる活動の規定と内容とは凡そかゝるものでなければならぬと僕は理解する。そして下から凡ゆる方法と途を採つて本部と連絡を付け、それに直ちに再編成され様といふ積極的努力を払ふ事によつて全く正しいものにされるのだと信ずる。

(五) 次して、君が「自主的細胞」と呼び「積極的な下からの努力を待へず従つて党とは対立するものとして独断的に定式化された、（最初の意図の如何に不拘）評衆それへ発展させたいのだが、今直ぐ手を伸ばされても仕末に一寸困るといふ様なアイマイなものであつては絶対にならぬのだ。

× 地方の同志諸君は全く善き意図にも不拘、以上の点で致命的な誤謬を犯してゐる。即ち党指導部の「積極的な活動を起せ」といふ要求を下からの努力といふ所迄高め、極端を忘れ発展を阻止する様歪めて独断的に硬式化せんとする事により組織的に党細織と対立し政治的にも党に背を向け、折角大努力を以て克服せんとする最悪の日和見主義に陥つて了つてゐる。

この点は他の声明や決議等の文書にも多分に残存して居り、全農第一主義克服を目指し乍ら自己の積極的政策と方向とを押しかくす事により、政治的無色主義の素朴さに依然として止まつてゐるのは実に遺憾である。

(六) かゝる思想と傾向は又解党のテマル好個の材料を提供してゐる事に於ても全く救ひ難いものとなつてゐる。

憎むべき統率はデマつて曰く、

「最近各方面に「自主的細胞」組織の論議が盛と行はれ実質に移されつゝあるのは、ゴミンターンが日本共産党指導部の無力を確認し、大衆に「自主的細胞」の組織を大衆に持たせ下から実践的に中央部の指導方針を批判せしめんとするの全く変則的な非常手段なのである。

この事は日本共産党指導部を根こく批判してゐる吾労働者派中央委員会の方針の正しさを裏書きするものだ」と。

彼等の意図が何にあるかは説明の要もなく凡ゆる面隊を組つて支配階級のあやつる糸の儘に、吾々の陣列を攪乱せんとする反革命的反動性をソックリその儘バク白してゐるもので通俗な事に自称君等の御

へ方と同様に日和見主義以外の何ものでもない。

(七) 日本共産党指導部は、細織の手の伸びるまで自分は手を拱いて待つてゐた従来の日和見主義を排斥して現在細織の手が直接のびてゐるなくとも自発的に活動を起せと正しく言つてゐるのだ。そして活動し乍ら"細織の手"を求めよといつてゐるのである。

これが日本共産党指導部の要求の正しい表現なのだ。日本共産党指導部を拒否して別個に「自主的細胞」を造れと言つてゐるのではない。単労極まる労働者派はこの点に関して最も恥知らずの云々を感じて居るのである。だがゴミンターン日本支部日本共産党指導部を支持する同志諸君が（こんな云ひ方をする事は紙幅でもあるのだが）不注意の理にも「細胞準備会」を「自主的細胞」だなんて独断的に固定化することによつて解党派と容観的には一致する日和見主義に陥つてはならぬ。

(八) × 地方に於て具体的には如何に始めて行くか。

a、君が現在の最高指導細織たる所謂"T"を暫く指き"T"より一段下の"B"といふグループを「独自的細胞」に再編成して行く事から始め様といふ考は誤であらう。現在の最高指導体たる"T"自身が直ちに「細胞準備会」にならねばならず、同時に当面準備会県委員会（四のc）の機能を持ち役割を果さねばならぬものだ。

b、この県委員会に於いて各目標地区対を定め、責任分担を決定し「細胞準備会」組織の活動を前進する。

c、"B"（一段下のグループ）の成員の中から同様村準備会の中へ適当に編入して行く——第一に生産の場面から成員を求め、出来る丈け街頭分子は排除或は次にする事が後来の様な厳選主義を振り廻してセクト化官僚化の傾向に陥つてはならぬ。

d、かゝる「準備会」を基礎に県委員会を構成する。

e、可能な範囲で民主的方法（選挙協議等）を採るべき事。

f、県委員会は現在の"T"の人数以上に必要ならば増員してもよいだらう。常に下部の同志を上部機関の成員に引き上げ有能な幹部養成に努めねばならぬ事は何処でも何時でも必要だ。

(九) 現在の力では「街頭細胞」から始めるより方法がないと優れた君が考へるのは一寸理解出来ぬ。

"T"が自身「準備会」として、又県委員会として、目標地区村の責任者を決定し"B"の成員から適当なものを夫々の準備会に編入して行くべき事を談つて考へてゐる様である。君の考からは結局、御都合主義を抑付

★ゴルロフカに於る
スタコリン崇拠
開墾コークス化學工場
（ドンバス）

的細工的なものより生れて来ぬ様に判断される。

α、X地方に於ける最近の斗争の展開を見るに、「準備会」成員を斗争を通じて生産の場所から取り上げる事は余り困難でない様に思はれる。

b、党を積極的に支持し（朝鮮現時の承認――今詳しく知らなくてもよい）敗の規律に服従し積極的党活動と一定額（二十銭乃至三十銭）の党費負担を決意した者であれば党員たり得るといふのが原則だ。

c、現在多分に非合法活動に従事し、実質的には党員と略同一な活動をしつゝある者は直ちに組織の対象たり得る。

d、生産の場所に於ける就業民の勇敢な党支持者であれば、理論的水準、政治的積極等非常に高度なのを問題だ。

(ホ)「上部」との連絡に就いての注意。

α、細胞―地区委員会―県委員会の上に地方委員会（大都市中心）があることを常に忘れぬ事、

b、乃ゆる隙を通じて上部との連絡をつける為に下から努力する事だ。

(ト)多くの處で組織の手が伸びぬとの声をよく聞く、だが何時かしら"手"が伸びたのではなかったかね？　X地方には皆で伸ばた事があるやうに僕は聞いてるが。こんな際に実際上「切っかけの手を拒否」するやうな明瞭な日和見主義的傾向が是正されて来ぬ様に注意せねばならぬ。

吾々に課せられてる任務はX地方当面の問題として見れば正体のアイマイなものではなく、農村細胞が村々に樹立される事だ。そしてまだ手が伸びぬ場合は吾々が何時でも農村細胞に轉化出来得る如き準備体が各自の自発的な潜力的活動によって組織されることであると重ねて強調する。

吾々は自身をゞ産主ギ者としての自覚しその意識で生活すると云ふ事は一応可能であらう。

だが然し真の共産主ギ者とは党員以外の何者でもないのだ。他は厳粛な意味で共産主ギ者ではないのだ、といふ事を忘れぬやうにしようではないか。

(十三)労働者（特に金属）との連絡に就いて、

農村細胞は農民だけの特殊組織では決してない。農民が党員となった時は共産主ギ者としてプロレタリアの社会主ギ政策の執行者として農村に於て組織されるのだと云ふ事を僕はX地方の同志諸君と共に再び確認したい。

α、X×精錬所、X×炭田地方の條件が再び好轉しつゝあるのは実に愉快でならぬ。発展を刮目して見守ってゐる。

b、彼等と直ちに果実に連絡せねばならぬと思ふ。

斗争の場合には共同斗争委員会、労農協議員への見通しを忘れぬよう。

c、だがX地方準備会、県委員会は能動的に労働者へ働きかけ経営細胞準備会を作る為め努力すべきだ。

d、就に「準備会」活動が起されてゐた場合はX地方農組準備会、県委員会は労働者側の経営細胞準備会と結合して両地域に跨った統一的な組織になる事が必要だ。そして組織内の教育的分化によって活動すべきだ。

一般的な活動計畫については現在の斗争を一歩一歩確実に高めて行くといふほかないと思ふ。

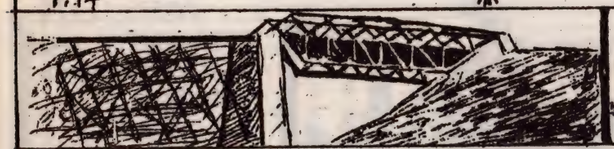
――を　は　り――

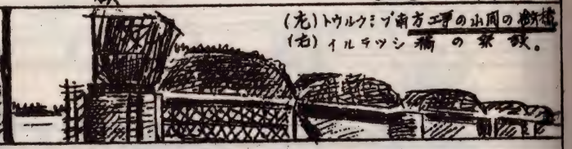
(附)以上は決して僕個人々々の意見でなしに、月一組織にある同志等との討論の結果でもある。

煙草の困乱を防ぐ為めに、日本共産党中央部の要求する内容を正しく理解する為に、その正しき規定を同志等に徹底せしめんが為に、皆むべき階級的デマを粉砕せんが為に役立てたいと思ひ、私信の形ではあるが吾等の"鉄の火花"に送る。

同志諸君の批判をこふ。

○生





(左)トウルクシブ南方工事の小屋の鉄橋
(右)イルテツシ橋の架設。

『ファシズム独才』に就て

××生

ファシズム救すと云ふ言葉が私の属める国際的文書の中や我党の文書の中にも屢々使はれてあるのを見るが、このファシズム独才と云ふ表現は正しいだらうか？

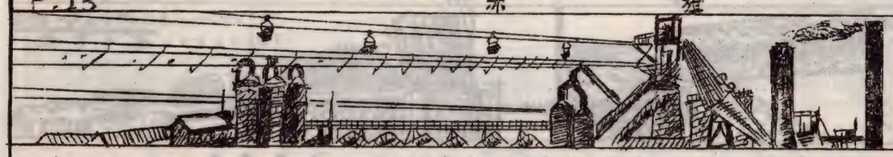
否、正しくない、と我々は考へる。何故へ？

(1) 現在二つの世界――社会主ギと資本主ギの世界が対立してゐるが、この対立はプロレタリア独才とブルジョア独才との明確な深刻なそして益々尖鋭化しつゝある対立であって、社会主ギ世界ではプロレタリアートが独才者であり、資本主ギ世界では他へその支配形態がファシズム（イタリー、ポーランド等）社会ファシズム（イギリス、ドイツ）或は共和制（フランス、アメリカ）君主制（日本）であらうと、ブルジョアが真の独才者だと云ふことは誰でも認めねばならない根本的な事実ではないか？　ファシズムから君主制に至る支配形態は、夫々の状勢に適応した大ブル独才の武器であり、手段であり、ブル独才の積極的な或はカムフラージされた支配の方法の一つに過ぎない。そして一つの手段が古くなり駄目になれば、ブルジョアジーは急速に他の手段を用ひてその支配を維持するに努めるであらう。英国「ファシズム支配」とのファシスト的支配形態とは云ひ得ても、「ファシズム独才」と云ふ事はよくない。正しくない。そしてそれは戦術的に誤った傾向を生み易いから尚更それに就ては才二に述べるが、吾々はどこ迄もブルジョア独才といふ事を正面に出して、ブルジョア独才打倒、プロレタリア独才樹立の斗争を成功的に遂行しなければならぬ。そしてブルジョア独才の本質を少しでもゆがめ、かくす様な乃ゆる傾向と斗はねばならぬ。

(2) 所がファシズム独才といふ様な表現はブルジョア独才といふ事を押し隠し、ブルジョア独才打倒の斗争からそらせる様な結果を招く危険性を伴ひ易い。世界恐慌の深化、二つの世界の対立の結果は一方革命運動の昂揚を意らすと共に他方反革命運動としてのファシズム、社会ファシズムの急速な成長を引起してゐる。そして一聯の日々では既にファシズムが支配してゐるか、今やブルジョアジーが一般に益々ファシズムをその支配的方法として利用し様として来てゐる。従ってファシズム、社会ファシズムとファシズム独才とを同一視する事は誤りである。

(3) 吾々の主要敵はブルジョアジーであってファシズム等々の武器を以て暴威を振ふブルジョアジーが奴カの所有者であり従って吾々の主要敵だと云ふ事を決して忘れてはならない。吾々はブ"ファシズム独才"と云ふ表現に反対する。それは明確でない。正しくない。我々は又"共産主ギとファシズムとの決定的斗争"或は"プロレタリア独才とファシズムとの決定的斗争"と云ふ表現に賛成か、それともファシズム独才に賛成か、それともファシズム独才に賛成か"と云ふ公式化にも反対する。現在近付きつゝあるのは社会主ギと資本主ギとの決定的戦斗であり、プロレタリアートとブルジョアジーとの決戦だ。そして二つの世界の対立の激化は今や、"プロレタリア独才に賛成か、それ共ブルジョア独才に賛成か"と云ふ課題を全世界の労働者農民に課してゐるのだ。そしてこの事実こそは又ファシズム及社会ファシズムに対する斗争をより一層強化する事を要求してゐるのである。

(4) 吾々の綱領スローガン政策及実際斗争は社会ファシストの共産党内から明確に区別されそして充分勝れてゐなければならない。社会ファシストは益々巧妙に又精力的に大衆を偽瞞し裏切って行く。其故吾々は凡ゆる機会を捕へて社会ファシストの偽瞞と裏切りとを具体的に巧妙にバクロして、社会ファシズムの大衆的基礎を破壊しなければならぬ。



トムスキイの名を冠するマチエフスキー工場の新鋭鉄煉十五号ドンバス。

が既にその命数が盡きて了つてゐる事、革命の為の前提条件が成熟して来てゐる事の証明だ。なお主観的条件の後進性と云ふ結果からして、ブルジョアジーは尚一定の歴史的時期をファシズムと云ふ方法を straight に便つて生き永らへる可能性を与へられてゐるのだ。

ファシズムは、なお社会ファシズムの助力を得てのみ永らへ得るのであり、又社会ファシズムはファシズムを背景として始めて大きな効果を発揮するのだ。二つは不可分的に相互的に作用し助け合つてゐるのだ。

ファシズム問題に於て吾々の後進性を具体的に現はすものは何か？

『オー、吾々は改良主義の経済的基礎を狭く見、極端傾斜にある資本の逆転能力が減少したと見、吾々の受動性によつてブルジョアジーをして、社会主義・ヤング案・ウエルサイユ問題等々の如き問題に於て策動するがまゝにさせてゐる。

オニにファシズム問題に於ける吾々の後進性を現はすものは、社会民主々義をしてブルジョア独裁の形体の問題に就て策動するがまゝにさせてゐるとゝろの事実だ。社会民主々義は大衆を階級斗争の主要問題から外らし、権取取態の論戦即ちブルジョア独裁のようよき形体、試会主義がいゝか、非試会主義がいゝかの論戦に大衆の注意を転せしめようと努力してゐる。社会民主々義は是からもファシズムとの見せかけの斗争の問題で策動するであらう、そして凡ゆる手段を盡してファシズムと社会ファシズムとのみがブルジョア独裁の双双の武器の両面に過ぎないと云ふ根本的事実を塗りつぶし、ボカそうとするであらう。』（マイルスキー）

吾々の立ち遅れ、後進性はファシズム問題に関してのみだらうか？・否、あらゆる方面に亘つて我々は我々の後進性を急速に克服する必要に迫られてゐると云はねばならない。

『社会ファシズムは大衆を欺瞞する為にプロレタリアートの主要敵はファシズムだ、と主張する。そしてその際、ブルジョア独裁に対する一般的斗争の問題から注意を外らし、プロレタリアートは権取の民主的形体には反対して斗はねばならぬと云ふ観念をプロレタリアートの間に造り出さうとする。』

とマヌイルスキーは第十一回プレナムで述べてゐる。日本でもファシズムの危険が切迫して来るに従つて以上の様な社会ファシスト的策動が現はれ得るであらう。社会ファシストはさうする事に依つてファシズム支配の形成への良き助力者となるのだ。

吾々は其故、ファシスト共の策動と混同され易い又其に利用され得る様な表現やスローガンは避けるべきである。最後に、我々はファシズムの問題に関して革命運動の立ち遅れ、共産党の後進性にふれる必要があると考へる。

客観的条件の有利な展開にも拘らず、共産主義運動は立ち遅れてゐる。それはファシズムの成長と云ふ事が現在の歴史的条件の下に於て如何なる意義を持つてゐるかと云ふ事を考へて見れば分るとマヌイルスキーは述べてゐる。『ファシスト運動と云ふ現象は資本主義

第五十八号　正誤表

印刷局の不注意に依り脱文及誤植あり、左の如く訂正す。印刷局

- 十一頁『中央執行委員会の再編成に就て』の第一段終から九行目『反ソヴエート同盟干渉戦争の危機を極度に尖鋭化せしめ』を『反ソヴエート同盟干渉戦争の危機を極度に尖鋭化せしめた点（否、或かそれ許りの一歩であると云ひ得る）にある。』と訂正す。
- 十二頁三段終りから十四行『赤旗』を……あらう』を『赤旗』を党の政治的組織的根本方針の確固、レーニン主義的政治教育の徹底となす事が出来るであらう。』と訂正す。
- 三頁四段十三行『益々の多くの人々』の『々』を削除。
- 四頁三段一行『必然性を指摘し』を『叫び出した』に訂正。
- 十七行『有力な援護軍だつた』を『有力な援護軍だつた』と訂正。
- 八行『大衆の中に根』の『根』を『限』に訂正。
- 五頁三段一行『地主の土地を無償で』の『償』を『僕』に訂正。
- 六頁四段終から四行『同じ様』を『同じ』に訂正。
- 七頁三段三行『首領に』の『領』を『戴』に訂正。
- 十頁三段三十行『共産主義者の活動』を『共産主義者の活動』に訂正。
- 十頁二段終から六行『帥首して』を『帥首して』に訂正。
- 一段終から九行『同じ他』を『同じ』に訂正。
- 十二頁、三段、二十二行『（又労農通信員）』を『労農通信員』に訂正。

赤旗

第60号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

★

當面の問題

ファシスト独裁への＝急＝行

目次

▼當面の問題——ファシスト独裁への急行——　一頁
▼帝國主義戰爭反対を如何に行ふべきか？　九頁
▼戰爭反対の斗爭を強化せよ！　十頁
▼鐵の火花　十三頁

（一）戰爭と「國際聯盟」

最近のブルジョア出版物——新聞、雑誌、書籍その如何を問はず——は、全て忠君愛「国」主義、排外主義の宣伝煽動に大童になつてゐる。只に出版物のみならず、ラジオに、活動寫眞に、講演会に、等々、一言にすれば支配階級の有ゆる全ての機関が同一の方向に向けられて動いてゐる。

軍事探偵中村大尉の死をキツカケにし、万宝山事件を取入れての対支那との戰爭は日本帝「国」主義者の計画通りに進んでゐる。我党が九月十八日事件直後に発表した檄は正しく事件の真相をバクロした。我々のみが、満洲及び北支那全部を占領し、ソヴエート同盟を侵略せんとする日本帝「国」主義者の狡猾な、野蛮な行動をバクロし得た。ブルジョア政党の全ては、民政党政府のやり方が軟弱に過ぎることを指摘する以外になかつた。社会民衆党は口を閉ぢて陰に廻つては直接にこの支配階級の行動を援助したし、且援助しつゝあるへ後に詳述する）。労働者農民及び小市民を打つて一丸とし、清濁併せ呑むと称し、尚その上に、一切の反ブルジョア勢力を結集してゐると、鳴物入りで（雑誌「労農」がそのオーケストラの構成員である）喚いてゐる（大道音具師かチンドン屋の如く）労農大衆党は「戰線拡大反対委員会」といふインチキ看板をかけるものを作つて（事実上それは新聞紙上への広告に過ぎない）はゐるが、日本帝「国」主義が支那の略奪より進んで、ソヴエート同盟の利益を打ち壊さう（直接には東支鉄道破壊と占領）としてゐることには一言も触れないし、勿論、それに反対する具体的行動は少しもやつてゐない。

我々は、北大営の「鉄道破壊」が支那官兵（軍閥の手に在る）に依つて行はれたといふ事が今度の戰爭の原因ではなくて、真の原因は帝「国」主義の支配資本主義制度の存在それ自身の中にあることをバクロした。（「赤旗」第五十五号及び満洲問題に関するパンフレット参照）。事件の発展は我々の意見が正しかつたことを証明してゐる。日本の帝「国」主義軍隊は南満洲鉄道に附属する地域の防衛といふ名目の下に、事実上は、北支那全土を占領してしまつた。張学良へこの反動軍閥の一代表者）と蒋介石との妥協は日本帝「国」主義者の満洲に於ける植民地化に対する脅威であつた。機を見て張学良を駆逐し、日本帝「国」主義者の意の儘に動く他の反動分子を以て代へるといふ事は、既に限、藤撰の時から企てられてゐたことである。

日本の軍隊は四平街——郭家屯——洮南——昂々渓鐵の線きであり、東支鉄道のハルピン——海拉爾——満洲里線と交つてゐる昂々渓——チチハル線の占領にまで進んでゐる。九月十八日事件の其の夜既に東支鉄道の長春——ハルピン線に属する寛城子駅の近くにある支那軍の兵営を占領したのであつた。更に満鉄とは相当の距離にある錦州城の攻撃を敢行した。かくて全満洲に亘つて「我が精鋭なる皇軍」の威力は示されたのである。「満蒙に於ける日本の権益擁護」「全問題の解決」といふスローガンの下に日本の帝「国」主義者は一挙にしてソヴエート同盟の権益破壊に躍進しつゝある。

我々は茲で、東支鉄道を支那軍閥が完全に占領し、ソヴエート同盟の労働者を捕縛し、銃殺した当時、それに対してソヴエート同盟の赤衛軍が全世界の革命的プロレタリアートの支持と声援の下に日本のソ支條約の実行を迫つたのに対して日本の社会民衆党及び日本労働総同盟が東支鉄道を支那へ反動軍閥の手に返せと叫んだことを想起して置かう。そしてこの社民党が、日本の支配階級の積極的侵略政策を支持してゐることを指摘する。この政党が如何なるものであるかを知るに最もよきポン

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労働者団結せよ！
P.2 赤旗 1931.12.13

の小さい実例の一つとして、

日本軍閥が満洲を占領した事と関聯して『平和の柱石』と称する国際聯盟の態度をもう一度観ることが必要である。聯盟が『平和の柱石』でないことは、数度に亘る軍備縮小会議が軍備拡大会議に終つてゐること、ソヴエート同盟の提唱せる徹底的軍備縮小に反対せること等に依つて実証されてゐる。国際聯盟とは当該時期に於ける帝国主義列強国の実力に応じて国際諸問題を解決し、ソヴエート同盟攻撃戦線の統一を計る機関である。だがその中の前者は、結局に於ては武装力即ち戦争に依らずしては解決し得ざる問題を一時的（それも極く短時日）の妥協に依つて労働者農民の眼を欺いてゐるに過ぎない。何故なら、資本主義が存在する限り、満洲に於ける帝国主義時代にあつては各国の資本主義発展の不均衡性に依つて、所謂実力なるものが不動であり得ないからである。この不均衡的発展が必然的に解決し得ざる矛盾を増大し、戦争――それに依つてのみ新しい勢力関係が決定される――に到るのである。故に、国際聯盟はその決定に対し何等強制力を有たないし、且つ持ち得ないのである。

今回の満洲占領問題に関して国際聯盟理事会は、日本軍隊の撤退を決議したけれどもそれは当事国代表たる日本の反対投票の下に於てであつた。だからたとへ十三対一の決議採用であつても何等のさを持たないのである。勿論これが絶少国に関する限りに於ては別問題である。日本はこの決定に対して断乎として反対し、聯盟脱退をも敢えて辞せずといふ強硬な態度を見せた、即ち、戦争をやるといふならやつてもいいといふ腹を見せたのである。併し乍ら英米仏へ正しく言ふならば現在アメリカ帝国主義に対する日英仏帝国主義のブロックが明瞭に現はれてゐる。このブロックは日本帝国主義の満蒙強奪戦争を契機として強化されつゝある）は、現在の情勢（十一月十五日）では対日戦争をまだ行はぬ形勢にある。それは第一に、日英米仏等の各帝国主義列強が支那領土の再分割を断念したからではなくて、それとは反対に、外交的手段に依つてこの再分割をやらうとしてゐること、第二に、対支再分割問題と同様に重要なるソヴエート同盟侵略（武力干渉）問題に関する一時的協定を必要としてゐることに依つて説明される。（国際聯盟が日本帝国主義の満蒙掠奪等を公然なりとし之を積極的に支持した最大の理由は英仏帝国主義が彼等の指導する欧洲を中心としたソヴエート同盟に対する国際干渉戦線に日本帝国主義を一層積極的に引き入れる為であつた事は明らかである。アメリカ帝国主義の『静かなる態度』も亦国際干渉戦の最高の指導者となつたアメリカ帝国主義の老獪なる意図を説明するに役立つだけである。）而してこの二つの理由は、第三の理由たる対内向題の解決、即ち自国の革命化しつゝある労働階級と農民大衆をして国際聯盟が平和の使節なるかの如く思ひ込ませるといふ企ての遂行を伴ふのである。換言すれば、『平和の使節』たる国際聯盟が『世界平和』の為にソヴエート同盟を攻撃するのだといふ様に、反ソヴエート戦争を合理化せんが為である。帝国主義者は誰が自分の真の敵であるかを充分に知つて居り、その敵を倒す為には根同志が手を組み合ふのである。故に、況し、今後聯盟理事会議が日本帝国主義にとつて有利に転向するとすれば、その次に来るものは、英米仏等からの対支出兵、軍事行動であり、東支鉄道への襲撃、外蒙古へソヴエート同盟と非常に密接な関係を有する独立共和国（ブリヤート・モンゴル人民革命党）の支配的政党たる革命的国民党はコミンテルンの友誼的関係にある）への攻撃等に依つて集中的に東方よりソヴエート同盟を攻撃することである。何れにしても支那の再分割とソヴエート同盟への武装攻撃といふ帝国主義的目的が変更されることは絶対にあり得ない。

現に日本では、現に早くから、張学良、馬占山の後に赤衛軍が尻押しをしてゐるとか、ブラゴエシチェンスクから赤軍がアムール河を越えて来たとか、又は東支鉄道に依りダヴリヤから満洲里を経てチチハルに軍器が輸送されたとか等々の逆宣伝を飛ばしてゐる。日本の資本家、アメリカ、イギリス、フランスの資本家が或は張学良に、蒋介石に、馮玉祥に、或はポーランド、ルーマニアの政府に直接軍器兵器を送つてゐたこと（及び現在送つてゐること）に関しては一言も言はぬのである。日本が張学良に貸りつけた武器と か飛行機等は今度の戦争で再び日本軍の手に戻つたといふことは日本のブルジョア新聞が誇らしげに書いてゐるではないか。彼等は、自分がやるから他人もそうだらうといふのど、もう一つは意識的に反ソヴエート熱を煽るためにかうしたデマゴーグを飛ばしてゐるのである。かくの如き逆宣伝に関してソヴエート同盟労働者農民政府は日本政府に対して十一月十四日付で長文の警告的声明書を発表した。その中で、労農政府は『他国の主権及び独立を尊重する伝統的不変の平和政策より生ずる最正不干渉の政策を行ふ』といふことを先に声明し、それが日本政府に依つて満足されたにも拘らず、日本の軍部は労農政府が支那の軍閥を援助してゐるといふ『絶対に根拠なき風説』を……伝播し、以て虚構の事実の流布に従事してゐる事実を』バクロし、（声明書は言ふ『これらの風説が公式の筋より出たものである事は疑ひ得ない。十一月十二日奉天の日本代表が発表した公式声明で実証されてゐる』と、）更に、『日本軍司令官はチチハル方面に於て東支鉄道を越ゆる準備をなし、労農聯邦に実質上の損害を加ふる恐れある鉄道の運転妨害をなさんとしつゝありとの情報を得受した』と述べ、日本政府に警告を発してゐるのである。（声明書よりの

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労働者団結せよ！
P.3 赤旗 1931.12.13

引用は東京朝日新聞十一月十五日付朝刊に依る）。何口の政府が真実を誌へてゐるかは明白である。

国際聯盟も我々は支那分割・植民地化の為の強盗戦争の組織者であり、ソヴエート同盟に対する『無力』について語る事は誤謬である。社会民主々義者の或る者は国際聯盟のこの『無力』について饒舌する事に依つて上級せる如き性質特にソヴエート同盟に対する国際反革命の組織者たる事を大衆の眼から蔽ひ隠さうとしてゐる。我々は次にこの聯盟の手先である第二インターナショナルの行動をも考慮しなければならぬ。カールカウツキーの言を借りれば『第二インターナショナルは平和の時の機関であるが、然り、そうして一九一四――一八年の第一次世界戦争の時に第二インターナショナルは国際プロレタリアートを裏切つたのである。而して今日では反ソヴエート同盟戦線の先頭に立つてゐる。日本の社会民衆党が意気投合してゐるマクドナルド、ヴアンダーヴエルド・トーマ等々の行動を見たゞけで充分である。我々が本文に於て、東支鉄道問題の時演じた社会民衆党の役割を想起したのは正にこのことの証明である。第二及び第二半

将校大会を開催し、後でそれを聯盟の発会式にする予定であつた。而してこの聯盟を中心として十一月三日を期しクーデターをやらんとした。

その計画に依れば、靖国神社にこの十一月三日□□家主義者数百名の下に在京の在郷軍人（予定五万）を糾合してその場に於て日本帝□の危機を説き、四王天中将をして在郷軍人を引率せしめ、宮城前に向けさせる。一方某日某所に将校と社民党の書記長赤松と会見した結果に依り、十一月三日赤松をして社民系の労働者を煽動させ、ブルジョア新聞、オ一に朝日新聞社を襲ひ、暴動化させること。而してこれの鎮圧を名として麻布三聯隊及び近衛兵三ケ中隊を出動させ、各新聞社を襲撃すると共に、宮城前に向へる四王天中将を先頭とする在郷軍人と合流し、天皇に強訴して聖旨を乞ひ、東京に戒厳令を布く。それと同時に内閣、政民両党本部、日本銀行その他の金融機関並に全ての□家機関を占拠の上、天皇の独裁政治を行ふこと。そして新聞としては日本新聞と『つはもの』（軍人の機関紙）のみを発行する予定であつた。

この計画作製者は小磯軍務局長及び参謀本部オ一部長（アジア方面）建川少将、軍隊の中心指揮者としては士官学校二十六期及四十八期卒業生が当ることになつてゐた。更に海軍の飛行隊も参加する予定であつた。

けれどもこの計画は仲間割れの結果事前にバクロされた。その結果として

オ、在郷軍人の靖□神社への□家主義者参拝願は中止された。

□、朝日新聞社は満洲派遣軍に一万円を出資し、報知新聞社は二十二日に優されることになつてゐたソヴエート友の会に会場を貸すことを中止した。

八、保護検束された将校達は保護の名の下に某温泉に居るとのこと（根本中佐は十一月十七日満洲へ出発した）。』

以上の事実は何等の説明をも要しないであらう。ブルジョア新聞は何故このことを発表しなかつたか？彼等は発表することを禁止されてゐたばかりでなく、発表する意志をも持たなかつたのである。只東京毎夕新聞が十月の下旬にこの問題に、それとなく触れてゐる。同紙は『営視廠では最近軍部と関係ある一部のものが何等かの行動に出でんとするといふ流言を警語を流布するものがあるのでそれを厳重に取締ることにした』と書いた（時日不明）。又、丁度その頃守通内相は高橋警視総監を伴つて若槻首相を訪問し、幣原外相、川崎書記官長等と共に『帝都警備に関する重要なる協議をした』（ブルジョア新聞の殆んど全てが書いた）。『東洋経済新報』（オ一四七三号十月三十一日発行）は次の如く書いた。日本では非合法的傾向（ここでの意味は支配階級が政治を行ふ上に関してもといふのである）が愈よ深刻化してゐる。『一言にして、我□の政治は、常に一種のクーデターが行はれてゐるに等しい。……二月十四日の本誌に於て、我社会の非合法化……を指摘したが）……最近の我□情を見て愈々声を大にして、此警告を繰返すの必要を痛感するを遺憾とする。かく言ふ理由はこゝに具体的には述べ難い。記者にはその自由が許されてゐない。がたゞ抽象的に次の如く説くことは出来るであらう。曰く、我□今日の政治経済状態に対する□民の不満と失望とは意外に深刻にして、其結果は、元来最も合法的なるべき思想の持主（即ち反動主義者）の間にすら最早合法的なることに我慢し切れぬ情勢を現はしつゝあると』。以上の引用が何を物語つてゐるかは前に詳しく述べたことに依つて明白である。東洋経済の記者は更に続けて曰く『□政全体に不満を抱いて、非合法運動を企つるもののあらば、之□乱るゝの兆である』と。更に又、十一月十五日東京朝日新聞社説『其後に来るものを警戒せよ』は、政党内閣が無力である事を述べつつ、今日の情勢が或は『議会否認の情勢』に行く事の危険を説き、最後に言ふ『我会政治の否認が左翼的思想によるも、右翼的思想から来るも、共に暴力を伴ふものであり、一方が他方を、互に刺激しつゝその対抗を尖鋭にし社会不安を大にする実例は海外に見る所の如くである。政治家が目前の打開にのみあせらず、その後に来るものを警戒する必要はこゝにある』と。

是等の引用は、支配階級内部に大きな動揺が起つてゐることを証明してゐる。支配階級は現に**今迄通りのやり方では支配出来なくなりつゝあるのだ。**

そこで彼等はファシズムへと向つてゐる。ブルジョア新聞、雑誌は公然とこのことを言つてゐる。ファシスト独裁への移行――それは一晩の内に出来るのではない。一方に於ける軍部の直接行動と他方に於ける大衆に対するイデオロギー的準備とが足並揃へて進むのである。『日本新聞』、『日本社会主義』、『新保守』、『祖□』、『日本及日本人』等々、大日本生産党の組織も亦数へ上げられねばならぬ。勿論これらすべてが皆同一主張の上に立つてゐるといふのではないが、根本的には天皇中心主義（それを名とする金融資本の最も露骨な独裁政治主義）たることで、全部一致する。

青年団、在郷軍人団の動員、軍人を講師とする『時局問題演説会』等々も亦それの一部分を為す。かくて、支配階級は広汎な大衆の間にファシズムの毒素を吹き込むことに馬力をかけてゐる。没落しつゝある小ブルジョア層、（我々が破滅せる広汎な農民層を考慮に入れることは特に重要である）と労働階級中の後れた層とに対して特にそれは精力的である。社会民衆党が早くもこの運動に参加してゐる事は当然である。（前述の外、社民党の片山外三名の満洲視察員は軍部から出てゐるといふ事実がある。）

戦争開始とファシズムへの急速な移行について述べて来た我々は次にその原因を見なければならぬ。

（二）経済危機の深刻化と階級斗争の激化

ファシスト独裁制の施行は既にイタリー、ポーランド、ルーマニア、フインランド、ユーゴースラヴイア、ハンガリー、チエッコスロバキア、バルカン諸□に見られて居り、ドイツに於てはブリューニング内閣がその第一段階を形成してゐる。イギリスに於けるマクドナルドの挙□一致内閣も亦同断である。こゝで注意す可きは、イタリー、ポーランド等と、ドイツ、イギリス等に於てはファシズムは其の成立の過程を異にしてゐると共にその形態をも異にしてゐることであるが、このことはファシスト独裁の階級的性質に関する我々の解釈を何等変更するものではない。マルクス主義者のみが種々なるファシズムの型をその具体性に於て取り上げ得たのである。ファシズムとは戦後資本主義の一般的危機に於ける金融ブルジョアジー独裁の一形態であつて、その根本には依然として私有財産制が横たはつてゐる。その上に立つて、最も無慈悲的に、最も野蛮に労働者農民を搾取し弾圧する支配形態であり、ブルジョア・デモクラシーをも踏みにぢるものである。嘗ては、新興ブルジョアジーが戦斗旗としてかゝげた『自由、平等、博愛』は金融資本の独裁謳歌に取つて代られた。注意すべきは、ファシズムとブルジョア・デモクラシーとの間に根本的相違を設けやうと（社会民主々義者が行つてゐる如き）してはならぬ事である。このニつはブルジョアジーの独裁といふ一つのものゝ異つた形式に過ぎない。要は如何なる条件がかゝる異る形式を採用せしめたか、そして、それに対して我々プロレタリア党は如何に斗争す可きかを正当に認識し、進出するにある。

『政治は集中化された経済である』。政治形態の変動の底を流れるもの――そこには、物質的基礎がある。生産関係がある。我々が本文の（一）及（二）に論じた情勢の底を流れるもの――それは今日、日本資本主義が当面してゐる深刻な経済危機である。（附一）

此の問題には度々言及してゐるので簡単にする。

（イ）生産制限。セメント工業の五十七％、丸鋼の六十五％が最高であらう。紡績業は、従来の操業短縮（事業縮少）の上更に、本年末に際しニ〇％の操短を行ふことになつてゐる。これは資本主義制度でないならば使用出来るところの機械を遊ばせて置くこと、材料を腐せて置くことを意味する。即ち社会にとつて必要であるにも拘らず少数資本家団の利益にならぬといふ理由で社会的生産の発展が阻止されてゐるのだ。平均すれば、日本にある生産機関の約四割位までが故意に、（資本家の為に）その活動を止めさせられてゐるのである。失業者の続出、鉱死者の続出、衣食なしでゐる人々が街頭に充ちてゐる時に、資本家の倉庫の中では、これらの人々を生かすために必要な品物が、腐つてゐるのである。この一つだけを取つて見ても、資本主義制度の下にあるから生産力の発展が阻止されてゐることが明白である。

（ロ）農業危機の深刻化。農業危機は農産物価の急激な下落に特に明らかである。例へば、繭価の下落は一九三〇年と二九年との比較に於てすら既に呑潮で五五・二％、秋繭では六三・九％になつてゐる。（社会政策時報十一月号一六二頁）。又、農産物全体を取つて見るならば、（東洋経済新報十月三十日号）一九二九年平均に対する一九三〇年十月の下落率は実に四七・二％に達して居り、（他方、農村需要品の下落率は二二％である）一九三一年十月迄めの対一九三〇年五月の下落率は三五・一％になつてゐる。これと同時に、『農業の不振』は農産物数量の絶対的減少にも現はれてゐる。例へば本年の米作豫想高は（農林省発表）五千五百二万七千九百十石（オ二回予想）で前年実収高に比し一七・七％、前五ケ年平均収穫高に比し九・六％の減少である。養蚕方面でも春繭は昨年に比し六・一％の減少（価格ではなしに貫目である）、夏秋繭は『蚕繭中央会では二四％減』と見て居り、『横浜の某問屋が全□の有力製絲について調査したところでは、二割減以下の地方二十二、二割以上三割までの地方が四十、三割以上四割までの地方二十二、四割以上の地方六、最高は六割減に及ぶ』のである。（東洋経済新報）。政府ではこれらの減収を天然の妨害、即ち風水害の結果であると発表してゐるが、それは全く虚偽である。生産力発展を喰ひ止めてゐるものは自然力ではなしに人間であり、現存せる経済・政治・社会機構がこの発展を阻害してゐるのである。

（ハ）税金滞納の増加。例へば横浜税務署管内での□税滞納を見るに、地租附加税の査定額に対する納入率は僅に二九・三％、雑種税のそれは一一・五％家屋税附加税のそれは二〇・八％に過ぎぬ。資本家が□税を出さないといふ状態にあるのだ。顧みて農村を覗るならば更に悲惨な状態にある。□税に対しては『三大厳粛の遂行といふ美風があるのでその滞納者は比較的尠いが、地方税の滞納が急速に増加してゐる』と或るブルジョア学者は語つてゐる。例へば東京府農会の発表に依れば『諸税の滞納は止むなき次第にして……近接町村に於ては七割の滞納を見るに到つた』。長野県では、『査定額の納期内納入額は一九二九年の七割一分に対し一九三〇年は査定額に於て約二百万円（二割）を減じてゐるにも拘らず六割三分に減じ……納期内完納町村は二九年の二二ケ町村から八ケ町村に着減せる有様である』。（社政時報）

（ニ）労働者勤労農民大衆及び都市小ブルジョア層の生活条件の低下。二百五十万の失業者の存在自体が最も雄弁に語つてゐる。欠食児童の続出。東京

有下丈けでも四歳食幼児二千名、学童三千名四、横浜市内小学校で四盛劇飲食児童九百廿人四(ブルジョア新聞より)に達し、又郵便局も此の同題を黙視し能はず四弦楽週間四の名目で四貧婦人四を動員し、東京婦人聯合会を先頭に立てゝ偽瞞政策を講ぜざるを得なくなつた(十一月十五日より)。農村でも都会でも小学児童の修学旅行廃止が日程に上されてゐるばかりでなく、学校上不可能になつてゐるところが沢山ある。都市小ブルジョア層の窮乏的気分は淫売婦の著しき増大、刹那的享楽への逃避(エロとグロとのカフエー、バー等々の日覚ましき増大)、生活難に基ずく自殺者の増大等に表はれてゐる。農家の苦悩は生活費の極端なる節約に向はしめてゐる。農村の借金もそれが多くは地主の為であるとは言へ、中小貧農の借金は生産の為めではなしに、実に生活費に当てられてゐる。例へば大分縣では四農家の負債は約六千万円で、その九一七%が個人負債であり、その負債原因は農業生産資金に三〇%、生活資金に七〇%と云ふ甚だ驚ふべき結果を現はしてゐる四(社政時報)。

斯くて、生産制限は失業労働者を生み、労働強化、賃銀値下げとなり、労働階級の生活条件の絶対的低下が資本主義の下では必然的であることが事実に依つて証明されてゐる。而して勤労農民大衆も都市小ブルジョア層も行き所のない生活苦の泥濘に追ひ込められてゐる。

階級斗争の激化はこうした情勢の上に立つて進んでゐる。(ポニ)

(イ) 試みにストライキ、争議を見るならば、日本年上半期の争議発生件数は一、〇七九件に上り最近年に於けるレコードであつた。昨年同期の七二八件に比し両三五一件の増加であり、参加人員に於て約七、六〇〇人の激増である四(全日協試会調査部発表のものに依る)。注意すべきは唯に件数及人員数の増加のみではなく、ストライキ・争議の性質である。改良主義者が争議団の指導権を握つてゐた所でさへも大衆はそれ等改良主義者の意志に反抗して、それらの指導を乗り越えて先へ進んでゐることが一つの特徴である。破壊せる警官との石、瓦、コン棒等での応戦は大阪の住友製鋼所、東京の光学工業、羊田鉄工所等々で見られた事実である。煙突戦術、モグラ戦術(九州の炭山)、ハンガーストライキに依る工場内の籠城戦術等は絶余的戦術ではないが、大衆の間にある偉大な沢意性を証明するものである。大衆的交渉戦術はある程度まで普遍化されつゝある。争議の持続性も亦労働者大衆の中にある不ハリ強さを示すものである。プロフインテルンが四経済斗争を四といふ政策を採用したことは、労働者階級の要求を正しくとりあげた為のである。我党及び全日協試会はこの政策の下に斗争して来た。そして本年上半期に指導又は参加せる争議、ストライキで調査済みの件数は一、〇七九件、(約一三%)となつてゐるが実際にはもつと多いのである。この中、従業員五〇〇名以上を有する工場は一二である(前掲調査に依る)。是は我々が工場内の大衆と結び付く決定的転換の方向へ踏み出してゐることを示すものである。

経済斗争の政治化の条件は備はつてある。我々の積極的にして、飛躍な、そして巧妙なる活動のみがこのことを労働階級の有利な方へと発展せしめ得るのである。この中は、我党及び革命的諸団体が(同盟、組合、モツプル、文化団体、反帝諸々)危険に立つた政治的デモンストレーションにおても見る事が出来る。就中十一月七日革命記念日のデモンストレーションの結果は我々の方向が明じて現つてゐないことを実証した。大衆的政治的ストライキ組織の問題が日程に上されねばならぬ。

(ロ) 農村に於ける小作争議。此処での情勢は従来の如く単に小作料の一時的減額及び支郎的地位を占めるのではなく、農業問題の中心たる土地所有問題に関する争議が中心となつてゐることである。至当な我々の計画化は必然的に小作人(茲では貧農小作人を云ふ)の斗争を土地問題の解決に向はせる。小作料関係の争議が一九二七年以来漸減して居り、小作取高僅の争議が激増してゐるのはこの間の消息を語るものである。社会局の調査に依れば、前者の合計は一九二六年——一、九一三、二七年——七、一五八、二八年——八三八、二九年——一、〇三一、三〇年——九二六、三一年上半期——四六三件であり、後者のそれは、七一、一二二、一九一、三九三、六四八、八二四件となつてゐる。(社政時報)

争議の形態が非常に戦闘化してゐる。土地立入禁止、立毛差押へに反対する**大衆的行動**は日本口中至る所で見られた。地主宅の襲撃(新潟、王番田、山梨等)、警察官との衝突(秋田前田村)、は一、二に留まらない。最近では裁判所の傍聴席を占領し、捕はれてゐる前衛分子の為の要求を貫徹させた(富山)り、又は、警察署に大衆的デモをやり、捕はれた人々の釈放を要求したり(埼玉、寄居町)する事件が続々と生起してゐる。これは農村での階級斗争が更に戦闘化して居ること、**大中地主の土地を団体的に、武装して没収する農業革命の前哨戦**とも見られるのである。

(ハ) 小職人(大工、左官、石工、等々)の階級斗争への参加。近代都市建築技術の発達はこの種の社会層を各自独立した存在から一大建築工場、一大請負組の下に分業的共同作業の下に統一、集中せしめてゐる。封建時代の所謂叩き大工も今は柱ケヅリ、鉋掛に当てはめる、板ケヅリ等々の小部分の仕事しかやらない様に変化するものが多くなつた。中でも石工、左官はビルディングに圧倒的多数を吸収されるに至つた。即ち資本主義的生産関係の下に置かれる様になつた。そこから階級斗争への参加が必然的に起つてゐる。

東京市内二千名の石工は賃銀値下げに反対して十一月中旬にストライキを行ひ、それが為に上野停車場の本建築工事が予定より非常に遅れたのである。封建的伝統の中に埋れてゐたかゝる社会層の中から階級斗争の戦士が陸続と生れ出でつゝある。

(ニ) 一般使用人大衆の進出に関しては我党のパンフレツトの経済斗争の独自的指導四参照せよ。

(ホ) 学生層の新しい進出。文部省の精力的活動(反日主義、排外主義的)と攻勢、司法省の徹底的弾圧政策に屈せず、各大学、高等学校、師範学校等々に学生運動が盛になつてゐる。而して、支郎階級の当事者をして四赤化学生(赤化教員)は成績優秀のものゝみに多いことは甚だ驚ふべきことである四と嘆ぜしめてゐる。学生運動は一方に於ける反動的スポーツ運動、口舌運動の発展に伴らず大衆的になりつゝあり、而も、それは学校内の問題に関する抗議、要求のみでなく、プロレタリアートの革命運動を公然と支持する要求を掲げて来る傾向が了然としてゐる。

(ヘ) 階級斗争の激化は労働階級の整出一般からのみ観られるのではなくプロレタリアの前衛部隊たる共産党の努力の増大といふ点からも観られねばならぬ。何故なら共産党のみが階級斗争を正しく、徹底的に行ひ得るからである。階級と階級との斗争は政党対政党の斗争に現はれる。民政党、政友会を始めあらゆるブルジヨア政党より、社会民衆党、労農大衆党に至るまでの全てが一致して日本共産党に反対して、それを四撲滅四せんと無意してゐる。**我党の組織内に獲得されてゐる数が未だ少数であるといふことは、我党の政策が労働者勤労農民の多数に支持されてゐないと云ふことにはならぬ。**我党の存在は支郎階級とその一切の走狗、手先共の悪労働者大衆、土地を求めて斗争してゐる農民大衆の前に革命的力として理解されつゝある。支郎階級が四共産党は全滅した四、四共産党の首謀者拘縛さる四四共産党の再建運動は双葉の中に刈り取られた四とか様々新聞紙を通じて宣伝し乍らも、尚四赤化教員の一掃四に狂奔したり、大学教授、検事等を動員として小中学校長、専門学校長に講義を聴かせたり、四極左分子の一掃四に最大の努力を拂つたりせざるを得ないのは彼等の声明が事実とは全然反対なることを実証する。日本のブルジヨア地主が経済危機の深刻化に当面してプアシスト独裁へ急ぐ根本的理由は、吞彼等をして此の方向へ押しやつてゐる力は四外敵四ばかりでなく、資本主義の基盤り人としてのプロレタリアートの階級的成長、共産党及びそれに指導される革命的大衆団体の勢力の増大である。徳田球一等が東京日々新聞紙上で四外敵より七四数に当れ！四と叫んだのは正に是の事を云つてゐるのである。

金融ブルジヨアジーは**警察的軍事的**天皇制と議会政治とを併用して来たが、そして数年来政党内閣を最も好都合なものとして来たが、今では議会を廃して**警察的軍事的天皇制のみに依る**反動形態を望んでゐる。それは**軍閥の勢力を中心として**行はれるであらう。皇族をかつぎ上げたり、宇垣や荒木等を出して来てゐるのはそれの小手調べである。日本の天皇制は山川均等の言ふ如く極度なる過去の遺物ではなく、一ケの勢力を有つてゐる存在である。それは金融ブルジヨアジーと密接に結合してゐるが故に、金融ブルジヨアジーの覇権の下にある資本家地主の権力——その集中的表現としての**警察的軍事的天皇制**といふ我々の規定はそうした意味であることは度々述べてある。そして、それ故に解党派の見解は全然誤りであり、四天皇を倒せ！四は我々の中心的斗争目標となつてゐるのである。

現在起とれてゐる天皇奉戴運動——ファシズム的独裁政治運動——は試会に依る法律の採用を待たずして、天皇の名に依つて直接に革命運動の弾圧、労働者農民に対する搾取をほしいまゝにし様といふ運動である。

(2) **然らばファシスト独裁は日本資本主義の諸矛盾を解決し得るか？**と云ふに、我々は否下に否と答へる。失業者の大多数は戦線へ送られて肉弾とされるであらう。非生産的生産(軍需品製造)の増大は経済生活の復活を齎すのではなく、反対に生産秩序の破壊となる。

一労働者農民の貧窮なる生活は向上するか？断じて否、千度も否である。より以上の困窮のみが被等を待つてゐ

る。イタリー、ポーランド等の実例がそれをよく証明してゐる。

階級斗争を弱めることが出来るか？

是も否である。資本対労働、地主対農小作人の階級斗争は資本主義が存在する限り継続し、益々激化するのみである。共産党の勢力を駆逐することも絶対に不可能である。十九世紀の終り頃ドイツのビスマルクが社会主義鎮圧法を施行して失敗した例、日本で治安維持法（死刑法）を実行してゐても共産党及び革命的大衆団体が唯に滅亡しない丈けでなく、愈々その力を増してゐること、又、ファシスト的組合以外のものが非合法とされてゐるイタリーで共産党、革命的組合の勢力が増大してゐること、ピルズツスキーのポーランドで七千人の共産党員を獄に投じたが少しも共産党の力が劣へず、労働階級の多数者獲得に決定的成功を納めつゝあり、且つ西ウクライナの革命的農民運動の先頭に立つてゐること——半々。

（3）ファシスト独裁制の施行はブルジョアデモクラシーの階級的假面をはぐことを意味する。ブルジョア独裁の生地をその儘出すことである。労働者勤労農民はファシズムに依っては決して生活の向上を得られないことを体験に依つて知らしめられるであらう。その時に、ソヴエート同盟に於て社会主義建設に励んでゐる労働者農民の生活ぼ、今日に数百、数千倍の大衆の眼にその革命的光明として映ずるであらう。

（五）我党の任務

日本に於けるファシスト独裁政治への移行は今日では現実の問題である。我々はファシスト独裁の日本に於ける特殊なる型として絶対君主的ファシスト独裁を展望したのであるが我々は之と共に協力内閣樹立の運動にあらゆる戦術ではなく、大衆の間に侮蔑的（それは往々革命的言辞にさへひゞくのだ）思想を吹き込み、大衆をして二の試断政治を支持せしめる様にするものだからである。我々は工場内で、職場内で、あらゆる場所で政治を論ずる自由を獲得しなければならぬ。ファシスト独裁政治に反対する活動は工場、職場内、田畑の上で始められ、展開されねばならぬ。此の場合忘れてならぬことは、ファシズムはブルジョア独裁の一形態であるとゝふことである。

ファシズムに反対する斗争は如何なる組織形態を採るべきか？考慮すべきは、第一に前述の如く、工場を基礎とするものであること、第二に、工場内の諸問題と結び付けて行はるべきこと、第三に、下からの統一戦線戦術を適用すること——即ち出来るだけ広汎な大衆を把握しなければならぬこと、從つて第四に、出来得る限り合法的に行はれる様な形態にすること——即ちファシズム反対を核として合法的活動等台を作り出すことであつて、非合法活動の拒絶であつてはならぬこと、第五、ファシズム反対と戦争反対とは紙一重の関係を有するから二の両方を一緒にしたものを作り得ること、第六、二の組織形態は先づ顕だけ作ると云ふ方法から始めらるべきではない。即ち、各大衆団体の代表者がコツソリ集つて例へば「ファシズム反対、帝国主義戦争反対委員会」と云ふ様な全口的指導機関を先づ作ると云ふことであつてはならぬ。但し、下からの運動を起す為に各団体の代表者会議でその具体的方法を協議することは差支へない。しかし飽くまでも大衆的に公然とやる様に努めねばならぬ、尚々である。そこで具体的には、どんな名称の下に工場、職場内の労働者農民を結合せしめるか？が問題となる。我々の考へに依れば、それは今日では全口的に統一された名称でなくともよい。大衆が最も関心を持つ様な名称が最も良い。二三の例を挙げれば「時局批判会」「満洲問題研究会」「戦争問題研究会」等。並で特に注意して置くが、研究会といふ名称は少数者のグループといふ感じがあるから宜しくないと云ふ意見もあるが、それは決してそうではない。一九二四——五年にあつた「政治研究会」が合法的に、且つ大衆的であつたことを想起するがよい。要は、それ〴〵の場所に相当する最も良い、大衆の頭にピンと来る名称が宜しい。ドイツ共産党が提唱して　且つ成功してゐる所の「反ファシズム同盟」といふ形態は日本でも応用出来るのである。

日本は今や社会的動揺の時代に直面

してゐる。我党の双肩には更に重い任務が負はされてゐる。ファシスト独裁への移行は我党の力如何に依つて決定せられるのである。「天皇を倒せ！」「ブルジョア地主政府を倒せ！」「ファシズムを倒せ！」「日本労働者農民ソヴエート政府の樹立」のスローガンは今日より精力的に宣伝煽動されねばならぬ。

共産党の積極的活動——それのみがプロレタリアートのヘゲモニーを確立し得、労働者農民の革命的同盟を強めソヴエート政府樹立を可能ならしめるであらう。（完）

【附記】

（イ）十一月二十日発表日本政府のソヴエート政府に対する回答戸明書中には明白に「日本軍が東支鉄道を破壊するか小知れぬがそれは支那軍を援助する資政府の責任である」と云ふ意味がある。

（ロ）国際赤色救援会では秘密会議で支部分割を決定しやうとしてゐる。理事会が始まらぬ前に書かれた本文は正しく予想した。

（ハ）中国共産党の活動には全くふれ得なかつた。併し、満洲に居る日本人共産主義者が我党の政策に從つて具体的に、非常に困難な条件の下で、反戦活動を行つてゐることを特に附記する。

脱漏補塡（印刷局）

（八頁ガ二段十四行目★印の個所挿入）

帝国主義戦争反対を如何に行ふべきか？

——帝国主義戦争反対斗争に現はれた一つの誤謬——

戦争問題に関して我党発行のパンフレットは殆んど全般的に亘つて解説した。共産党は戦争に対して如何なる態度を採るかを根本的には明確に規定した。我々の前に立つてゐる問題は、「戦争が始まつてゐる今日具体的にどうしたらよいのか？」である。（本紙オ四十五号にあつた同志石部の「軍隊内の活動について」は此の問題に関しても大いに参考になる）。

帝国主義戦争に反対する斗争は全口的、大地方的規模に於て行はれなければ効果なしとする意見方は、そうしてそれ故に一工場、一鉱山、一村、一字に於ける斗争を後廻しにしてもよいとする意見方は誤りである。帝国主義戦争をブルジョア地主政権打倒の為の内乱へ転化せよといふスローガンは工場農村に於ける階級斗争を基礎としての み可能である。全口的、大地方的一般方針が各地区、各工場、農村の具体的条件の下で活力あるものとならねばならぬ。

この斗争は帝国主義戦争反対の斗争と最も緊密に結合され村ばならぬ。ファシズムは戦争の準備と遂行に最も適合した支配の形態である。ファシズムは中心スローガンとして「日本と」帝国主義的領土侵略」を掲げてゐる。

（イ）召集令が来たらどうするか？・此の問題に対して全口協議会青年部中央書記局が全国銃砲弾薬製造労働者に下された緊急に反対する根本答へる「召集令に応ずるな！」と。此の答は誤謬である。少くとも現在に於ては誤謬である。何故ならこの答は戦争をボイコットする事であり、プロレタリア的斗争スローガンではないからである。労働者農民は武器を執らねばならぬ。ブルジョアジー地主に向けて発砲すべき銃を持たねばならぬ。我々は平和主義者ではないのだ。我々は消極的斗争方法をではなく積極的斗争方法を執らねばならぬ。武器を執つて、それの扱ひ方を知り、誰に向つて発砲すべきかを広汎なる兵卒大衆に解らせねばならぬ。その為には我々は軍隊内にはいらねばならぬ。召集令に応ぜずして捕縛され、銃殺され

戦争問題に関して我党発行のパンフレットは殆んど全般的に亘つて解説した。共産党は戦争に対して如何なる態度を採るかを根本的には明確に規定した。我々の前に立つてゐる問題は、「戦争が始まつてゐる今日具体的にどうしたらよいのか？」である。（本紙オ四十五号にあつた同志石部の「軍隊内の活動について」は此の問題に関しても大いに参考になる）。

帝国主義戦争に反対する斗争は全口的、大地方的規模に於て行はれなければ効果なしとする意見方は、そうしてそれ故に一工場、一鉱山、一村、一字に於ける斗争を後廻しにしてもよいとする意見方は誤りである。帝国主義戦争をブルジョア地主政権打倒の為の内乱へ転化せよといふスローガンは工場農村に於ける階級斗争を基礎としての み可能である。全口的、大地方的一般方針が各地区、各工場、農村の具体的条件の下で活力あるものとならねばならぬ。

この斗争は帝国主義戦争反対の斗争と最も緊密に結合され村ばならぬ。ファシズムは戦争の準備と遂行に最も適合した支配の形態である。ファシズムは中心スローガンとして「日本と」帝国主義的領土侵略」を掲げてゐる。

（イ）召集令が来たらどうするか？・此の問題に対して全口協議会青年部中央書記局が全国銃砲弾薬製造労働者に下された緊急に反対する根本答へる「召集令に応ずるな！」と。此の答は誤謬である。少くとも現在に於ては誤謬である。何故ならこの答は戦争をボイコットする事であり、プロレタリア的斗争スローガンではないからである。労働者農民は武器を執らねばならぬ。ブルジョアジー地主に向けて発砲すべき銃を持たねばならぬ。我々は平和主義者ではないのだ。我々は消極的斗争方法をではなく積極的斗争方法を執らねばならぬ。武器を執つて、それの扱ひ方を知り、誰に向つて発砲すべきかを広汎なる兵卒大衆に解らせねばならぬ。その為には我々は軍隊内にはいらねばならぬ。召集令に応ぜずして捕縛され、銃殺され

る事は何等の意義を持たぬ。大衆は例次召集令に応じなかつたかを理解し得ないのだ。かくの如きボイコット戦術は我党及コミンテルン、プロフインテルンの方針に反するものである。全口協議会中央部の党フラクシヨンはかゝる誤れる方針の訂正が急速に行はれるべく直に相当の処置を取らねばならぬ。

（ロ）戦場へ出た場合我々は如何に行動すべきか？・我々は常に大衆の模範であらねばならぬ。決して臆病であつてはならぬ。兵卒大衆の信頼がある時に始めて我々の言葉に大衆が耳を傾けるのだ。ニヒリスティックな行動、言葉は兵産主義者の採るべき態度ではない。勇敢な人、頼もしい人として兵卒大衆の間に信頼を得てこそ始めて大衆的に敵軍の兵士と手を握ることが出来且、赤衛軍と行動を共にすることが出来るのである。或る場合には、一人々々として赤衛軍に投ずることもあらうが大衆的に赤衛軍の一部隊に編成替へされる様に平常より努めねばならぬ。

（ハ）「出征せる兵士」としての態度は、大体に於て右に述べた如く、大衆の信頼を得てそこで反帝国主義の煽動宣伝並に組織的活動を行ふのであるが日本内地では如何にすべきか？・我々は例を小さく取らう。自分の工場から職場から、農村から召集された兵卒がある場合には、直ちに、その被召集兵を中心として一つの組織を作るべきである。入営兵士を送る会が各所に作られた如く、戦場へ行く兵士の為の会を

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！
P.10 赤旗 1931.12.13

我々のインシアチーヴに依つて作るのである。そして、出来得る限り、この兵卒との緊密な連絡をとり、工場、農村の出来事をありのまゝ知らせ、又、先方から、戦場の有様を聞くといふ風にしなければならぬ。この緊密な連絡こそが内地の階級斗争を軍隊内へ持ち込むことにとつて重要なのである。

此の場合、最も広く下からの統一戦線戦術が採用されねばならぬ。戦争が誰の為に、何の為に行はれてゐるか、そして殺されて行く兵士達の家族はどうされてゐるか、戦場に行かない労働者農民の生活はどんなになつてゐるかを分り易く説明するといふ仕事は此の組織にあつては重要である。党、同盟の細胞、労働組合分会、反帝・モップル等の班がこの組織の先頭に立たねばならぬ事は勿論である。

我々の右へに依れば、かくの如き大衆組織は特別に全国的機関を持つ必要は未だない。

（二）在郷軍人会、青年団の中での活動が必要であり一番であること、言を俟たない。

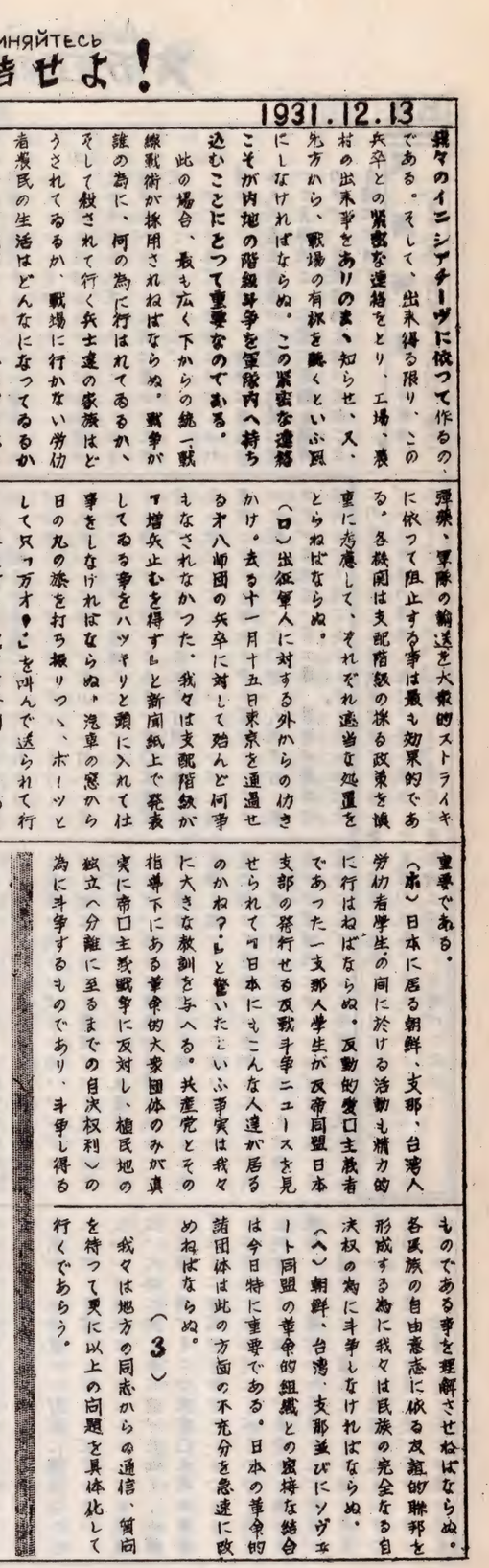
（2）

（イ）党、同盟、労働組合その他の革命的大衆団体は、只に帝国主義戦争に反対する思想を宣伝煽動するのみでなく、今日直に具体的に組織的活動を開始しなければならぬ。それは、何々委員会（例へば戦争監視委員会？）といふ機関を先づ作るといふ事ではなくて、各々の受持区域に於て戦争に反対する重要である。

（ロ）出征軍人に対する外からの働きかけ。去る十一月十五日東京を通過せるオ八師団の兵卒に対して始んど何事もなされなかつた。我々は支配階級が「増兵止むを得ず」と新聞紙上で発表してゐる事をハツキリと頭に入れては事をしなければならぬ。汽車の窓から日の丸の旗を打ち振りつゝ、ホ！ツとして只「万才！」を叫んで送られて行く兵卒に対して我々は安閑としてゐてはならぬ。見送りに行つた在郷軍人の声を聞け、彼等は何と言つたか？「ああやつて万々々と叫んではゐるが先方へ着くと皆がツカリして仕舞うんだからねエと。軍服を着てゐる労働者農民は戦場へ出て始めて「自分」を為へるのだ。我々は戦場へ行かない中に彼等に真理を語らねばならぬ。田中内閣が山東出兵を行つた時我党が行つた反出兵運動の経験を生かさねばならぬ。

（ハ）青年団十支援金運動に対して我々は断乎として反対せねばならぬ。支配階級は金を集めるだけでなしにそれを以て愛国主義、軍国主義の精神を行つてゐるのであり、その金高は然度を計るものである。故に此の運動に対する無関心的態度は許さるべきでない。

（二）工場内、職場内の、農場、農村の大衆の生活と戦争との関係が如何に



北支那の軍事的占領と、中国の再分割とソヴエート同盟侵略との二つの目的を同時的に果さんとする日本帝国主義者の策戦である。日本帝国主義者が行つてゐる軍事行動は、帝国主義者双方その使用人共の積力的直接煽動にも拘らず、決して「自衛的手段」でもなければ、勿論「正当行為」でもなく、侵略的——労働者農民に対する野獣的権取と弾圧を基礎とする——帝国主義的掠奪、殺戮行為であることが多くの労働者農民の前に明白になりつゝある。

重要である。

（ホ）日本に居る朝鮮、支那、台湾人労働者学生の間に於ける活動も積力的に行はねばならぬ。反動的愛国主義者であつた一支那人学生が反帝同盟日本支部の発行せる反戦斗争ニュースを見せられて「日本にもこんな人達が居るのかねア？」と驚いたといふ事実は我々に大きな教訓を与へる。共産党とその指導下にある革命的大衆団体のみが真実に帝国主義戦争に反対し、植民地の独立（分離に至るまでの自決権利）の為に斗争するものであり、斗争し得るものである事を理解させねばならぬ。各民族の自由意志に依る友誼的聯邦を形成する為に我々は民族の完全なる自決権の為に斗争しなければならぬ。

（ヘ）朝鮮、台湾、支那並びにソヴエート同盟の革命的組織との密接な結合は今日特に重要である。日本の革命的諸団体は此の方面の不充分を急速に改めねばならぬ。

（3）

我々は地方の同志からの通信、質問を待つて更に以上の問題を具体化して行くであらう。

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！
P.11 赤旗 1931.12.13

それの工場の具体的条件に依つて決定されるであらう」と。これでは何時まで経つてもはじまらない。我々は本文に於て之等の問題を解決すべき若干の例を挙げんとするものである。

（イ）戦争は戦線に於ける砲撃、タンク、ガス等々の行動のみではない。このことを充分に理解することが先づ必要である。戦線に於ける軍事的直接行動は口内（背後）に於ける精神的援助なしには不可能である。戦争開始前及びその後に於ける日本支配階級の宣伝煽動は銃後の戦争の正当化に集中されてゐる。銀行業者、工業家、商業家等々ブルジョアジー及び地主の側からの戦争賛成決議文文けでは全く不十分である。彼等は「日民」の名に於て戦争を行ふ。

（ロ）戦争賛成、援助の活動は口内では如何に行はれてゐるか？・周知の如く、第一に、ブルジョア新聞、ラヂオ、雑誌等を通じて「日本軍の勇敢なる活動」「天皇軍の威力」「日本軍の正当なる行為」を傳へること、第二にあらゆる機関を動員して「慰問金品」を集めること、愛国主義、排外主義の宣傳を行ふこと。第三に、戦争を理由として一切の階級斗争を極度的に弾圧することである。

ブルジョア新聞は国粋城の号外を一日に少くとも一回位は発行して（その為に新聞従業員は強制的に労働強化をさせられてゐる）ゐる。ラヂオは毎日戦況報告並びに戦争物、軍国主義的なものを放送してゐる。活動写真は「満洲に居る兵卒の苦痛を考へて、我慢せよ」と言つて行はれる。ストライキ、争議は「国難に当面してゐる日本国家を忘れた行為」として極度に弾圧される。賃銀値下げ、時間延長は「極度の地に勇敢に敵と戦ひつゝある将卒の労苦を思つて見よ」と言つて行はれる。かくて資本家地主のフトコロは戦争をやることに依つて二重にふくらんで行く。が併し、労働者農民の生活は二重にも三重にも窮乏化してゐる。工場に働いてゐる労働者の生活がそうである以上に失業労働者の生活は極端に惨めであり、半餓死的である。凶作に見舞はれた農村の貧小農の生活も同様である。弘前師団管区からの「出征」が一番多いが、その地方が一番凶作であることを思へば如何に生活が苦しいかを想像し得られるであらう。資本家地主の戦争に行つて殺され、又は負傷した兵卒及その家族はより一層悲惨な生活へと追ひやられる。「一将功成万骨枯る」といふ詩は階級的内容を以て説明されるであらう。

（ハ）以上の様な情勢（国際的ではあるが）が反帝国主義戦争の具体的形態を条件付ける。茲で我々は次のことを思ひ出す必要がある。「帝国主義戦争に対する共産主義者の態度はそれをボイコットすることではなく、大衆的行動に依る積極的反対、それを資本家地主政力打倒の為の内乱に転化することである。一切の反帝国主義戦争の為の斗争は、此の基本的方向に沿はねばならぬ。「我々の此の方面に於ける活動は、大衆的であらねばならぬ。別の論文にも指摘してゐる如く、個人々々が召集令に応じない様にするといふ全協青年部の機は誤りである。では如何に具体的に反対するか？

1. ストライキ、デモンストレーション等に依つて軍隊、軍需品、軍械の輸送を停止すること。ハンブルグの港湾労働者は反ソヴエート戦線へ送られる武器の輸送を完全に停止せしめた。

2. ストライキ、サボタージュ等々に依つて軍需品工場の生産を停止せしめること。

3. 軍隊内に強固な革命的組織を作つて、それの指揮の下に帝国主義軍隊を去勢すること。そして革命的行動の為の積極的部隊にすること。

4. 軍隊内に階級斗争を持ち込むことは最も重要なことの一つである。

（ニ）併し乍ら是れ丈では未だ吾々が今日当面してゐる事態に対する具体的解答ではないとして我々を非難するものがある。それらの同志は「若し工場へ強制的に満洲軍慰問金品を募集して来たらどうしたらよいのか？」と。

茲で我々は或る工場（東京）の実例をあげる。この工場には全国協議会系の組合分会があつて「満洲事件」が起つた当初から、この事件の帝国主義的性質をバクロして来た。工場の労働者

全体がこの戦争に反対してゐるといふ意志表示を従業員大会で行つたのである。尤もこの工場には百人足らずの労働者が働いてゐる丈ではあるが。この事実は小さい。だが貴重である。執拗な反戦の宣傳煽動が全従業員をして戦争反対の決議を採用したといふ事実は貴い経験である。この工場の労働者諸君はその決議文を巧妙な方法で戦線に居る兵卒に送つたと聞いてゐる。陸海軍当局は慰問品を一つ一つ調べて兵卒に渡してゐる。キヤラメル、チヨコレート等は一々割を切つて中迄見た上で始めて兵卒の手に渡るのである。それらの点を十分に考慮して送つたといふ事である。東京朝日新聞記者はその従軍記事の中で（十二月四日朝刊）戦争が始つたはがりの頃にはかくの如き『理想の爆弾』が大分あつたでうだと書いてゐる。

そこで、問題は『積極的に集めに来たらどうする？』ではなくて、我党の指令に基いて反戦の斗争を積極的に行ふてゐる事が第一義的任務である。戦争問題が工場労働者農村小作人大衆の間で話題の中心となつてゐる事実こそ反帝国主義戦争の宣傳煽動を公然と合法的に行ふ事の可能性を与へてゐるのだ。これを十二分に知らねばならぬ。『六倍から手を出して過剰に通りかゝる火傷の人々にコツソリとビラを手渡して能事足れりとなすが如き極左宗派主義的傾向（本誌第三十六号）を今日こそ断然克服すべきである。公然と大胆にやる事は現在只に必要な丈ではなく、可能である。

『何だ！』と或同志は更に向ふてゐるー我々が慰問品又は金を拒絶する程の力を持たない時、我々がそれを拒絶する事が大衆と我々を切離す様な事になる場合でもそうすべきだらうか？と。これは問題の扱ひ方を混同してゐる。この場合我々の前（假令一人でも二人でも）に出てゐる問題は、慰問品又は金を出すべきか拒絶すべきかではなく、この問題を捉へて如何に大衆を組織すべきか、如何に大衆的にこの問題を解決すべきかにある。我々は此問題を中心課題として職場大会（怒濤会）従業員大会、工場代表者会議等の大衆的な労働者の会合を組織し、そこで問題を決定する様に持ち運ばねばならぬ。そして、この会合では、会合に出席してゐる全ての労働者、或は貧小農が帝国主義戦争に反対である事、職場に居る兵卒は資本家地主の利益を守る為に殺されつゝある事、支配階級が戦争を現由として労働者農民の極小さな要求をも踏みにじつてゐる事、労働者農民大衆はそれに反対して勇敢に斗事してゐる事、工場（農村）に居る労働者（農民）と軍服を着てゐる労働者農民とは共通の利害関係を有するが故に共通の敵たる天皇、資本家地主に対して斗争せねばならぬ事、戦場及兵営に居る兵卒の待遇改善及入営中の兵卒の家族の生活保証は資本家地主政府が行政権力を以てしても能事足れりとなすが如き極左宗派主義的傾向（本誌第三十六号）を今日こそ断然克服すべきである。

日本帝国主義の軍隊が満州に於ける対立にも不拘、満州政権を反ソウエート西部戦線に於けるポーランド化する為、其北満に於ける権益の範囲に於て日本帝国主義と一致してゐる。日本帝国主義は支那に於ける帝国主義の勢力争奪の為に一定の妥協を作り即ち互に出をむき合ふ狼共の間に複雑の分け前を仮定し、事実に於て支那の共同管理を行ふ事に依つて帝国主義相互の衝突を避け、又反ソウエート同盟の準備を整へ我々の直接の敵たるソウエート同盟に向つてその銃口を向けるやう仕向けるのだ。

日本帝国主義の軍隊は易々と満を越えてチチハルを占領し、更にその航空隊をしてハイラルを襲はしめてゐる。

諸君!!! 地図を広げて見給へ。彼等は東北方メルケン黒河を経てスラゴエシチエンスクのソウエート赤衛軍の師団と西北方興安嶺（軍事探偵中村大尉が調べてゐた所だ）ハイラル満州里を経てチタの赤衛軍の師団を攻撃する要地であるチチハルをかくも急速に一切の報導を封鎖し逆宣伝を飛ばし乍ら占領したのだ。

ズルジヨアジーと社会フアシスト共仏者農民に対する最もよき慰問は彼等兵卒をして真の敵が何人であるかを知らしめる事である。我々は戦場に居る労働者農民を慰問する事それ自体に反対するのではなく、如何に慰問すべきかを問題としなければならぬ。

『だが工場大衆がどうしても何か送らねばならぬと主張した時にはどうするのか？』と更に質問者は追求する。答へよう、断然に。我々は慰問金をではなく、品物を送ることを提案すべきである。それも前述の如き趣旨の決議（又は手紙）を一つ一つの品物の中へ巧妙に全部封入して送るべき事を。我々は帝国主義軍隊に送るのではなく、某々聯隊の労働者農民との協力闘争の為に送るのである事階級斗争を基礎とする下からの統一戦線への一歩として送るのである事を明確に意識してゐなければならぬ。只軍に、戦場に居る兵卒も同じく労働者農民であるから慰問品（又は金）を送り届けねばならぬといふが如き考に誤謬である。それは日和見的には満州大馳に於けるプロレタリアートの一切の革命的反抗を絶対に支持し乍らもその革命的平和政策を厳然と堅持してその口実を越えて一人の赤兵をも又一個の軍需品をも送り出してゐないのだ。

フランス帝国主義は日本帝国主義が断ずの如く反ソウエート東部戦線を受持つてゐる為にスドイツ、オーストリー、ハンガリーのプロレタリアートの圧殺機関ウエルサイユ体制を日本が支持せんが為にその強盗商賈に於ける対立にも不拘平和のおしやべりを投げ乍ら日本帝国主義を支持してゐる。

アメリカ帝国主義も日本帝国主義との支那に於ける而して特に満州に於ける対立にも不拘、反ソウエート協商会議の正体を暴露して日本帝国主義の侵出を正当化しておるではないか。

日本帝国主義の軍隊は易々と満を越えてチチハルを占領し、更にその航空隊をしてハイラルを襲はしめてゐる。

諸君!!! 地図を広げて見給へ。彼等は東北方メルケン黒河を経てスラゴエシチエンスクのソウエート赤衛軍の師団と西北方興安嶺（軍事探偵中村大尉が調べてゐた所だ）ハイラル満州里を経てチタの赤衛軍の師団を攻撃する要地であるチチハルをかくも急速に一切の報導を封鎖し逆宣伝を飛ばし乍ら占領したのだ。

ズルジヨアジーと社会フアシスト共仏者農民に対する最もよき慰問は彼等兵卒をして真の敵が何人であるかを知らしめる事である。我々は戦場に居る労働者農民を慰問する事それ自体に反対するのではなく、如何に慰問すべきかを問題としなければならぬ。

『だが工場大衆がどうしても何か送らねばならぬと主張した時にはどうするのか？』と更に質問者は追求する。答へよう、断然に。我々は慰問金をではなく、品物を送ることを提案すべきである。それも前述の如き趣旨の決議（又は手紙）を一つ一つの品物の中へ巧妙に全部封入して送るべき事を。我々は帝国主義軍隊に送るのではなく、某々聯隊の労働者農民との協力闘争の為に送るのである事階級斗争を基礎とする下からの統一戦線への一歩として送るのである事を明確に意識してゐなければならぬ。只軍に、戦場に居る兵卒も同じく労働者農民であるから慰問品（又は金）を送り届けねばならぬといふが如き考に誤謬である。それは日和見的には帝国主義戦争を支持してゐる事になる。我々は如何なる場合にも階級的見地を忘れてはならぬ。この点に関し、某地方委員会——それは或党内でも最有力な組織の一つである——の二三の同志達は大きな混乱に陥つてゐたと言は双ばならぬ。

（水） 我々は本誌前号に於て、それから本文の（二）項、第二節に於て敵のやつて来るのを待つてゐることではなくて、積極的に積勞を我々の為に利用すべきことを述べ、更に（三）項第四節に於ては我々が消極的立場に置かれてある場合に関して述べた。我々は以上を以て全面問題を解決したと言ふことは出来ないであらうが、根本的には解決されてゐると考へる。（衛環で募集してゐる慰問金品に対しては断然拒絶すべきこと言ふまでもない。）

最後に云ふべきことは戦場に出てゐる兵卒の家族問題に就いてである。それに就いては本文（三）項第四節に一寸触れてはあるが、も少し説明しよう。現在北支那に残つてゐる兵卒は大概東北地方（寒い地方）の人々であり、その人々の故郷では近年稀に見る大凶作に襲はれてゐるところである。例へば青森県の如きは最も甚だしい。たつた一人の働き手を取られた為に餓死に迫られてゐるといふ実例は一つや二つではない。東京朝日新聞紙（十二月二日）上で発表された丈けでも（青森県丈で）五件もあるのだ。新聞に発表されないがこれと同様な事柄は決して少くはないのである。然るに資本家地主政府は冥に対して何等の援助をしてゐないのである。冥の事実は我々の反帝国主義戦争の宣傳煽動に充分利用され得ならぬ。資本家地主に救はれたあげくに満洲の地に無惨死をさせられ、その家族は餓死させられてゐる。これが資本家地主天皇支配の日本の有様であることを広汎な大衆に分らせねばならぬ。戦争の階級的性質の暴露はかくの如くあらゆる場面で行はれ得ねばならぬ。も一度繰り返そう。与へられた条件、情勢は我々が公然と、合法的にも、帝国主義戦争に反対する斗争を組織するに好都合である。個人々々に依るボイコット的態度ではなく、大衆的に組織的に、積極的に反対しなければならぬ。帝国主義戦争に反対する斗争——それは我々全体がシツカリと抱まねばならぬ鉄の重要な一環である。

三一・十二・四

ソヴエート同盟の↓革命的平和政策を守れ！

赤壁生

□ □ □

国際聯盟の『平和の女神』を装ふインチキタンスにカモフラージユされ、反ソウエート戦争の組織者アメリカ、フランス等々の暗黙の或は公然の支持を受けながら日本帝国主義は自ら衝突の機会をこしらへ上げてその度毎にその軍隊を北へ〳〵と即ちモスコウへの道を進めつゝある。日本帝国主義の軍隊が馬占山の軍隊の反抗の急報を理由にソウエート同盟がその利害の半分を持つてゐる東支鉄道を突破して公然とソウエート同盟に向つてその銃口を向けるやゝ国際聯盟はその反ソウエート協議会なる正体を暴露して日本帝国主義の侵出を正当化しておるではないか。

日本帝国主義の軍隊は易々と満を越えてチチハルを占領し、更にその航空隊をしてハイラルを襲はしめてゐる。

諸君!!! 地図を広げて見給へ。彼等は東北方メルケン黒河を経てスラゴエシチエンスクのソウエート赤衛軍の師団と西北方興安嶺（軍事探偵中村大尉が調べてゐた所だ）ハイラル満州里を経てチタの赤衛軍の師団を攻撃する要地であるチチハルをかくも急速に一切の報導を封鎖し逆宣伝を飛ばし乍ら占領したのだ。

ズルジヨアジーと社会フアシスト共仏者農民に対する最もよき慰問は彼等兵卒をして真の敵が何人であるかを知らしめる事である。我々は戦場に居る労働者農民を慰問する事それ自体に反対するのではなく、如何に慰問すべきかを問題としなければならぬ。

『だが工場大衆がどうしても何か送らねばならぬと主張した時にはどうするのか？』と更に質問者は追求する。答へよう、断然に。我々は慰問金をではなく、品物を送ることを提案すべきである。それも前述の如き趣旨の決議（又は手紙）を一つ一つの品物の中へ巧妙に全部封入して送るべき事を。我々は帝国主義軍隊に送るのではなく、某々聯隊の労働者農民との協力闘争の為に送るのである事階級斗争を基礎とする下からの統一戦線への一歩として送るのである事を明確に意識してゐなければならぬ。只軍に、戦場に居る兵卒も同じく労働者農民であるから慰問品（又は金）を送り届けねばならぬといふが如き考に誤謬である。それは日和見的には帝国主義戦争を支持してゐる事になる。我々は如何なる場合にも階級的見地を忘れてはならぬ。この点に関し、某地方委員会——それは或党内でも最有力な組織の一つである——の二三の同志達は大きな混乱に陥つてゐたと言は双ばならぬ。

（水） 我々は本誌前号に於て、それから本文の（二）項、第二節に於て敵のやつて来るのを待つてゐることではなくて、積極的に積勞を我々の為に利用すべきことを述べ、更に（三）項第四節に於ては我々が消極的立場に置かれてある場合に関して述べた。我々は以上を以て全面問題を解決したと言ふことは出来ないであらうが、根本的には解決されてゐると考へる。（衛環で募集してゐる慰問金品に対しては断然拒絶すべきこと言ふまでもない。）

最後に云ふべきことは戦場に出てゐる兵卒の家族問題に就いてである。それに就いては本文（三）項第四節に一寸触れてはあるが、も少し説明しよう。現在北支那に残つてゐる兵卒は大概東北地方（寒い地方）の人々であり、その人々の故郷では近年稀に見る大凶作に襲はれてゐるところである。例へば青森県の如きは最も甚だしい。たつた一人の働き手を取られた為に餓死に迫られてゐるといふ実例は一つや二つではない。東京朝日新聞紙（十二月二日）上で発表された丈けでも（青森県丈で）五件もあるのだ。新聞に発表されないがこれと同様な事柄は決して少くはないのである。然るに資本家地主政府は冥に対して何等の援助をしてゐないのである。冥の事実は我々の反帝国主義戦争の宣傳煽動に充分利用され得ならぬ。資本家地主に救はれたあげくに満洲の地に無惨死をさせられ、その家族は餓死させられてゐる。これが資本家地主天皇支配の日本の有様であることを広汎な大衆に分らせねばならぬ。戦争の階級的性質の暴露はかくの如くあらゆる場面で行はれ得ねばならぬ。も一度繰り返そう。与へられた条件、情勢は我々が公然と、合法的にも、帝国主義戦争に反対する斗争を組織するに好都合である。個人々々に依るボイコット的態度ではなく、大衆的に組織的に、積極的に反対しなければならぬ。帝国主義戦争に反対する斗争——それは我々全体がシツカリと抱まねばならぬ鉄の重要な一環である。

三一・十二・四

釜山鉱山。

反戦斗争に就て

―平岡生―

我々は過去に於ける軍隊獲得の斗争の不充分を克服すべく最近幾多の努力をなして来た。然し帝国主義戦争反ソヴエート戦争に直面してゐる現在我々はその斗争の更に一層の強化と発展の必要に迫られてゐる。我々は以前と比較にならぬ程の努力をしなければならないのだ。以下気の付いた点を二三挙げて我々の斗争の発展に資したいと思ふ。

(1)、支那軍隊の兵士に対するスローガン、

我々は既に屢々兵士に向つては防寒具、食糧の宅配、傷病兵の手当の完備、銃殺の絶対反対（彼等は戦争拡大の為自ら支那兵の攻撃を煽動してゐるのだ）在営延長反対、戦死者遺族への充分な恩給、負傷者への充分な療養とを要求し応じての充分な恩給、等彼等が現在戦地で持つてゐる要求に注目しその斗争を援護しそれを強盗戦争の即時停止、内地への帰還帝国主義戦争反対、ブルジョア独裁の打倒、プロレタリア独裁の樹立、ソヴエート日本の樹立の斗争に迄発展せしめねばならない。

(2)、戦地にある兵士の感情、

ブルジョアジーは今やその凡ゆるアヂプロの武器を総動員して満州軍の敵向カンパニアを遂行してゐる。然し元々強盗戦争をおつぱじめた彼等は戦地にある兵士の救済が目的ではないのだ。彼等は戦地にある兵士（帝国主義戦争による強盗的侵略の為の帝国主義戦争の為の兵士）の利益でなく全日民の利益と支持に依つて今度の戦争が行はれてゐるかの如く見せる為搾り抜かれた苦しい労働者農民無産市民の懐を狙つてゐるのだ（東京市に於ても軍事費の大半数は勤労大衆に依つて占められてゐる）。そして又この資本家地主階級カンパニアに依つて労働者農民無産市民に資本家地主の為の戦争を全日民の為の如く思ひ込ませる為日一致と排外主義のアヂプロをやつてゐるのだ。其に依つて彼等はファシズムへの道をも固めてゐるのだ。彼等は支那兵の残虐を云々してゐる。たが支那の勤労大衆はどの位多く残虐され殺されてゐるかゞ支那兵の攻撃を煽動し又自らの指令で馬賊に襲撃させてゐるのは彼等ではないか。

我々はブルジョアジーの反動カンパニアの欺瞞性反動性を暴露しえに対して飽く迄反対しなければならぬ。我々はプロレタリアートの立場から書かれた手紙、決議メッセージを送らねばならぬ。特に労働者農民の革命的組織の名に於て又斗争中の工場斗争、闘争委員会、兵士の名に於て送る事が要求される。斯の如く我々は反動（戦線に於ける犠牲と不幸に対する）を目的とするのではなく戦線の兵士に対する革命的アヂプロをなさねばならぬ。其はプロレタリアートと兵士との統一戦線を打ち立てる為である。反動、それは支配階級の欺瞞であり反動である。我々は断乎として之を排斥する。我々はこの代りにプロレタリアートの革命的思想を送らねばならぬ。何故ならばこれこそは又兵士が自らの不幸と犠牲を排除し得る唯一の方法を教へるものであるから。

(3)、内地の軍隊に対して、

我々は既に決定されてゐる兵士の日常要求から最高目標に至る迄のスローガンによつて斗争を激発すると共に其を在満部隊の斗争に結び付けて斗はねばならぬ。然して現在の情勢に応じて我々は出兵反対の斗争に特に力が入れられねばならぬ。其と共に除隊期に直面してゐる我々は失業反対の斗争が強力に遂行されねばならぬ。この斗争には失業者同盟及び失業労働者との共同斗争が充分に行はれねばならぬ。かくしてこそ労働者と兵士との聯合を達成性は築かれるだらう。

千住発電所

ファシズム独才に就ての＝批＝判

大垣生

五九号の我のイスクラに投書された同志XXのヨフアシズム独才論は混乱と誤謬のごつた煮であり革命的教育論の中リンもないものであると思ふ。

「ブルジョア国家は極度に多様である。併しその本質は一つである。即ち此等の国家は何れにもせよ、結局必ずブルジョアジーの独才である」と云ふレーニンの思想而して其を当面の情勢に具体化した所の第十一回プレナムに於て又モロトフやヴイルスキー等のコミンテルンの理論家の問題とせる「ファシズム独才がブルジョア独才の一つの形態にすぎぬ事を忘れてはならぬ」と云ふ言葉を同志XXが強調しようとした点は正しいが其は事実に於て単に言葉の上で通りすがり的に受取り自ら机上に持ち来つて積木細工をした以上過ぎない事になつてゐる。

以下我書の順を追つて批判する事にする。

先づ(1)に於て現在の世界がブルジョア独才とプロレタリア独才の二の世界に分れてゐると云ふ事は正しいが社会ファシズムの支配形態と云ふものを作り上げる事はブルジョアジーのプロレタリアートに対する支配の形態とその支配形態の運用を奪された政党の離反とを混同したものであると思ふ。（この問題に就ては同志諸君の意見を聞きたいと思ふ。）吾々は社会ファシスト政党が政権を奪取されても（政権を握つてゐるのはブルジョアだ）彼等はその支配の運用を情勢に従つて君主制共和制其々のブルジョア独才とプロレタリア独才とを中心として遂行されねばならぬ。而して企業に於ける斗争が最も力を注ぐべき重要点である事も云ふ迄もなく軍需品工場及び交通運輸企業而して特にその大工場に於ける斗争、軍隊に於ける斗争、農村カンパの斗争に結び付けねばならぬ。

側共和側其々のブルジョア支配形態の何れかの一に依つて行ふものである事、然してファシズムの支配に於ては社会ファシストは自らの欺瞞の役目に従つてファシズム共和制君主制がブルジョア独才の種々な形態であると云つてゐるのは正しいが其等の形態がブルジョアジーとプロレタリアートとの力の関係の弁証法的発展と如何に結び付いて現れて来るかを明らかにしてゐないと思ふ。即ちどんな力の関係に於てファシズム等々が現はれるかを明らかにしてゐない。此事から同志XXはファシスト独才を仆した後に尚他のブルジョア独才が来るかの如き幻想を抱きファシスト独才を仆す事がブルジョア独才の二なる所の情勢を理解し得なくなつてゐる。即ちプロレタリアートの強まり行く革命的反抗を圧殺する最後にして最良の武器ファシズムのタンクを破壊されたブルジョアジーが鎧袖に依つてプロレタリアートを攻撃するだらうと云ふ事は机の上では考へられる次現実には存在し得ないのだと云ふ事を理解しない。此事は日本ブルジョアジーが天皇制の軍閥統以外の武器を以てしてはプロレタリアートを圧殺し得ない事、然してその軍閥統をブルジョア民主々義の装甲自動車に装備した後日本ブルジョアジーにとつての最後の切札はその軍閥統をファシズムのタンクの上に装備する事のみである。従つて天皇制は何日になつても解放されざる日本プロレタリアートの主要攻撃目標である事を理解し得ない鄙党派の混乱（如斯は意識的に混乱を求めてゐるのだが）と同一の考へ方であると思ふ。

此の事から同志XXは(4)の終りに於てファシズム独才が主要攻撃目標でないと云ふ意味で主要敵でないと云つてゐる。ファシズムの危険が迫り又ファシズムの支配が建てられた場合我々は主要敵であるブルジョアジーの最後の支柱である此主要攻撃目標に向つて攻撃を集中しなければならぬ。（主要攻撃目標と主要敵とを混同してはならぬ）又ファシズム独才と云ふ言葉の代りにファシズム支配と置きかへると同志XXは云ふが其がブルジョアジーの支配であり独才である限り何れを云つても正しいと思ふ。唯ファシズム独才の一である事をファシズム独才と云ふ事は正しくない。

(4)、軍需品工場、交通運輸企業に於ける斗争、

我々は現在の情勢に於ける軍隊への働きかけの重要性を強調したが我々の帝国主義戦争反ソヴエート戦争反対の斗争はかゝる斗争のみによつて遂行し得るものでもなく又其斗争が最も基本的な部分となるのでもない。我々の反戦斗争は第一にあく迄も工場職場で企業

「アジズム独才」の表現は誤りか？
EKKIオ十一回総会は何を問題にしたか？

【小山生】

筆者は次の我会K『ファシズムの本質、形態、日本K於けるファシズムの形態、ドイツプロレタリアートの反ファシスト斗争の教訓』等に就て述べたいと思ふ。同志諸君の積極的討論を期待する。

一、ファシズム独才の一形態

◆オ五号『ファシズム独才K関して』私は一言する必要を認める。この文章はEKKIオ十一回総会K於ける同志マヌイルスキーの報告演説中のファシズムK関する部分を引用し其を若干『展開』せしめてある如くである。

◆成程EKKIオ十一回総会は、ファシズム、社会ファシズムがブルジョアジーの支配の社会的支柱であり、我々の主要敵が常Kブルジョアジーである事を指摘した。之は勿論正しい。併し乍ら、玆から一直線K『ファシズム独才』――正しくは『ファシスト独才』――と云ふ表現の把否K至り得るであらうか？オ五九号の同志の意見は、この問題K然り！の答を与へてゐる。私は之は同志マヌイルスキーを余りK『展開』せしめすぎてゐると考へる。問題は『ファシスト独才』と云ふ表現を形而上学的K正しいか誤りかと考察して見ることにあるのではない。

◆…側へばドイツK於て此の間ブリューニング内閣の成立が行はれた。オ二次ブリューニング内閣を武会K迎へた同志レンメレ（国際共産党執行委員会常任委員会の成員である）はドイツ共産党戦会プラクシヨンを代表してかう云つた。

『オ一次ブリューニング内閣がファシスト独才の準備、ファシスト独才の為ならしの為の政府であつたとするならば、オ二次ブリューニング内閣はドイツK於けるファシスト独才の直接のオ一段階を為すものである。』（インプレコル、十月十六日号）

攻撃せねばならぬ事をアテプロレタリアートを先頭とする広般な勤労大衆を反ファシズムの斗争に動員せねばならぬのだ。

最後に吾々は同志XXが終りの方に引用してゐるマヌイルスキーの言葉の革命的意義を支持し其教訓を吸みとる事の必要を力説して置く。

ブルジョア独才の一形態であり『日民』と『挙国一致』と『排外主ギ』との名の下Kプロレタリアート及其支持中間層をブルジョアジーに売り渡すものK通ぎぬ事の充分な暴露と結び付けて『社会主ギ』ファシズムが『ファシスト独才』のスローガンを投ぬる事は疑もなく正しいからである。後つて危険性はガーイー氏Kあるのでなくて同志XXの狭い非非証法的な眼Kあるのだ。同志XXが『プロ独才かブル独才か』と云ふ言葉を以て『社会主義かファシズムか』に置き換へんとする事によつてゐるのは前者が後者の中K表現せられやうらう様な情勢の発展に関する弁証法的理解の欠除Kあるのだ。

吾々は同志XXが引用したマヌイルスキーの言葉の如く社会ファシストがファシズムをブルジョア独才から分離した一の主要敵となし、其故K彼等はファシズムと斗つて民衆の為K民主々義（ブルジョア民主ヤギ――ブルジョア独才）を守ると勤労大衆を欺瞞し、勤労大衆をブルジョアジーK売り渡す事とを斗争しなければならない。

然し我々はファシズムを主要斗争目標としないのではない（其時期の到来に就ては同志諸君の意見を聞きたい）我々はブルジョアジーが最後の切札としてファシズムを投げ出し又投げ出さんとする時が来るならば徹底を仕す事がブルジョア独才をファシズム独才の一形態であるK必然的なものである。併しながら、問題はそこにあるのではない。ファシズムが如何なる迹を通じてとの程度K発展してゐるか、又は発展するか？我々にとつて問題になるのはむしろこの点なのだ。そしてファシズムの発展の問題はオ一K階級と階級との力の関係K依存してゐる。

◆EKKIオ十一回総会がファシズム共産主義か？』とふ表現が危険な偏向をもたらし得ることを指摘したのは、特Kドイツ共産党がファシズムの巨大な進出K直面してドイツ共産党がファシズムK反対する斗争を強調するの余り、問題の本質である階級と階級との力の関係とふことを多少とも過少評価して、ファシスト共の網中Kひきこまれ、社会民主党の『より少き害悪』の理論――これはブリューニング内閣が公然のファシスト独才よりはまだましだとして、実際上ブリューニング内閣のファシスト的方策を支持してゐるのだ――K反対の斗争を多少ともなをざりにする危険を認めたが故K外ならぬのである。かゝる危険は口際的危険である。それ故Kこそ総会はこの点を明らかにしたのだ。

◆併し、総会は同時Kドイツ共産党がヒツトラー・ファシズムのより以上の発展をカツテリと阻遏したことの功績を認めてゐる。ファシスト独才はブルジョア独才の一形態であり、それ故K未だブルジョア独才を我々が打倒し得ない場合Kも我々はファシスト独才の樹立を阻遏し得るし、それを打倒し得る。又、阻遏し、打倒せねばならぬのだ。社会民主々ギ者は決してファシズムK反対の斗争をやらない。共産党のみがプロレタリアート勤労者のファシズム反対の斗争を指導する。

◆ブルジョア支配がファシスト的色彩を強くをびて来れば来る程社会民主々ギ者、特Kその『名誉』のファシズム『反対』の演説はより『革命的』なものとなるであらう。これに対して、ファシズム反対のプロレタリアート勤労者の斗争を正しい指導者共産党の旗の下K、『革命的統一戦線』の上K導くことが必要なのだ。ファシズム、社会ファシズムは相互K補足し合つてブルジョア独才を擁護してゐるとゝふことが、一人一人の労働者、農民、女士に理解される必要があるのだ。共産党の指導下のプロレタリアート勤労者の反ファシズム的革命的統一戦線――これが問題の中心なのだ。

◆それ故K、今日オ二次ブリューニング内閣が公然のファシスト的綱領を以て現はれたとき、同志レンメレが之をファシスト独才の直接のオ一段階と規定したのは少しも誤りではないのだ。同志レンメレはその場合問題を階級と階級との力の関係の見地から把握し、共産党の旗の下K結集したプロレタリアート勤労者の反ファシズム的革命的統一戦線の必要を力説してゐるのだ。現実Kファシスト独才政府が立ち現はれた時、ファシスト独才の表現が『危険』だとして草Kブルジョア独才を外せ！とのみ叫ぶことは抽象的である。同志レンメレは具体的K問題を具体的Kおいて取扱ふことを知つてゐる偉大なボリシエヴイキ的政治家である。

◆私は最後の結論を出す。EKKIオ十一回総会はファシスト独才とゝふ表現を疑問としたのではない。其及ずべからざる功績は問題を具体的K把握する事に依つて――之は同志レーニンがその必要を主張した所だ！――例へば反ファシズム斗争Kおいて我々が陥り易い誤謬を予め排除したプロレタリアートの革命的斗争の為の立派な武器を磁い所にあるのだ。我々はファシスト独才の表現の正誤を形而上学的に問題Kするの代りK階級対階級の力の関係の見地から我々の革命的斗争を一段と押進めなければならぬのだ。之がEKKIオ十一回総会の功績を紙上にとゞめずK、具に実践の中に生かす我々の態度だ。

大阪機関車区貯炭場
50トン石炭運搬電気起動機。

◆この際同志レンメレは少しでも誤つてゐたか？明らかK否である。又同じドイツの同志ノイバウエルもさうである。

『ファシズムに反対する共産主義』是が今日ドイツの全労働人口Kとつての斗争スローガンである。』此の際同志ノイバウエルは少しでも誤つてゐたか？明らかK否である。

◆同志レンメレ、ノイバウエルは今日のドイツの具体的情勢をよく理解し、其Kオ対するマルクス、レーニン的規定を与へてゐるのである。EKKIオ十一回総会の功績はファシスト独才の表現を禁止した所Kあるのではない。寧ろ、ファシズムK対する共産三義者の客観的機械的見方を批判し、これK対する最も正しい斗争方法を明らかKした所Kその功績があるのだ。其故Kオ五九号の同志次次の如くさふのは正しくないのだ。

『一国世界恐慌の深化、二つの世界の対立の結果は、一方革命運動の勃興を意味すると共K他方反革命運動としてのファシズム、社会ファシズムの急速な成長を引き起してゐる。』

かゝる見方が正しくないのはファシズムK対する最も反動的態度K等しくなるからである。確かKファシズムは戦後の一般的危機K於ける資本主義が自己を救済する為に日程K上せた一の政治的支配形態である。それは口際的K必然的なものである。併しながら、問題はそこにあるのではない。ファシズムが如何なる迹を通じてとの程度K発展してゐるか、又は発展するか？我々にとつて問題になるのはむしろこの点なのだ。そしてファシズムの発展の問題はオ一K階級と階級との力の関係K依存してゐる。

◆EKKIオ十一回総会がファシズム共産主義か？』とふ表現が危険な偏向をもたらし得ることを指摘したのは、特Kドイツ共産党がファシズムの巨大な進出K直面してドイツ共産党がファシズム反対する斗争を強調するの余り、問題の本質である階級と階級との力の関係とふことを多少とも過少評価して、ファシスト共の網中Kひきこまれ、社会民主党の『より少き害悪』の理論――これはブリューニング内閣が公然のファシスト独才よりはまだましだとして、実際上ブリューニング内閣のファシスト的方策を支持してゐるのだ――K反対の斗争を多少ともなをざりにする危険を認めたが故K外ならぬのである。かゝる危険は口際的危険である。それ故Kこそ総会はこの点を明らかにしたのだ。

◆併し、総会は同時Kドイツ共産党がヒツトラー・ファシズムのより以上の発展をカツテリと阻遏したことの功績を認めてゐる。ファシスト独才はブルジョア独才の一形態であり、それ故K未だブルジョア独才を我々が打倒し得ない場合Kも我々はファシスト独才の樹立を阻遏し得るし、それを打倒し得る。又、阻遏し、打倒せねばならぬのだ。社会民主々ギ者は決してファシズムK反対の斗争をやらない。共産党のみがプロレタリアート勤労者のファシズム反対の斗争を指導する。

◆ブルジョア支配がファシスト的色彩を強くをびて来れば来る程社会民主々ギ者、特Kその『名誉』のファシズム『反対』の演説はより『革命的』なものとなるであらう。これに対して、ファシズム反対のプロレタリアート勤労者の斗争を正しい指導者共産党の旗の下K、『革命的統一戦線』の上K導くことが必要なのだ。ファシズム、社会ファシズムは相互K補足し合つてブルジョア独才を擁護してゐるとゝふことが、一人一人の労働者、農民、女士に理解される必要があるのだ。共産党の指導下のプロレタリアート勤労者の反ファシズム的革命的統一戦線――これが問題の中心なのだ。

◆それ故K、今日オ二次ブリューニング内閣が公然のファシスト的綱領を以て現はれたとき、同志レンメレが之をファシスト独才の直接のオ一段階と規定したのは少しも誤りではないのだ。同志レンメレはその場合問題を階級と階級との力の関係の見地から把握し、共産党の旗の下K結集したプロレタリアート勤労者の反ファシズム的革命的統一戦線の必要を力説してゐるのだ。現実Kファシスト独才政府が立ち現はれた時、ファシスト独才の表現が『危険』だとして草Kブルジョア独才を外せ！とのみ叫ぶことは抽象的である。同志レンメレは具体的K問題を具体的Kおいて取扱ふことを知つてゐる偉大なボリシエヴイキ的政治家である。

◆私は最後の結論を出す。EKKIオ十一回総会はファシスト独才とゝふ表現を疑問としたのではない。其及ずべからざる功績は問題を具体的K把握する事に依つて――之は同志レーニンがその必要を主張した所だ！――例へば反ファシズム斗争Kおいて我々が陥り易い誤謬を予め排除したプロレタリアートの革命的斗争の為の立派な武器を磁い所にあるのだ。我々はファシスト独才の表現の正誤を形而上学的に問題Kするの代りK階級対階級の力の関係の見地から我々の革命的斗争を一段と押進めなければならぬのだ。之がEKKIオ十一回総会の功績を紙上にとゞめずK、具に実践の中に生かす我々の態度だ。

★
赤旗
第61号
國際共產党日本支部
日本共產党
中央機関紙

目次

▼第六十議会開会に際しての我々の任務……一
▼A地区委員会よりの質問に答ふ……三
▼金輸出再禁止とプロレタリアート……七
▼「決定」に忠実たれ！―直ちに婦人部活動を開始せよ―……十
▼工場新聞に関する誤謬を訂正す……九
▼朝鮮共産党日本総局、及高麗共産青年会在日支部解体声明書……一二
▼鐵の火花……一三

第六十議会開会に際しての我々の任務

一

ブルジョア議会に対する我々の態度は我党のテーゼ草案、才五十九議会開会に際して発表されたる我党の檄及び府県会議員選挙戦に関する方針の中で明確に規定されて居り、その根本的態度に変更を加へる必要はない。当時の規定は今日に於ても全く正しいものとして確認する。

才六十議会に対する我々の態度は右に引用せる諸決定に基くものとす。才六十議会が開会される時期――口際口内情勢――の具体的解剖の上に立つて、『議会をも含む一切のブルジョア口家機関の破壊』―『プロレタリアート、貧農及び勤労大衆を資本家地主天皇政府反対の斗争へ動員すること――これが我々の任務である。（『プロレタリア独裁（労働者農民のソヴエート政府樹立）実現の目的に進行くべく、

従つて、我々の斗争は従来の如く、カムパニアをやつて、――『金輸の賛見たいに』（同志永田幸之助）――るる）が如きものではなく、議会開会に関聯して一般的に高まれる政治的関心を、階級的方向に向けるべく利用するのである。（大会の政治的総括）年始斗争、三・一五記念斗争、メーデー、八・一デー、青年デー、革命記念日カムパニア、歳末斗争、議会斗争、等々それぞれの由挙事件と関聯させて労働階級の多数者獲得といふ我々の主要任務の成功的遂行を計ることは必要であるが、以上列挙せるが如きカムパニアと名付けられるものがなければ、工場内の斗争が行はれないかの如く考へ、且つ行動してゐることは誤りである。口際的並びに口内的情勢との関聯において斗はれてこそはじめて効果的であり得る。故に、才六十議会開会中に於ける我々の斗争は、広汎なる被搾取、被圧迫大衆の具体的要求を掲げて斗ふ大衆的規模のものであらねばならぬ。

二

口際的には、経済危機の深刻化になやみつゝある資本主義世界と、興隆しつゝある社会主義祖口ソヴエート同盟との対立（新らしき武力干渉の第一歩は既にはじまつてゐる）、帝口主義列強口間の矛盾の増大、支那再分割、ソヴエート政権を先頭とする革命支那の統一の為の戦争開始（日本帝口主義者はそのもつとも野蛮なる先発隊となつてゐる）、植民地半植民地の革命運動の抬頭（就中、中口赤衛軍の新陣地の占領、印度革命の発展）、資本主義口内における革命的危機の切迫、（ドイツ、ポーランド、スペイン）があり、口内的には、資本主義制度なるが故に深まつてゐる経済危機、（工業、農業、金融）階級斗争の激化、口家機関のファッショ化の急速行がある。

三

労働階級及び勤労大衆の生活条件の極度の悪化、（二百五十万を超える失業者軍、半失業の膨大にあるもの）、数の絶対級数的増加、金輸出禁止に依る物価騰貴即ち、実質賃銀の低下、戦争を理由とする労働の強化等々）。

貧小農の生活の　半植死情態、（青表、北海道のそれは特徴的であるが、それはブルジョア新聞の報道するがごとき『凶作の結果』のみではない。永いあひだ、地主および資本家から、搾られ抜いて来た上で、凶作に遭遇したからなのであつて、前者が決定的重要性を有する。

四

北支那占領、ソヴエート中口攻撃、ソヴエート同盟攻撃の戦争は既に始められてゐるが、これらは莫大な軍事費を要求してゐる。而して、その軍事費は全て労働者農民大衆の負担となる。

戦争は小さくならないばかりではなく拡大しつゝある。

五

才六十議会は民政党に代る政友会内閣の政策を審議することになつてはゐるが　何れの政党にもせよそれがブルジョア政党である限り、金融ブルジョアジーの意志に反しては如何なる政策をも遂行し得ない。政友会内閣が出来た時に『特別な声明書は出さぬことにした』と声明したのは、現在の口際口内情勢に関する充分の展望を明言し得ないことを実証したものに外ならぬ。ブルジョアジーは『明日を為へることが出来ない』。

六

議会は大衆の間に民主々義的幻想を植付ける為に開会せられる。議会で決定されたら直ちに『平和』に事態が進展するかの如に思ひ込ませ、その実は**支配階級に必要な総ての法文、決議が実行される**のである。今度の議会は才一に、軍事膨脹の増大、才二に、口内警備を名目とする労農大衆の一切の革命的斗争弾圧、才三に、産業の口家的統制を看板とする大資本大企業への中小企業の併合を試題に上せるであらう。凡て是等はブルジョア口家機関のプアッショ化の具体的現れである。

更に、ファシストは日本の議会の如きブルジョア、デモクラシーのホンの臭味しかないものをすらも否定し、天皇独裁の旗印の下に活動を展開するといふ見透しを持ち得る。而して、支配階級はこのプアシスト共の運動を好餌として『口民の代表者の集会』である議会の名の下に最も反動的な対労働者農民政策を決定し実行するであらう。かくして、支配階級がブルジョア・デモクラシーの仮面の下にプアッショ的政策を遂行する戦術を取ることになる。

七

社会民衆党、労農大衆党は来る議会に対して如何なる態度を採るか？『日本口家（即ちブルジョア口家）』の名の下に反動的政策に賛成しその実行を助けるであらう。但し言葉の上だけでは『批評の自由』を叫びつゝ。

社会民衆党書記長赤松がファシスト団体に加入して積極的に活動してゐることは既に衆知の事実である。彼等の口称『社会主義』は金融ブルジョアジーの利益擁護に外ならぬ。資本主義制度（労働者階級と農民の多数を搾取してゐることを基礎とする）そのものを倒さずに、今日の危機を切り抜け得るかの如く唱へる彼等は非常に危険な敵である。しかも彼等はしばく革命的言辞を弄んでその反動的理論をかくしてゐるのである。

雑誌『労農』一派は今年度大会に於て反共産党の旗印を鮮明にした全口労農大衆党の宣伝係として働いてゐる。イノマタ一派は口先きだけの『革命的両々相俟つもの』である。対外政策に於ては植民地略奪の積極化、ソヴエート同盟攻撃政策の遂行、帝口主義戦争の拡大（政府は口内の失業者大衆を救済せんとするの名の下に満洲に送り、そこで大衆的に虐殺せんとしてゐることを発表してゐる）である。かくて政友会政府の政策は本誌才六十号に掲げられた『当面の問題』の展望の全く正しきことを証明して居り、より以上の階級斗争の激化と社会的動揺を齎らすであらう。

九

そこで我々は六十議会に際会し如何に斗争を組織して行くべきか？

工場で、職場で、農村で、広汎なる大衆の**直接の要求**を取り上げてそれの貫徹の為に斗ふ。この場合下からの共同戦線樹立の戦術は最も広く適応されねばならぬ。

金輸出禁止に伴ふ実質賃銀の低下（物価騰貴）反対賃銀値上げの為の斗争、労働強化、職首に反対する斗争、

工場内の暴力的監視、非人間的待遇に反対する斗争、

失業労働者の家賃・ガス電灯水道代の免除、失業者に住宅を保証し、失業者の生活費を増大なる軍事費警察費より充てろといふ要求の為の斗争、口家全額負担に依る失業保険の即時実施、強盗警戒その他の名目に依る労働者農民に対する弾圧反対斗争、

小作料全免の為の斗争、

凶作地方の貧小農の生活を口家が保証しろといふ要求の為の斗争、出征兵士の家族の生活保証の為の斗争、

戦線にある兵士の待遇の改善の為の斗争、陸海軍兵士の経済的政治的要求の為の斗争、

賃銀値下げを伴はざる七時間労働制の為の斗争、

革命的宣伝煽動組織並びにその活動の自由の為の斗争、

是等の諸要求は労働者農民大衆に最も分り易い、そして又大衆の切実の要求である。是等を基礎として大衆的斗争を組織する事が、帝国主義戦争に反対し、ファシズムに反対し、天皇に反対し、資本家地主政府に反対する政治的斗争を具体的に行ふことを意味する

——十——

我々は一つ一つの斗争を全部例にとる事を不可能とされてゐるからだった二つの例を次に掲げる事にする。

(a) 賃銀値下げ反対、物価騰貴に伴ふ賃銀値上げの為の斗争、

政友会内閣組織の翌日から既に米は十キロについて十銭の値上げとなり、洋服等も二、三割方の値上げとなつた。これらの事実は毎日のブルジョア新聞に発表されてゐる。故に、**毎日ブルジョア新聞を工場に持つて行つて、そこにある記事とそこで働いてゐる労働者の生活とを結び付けて斗争を組織するアトモスフィア（雰囲気）を作り出すことは最も容易であり、且つ効果的であり、公然となし得る。**

(b) 失業者が密集して住んでゐる地区、場所、又は失業者が集る職業紹介所等にあつて、毎日の新聞記事を中心にして**団体的行動**に依る要求の貫徹、並びに偶瞬的な慈善事業の正体の暴露を行ふ事、かゝる場合に注意すべき事は、充分の説明を与へないで直ちに帝国主義戦争反対といふ抽なスローガンを投げてはならぬといふ事である。日常の生活と帝国主義戦争との関係、戦争が何人の為に行はれてゐるかを具体的に説明してのみ**広汎な大衆運動**としての反帝国主義戦争の斗争を指導し得るのである。就中、重要な事は、失業労働者大衆自身が**自己の意志に反して職を失つたのであること、ブルジョア地主天皇が支配してゐるが故に食へなくてゐるのだから、彼等をして自分等の生活を保証せしめるのは当然であるといふことを自覚せしむる**にある。

更に、**大資本家の持つてゐる倉庫の開放とその中にある米、衣服等の先ず差当たりその家族への分配を要求する大衆行動を**（就業労働者大衆と共に）**組織することは現在の情勢下にあつて是非行はねばならぬ必要な斗争である。**我々は大衆が自然発生的に蜂起するのを待つてゐるのではなく、大衆が自然発生的にも赴かんとしてゐる空気を敏感に把握して、それを革命的方向へ導いて行くべく、行動に依つて示さねばならぬ。

(c) 農村、特に凶作に見舞はれた地方では、地方自治機関、中央収穫からの資金融通といふ様な所謂合法的、穏健な方法だけでなく、地主の倉庫の没収を大衆的に組織的に行ふといふ非常手段を以ても既に採らねばならぬ。都市の街頭に学生を立たせて同情を集めるといふブルジョアジーの偽瞞的方法に**幻惑**されてはならぬ。彼等は斯の如き方法に依つて貧小農の苦悩な生活が依て以て起り来る真の原因を隠蔽してゐるのだといふ事を知らせねばならぬ。

戦線に送られた兵卒の家族に対するブルジョア地主口家の態度も亦、農村に於て反戦運動を活気付ける為に充分に利用されねばならぬ。

——十一——

資本主義制度だから生産力の発展が阻止されてゐる（機械は遊転を止め、工場は閉鎖され、労働者は仕ける腕を持ち乍ら仕事も無くて死に向つてゐる）のである事、それからの革命的出口は日本帝国主義の打倒、ソヴエート政府の樹立にのみある事を絶えず執物に宣伝煽動しなければならぬ。此の場合ソヴエート同盟に於ける社会主義建設の成功（工業・農業両方面に於けるそれ）を具体的に敵へる事は必要であると同時に　最も重要な事である。

——十二——

第六十議会開会に際しての我々の態度は、広汎なる大衆の政治的関心の昂揚を的確に把握して革命的方向に導き"議会をも含むブルジョア口家機関一切の破壊"に、労働者農民のソヴエート政府樹立——プロレタリア独裁への斗争に彼等を準備する事にある。

A地区委員会よりの質問に答ふ

現段階の規定／ファシズムに対する斗争／其の——他

何よりも先づ、貴組織が、問題を具体的に提出したことを喜ぶ。我々は今日まで一貫した基本的方針に沿ふところの部分的方針——それぞれのカムパニアや又は一地方の具体的事件に対する方針——を出し、可成りの進歩を得てゐるが、それにも拘はらず、政治的影響と組織上の確保との間にある跛状情態を解決し得ないでゐる。そして、それの根本的原因であり、従つて我党の基本的弱点であるのは、**大衆的活動方法への転換**が全く不充分だといふことだ。未だに小職場的・手工業的活動方法、**宗派主義的方法**が多分に残存してゐる。我々は今、この返事の中でそのことを全体的に叙はうといふのではないが、これが**基本的**なものだといふことを特に断つて置くことを

は話を進める上にとつて、必要だと考へる。

さて、貴組織の質問の順序に従つて答へやう。

——1——

現段階の規定に就て。諸君の疑問は本誌第廿五十九号にある「戦争と革命の時機」なる言葉に発してゐる。「戦争と革命の時機」といふ言葉は国際共産主義運動に於てはそれが「帝国主義時代の特徴付け」として理解されてゐる諸君が「かうした意味以外に使用する事、即ち、文章の前後の関係から考へて**革命的危機の時代**と誤解され易い」と指摘してゐる事は**全く正しい**。同志マヌイルスキーは第十一回プレナムで国際情勢を性質付けて「現在は第一次世界大戦後の時期の再来とも言ふべきである」といふ意味の事を述べた。勿論、五ケ年計画の大半が完成して居り主要帝国主義国にボリシエビキ的共産党が存在し、且つその中の或るもの（例へばドイツ、ハンガリー等）は革命の経験を持つてゐる、植民地に於ける革命運動が比較にならぬ程発展してゐる（就中、中国、印度）のであるから事態は全く異つてゐるのではあるが、資本主義国の或る国は勿論で革命的危機が迫りつゝある事は否めない事実である。それと支那に於て始められた帝国主義戦争との両方を考へに入れて検討に「戦争と革命の時代」と言いたいものと思惟される。我々も亦斯の如き規定——即ち誤解を招き易い表現——は訂正すべきものと考へる。

然らば何に？第六十号では「社会的動揺の時代」といふ規定が与へられてゐる。これは当該論文が詳細に亘つて説明してゐるから茲で再び繰返す必要はないであらう。支配階級内部の政権たらひ廻しの運動だけではなく社会的に一つの大きな不安と動揺が起つてゐる事を正当に評価しなければならぬ。我々にとつて最も重要な事は単なる短い規定ではなしに、その**内容**をよく理解する事にある。**帝国主義戦争とファシズム**が今日我々の前に出されてゐる具体的問題であり、そこに社会的動揺の内容がある。

——2——

何を中心問題として斗争をしなければならぬか？と言ふ質問は諸君が主観してゐる通り、現在我党の各段階に於ける**組織全般が自らに与へるべき質問**である。あれも必要だ、これも必要だと言ふのではなく、レーニンが屢々繰返した如く「一環をつかむことに依つて鎖全体をつかむことの出来るその中心の一環をつかむことが必要である」のだ。その一環がハツキリと認識され、把握されてあれば他の環は容易に把握し得られる。ではその

一環とは何か？**帝国主義戦争反対・ファシズム反対の斗争**——これである。支配階級は新聞に、雑誌に、ラヂオに、蓄音機に、活動写真に、演劇に等々、乃ゆる機関を動員して戦争熱を煽つてゐるではないか。そしてそれに反対する我々の斗争は？余りにも貧弱である。**我々は正直に之を認めなければならぬ。**支配階級の行ふ精力的宣伝煽動に倍十倍する力を以てそれに当らねばならぬ時に我々は決して充分の活動を行つてゐるとは言ひ得ない情態にあるではないか。各地方委員会、各大衆団体内の中央フラクションは一応戦争問題及びファシズムの問題をとり上げた。だがそれは**抽象的であり、一般的であるに過ぎない。**具体的には殆んど何もなされてゐない。ビラ、ニュースの発行は**よい方面**としてあげるべく余りに小さ過ぎる。**工場内、職場内、坑内、田畑、山林、漁場、港湾、船舶での活動**とはなつてゐない。これが果して、**今日の中心日程**を完全に理解してゐる組織のやり方と言へるだらうか？**断じて否だ。**戦争反対、ファシズム反対の斗争は労働者勤労農民大衆の日常生活と密接に結び付いているなければならぬし、且つ結び付いてゐるのである。**大衆の中の今日の諸要**は何であるか？と言へば、不景気と戦争　戦争と挙国一致内閣、挙国一致内閣と軍部、軍部と国際聯盟、戦争とファシズムではないか？かくの如く大衆の関心の中心を把へそれを正しい方向へ発展さすことこそ我々の任務なのである。戦争とファシズムを抽象的一般的に理解してゐるだけでは全く不充分である。それが日本に於て日程に上されてゐる具体的問題として取り上げられねばならぬ。

——3——

諸君は言ふであらう、然らば我々が、経済斗争の**当面の指導**は今日の中心任務であると規定した事はも早古くなつた事になるのか？と。飛んでもない事だ。**経済斗争の独自的指導は今日尚我党の中心的任務である。**政治と経済とは切離された別個のものではない。「政治は集中化された経済である」のだ。戦争は経済危機切抜けのみを考慮にいれてゐるのではなく、経済危機の上に醸成されつゝある社会的政治的変動——それから革命的危機への発展の可能性がある——をも当然に喰止めんとする支配階級の政策なのである。だからブルジョア地主の政治の延長——それが戦争なのだ。クラウゼヴィッツの言を借りるなら「戦争は形態の変つた政治」である」。こゝまで話したら大体見当が付くと思ふ。政治と経済との関係は、経済的基礎の上にのみ政治的関係が規定されるといふ様に一般的な理解ではなしに、一度形成された上層建築物としての政治的関係は、それ自身としての発展、変化をなし、反対に、その下層建築物たる経済を左右するものとなるといふ弁証法的に理解されねばならぬ。プロフインテルンが第五回大会で採用された日本問題に関する決議の言を借りれば「工場内での斗争とプロレタリア独裁、土地の為の農業革命の斗争との間には切離し得

ない関係があるしのだ。

戦争、ファシズム独裁――それは**広汎なる労仂者農民大衆の日常生活と直接に密接な関係を有する。**それ故にこそ経済斗争の独自的指導は今日我々の中心任務であるのだ。この事の無理解は大きな失敗に導く。関西地方の或る工場で賃銀値下に反対する動揺が起ってゐた時、我々の同志はその先頭に立ち、兎にも角にも七十名程の労仂者を集めて会合を開く事に成功した。その時、同志達は其處に集って来た労仂者の**直接関心を持ってゐる**のは賃銀値下問題である事を忘れて（動くとも軽視して）戦争反対、ソヴエート同盟防衛のみを詰つた。結果は言ふまでもなく我々の同志達に不利であつた。この例は、大衆の間にある日常生活上の不平不満を階級的任務と如何に結び付けるべきかに失敗した事を示してゐる。初めに掲げた経済的部分的要求を一ヶ月も、二ヶ月も、三ヶ月もそれ以上も何の変化もなしに（大衆の間では殆にそれ以上の要求が出来てゐるにも拘らず）出して置く事が誤であると同様に、最初から高度の要求を掲げる事も間違いである。必要なのは、小さい、初歩的な要求を、一人或は数名の資本家に対する要求を基礎とする斗争を資本家階級に対する労仂者階級の階級斗争に高める事だ。戦争反対、ファシズム反対の斗争を労仂者勤労農民大衆の日常生活とかけ離れたものゝ如くに考へてゐるから具体的斗争が起されないのであり、経済斗争の独自的指導なる任務が古くなつたのではないかといふ馬鹿気た質問が出て来るのである。（此の点に関してはパンフレツト『経済斗争の独自的指導』を見よ）

4

更に別の観点から此の問題に触れる事にしやう。それは諸君の質問中にある「如何にしたならば我々の組織内に這入り込んで来るプロワカートルへ挑発スパイ例へば、元市電に居た秋和松五郎、評議会時代の本沢兼次、海員であつた加瀬某、七・一五事件の西山幸神谷敏郎等味方面してゐて敵の選し者である奴等のこと、以下この言葉を使用する）を発見し、それと斗争すべきか？」に関聯する

我々が

経済斗争を独自的に準備し、指導する場合、当該組織の各成員はそれ〴〵の分担に従って活動しなければならぬ事言ふまでもない。**大衆的**に斗争を組織し、大衆と共に活動させ、その中で試練するならば、大抵のプロワカートルは自分の正体を顕さずには居られない。ボリシエビキはプロワカートルとの斗争に於ける斯の如き方法を採つた。プロワカートルは或場合には自ら捕縛される事もやる。だが事件が度重なつて来れば、必ず正体は暴露される。非合法的條件を口実として大衆的活動不可能論を云々するが如きは最も誤れる議論である事が之でも分るであらう。**非合法的條件なるが故に大衆的活動を**（文化団体、スポーツ団体、教育グループ等々の形に依つても）行はねばならぬのである。そしてこの大衆的活動を行ふに**最も手近かな・しかも最も具体性を有つのが経済斗争の組織**である。戦争の継続、ファシズム的独裁への移行は**直接**に工場、鉱山、船舶、農村に於ける労仂者農民に対する**搾取の強大**となつて来る事は自明の理である。だから、帝口主義戦争反対、ファシズム反対の斗争と工場内の賃銀値下反対の斗争との間には密接な関係があると言ひ得るのだ。以上の説明でも尚未だ「経済斗争の独自的指導といふ事は古くなつたのか？」といふ疑問が氷解されずに居るだらうか。

5

「ファシズムに反対する斗争を工場内で組織せよといふ事を**具体的に説明**して呉れ」と諸君は尚うてゐる。「一般的方針は理解した。だが具体的には分らぬ」と言ふのが諸君の見解であるらしい。依レー般的方針の**理解**といふ事はそれの**具体的遂行**といふ事と切離して言ひ得るだらうか？此の問題に対して諸君は**共産主義者的**に答へねばならぬ。我々は「労農」一派や、解党派や、イノマタの如く机上にペンを走らせてゐる輩とは異つて、階級斗争を組織に依つて行つて居る**行動隊**であるのだ。昨年の「インタナショナル」に発表された論文中で同志ヴオルクは、「党内に何等の意見の相違もないかの如く見えてゐる事は甚だしく危険である。……石濱日和見主義者は決定には反対しない。只それを実行に移さないだけだ」といふ意味の事を書いた。「一般的方針は分つたが具体的には分らぬ」といふ事を口実として実践的には活動をサボつてゐた組織が我々の陣営の内部に累して存在しないか？上層指導に居る同志達は、一片の

指令

を出す事だけに止つて居り、下層組織に居る同志は理解され得ない抽な――だが是等の同志は言ふ「理窟は解つてゐるんだが……却々うまく行かない」と――指令に対して**具体的に質問**をしないでゐる。諸君の質問はその点では一歩進んでゐる。と言ふのは、諸君の組織が当面してゐる**反動団体の活動振りを具体的に述べてそれに対する我々の政策を如何にすべきかと言ふ具合に問題を具体的に提出**してゐるからだ。

（イ）「大日本生産党には入るべきか？」。は入るべきでない。何故なら、このファシスト政党は**大衆的**でない。極く少数の、それも工場労仂者層には未だ大した影響を持つて居ない。この中には入つて行く事が今日の重要問題ではなしに、この政党の影響が工場の中へは入つて来るのを叩き潰す事が今日の重要問題である。諸君は例を挙げて曰く「或る企業では従業員の約三分の一が口将会には入つてゐるがその場合でも之は入つてはならぬか？」と。然り、之は入つてはならぬ。之は入るべきか否かを中心問題とすべきではなしに、如何にしてその三分の一の従業員を特

つてゐる口将会を叩き潰すかを目標に上すべきなのだ。どうして潰すか？一人々々を説得して歩いてか？工新をコツソリと手渡してか？勿論それらも必要である。けれども、それらの活動が**一つの中心的題目**、即ち、該

企業全体に及ぶ大衆的斗争の組織、全従業員の共通利益を基礎として統一的斗争を組織すること――に向けられねばならぬ。そしてこの我々の組織する斗争が、真実に全従業員――正確には解散されてゐる従業員の全て――の利益を擁護してゐる時に**大衆的に**彼等を我々の組織に獲得する事が出来るのだ。我々の組織の拡大は反動団体の組織の小さくなる事を意味する。本文の序に述べた「宗派主義的方法」の清算とは**大衆斗争の組織に依る大衆的獲得**を意味するのであり、冰四に説明した経済斗争の独自的指導の重要性は玆にあるのだ。

（ロ）「イタリーの如くファシスト的組合以外のものが許されなくなつたり、蒋介石治下の支那領地の如く国民党的組合以外のものが許されない場合になつたら、そして、その組合へ強制的に加入させられる様になつてもやはり加入してはならぬか？」。此の質問は少し取り越し苦労である。その場合には既に**今日とは條件が異つてゐる**、従つて戦術も異る。我々はその中で活動しなければならぬ。革命的反対派の形成が必要となる。現在、総同盟、組合同盟等の中に革命的反対派を形成する事女重要任務の一として居るのは、是等の組織が大衆的組織だからである。「裏切されてゐる大衆のゐる全ての場所で我々共産主義者、革命的労仂者は仂かねばならぬ。」

（ハ）「日本」新聞「日本社会主義」、「希望」等々の反動的出版物に対して如何に斗争するか？」。それらの一つ一つが如何なる階級――労仂者か、資本家か、地主か、小作人か――の利益を擁護してゐるかを具体的に、そこに発表してある記事に依つて暴露して行く事が必要である。そして、それに対立する我々の政策を説明することだ。

（ニ）「ファシズムに反対する為に特別な組織を作るべきか？」。諸君はドイツの例を挙げてゐる。「ドイツには反ファシスト同盟といふ大衆団体が出来てゐてそれが党の指導下にあり、大きな努力を持つてゐる。」更に諸君は続けて曰く「ファシズムに反対する斗争を何等かの組織に纏めるべく方向付ける事が我々の斗争をしてよりよき効果を上げしめるであらう」と。何等かの組織に纏める事は同感である。それに反対するものは恐らくないであらう。だがこの事が、先づ全口的組織を将へる事だといふのであつたらそれは若干の誤りであらう。何々同盟、何々委員会、何々準備会といふ様な全口的枠組を将へ上げる事のみを急いではならぬ。職場の中で大衆的なものを先づ将へる事が必要だ。**頭だけ出来てゐて胴や足がない様な組織になり勝ちである従来の日本の運動を清算するならば**、何人も我々の言ふ意味を正しく解釈する事が容易であらう。

例をとらう。

A 工場（或は農村）へ大日本生産党或は救口同志会の組織を作りに来たとする。其の時には恐らく天下り式である。而して、これらの組織には入るべきかどうかと言ふ事が工場（又は農村）での大衆の間の問題となる。その時に即ち大衆が何等かの組織に向つて関心を持つてゐるその時に、我々がそれらの団体の反動的性質を暴露し、それに代るに**大衆自身の組織**（工場委員会、農民委員会等）を以てする事を提案する。此の場合、我々の提案する組織の名称は必ずしも玆に挙げたものでなくともよい。だがさうした**内容を持たせる**事が必要なのである。誤解を避ける為に言つて置くが、反動団体の奴等が組織しに来るまで待つて居れといふのでは断じてない。一例として挙げたのである。

B 都市小市民、労仂者街に満洲軍慰問救口同志会を作らうといふ事が町会市会等の決定又は賛成の下にやつて来たらどうするか？その場合我々は、労仂者はその運動の中心に（その地域に於ける）立つ様にすべきである。

敵が

やつて来ないうちに住宅問題、ガス、水道、電灯、家賃問題を中心にして組織を作る様にすべきである。救口同志会といふ様なものが大衆的に、しかも強制的に作られる場合、我々労仂者は傍観的態度であつてはならぬ。その組織には入る事ではなくて、そうした組織を作りに来るのを待つてゐる事ではなく、今日直ちに現実問題（住宅、家賃問題等）を把へて**新しい性質を持つ所の借家人同盟**、或は

失業者同盟の活動の本来的任務の遂行へと向ふべきである。帝口主義祖口の救口ではなく自らの生活を救ふ事が非一義的だ。搾取に反対する事が必要なのだといふ事を労仂者が先頭に立つて勇敢に叫ばねばならぬ。迫害、追求――それはあるに違ひない。だがやらねばならぬことは餓くまでもやらねばならぬ。

C ファシスト団体の演説会へ**大衆的**に出掛けて行つてブチ毀す事も必要である。

諸君の質問に対する（この「ニ」の項）結論的答へは斯うだ。即ち、職場の中で大衆を基礎とする組織を作る事が最もいゝファシズム反対斗争である。但し地方的に統一的活動を行ふべく、大衆団体の代表者会議を開いて協議することは効果的であり、必要でもある。要するに、名称だけのものに終らせない、**実質的**なものを作るといふ方針でなければならぬ。

（ホ）「社会ファシズムに対する斗争は如何にすべきか？」。根本的には右と同じ。就中、彼等が用ひる社会主義的言辞と排外主義、民族主義、社会帝口主義、反ソヴエート同盟主義の暴露が必要である。社会民衆党が労仂者農民

の争議、ストライキ等の裏切りを常習としてゐながら『三井銀行の襲撃(?)』をやつたのは、軍隊出動、戒厳令布告の口実を作らせる為であつた事を明らかに労働者大衆の間に知らせねばならぬ。赤松がファシストと結んでゐること、片山哲、小池四郎外一名が

満洲 視察へ行つた費用は参謀本部から出てゐること等は衆知の事実である。

全口労農大衆党及びその理論的本部たる雑誌『労農』の反動的性質を暴露する事の必要な事は諸君の言ふ通りである。民政党政友会よりは社民党の方がまだいい、社民党よりは全労党の方がまだいいといふ山川主義に対しては決定的に斗争しなければならぬ。既定の事実を抹殺して置いて(階級的裏切りを隠して置いて)、雨が降つてゐると仮定するならば天気は悪いであらう』といふが如き典型的日和見主義こそ労働者農民の革命運動を毒するものである。此奴等は『ムッソリニーよりはヒンデンブルグの方がいい、宇垣よりは南の方がいい』と言つてゐるに過ぎない。口先だけでコミンテルン、プロフインテルンを弄んでゐて(それも歪曲して)実践的に反対する此奴等こそ労働階級の敵であり、ファシズムの味方である。

金輸出再禁止とプロレタリアート

〔一〕

政 友会内閣成立の意義は金輸出再禁止にあると謂はれてゐる。以前から金輸出再禁止を買つてゐた株式相場は政変以来二日間に歓迎値上り三億八百八十九万四千円に上つた。兜町は正米にない活況を呈してゐる。秋以来「口賊」呼ばりを厄目にかけ「我口の金本位制停止を目標に猛烈なる円売ドル買をなした」(三井系一億円以上、住友四千万円、三菱二千万円其他信託証券会社保険会社等を合計して約四億円)三井三菱住友等は八千万円に達する為替上の利得を得た。(それは天から降つたのでも地から湧いたのでもない勤労民衆から収奪したのだ)コゲツイてゐたポンド一億円一引揚げが可能になつた。海運業は円価下落の為ポンド円価換算が有利となり、船価は三割も昂騰し船体担保の債務の追及は減するであらう。保険界もポンド投資数十万円が一挙損失から利益へ円価下落の為一転化した。紡績も毛紙も製粉もウンと安く買入れてゐる手持ち原料の値上り益を見る事が出来一切の債物ストックは一挙に二三割の値上りとなる。一般に債務に悩む事業界は債権者の追及が緩和され、年末に差迫つた金融難から免れ得べく最近とみに増加した銀行の固定貸付け

重要農村の細胞の活動報告を直接に聞くといふ方法を実行すべきである。★

(八)厳格な、鋼鉄の規律は非合法下にある日本の革命運動に於て特に堅く守られねばならぬ。上層機関の決定は直ちに実行に移されねばならぬ。所謂理論斗争に時間を費してゐるが如きは断じて許されない。然し乍ら、貴組織の一部に見られるが如き斗争、即ち、非党員に党員が命令する、党組織が大衆団体の仂き手に命令するといふ様な事を肯定するのではない。その事は誤りである。我党発行のパンフレット『党と大衆団体との関係』党の独自的活動に就て』中にある同志スターリンからの引用を熟読せよ。この様な態度に対して我々は断乎として斗争しなければならぬ。党組織内の規律と大衆団体内の規律とは異るものがある。

(二)大衆的活動方法への転換に就て 諸君は百倍も千倍もの注意を向けねばならぬ。ウヰスが少い、ドリルが悪い、カッターが切れない、油の質が悪い、手洗場がない等々の小さい〳〵事からしても大衆的運動が起せるといふ事を充分に理解せねばならぬ。我々が非合法であればある程我々は大衆運動の組織に努力しなければならぬ。

我々は、出来るだけ短い期間の中に諸君が喜こばしき報告を送るであらう事を期待する。

——共産主義の検挙を以て、中央部からの指令は概ね一般的全口的である。それでも尚東京、大阪等の例を入れて説明を与へてゐる。地方、地区委員会の指令、決定等はそれより以上に具体化されたものであらねばならぬ。

上段脱漏補填

(4)地方地区委員会は重要工場、企業

斯 くて大金融ブルジョアジーを始め一切のブルジョア地主は多かれ少なかれ金輸出再禁止に利益を見出す。株式のカンゲイ値上りは実にこの間の事情を端的に表明せるものに外ならない。だが、彼等の一致する意見はそれが、どこまでも『一時的』であり『あくまで線香花火的なものである』(東朝社説)と云ふ二点だ。その先がどうなるかを考へる時彼等は憂鬱にならざるを得ないのだ。彼等の一致する物慾は如何してよいか決断がつかないでゐると云ふことだ。流石のブルジョア地主も全くガッカリしてゐる様を見るのは五九郎の喜劇以上である。

『私は満洲事変以上に利下の経済難局が口癖としてより以上のもので、的確な判断予測がつかないのだ』と日本財界の巨頭各務鎌吉が告白してゐる。日本資本主義の危機は実に想像以上である。全く無計画無方針なのかといふに断じてそうではない。

〔二〕

金 輸再禁止によつて為替相場が三割下落し物価は反対に騰貴するだらう。一円で買ひ得た品物は例へば一四三十銭を出さなければ買ひ得なくなるだらう。プロレタリアートや俸給生活者はよし今迄通り債券俸給を受取り得るとしても実際には三割減下げ又は減俸されたこと同じ結果となる。

今日勤労農民はその生活の約八〇%を債務経済に入り込んでゐるのである

民 政党政府は労仂者、下級サラリーマンに対して失業と優級個下げと減俸と労仂時間の延長と労仂の強化とを断行した。勤労農民に対しては才一に農業生産品物価の極端な低落を行つた。金融ブルジョアジーは民政党政府をして最も忠実に彼等の犠牲を労仂者、下級サラリーマン、勤労農民へ転化せしめた。にも拘らず今度の彼等の危機——恐慌しつゝある資本主義の危機——は決して免職されなかつたばかりでなく一層深刻化した。社会不安と労仂者貧農を初めとする民衆の動揺は気味悪く地下に動いてゐる。人々は往年の米騒動を想起さえしてゐる有様だ。斯かる情勢を見てとつた帝国主義ブルジョアジーは『危機切り抜け策』を更に積極且つ巧妙にする必要に迫られた。金輸出再禁止はその政策の進ばれた一つにすぎないのだ。支配階級は労仂者、下級サラリーマン、貧農、勤労民衆に対して今迄は飴内から攻め立てゐた。今度はコツソリ裏口から強然たる攻撃を加へるに至つたのだ。彼等は職首、減下げ、労仂時間無償延長、

状態の極度からして農民は一層困難な状態を強要されることを意味する』なんとなれば、農産物価例へば米麦等の値上りよりも肥料——年々三四億円も買つてゐる——等の値上りが遙かに大であるからだ。農民は割安に買つて一層割高に買はされなければならなくなるのだ。

〔三〕

金 輸出再禁止は只に政友会の政策にすぎないのだと云ふ一切のブル新聞雑誌の偽瞞に乗つてはならぬ。ブル政党の政策がブルジョア地主の政策である事は自明である。金輸出再禁止の政策は成程民政党の金輸出解禁政策程の強力な『口民の全般的支持』(東朝社説)を得てゐない事は事実である。それは日本資本主義の危機の深刻さとブルジョアジーの力量ひとしからざるにすぎない。に拘らず金輸出再禁止政策は三井を始め

物 価騰貴の為め景気回復し失業と飢餓とが克服されるとの主張は今日ブルジョア新聞雑誌の間ですら一笑に附せられる程の偽瞞である。物価騰貴は実質賃銀の最も巧妙な一人一人の資本家に依るのでなく全口一律な強制引下げであつて半失業と一層の飢餓を作り出すことに依つてブルジョア地主のミ入りをよくし、更にこの収奪権取を強化として口外にダンピングを行ふのだ。

才二、

不 況打開策の一つ金輸出再禁止の過は資本主義そのものゝ内包する矛盾の表れである今日の危機を決して克服し得ないばかりでなく覚醒的には却つて危機を拡大し尖鋭化するものである。ブルジョアジーはそれを全く知らないのではない。だが根幹には今日この方法を取る以外に道がないのだ。労仂者と農民のソビエート日本を建設し社会主義を実行する以外に今日の危機を免

服する方法は絶対にないのだがブルジョアジーにはそれは自らの滅亡を意味することで断じて出来ないのだから。だからこそ彼等は日本をしてガニのドイツたらしむる」ことのない様に「戒めよ」(東朝社説)「一切の右翼的社会運動を禁止すべきである」(宮島清次郎談「読売」)と政府に要求してゐるのだ。一層ファッショ的な政友会政府が今成こそは心行く迄プロレタリアート食糧労働民衆を弾圧するであらう、満蒙、北支那、シベリヤを領有する「大陸日本帝国」政策の実現に邁進するであらう、こと等は想像にかたくないのだ。

労働四、

社 会民主義者の金輸出再禁止、平価切り下げ解禁の主張がブルジョアジーの利益の為の主張であるかゞ既に明白に事実となつて現はれた今日共産主義者はこの点を徹底的に暴露しなければならぬ。

【四】

資 本家地主は「自由主義的」な民政党をして「日民」の名に於て本日並に植民地のプロレタリアートを先頭とする一切の勤労民衆に堂々正面攻撃をやらせた。今度は公然と「皇室中心議会否認」を宣言した鈴木喜三郎を司法大臣とする一層ファッショ的な政友会をして更にカラメ手からの攻撃をも開始したのだ。

三、だから工新の発行は細胞の重要な仕事とならねばならない。工場新聞は細胞で編輯し発行し配布して行くのだ！此の点吾々のパンフレットに混乱した書き方をした為「工場新聞の役割の過少評価」——例へば三例——

の頽銀傷給値上げを要求してゐこれは実は値上げでも何でもないのだ。昨日迄と同額の二円の頽銀を受取つても其二円が実は一円四十銭の価打ちしかないのだから二円から二円六十銭に値上げして始めて昨日までと同額の頽銀を受取ることになるのだ。

農村人口が最も困つてゐるのは肥料代である。肥料なくしては生産が不可能だ。生産する事なくしては生活は不可能だ。其肥料を始めとする農家購入商品は多くは独占価格であつて今日既に甚しく高い水準にある。それが更に例へば三割の騰貴を見る事になるのであるから農村人口の打撃と苦難とは全く想像の外である。倉敷の「肥料代を半値にしろ」「肥料代は地主が神(！)の要求は彼等の最も控へ目な要求である。更に肥料代に対し肥料屋は利子を取つてゐるが斯くの如き高利貸に対しては「利子全廃」は勿論農村人口の怒吠の標的たる此の吸血鬼に対して徹底的に斗争しなければならぬ。プロレタリアートは勤労農民並に傍給生活者のかゝる斗争を指導し援助し広汎な大衆行動に迫発展せしめなければならぬ。

日 本プロレタリアートには大人数とが紫吹の危険である。都市では、工場委員会、工場代表者会議、等、農村では、農民委員会組織の威力がもつと〳〵理解されなければならぬ。それは党が大衆行動の先頭に立ち大衆とピツたりむすびつくための最も効果的なる方法の一つであり、金輸出再禁止をケ

工場新聞に関する誤謬を訂正す

日本共産党 大阪地方委員会

赤旗パンフレット第十五輯「工場新聞に就いての批判」に於て、工場新聞に関する吾々の誤謬が党中央部に依つて次の如く指摘された。

「だがこのパンフレットの五頁に「工新は党細胞の機関紙でもなければ分会の機関紙でもない」と書いてゐるのは間違つてゐる。一九二五年コミンテルン執行委員会組織局の工場新聞に関する決議には「工場新聞は細胞の機関紙である。その発行は工場細胞の確固さと行動能力との試金石である」と明白に規定されており、一九二六年コミンテルン執行委員会組織局の決議にも「一ヶ月一回執行委員会組織局の決議の発行は細胞自身によつてなされなければならぬことに関しての理解がなければ行きわたつてゐない」ことを繰返し決議して、これに対する注意と実践とを要求してゐる。工場新聞は工場細胞の機関紙だ！大阪市委員会が工場新聞は工場細胞の機関紙でないと規定したのは完全に間違つてゐる！」

党員諸君!!

赤旗パンフレット第十五輯「工場新聞に就いての批判」に於て、工場新聞発行の形式——即ち細胞機関紙たる々の署名を省き ××社の形式にすることだ——に依らはれて「工新は党細胞の機関紙でもなければ分会の機関紙でもない」と書き混乱を示した事は重大な誤謬だ！吾々は党中央部の指摘通り、直に誤りを改めねばならない。だが吾々の自己批判、誤謬の訂正は単に理論的にこれを認めるだけであつてはならない。直に之を実践化しなければならないのだ！

細胞の同志諸君!!

直に細胞の総会を開け！赤旗パンフレット「工場新聞に就いての批判」を討議せよ！そして今迫の工場新聞活動を批判し、その成果をとり入れ、工場新聞に対する正しき方針を立てよ！次の新号は必ずシツカリと吾々の頭に叩込んでおかねばならないぞ！

一、工場新聞は工場細胞の機関紙だ！

二、「工場新聞の果すべき任務」をハツキリと理解すること。新聞は単に吾党の闘争政策を解明にするだけでなく「彼等は如何に組織され、如何に行動すべきか」をハツキリ知らせ、彼等を

の組織として甚だ有効なものである。

「決定」に忠実たれ！
直に婦人部活動を開始せよ

赤旗五十九号の中の一節、「……日本の同志の最大の欠点の一つは、党とコミンテルンとの決定に服さない点だ。と云つて勿論意識的に服すまいとするのではない。むしろその反対だ。自分で服さうと決心してゐるばかりでなく服してゐるつもりでも客観的に現実に服してゐるとは限らない。応々にして服してゐない場合があるのだ。「決定」に対して直剣さが足りないのだ。……」と云ふ以上の文章を、全党員諸君がどういう風に具体的に読まれたかを知りたいと思つてゐる。

ところで、全口の党員諸君、この文章を裏書きする様な問題がこゝにある。

我党は、コミンテルンの決定及びプロフインテルンが第五回大会に於てなした、日本における労農婦人の組織の重要さと、婦人勤労大衆獲得のための独自の形態と方法の創設に就いての指摘を正しく理解し、今春、先づ中央部に婦人部を設置し、以来何回となく赤旗紙上及び第二赤新紙上に於て、勤労婦人獲得の斗争を、組織的に、強力的に展開するために、党の各地方、地区、都市、各細胞の指導部は婦人部(或は責任ある一人の婦人オルガナイザー、男女いづれにても可、ケン任にても可)を直ちに設置しなければならない事、其の他我党の婦人活動にとつての基本的、必須的問題に就いて提案し、実行を要求したのである。これに就いて若干の同志の間で討論が行はれたが、一般には行はれなかつたらしい(報告が来てゐない。)そして今日に至るも未だ婦人部の地区委員会、一つの細胞に九婦人部はおろか、一人の婦人オルガナイザーさへ出来てゐない(中央部には之等に就いての一つの報告も来て居ない)。遺憾乍ら、「決定」に対する態度は、この問題の限りに於て、真剣でなく、忠実でなかつた。

赤旗紙上に現れる党中央部の提案や決定は勿論、又その他の問題でも、又その場限りのいゝ加減なものではないのである。それは必ず一つ残らず実際に行はれねばならないものなのである。そして、その全部が全党員の責任ある実行活動に掛つてゐるのである。

「百指導枝関より一本の針」の婦人部さへ出来てゐない！

「細胞総会を開き赤旗、パンフレット「工新に就ての批判」を討議せよ！」

多くの工場新聞は政治的立場を失つてゐる！細胞の工場内活動を強化せよ！細胞は政治生活を行へ！そして、吾々の工新をして、工場征服の有力なる武器たらしめよ！

ぞ云ふ態度は絶対に誤りである。それ等の同志は「日本の工業に於ける婦人の割合は何処に於けるよりも高く、日本の條件に於て婦人の組織を放棄することはプルジヨアジーに奉仕することを意味する」と云ふことを活字や統計の上では知つてゐてもそれが実際には理解してゐないのである。

地方、都市、郡、村や各細胞の指導機関に働いてゐる党員諸君は直に其処に一名乃至三、四名からなる婦人部を作るべきである。全協、全農、労働組合等本的反対派やその他の大衆団体内そしてその下部組織で活動してゐる党員諸君は、その各々の指導機関の婦人部に所属されるべき婦人オルガナイザーを選定して直に婦人を組織すべく実際の活動に着手すべきである。党婦人部の独自的組織活動と党の活動一般との諸関係に就いては赤旗第五十三號の論文をこれと合せてよく読まれたい。

(一) 婦人部の構成と党活動との関係

一名乃至三四名（数名出来れば尚結構だ）で作られた婦人部内に一人の責任者を選定する。これは、選挙でなく、委員会から指名される。この婦人部責任者は、その委員会、例へば地方委員会の婦人部責任者は、地方委員会の委員であつて、地方委員会の総ての会議に出席してそこの全般的な活動に参加してゐる。そして婦人部の活動に就いてその全責任を負つてゐる。その他の同志は、婦人部員として、婦人部のすべての具体的活動に色々な活動を分担してたづさわる。中央、地方都市、村、細胞等の各委員会の婦人部はこの如くに作られる。勿論、責任者及び部員とも、男女いづれでも良いのである。唯、それが婦人の同志で構成されたら特に良いのである。

(二) 此等の婦人部の全活動は常に党の指導機関の指令下に行はれる。例へば、地方委員会の婦人部は中央婦人部の指導下に、地方的領域の全婦人活動を指導し、その直接下の関係にある婦人部に指令して活動する。

婦人部の独自の組織活動は常に党細織部との完全な、緊密な協定と協力の下に行はれる。例へば、地方委員会の婦人部が、未だ婦人部の出来てゐない都市や地区の委員会の設持ち関内のエ場に手をつけ様とする時地方委員会婦人部は、直接責任地位にあるその都市、或は地区の指導部の組織部と協定し協動する。地方委員会婦人部は何よりも先ず下の指導機関に婦人部を作る事を指令しなければならない。

婦人部の独自の組織活動による成果は、凡て党の組織部へ渡される。

(三) 中央部及び各地方や各都市や地区の指導機関の婦人部は、或は一定の活動（例へば、色々なカンパの時、婦人代表者会議の時、ストライキ等）に際して、その直接下の指導機関の婦人部を指導し、援助しなければならない。

又、中央、地方、都市、地区、村等の婦人部は地区や工場の婦人オルグを立地方の労農婦人間の活動の展開の為に特別の婦人オルガナイザーを派遣しなければならない。特に中央や地方の婦人部は、常にかゝる場合に充分留意しつゝ永組織、永活動方面、特に婦人労働の重要地に於ける直接地の婦人部を指導しなければならない。

婦人オルグはすべて婦人部員であると同時に党組織部員或はその指導下に働いてゐる組織員でなければならない。

(四) 中央及地方委員会婦人部は、一定の工場（婦人労働を主要なものとする重要企業、特に未組織の場合、ストライキをやつて居る場合）に於ける労働婦人の組織に対しては党のその地方、その地区の組織部との協定の下に婦人部は独自的に直属の婦人オルグを配置して労働婦人の組織に対して、中央及び地方婦人部自ら、責任をもつて当り模範的活動となる様に、進んで党全体の活動の強化のために積極的に活動しなければならない。

これ等の活動の成果は当然党の組織部へ集中されるものである。

(五) 中央及び地方、都市、地区、村等の委員会は、その各々の婦人オルグが経験を交換し、又この活動を党によつて統制し、指導するために、これ等の委員会は婦人オルグを招集して、それ〴〵の地域の規模に於て、小委員会（婦人組織会議）を定期に招集する。

又、中央、地方、都市、地区、村等の婦人部は地区や工場の婦人オルグを定期に招集する

(六) 以上の様な労農婦人間の婦人部の活動の方針問題は、すべての党の指導機関で決定される。そして婦人の間の仕事については、下級機関から上級機関までの凡ゆる関係（アジプロ部、組織部、農民部、共青係、労働組合部失業者部等の）に於て討論されねばならない。

又、中央及地方、都市、地区等の委員会の議事日程に婦人問題が常に定期的に持ち出されねばならない。

(七) 婦人間の全活動の成果及び次への活動の方針や決定を婦人部は、党中央婦人部へ定期的に報告せねばならないのである。

同志諸君は直ちに、婦人部の責任者と、当面の活動方針、それから具体的活動の一分担部を中央部に報告しなければならない。そして、これは以後定期的に行はれねばならない。これは党生活者の鉄の規律である。

党は、婦人間の活動についての党の諸方針を出来るだけ急速に、第二無新か、赤旗か、何かの方法で発表するであらう。

我々は「中央でやかましく言つて来るから、とにかく作つたしと云ふのでなく、コミンテルン、プロフインテルンの決定の正しい理解の上に、作られた強力な活動能力を持つた「婦人部設置」の報告がどし〳〵来ることを期待してゐる。

（完）

朝鮮共産党日本総局及高麗共産青年会日本部解体声明書

日鮮労働者農民諸君！

我が総局及共青日本部は一九二六年朝鮮共産青年会の日本に於ける派遣部隊として結成され、日本朝鮮人労働者運動の指導に当つて来た。斯かる党及共青の海外部隊が当該地域のプロレタリア運動の統一的関連なく独立的に存在してゐたと云ふ事は当時の客観的諸情勢に照応するものとは云へ確かに一つの変則的存在たるに変りはない。故に之等の組織はその成立当時から既に一定のアヂ的制限性をそれ自らの中に内包するものであり、近き将来に於ける当該地域のプロレタリア運動への解体を自己のアヂ的見透しとして持つものであつたのである。然るにこの解体問題が未だ実践的問題として提起されるに先立つて、一九二八年末我が総局及日本部は白色テロルの乱舞の中にその陣営を破壊されたのである。そうして、この当然提起さるべくして提起されなかつた解体問題は、その後大衆自身の自然成長的実践に移され、日鮮プロレタリアの階級的協同は、広汎なる階級戦線の現実的事態として現はれるに至つたのである。

この事は従に彼等が被圧迫民族的分限を超越して労働階級としての共同の使命を自覚し、彼等の最も信頼すべき盟友を互にその現実的斗争の過程に於いて現出しつゝあることを立証するものであり、同時に我が総局のアヂ的任務の終了とその解体の実践的可能性を保証するものでなければならぬ。然るに我が総局は、一九二六年、一九二七年の破壊等前記の事情に依り、この解体の任務を一定の見透しの下に、意識的に遂行し得なかつた為に、未だ一部大衆の間には我総局の解体が敵の圧力に依る一時的現象の如く誤認し、或は今尚、政治的指導部隊としての総局が現在するが如き幻想を抱いてゐるものさへないでもない。我々が今更めて自己の解体を声明する理由は茲ら処にあるのである。そうして、その解体は、当然党の決定に基きその上部機関の指令に依るべきであるにも拘らず、今日口内の諸情勢は、この正常な手続きを許さない現状にあるのである。依つて吾々は総局及共青日本部の自発的意志に依り、この討議に参加し得ない事情にある一部の同志を除き、全員一致を以て、この解体を決議するに至つたのである。従つて我が総局及共青日本部の成立及解体過程は、一定のアヂ的段階に於ける客観的諸條件に依り決定されたものであつて、決して一部背教者共が唱へる如く、不幸な過去への自己批判でもなければ、誤れる方向の単なる清算でもない。これに就いては何れ機を更めて具体的な論議が試みられるであらう。唯、茲る問題は解体に附随して当然解決と整理とを要すべき若干の問題と我々の今後の実践的方向である。然し之れに就いてもこの短い声明書の中で、之等問題の論断さへ提示することは不可能である。又、解体が単なる陣営の解体ではなく新らしき斗争への転向であることを云へば足る。我々は日鮮プロレタリアのあらゆる革命的組織の中に自己の階級的任務を見出すであらう。

最後に臨み、我が総局及共青日本部のアヂ的職業に参加し、我々と辛苦を共にした同志の中、今、敵の牢獄で悩み、或は口外に亡命せる諸君に堅き握手を送る。

我々は今や、同じく肩を並べてゐた陣列から離散し、各々その部署を異にするとは云へ、我が総局の掲げる革命的伝統と革命たる斗争的精神とは我々の新らしき陣営に輝くであらう。

一九三一年十月

朝鮮共産党日本総局
高麗共産青年会日本部

オイルシエール工場。

日本帝國主義の進出と國◇際◇聯◇盟

—生 X X—

(1) 満蒙略奪戦争は日本帝国主義の新たなる国際的犯罪であり、阿部ドプロレタリアートに対するブルジョアジーの国際的攻撃の新局面を展開したものである。

日本は国際関係の矛盾、動揺を機に中国に於ける国民党の労農運動征伐の失敗（二度共党会に失敗した）を利用したとえふ表現は悪りである。この失敗こそ帝国主義者を直接一代行者蒋介石の手を借らずー中国のソヴエート粉砕の破壊、中国の再分割に駆り立てゝおるのである。筆者はすでには国民党政权と帝国主義の間に基本的な対立を置く事に依り、それには非常の勝利的攻撃が現在の瞬間において有する歴史的意義を見落した事によって誤つた——編輯通

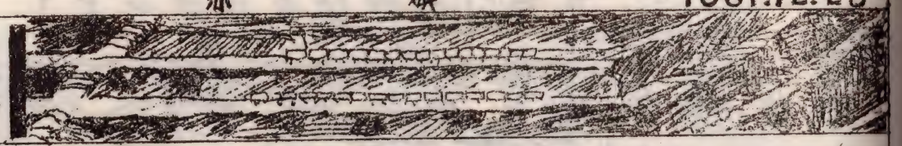
口民党及び帝国主義列強を出し抜いた。そして東洋における憲兵たる日本帝国主義の国際的優越を更に新しく強固に確保せんとする事に努力を盛してゐる。だがかゝる日本帝国主義の新たなる進出は、中国に於ける英米日の対立矛盾を異常に激化せしめ、従つて中国を中心としての英米日の勢力関係の再編成を齎らさざるを得ないであらう。満蒙独立運動はそれに帝国主義日本が満蒙を中国から形式的にも切り離して完全な植民地とする事を目的としてゐる事、従つて満蒙の一般大衆をヨリ統一的に強力に指導し抑圧する事、それ、ソヴエート同盟、ソヴエート支那、ソヴエート擁古に対する攻撃を目的としてゐる事、それに、国際プロレタリア運動に対する抑圧及び労働者階級運動者階級に対するヨリ一層冒瀆をも攻撃を目的とし、これは全世界のプロレタリアートに対する挑戦であることも、吾々は決して忘れてはならぬ。

(2) 国際聯盟は帝国主義日本の進出を国際的に承認しも以外の何事をなし得るか？否何もなし得なかつた。唯再びハツキリと全世界プロレタリアートの前に国際聯盟の無能を及び帝国主義列強の矛盾対立を暴露したのみだ。国際聯盟はソ連邦々々の帝国主義強盗共の方明係によつて決定される世界再分割、ソヴエート同盟、ソヴエート支那攻撃の為の機関以外の何物でもないのだ。だからこそソヴエート同盟、ソヴエート支那攻撃を戦略的目標とする日本帝国主義の満蒙進出は国際的に或る程度迄承認せられたのだ。彼等は日本軍隊が黒龍江軍攻撃に名を借りて東支鉄道に向つてソヴエート同盟武力的攻撃の一層確固たる基礎をとつた事に対して満足を表した。彼等はソヴエート同盟を攻撃する事には全く大賛成なのだ。だがこのことは他方に於て、日英米仏の矛盾対立を深め、他帝国主義が日本の「ヨリ以上ノ」暴伸を遮止を遮止し聯盟せんとする努力を対ぶるものではない。

日本の満蒙強盗は最も大きな利害を感じてゐるものはアメリカ帝国主義だ。アメリカは欧州に対する優越を利用し、国際聯盟を通じて国際的仮面の下に日本帝国主義を表制し抑圧せんと策動した。この試みは僅ではあるが或る程度まで成功したと見る事が出来よう。（何へば米オブザーバー招待問題及び十三対一の採決）

次はイギリスだ。イギリスは其の危機からの活路を口内プロレタリアート及植民地に対する攻撃に於て殊に中国市場に於て見出さうと努めて来てゐる。イギリスは日米の対立を利用しようとする凡ゆる努力を惜まないばかりでなく、今や積極的に日本に対して相互的な譲歩的な態度をとらうとして来てゐる。何故なら日支関係の悪化によつて、新興次第に立遅つて来たイギリスの新興その他の産業が排日運動を口実として日本帝国主義の撃滅及植戦略の増強によつて市場を攪乱されることは、イギリス帝国主義にとつて到底堪ゆる事が出来ないからだ。だからこそ国際聯盟理事会に於て英代表が反日策動をなしたのであり、又駐支英公使が積極的に反日策動をなしてゐると伝へられるのだ。

フランスは満蒙問題に直接の大きな利害を持つてゐない。従つてフランスは唯日英米の対立を政治的に有利に利用しようとえへるだらう。それはラウアル、フーヴアー



の会商に改る前奏を持たしめ次であらう。それはロ国際関係に於けるフランス帝国主義の新たなる確認（かゝる表現は単に漠然としてゐるだけでなく国際聯盟を利用して、フランス帝国主義が如何に巧妙にソヴエート同盟に対する国際的干渉戦線を強化せしめたかを見落す事に依つて不充分とされる。フランス帝国主義は只この一点に於てそして世界的覇権の争奪をめぐるアメリカ帝国主義に対する競争者としての利害から日本帝国主義の侵略戦争を支持したのである。国際帝国主義の対立のアメリカ帝国主義対日英仏のブロックの方向に動いてゐる。それと共にラウアル、ブリヤンアーの会商はソヴエート同盟に対する国際的干渉戦の準備が更に新たなる段階に入つた事を意味してゐる。——編輯局）に導き入れることに役立たしめたであらう。

(3) 日本は支那と直接交渉を開始しようとしてゐる。而も日本が作つた、而も日本が作つた、日本の云ふ事を聞かざるを得ない満蒙独立諸政府とだ。

帝国主義日本は満蒙の完全なる植民地化、ソヴエート同盟、ソヴエート支那、ソヴエート擁古攻撃の計画を益々徹底的に執拗に準備し開始しつゝある。排日運動の日本帝国主義の策動による拡大強化と平敵武装解除の益々多量なる欺瞞的謀略を見よ。白川大将の満蒙視察と増兵、朝鮮軍隊の移動の如きは満蒙問題を物語るものを見よ。又露支提携赤化軍動く等のデマ及び英支提携の重大視等を見よ。特に満蒙に於ける革命運動の残忍なる弾圧を見よ。ファシストは叫んでゐる。満蒙の共産党の勢力の拡張を防止する為にはどうしても増兵しなければならぬ。尚日本金融ブルジョアジーの忠僕の一人は言つてゐる「満蒙問題は日本の国際的関係を更に一新せしむべき大変革の前提に外ならない。現在の満蒙に対する処分は暫定的処分でドシ〳〵歩を進めるがよい。……この基礎の上に卒直に偽らざる対支の地歩を堂々として進めることは新日本の運命を開拓する所以である」（中野正剛、東日、一〇・二七）

日本の異常なる進出は英米をして支那の形式的統一ヲ和平会戦ヒなる芝居を打たしめた。だがこの芝居は一体どう云ふ結果を齎したか？唯ロ民党の無能と反革命がヨリハツキリと暴露されたこと及び英米の対立矛盾が新しくヨリ一層尖鋭化された形態で浮び上つて来たと云ふ事だけだ。

(4) 世界恐慌の異常なる深化の新局面はイギリスの金本位制停止を一転機として今や舞台は米ロに移り、米ロを中心としてヨリ一層拡大された規模に於て展開されつゝある。

吾々は現在の瞬間に於ては反戦・ソヴエート同盟擁護、ソヴエート支那機関の斗争に全精力を集中し、瞬間的幻想を見よ。白川大将の満蒙視察と増兵、朝鮮軍隊の移動の如きは満蒙問題を物語るものを見よ。又露支提携赤化軍動く等のデマ及び英支提携の重大視等を見よ。特に満蒙に於ける革命運動の残忍なる弾圧を見よ。ファシストは叫んでゐる。満蒙の共産党の勢力の拡張を防止する為にはどうしても増兵しなければならぬ。尚日本金融ブルジョアジーの忠僕の一人は言つてゐる「満蒙問題は日本の国際的関係を更に一新せしむべき大変革の前提に外ならない。現在の満蒙に対する処分は暫定的処分でドシ〳〵歩を進めるがよい。……この基礎の上に卒直に偽らざる対支の地歩を堂々として進めることは新日本の運命を開拓する所以である」（中野正剛、東日、一〇・二七）

日本の異常なる進出は英米をして支那の形式的統一ヲ和平会戦ヒなる芝居を打たしめた。だがこの芝居は一体どう云ふ結果を齎したか？唯ロ民党の無能と反革命がヨリハツキリと暴露されたこと及び英米の対立矛盾が新しくヨリ一層拡大された規模に於て展開されつゝある。

(4) 世界恐慌の異常なる深化の新局面はイギリスの金本位制停止を一転機として今や舞台は米ロに移り、米ロを中心としてヨリ一層拡大された規模に於て展開されつゝある。

吾々は現在の瞬間に於ては反戦・ソヴエート同盟擁護、ソヴエート支那機関の斗争に全精力を集中し、凡ゆる斗争をその斗争に立遅めねばならぬ。吾々は未曽有に広汎な未組織大衆を斗争に動員し、組織し共産主義の側にプロレタリアートの多数者を獲得せねばならぬ。

その為には現在に於けるブルジョアジーの最大の武器たるファシズム、社会ファシズムに対する斗争に於て吾々は明確な断乎たる攻撃的態度と攻撃的方法とをとらねばならぬ。下からの革命的統一戦線によつて吾々は彼等の大衆的基礎を破壊せねばならぬ。革命的危機の成熟のテムポはファシズム、社会ファシズムの大衆的基礎の破壊のテムポの程度如何に依存するであらう！尚吾々は直に口国際主義を実践に於て生かさねばならぬ事、革命的共同斗争を組織せねばならぬ事、革命的共同斗争を組織せねばならぬ事を、何時にも増して現在こそ特に強調する必要がある。

今や日本プロレタリアートは全世界のプロレタリアートに対して重大なる国際的任務と責ひを負つて立つてゐるのだ。吾々はもつと〳〵吾々自身の力を大衆の化闘化を革命的力を信頼し確信し革命的斗争の先頭に立つて斗争を組織指導せねばならぬ。準備せよ。不意打を食はぬやう準備せよ。組織せよ。千度も組織せよ。

▼大衆と結合せよ、大衆の先頭に立て！

▼口国際的革命的共同斗争万才！

革命的労仂者と借家人同盟の組織に就て

大阪—×△生

(一) 労仂者の住宅の問題に目を向けねばならない。此の問題は単に家賃の減収（諸種の方法による）と物価騰貴等々による労仂者階級の生活条件への全般的攻撃が始まつてゐる現在に於て益々その重要性を増しつゝある。経済斗争の独自的指導の革命的意義を強調した吾々は今日この問題を急速に取り上げるべき任務を持つてゐる。

一九二九年頃迄は吾々の借家人同盟があり、充実的な？借家人運動が相当斗はれてゐたが、其後皆から忘れられたかの様にとんと失なつてしまつた。従来の借同の斗争が小ブル的であり、社会民主主義者と少しも変りがなかつた為に、そして吾々の運動が大工場、大経営工場内活動へと急激に転換した為に、多種多様な複雑な情勢で労仂者階級の多数者獲得に進む事を理解せず、今度は逆に之を無視して借同の問題を革命的労仂者は余り興味にしない様になつた。現在では選挙投票カキ集めの為にやつてゐる全口労農大衆党の田万や其他の我員病患者の一人群台の様な観を呈してゐる。勿論彼等は労仂者の利益を守つてゐるのではない。投票権を持つてゐる様な小ブルの借家人同盟があり、充実的な？借家人運動が相当斗はれてゐたが、其後皆から忘れられたかの様にとんと失なつてしまつた。従来の借同の斗争が小ブル的であり、社会民主主義者と少しも変りがなかつた為に、そして吾々の運動が大工場、大経営工場内活動へと急激に転換した為に、多種多様な複雑な情勢で労仂者階級の多数者獲得に進む事を理解せず、今度は逆に之を無視して借同の問題を革命的労仂者は余り興味にしない様になつた。現在では選挙投票カキ集めの為にやつてゐる全口労農大衆党の田万や其他の我員病患者の一人群台の様な観を呈してゐる。勿論彼等は労仂者の利益を守つてゐるのではない。投票権を持つてゐる様な小ブルの借家人同盟があり、充実的な？借家人運動が相当斗はれてゐたが、其後皆から忘れられたかの様にとんと失なつてしまつた。従来の借同の斗争が小ブル的であり、社会民主主義者と少しも変りがなかつた為に、そして吾々の運動が大工場、大経営工場内活動へと急激に転換した為に、多種多様な複雑な情勢で労仂者階級の多数者獲得に進む事を理解せず、今度は逆に之を無視して借同の問題を革命的労仂者は余り興味にしない様になつた。現在では選挙投票カキ集めの為にやつてゐる全口労農大衆党の田万や其他の我員病患者の一人群台の様な観を呈してゐる。勿論彼等は労仂者の利益を守つてゐるのではない。投票権を持つてゐる様な小ブルの借

よ！・資本家地主全般買垣による失業保険の制定！・七時間労仂制！失業者の家賃電気ガス支通ヒ等の無代！・当面する農業問題と労仂者の住宅とまふ問題が大きな問題となる。我に日本では借家人同盟の組織と運動を孤立的な小ブル運動として置かずに、最大限に労仂者的に利用する事が必要だとされる』（太平洋労仂者誌所載、日本に於ける経済斗争の激化と労仂運動の統一）一九二〇、二

㊀家屋立退きから失業者を守る事に就ての第五回決定の実行に関聯して数多の日々で借家人指導の為の労仂者の大衆的同盟の創設の問題が生じた。——アメリカ合衆国にては多数の都市（ニューヨーク、セントルイス）で失業者は皆に失業者委員会内にかうした同盟を作る事さへ問題にしてゐる。他の諸国はこの様な形を利用しなければならないのは明らかだ。——』（インタ所載外口の同志の論文）

(二) **労仂階級の多数者獲得と借家人運動。** 吾々は労仂階級の多数者獲得に進む一の方法として借家人運動を斗はねばならない。これが吾々の基本的な態度だ。従つて従来の斗争は厳重に批判され労仂者的に斗はねばならないのだ。

1. 統一戦線の一の舞台として。

具体的な要求——例へば家賃×割値下、敷金徴収等々——の下に失業者も若も社会民主々義的労仂者も反動も凡ゆる政治的傾向の労仂者を斗争に動員し得る、この斗争を通じて吾々は文等の労仂者・を吾々の側に獲得し得るではないか！・

2. 大工場経営への手掛を得る。

工場と連つて借家斗争では各々の職場がマチ〳〵だ。だから文等の斗争に依つて敵等を吾々の影響下にをけば——赤色労仂組合分会組織の必要を理解させ得れば一番よいのだが——彼等を通じて未組織の工場や政党主義組合下の工場に吾々の手を得る。

3. 労仂者の幕の獲得。

これも企業的に整理すれば婦人部の活動の手掛りとなる。以上の場合勿論借家人同盟が党の指導下にあり、全般との協同が実行されてのみなし得る事だ。又吾々はさうするやうにすべきだ。

4. 失業者と失業者との結合、

失業者同盟との密接な共同がさ礼得る。

5. 但々の借家の問題から出発して、労仂者住宅の問題に大衆の関心を向けしむる。勿論この場合吾々はプロレタリア独す下のソウエート同盟に於ける労仂者の住宅と対比し、口座員祖で労仂者住宅を作れ！・ソウエート同盟を中れ等の政治的斗争に動員すべきだ、労仂者の消費生活から結び付いて行

く事だ。だから消費組合運動と共に重要だと思ふ。

2. 借家人同盟の活動方針、

(三) **借家人同盟の活動方針、**

1. 活動の基礎を労仂者住宅におく。一家主に対して班を組織し、班を地区的にまとめ統一する。

2. 借家人同盟は失業者同盟の組織と同じく全口的に中央集権的に上から作る必要はないと思ふ。各地方々々で組織し全口会議或は協議会をもつ様にして行けばよい。

3. 執行部を下から・班地区代表者で組織す、そして夫々必要な専門部門、書記局を設置する。

4. 吾党のフラクションを確立し赤色労仂組合、失業者同盟、消費組合等と密接に連絡をとらしめ、協同せしめる。

5. 宣伝煽動組織活動を労仂者街に於て斗ふと共に、吾々は宣伝煽動を企業内に持ち込まねばならぬと思ふ。

—イ、家賃の値下の為に斗ふ事の必要、借同に加盟する事の必要。

—ロ、家賃の値下運動が斗はれてゐる時には夫々の企業内の労仂者に知らせ応援基金の募集等の活動を大衆的にやらす事。

—ハ、これらは借同に加盟してゐる個々のメンバーをして自己の工場内でやらすやうにする事が借同として働きかけると同時になされねばならない。

—二、家主であり同時に資本家—工場への経営主等の場合に、その工場への働きかけ。

—ホ、全協今会は自己の工場の労仂者が借家争議をやつてをれば全労仂者に借同と協同して、大衆動員による応援の必要、基金募集等の活動をしなければならない、細胞は勿論これ等の斗争を指導し組織する。

従来、借同の運動が企業に注意を向けなかつたのは非常に不充分だつたと思ふ。

6. 借同の行動細領決定

部分的な要求と同時に労仂者の住宅の口座負担による設立等の中心スローガンが決定さるべき事だ。失業者の利益、動員労仂者の利益が擁護されなければならない。

7. 大衆動員の実践。

『——だがその際に借てのイギリスで見られ、アメリカに於ても所々に見受けられた危険な傾向、この斗争同盟を法的機動のための組織、ブルジョア裁判を監視する為の組織と云つた次やうなものに変へようとする傾向を避けねばならぬ。』

8. 社会民主々義的借家運動との斗争。

9. 以上の活動が必ずソウエート同盟に於ける『労仂者住宅の問題』及び労仂者農民の生活、社会主義建設遂行の問題と対比し、宣伝煽動する仕事を結合してなさるべきだ。

(四) 同志諸君！・大体以上の様に俺は問題を提出した、どしく討論し、批判し合ひ、具体的な提案を取りかゝらうではないか！

★大衆的借家人同盟創設万才！

婦人部。婦人新聞。婦人間の活動。

赤旗印刷局 マル子

☆

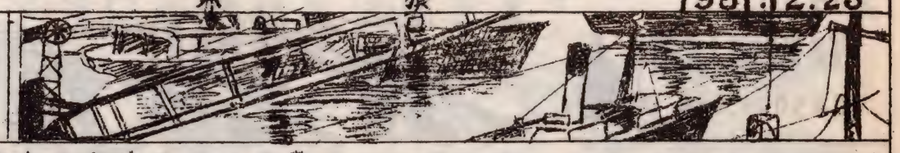
最近、『婦人部』設置の提唱以来『赤旗』紙上に本文にも『鉄の火花』欄にも勤労婦人間の活動の為の論文が続々掲げられた。併し、今尚その成果を聞かない。それが成功的であれ、微弱であれ、若しくは失敗であれ。又はまだこの方面に於ける活潑な活動の不足を示すものではなからうか。先づその一・二を指摘しよう。

イ、正しく掲てられた『婦人部の組織的組織活動』は、実践上『婦人同盟への傾向』を育しなかつたか、或は経験の不足からどんな失敗を招いたか、又右の結果を明らかにする迄の斗争期間を経てゐないとすれば（？）一日々々の斗争にも自己批判はあり得るのだから、それを基とした現在の活動報告でもいゝわけだ。

ロ、況太平洋労仂組合書記局婦人部の調査依頼の手紙に対しては——（勿論この記事掲載の意義はこれのみではないが）——婦人部は集められた調査事項を一方、

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！

大連埠頭



部が活動の中から提出すべきではなかろうか。最近　全農青年部全口大会の意義と任務が明らかにされた。その中に云ふ、農村婦人の組織が□青年部を強力にするものである□事を全農青年部は頭の中だけでなくその具体化に於て理解しなければならないし、党の婦人部、青年部は組合婦人部、組合青年部、全農青年部に積極と指導を与へねばならないだらう。そして農村青年委員会、農民委員会と共に緊急の問題として農村婦人委員会の問題が上程されねばならないだらう。等。

☆

是等の斗争は如何なる条件、状勢の下に於ても後廻しにして置いてよいと云ふ問題ではない。

☆

今　日本帝口主義に依ってオニ次世界大戦の口火は切られ、事態は□ソヴエート同盟武力干渉□に向って刻々に進んでゐる。ブルジヨアジーは一切の反動組織は云ふまでもなく教育機関、娯楽機関に至る迄を動員し、勤労大衆をしてびくびくして彼等の犠牲たらしめんとしてゐる。次に同時にめくるめく戦時報導記事の満載、讀む人美麗な文句に依ってイホオロギー的粉飾をほどこし、ブルジヨアジー奉仕へと駆り立てるブル新聞の面目を見よ！　誠に新聞こそは最も良き煽動者　宣伝者、組織者だ。

新聞記事によれば若い勤労婦人が戦時看護婦を志願してゐる。□極寒の満州に斗ってゐるお兄の垂な兵隊さんの御世話をしたい。□この様な愛口主義が現在広汎な婦人層を捉へてゐる事は明らかである。この事は彼女等が偉大な革命性を有する事と共に我々の側の系統的斗争の不充分を示してゐる。若し彼女等が実践に於て事実の本質をつかんだら此の兵士への同情は一朝にして□戦争を止めろ！□一人の兵士も送るな！□の斗争へ向けられるに違ひない。

例へば□青春の新い村□として新聞に報導された山形の一農村はどうだ。勤労農民の欠く事の出来ない薪炭、馬種、肥料を得てゐた山村は口有林、御料林にされ、其莫大な地上作代金に当てる為許方なく全村挙って可愛い、娘を婚姻に売ってゐるとゐふ有様はどうだ。之位□農村動労婦人は資本主義搾取救済——に動員された。我々は農村の革命的同盟軍も敵の手に委ねてしまふであらう。我々が一歩立遅れる事は敵に百歩二百歩の前進を許す事だ。

☆

婦人部は最下部に至る迄の残らず□婦人版□を確立し、その組織活動は党婦人部の指導

大衆運動の先頭に立て！

右翼日和見主義並極左宗派主義的偏向の克服へ！

本誌第六十号当面の問題」は日本の国際的内問題に関する我党の評價を明白にしてゐる。そこでの評價は我々の当面せる幾多の困難性の存在にも拘らず、労働階級の多数者獲得といふ我党の主要任務を果す爲に好き客観的條件がある事を正しく指摘してゐる。我々の前に立つてゐる最も大きなそして最も基本的な弱点とは何か？それは我々が多くの領域に於て立ち後れてゐるといふ事である。「大衆と共にあり、大衆の先頭に立つ」（ロゾフスキー）といふ方面に於て特に我々全体は不充分であり、不活溌である。我々の同志達は国際的文献等に依つてゐる国共産党の大部分の主要弱点がこの立ち後れの点にある事を一応は理解してゐるかの如くである。だが実践的にこれの（この弱点）克服に向つてゐる同志達は遺憾ながら甚だ少いのである。立ち後れの実践的克服は大衆運動を組織し、指導するといふ点に求められねばならぬ。最も重要な問題にこの事を必要ならしめてゐる。農村地方での地主部落攻撃は殆んど全日的に行はれてゐる。共産党員或は革命的労働者農民を直接支持する具体的大衆的行動としては警察署への襲撃（或る地方では留置場を破壊せしめて救出までした）裁判所内での傍聴者大会開催、刑務所への大衆的示威行列等が行はれた。之等は明白にブルジョア地主ロ家政力に対する政治斗争である。又工業部市に於ては如何？と言ふに、住友争議（大阪）、光学工業、牟田鋳物工場争議（東京）、北中皮革工場争議（姫路）等々に見た如く、労働者大衆は有ら有り合せの得物を持つて武装せる警官隊の襲撃に対抗し、積極的に自衛手段を講じてゐるのである。石、瓦、新、雑棒、鉄棒等の如くその得物が全く原始的であり、斗争形態が正規軍の様には規律的でなかつたにもせよ、労働者大衆自身が警官隊と、この口家政力の直接の道具と積極的に斗争しなければならぬ事を理解しつつあるといふ此の事実こそ我々にとつて重要なのである。我々は之等の斗争の先頭に立つてゐたか？残念ながら否と答へざるを得ない。職場の中での（賃銀値下反対や、待遇改善等々）斗争とプロレタリア独裁樹立（ブルジョア地主口家の破壊）の爲の斗争との間には切り離し得ない密接な関聯があるとの（プロフィンテルン決議）といふ事を労働者大衆、貧小農大衆自身がその生活に於て自覚しつゝあり、且つ結び付けて斗争してゐる此の事実をこそ正しく、ボリシェヴィキ的に理解しなければならぬ。次倉の窓から手を差し伸べてゐるといふ極左宗派主義的活動方法が誤りである事は以上述べた二三の実例に依つてでも明白である。

我党のみが労働階級の頭部である。我党の明日の爲に今日の苦悩からの革命的出口を示し得るのだ。それは只単に紙の上や、口の上だけでなく、我党組織全体の生きした活動に依つて、実践に依つて示されるのでなければならぬ。然るに、一方、大衆が自然発生的にもせよ、革命的行動に移つてゐる時、我々がその先頭に立つてゐないとしたら一体何うなるのか？答は明白である。「大衆の前に立つてゐる最も大きなそして最も基本的な弱点とは何か？」大衆の動きを正しく視、それを革命的方向へ導いて行くことが我々の任務なのである。「大衆の前方へ行き過ぎず、大衆よりも遅れず、大衆の一歩前に立つて、大衆と密接に結合してゐるところに、ボリシェヴィキ的指導がある」（スターリン）。

我々が此のボリシェヴィキ的指導精神を忘れるか、又はそれを正しく実行しないならば、日本の労働階級にとつて大きな不幸となり、プロレタリアートの政党として統一の為に一切の階級斗争の独自的指導の任務を持つ。全ての党員は大衆斗争を激発し大衆斗争の先頭に立たねばならぬ。ドイツ十一月革命の激発に際してスパルタクス同盟は革命的大衆運動の先頭に立つた。そして革命的プロレタリアートのグループに過ぎなかつたスパルタクス同盟は、革命的党に員はされた任務に耐へたのである。カール・リープクネヒトとローザ・ルクセンブルグは最も卓越した大衆煽動者、大衆運動の組織者であつた。レーニンのボルシェヴィキ党の全ア史は、党の大衆との結合、大衆斗争のボルシェヴィキ的指導に関する無数の例証によつて充たされてゐる。大衆のゐる処、斗争の激発される処、其処には常にボルシェヴィキ党があつた。同志ヅオルグは一九三〇年に於て、当時日本の党が陥つてゐた実践に於ける日和見主義を指摘した。これは明らかに疑ふ余地なき事実である。しかもこの実践に於ける日和見主義は依然として残存してゐる。我々は大衆の革命的高揚の時期に於てかくの如き党の致命的な弱点を最も急速に克服しなければならぬ。党は大衆運動の先頭に立ち、これを指導する事に依つて強大なボルシェヴィキ党を建設しなければならぬ。ボルシェヴィキ的行動党へ！ボルシェヴィキ的大衆党へ！

一九三一年のカール・リープクネヒト、レーニン記念週間を迎へる

日本共産党の態度は以上の如くである。経済恐慌の革命的危機への転化を妨げてゐる最も大いなる要因は、共産党の立ち後れである。レーニン主義のみがこの立ち後れを克服し、成熟しつゝある偉大なる階級戦の時期に於て党をして真に歴史的なる任務に耐かしめるであらう。

小農自身に依つて作られた委員会の如き組織に依つて分配せよ——これが我々の答へである。衣食住に窮してゐる都市失業者大衆の直接の要求は、衣食住を与へよである。我々は言ふ迄もなくブルジョアの倉庫には、米や衣服が腐るほど積み込まれてゐる。だがそれを一人々々でこつそり持つて来ることは問題である。組織的に、団体的に、政府、自治体関にそれらの分配を要求せよ、と。金の輸出再禁止に依つて物價が上つた（米が十キロにつき十銭、醤油が一升につき五銭、等々）。工場労働者の日給がそれだけ減らされたのである。従つて労働者の直接の要求は先づこの物價騰貴に伴ふ賃銀値上げである。（それればかりだと言ふのではない）。ここにも、斗争の糸口がある。この糸口を基礎にするならば、大衆運動を公然と組織することは可成り容易である。そして之等初歩的要求の爲の斗争を政治斗争に高め、或は、政治斗争と結びつけるのである。

更に我々は附加する。

公然と大衆運動を組織することは、我々の大衆的活動の一つであるところの労働者斗士の養成問題解決の鍵でもある。プロレタリアートの党はその指導的中軸として労働者出身を出来るだけ多く持たねばならぬ。階級斗争の火花の中で鍛錬されて来た労働者斗士こそ、我党を、政治的に、組織的に健康ならしめる重要な要素である。之等の人々は、革命的大衆運動と結びつけて、革命的理論を把握するに至る。理論と実践とは先証法的に統一される。ここにプロレタリア的教育がある。革命的理論なくして革命的行動はあり得ない。それと同時に、革命的行動を離れた革命的理論も亦、あり得ないのである。

我党の下層組織状態を見るに、一工場一農村に三名乃至五名の細胞が存在して居り、且つその地方、職場等にそれぞれ大衆的運動が起つたにも拘はらず、細胞員数が少しも増加してゐないといふ有様である。直接職場に於いてゐる人々を大胆に党組織に引き入れることが全く不充分である。然るに当該地区、又は地方の指導的同志達は、かくの如き状態に対し殆んど無関心的態度をとり、自己の責任を痛感せず、又下層組織の同志達を叱責するに止まり、親切な、精力的なしかも具体的政策の提示と直接的援助をしないといふ有様であつた。かくの如き誤れる実践の急速なる克服は今日の急務である。

大衆運動の先頭に立つ為には我々全体が一大決心をしなければならぬ。地方、地区の指導部員のみならず、中央部員の中の大部分が自ら大衆の面前に立つて斗争を準備し、組織し、指導しなければならぬ。就中、地方、地区の指導的同志達の間に見られた如き、人形使ひ式活動方法（自分は少しも直接に力かず、党員でない人々をあやつる事を以て能事足りとする様な方法）は絶対に廃されねばならぬ。上層機関は当該地方、地区、企業、農村等の重要性を充分に考慮して必要に応じ特定の人を直接斗争の先頭に立たせるべく決定しなければならぬ。而して、各機関に立たせるべく決定しなければならぬ。而して、各機関に依つて考慮され、それに必要な手段が講じられねばならぬ。

同志諸君!!

全活動を企業、工場、鉱山、船舶、鉄道、農村に集中せよ！
重要企業への集中的活動へ！
大衆運動の先頭に立て！！

一九三一年十二月三十日

日本共産党中央委員会

全農五回大会の斗争を戦へ！

帝国主義ファッシヨ政策と結合せる社会ファッシヨの進出を叩き伏せろ！

全農 五回大会の開催月

第五回全口大会は一月下旬乃至二月上旬に開かれやうとしてゐる。現情勢下部は業喰ふ社会ファッシヨ共は左翼の戦備の整は勿論に決行しやうとして愈々として愈々拡大に至る。理論と実践とは先証法的に統一される。ここにプロレタリア的教育がある。革命的理論なくして革命的行動はあり得ない。それと同時に、革命的行動を離れた革命的理論も亦、あり得ないのである。

我党の下層組織状態を見るに、一工場一農村に三名乃至五名の細胞が存在して居り、且つその地方、職場等にそれぞれ大衆的運動が起つたにも拘はらず、細胞員数が少しも増加してゐないといふ有様である。直接職場に於いてゐる人々を大胆に党組織に引き入れることが全く不充分である。然るに当該地区、又は地方の指導的同志達は、かくの如き状態に対し殆んど無関心的態度をとり、自己の責任を痛感せず、又下層組織の同志達を叱責するに止まり、親切な、精力的なしかも具体的政策の提示と直接的援助をしないといふ有様であつた。かくの如き誤れる実践の急速なる克服は今日の急務である。

大衆運動の先頭に立つ為には我々全体が一大決心をしなければならぬ。地方、地区の指導部員のみならず、中央部員の中の大部分が自ら大衆の面前に立つて斗争を準備し、組織し、指導しなければならぬ。就中、地方、地区の指導的同志達の間に見られた如き、人形使ひ式活動方法（自分は少しも直接に力かず、党員でない人々をあやつる事を以て能事足りとする様な方法）は絶対に廃されねばならぬ。上層機関は当該地方、地区、企業、農村等の重要性を充分に考慮して必要に応じ特定の人を直接斗争の先頭に立たせるべく決定しなければならぬ。而して、各機関に立たせるべく決定しなければならぬ。而して、各機関に依つて考慮され、それに必要な手段が講じられねばならぬ。

一九三一年度は終り一九三二年は迫つてゐる。民政党政府に代れる政友会政府の政策は本質的には何等前者と異らない。一九三二年度は、対外的には帝国主義戦争——植民地争奪戦争、ソヴエート同盟攻撃戦争の拡大対英米間の矛盾の増大（錦州攻撃問題に関して日本のアルジョアジーは既に正面にこのことを述べてゐる）口内的にはブルジョア口家のファシヨ化の急行、労働者階級、貧小農の生活程度の二層の悪化、彼等が生きんが為の斗争の激化、部分的斗争より全般的斗争へ、斗争形態の尖鋭化（農村及び都市に於ける斗争は益々大衆的となり暴動的となるであらう）が想像される。階級斗争即ちプロレタリアートが新興階級として、資本主義の基礎り人の階級として立ち、ブルジョア地主の**政力打倒**の爲の斗争へ広汎な被搾取者、被圧迫者大衆を率ゐて斗争する時期は迫附きつゝある。一九三二年度は我党の発展に広い〳〵展望を与へてゐる。だがそれは我々全体の活動如何に依つて決定されるのである。以上の見地から出発して、我党指導部は次の事を決定し、その実行を各機関に義務づける。

一 中央、地方、地区の優秀なオルグナイザーを重要目標工場、企業に派遣し、工場、企業細胞の生活に直接に接しさせる。オルグナイザーは従来の如く只単なる聯絡の為にのみ時間を費すといふが如き事を廃し受持工場、企業を基礎として大衆運動を組織する為に切かねばならぬ。

口 受持工場、企業は従つて最少限度に止められねばならぬ。重要な所は一人一ケで充分である。組織の非合法的存在を確保するといふ問題は充分に各機関に依つて考慮され、それに必要な手段が講じられねばならぬ。

ハ 必要な條件のある場合には、地方、地区の指導部は二三名の同志を残し、全員を大衆運動の直接指導に当らしめること。

ニ 此の方針は実施つた其の日から実行に着手しなければならぬ。

ホ 各地方委員会は此の方針を実施つた日から五日以内に具体案を立て且つその経過を中央部に報告すること。

★ ★

大衆運動を組織し指導すること——之は我々の立ち後れを克服する最大の鍵である。そして、この実行は右翼日和見主義極左宗派主義的傾向との決定的斗争に依つてのみ可能である。我々は万難を排して此の方針の実行に進まねばならぬ。

うとするのはだゞ単に組合内の反対派の戦備を怖れた為だけではない。それに乗じて見捨てはならぬ重要な点は次の事である。即ち、今年十二月より明年一、二月にかけて、極めて鋭い形で表はれる可き、日本資本主義の経済的政治的危機の激化、財界破綻の不安動揺、金融恐

慌、工場閉鎖、農村窮乏化の進行による労働者農民の生活條件の極悪化、左派なる不平の醗酵、斗争激化の情勢、これに彼等が附け入らうとしてゐるのである。この目前に迫つてゐる

光鋭 なる敵を以つて我面化せんとする政治的経済的危機の解決に当つて支配階級は現在の儘の形態にては完全に支配を遂行する事が困難な状態に立ち至つてゐる。彼等の支配の体制の再編成を余儀なくされてゐる。その為に彼等は急速に一切の機構、員塔を労働者農民に賦課して、経済的及政治的機構の再編成を決行しやうとしてゐる。ファシヨ的政策の強化、日家機構のファッショ化の飛躍的進展が行はれんとしてゐるのはこの故である。ブルジョア政党の解立の

形態 その傾向を取らうと、議会主義の形を取らうと、一切は金融独才の支配の強化の為ファッショ政治の確立へと向つてゐるのである。この時を見つて

彼等 労大党の社会ファッショ共は甲生口先ばかりで実際は解息してゐた立場からノコノコ乗り出して来て、一仕事しやうとしてゐるのである。幸ひ議会多数を当てゝ

労大 党の社会ファッショ共は全農第五回大会を彼等のこのファッショ政策の一大飛躍の一歩として討覆してゐる。この全農大会に於いて社会ファッショ共の進出を打ち砕く事は単に全農内の反動的同志、革命的農民諸君にのみ課せられた任務ではなく、実に全

全農 第四回大会に於いて既に左翼の勢力の優勢ある指導に怖れをなし、官大の暴力にすがつて辛らうじて水部執行部を構成したが、其の後益々革命化す農民大衆の斗争と、組合内の左翼の影響の増大に当面してガムシヤラに革命的中央委員の除名、左翼的解合会合、地方協議会、青年部本部等の解体の通告を連発することの及び浮浪分子や脱落分子を狩り集めて大衆のない二七聯合会、二七青年部の物々しい看板を掲げることによつて、僅かに自らを慰めることこと以外に革命化しゆく労力を

反対 氷の大衆組織としての全口会議の組織を確立し着々として活動を進めや 政治的及び組織的影響を全組合員及び農民大衆の上に伸ばしてゐる。

全農 内社会ファッショ共は今、左翼に対して堅々と正面から戦ふことが出来なくなつた。彼等は全農の革命的伝統を無視し政党支持自由の原則を踏躙して合法政党の支持を強制してゐる。彼等はプロレタリアとの強力な革命的同盟を望んでゐる農民に対し、これこそが労農の同盟であると偽して小ブルジョア指導下の街頭的、反動的合法政党の支持を強制して敢瞞せんとしてゐる。その為に彼等は革命的プロレタリアとの強力な実践的同盟を実現する為の農村における革命的農民組合の強化と対立してゐる。彼等は合法政党の支持強制に反対する革命的組合員及び聯合会地方協議会、

聯合 支部階級に対して全口的に下されてゐる弾圧テロに対し抵抗しないのみならず、ファッショ的小作調停の強制に参加し、屈辱的な耐之難き條件を小作人に押し附けてゐる（秋田の川俣紡革の労大党の小作調停條項二十二ケ條を見ろ！）和歌山においては 立派な戦に農民と立つて大

反動 的小作法、小作組合法制定の政策に対し「完全小作法」を要求すると絶して、更に一層巧妙なる農民大衆のファッショ的反動組織への糸口を提出してゐる。

今期 斗の為の一切の実現、一切の犠牲を労働者農民から強奪するであらう。農村救済、失業救済の名の下に如何に欺瞞的ファッショ政策を進めるかは今や明らかである。労大党、社民党等の社会ファッショ共がその該買並を先駆にして如何に支配階級のこの政策に協力するかは既に明らかである。労働者農民大衆は既に彼等の正体から統々として彼等に反抗して立つてゐる（和歌山、郡馬、秋田等はその例の僅か一部に）。

この時に当つて、我等革命的プロレタリアの隊は、工場に農村に従て百切反対、

先頭 資主義民に今直々食料を口家で支絶しろ、戦費で直ちに失業者並に窮乏農民を救へ等々、日常の要求を促へて、広汎なる階級斗争の為の展開し、工場代表者会議、農民委員会の運動を起こし、労働者農民の協同斗争を強化し、ストライキ、小作争議を積極し、斗争を革命的大衆行動へ迄高度せしめ帝口主義戦争反対の斗争を現実的に導き入れなければならぬ。この斗争に於く我々党員はその先頭に立つて指導し、我党の指導権を確立しなければならぬ。この基礎に立つてこそ我々は実践的社会ファッショ共を階級斗争の戦列から完全に叩き出し帝口主義のファッショ支配を打ち砕く事が出来るのである。

今、全農内の社会ファッショ又は組合員

大衆 に代表で コソ〳〵と大会準備の中央委員会を開いた。彼等は殿の農村地帯で全農大会を開たうと試みた。だが今全口どこへ行つても農村で大会を持つなら は革命的農民大衆に依つて占領せられることを彼等は怖れてゐる。彼等は大都会で開き又々口コツに官大の力にすがつてのみ斗うじて彼等の政策を押し進めやうとしてゐる。今度は恐らく

全農 に対する合法政党の支持強制及対革命的宣伝煽動の自由、社会ファツショの放逐の為に斗つてゐる。大会の開催さ れんとするに当つて我々は既にこれを強力に支持し、斗はなければならない。大会には創業救済、失業救済、罷工反対、戦争反対等の重要なる問題が討議される。労働者農民の革命的団結、農村労働者組合の組織、農民委員会運動の展開等我々革命的積極的な方針が確立されやうとしてゐる。官大と社会ファツショとは出服になつてこれを圧伏しやうとしてゐる。

プロレタリアは強力な警備隊を派遣し、白テロを追ひ散らし、大会を守ると同時に代表者を送り、斗争的プロレタリアートの綱領を武し、大会の斗争の革命的発展を指導しなければならぬ。全農大会の開催に当つて全農革命化の為にプロレタリアー大会力を盡して援助する事は最重要なる自己の革命的任務である。経済

殺に依る封建主義と帝口主義戦争の重圧に押しひしがれなほ更の上に飢餓の脅威に依つて倒死かゞ然らずんば英雄的大暴動的蜂起の一途を迫られてゐる現在の農村の兄弟達の上に革命的指導の手を指し延べることこそ、我党を先頭とする全プロレタリアの緊急にして重要なる而も輝ける勝利の約束された、光栄ある義務である。

全農の革命的組合員及び聯合会等の諸君解体を取り消せ！

全農に対する合法政党支持強制反対！

革命的官伝煽動の自由

組合を破壊する社会ファッショを組合から叩き出せ！

赤色自衛団を与つて白テロを叩き伏せろ！

窮乏農民並に失業者の生活を即時要求（地主口家で救済しろ！

復下獄者官僚不神絶対反対、債銀を即時値上げせよ！

駐露、領事館で失業者労働者農民を救へ！

小作料の減免、小作調停條件の破棄、小作調停の強制反対！

土地取上げ反対、立禁反対！

勤労農民の組織の見除、勤労農民の借金棒引

差押反対！

帝口主義戦争反対！

労働者農民の息子を戦地から返せ！

労働者農民の本口ソヴエート同盟を守れ！

ソヴエート支部を支持せよ！

朝鮮台湾の完全なる独立、その革命運動の支持！

農村労働者組合を作れ！

農村のあらゆる政治的経済的問題を解決する農民委員会を作れ！

すべての農民は農民委員会へ！

革命的労働組合上の又回！

労働者との共同斗争委員会の確立、提携、

階級斗争の前衛の高揚！

労働者農民の革命的同盟万才！

天皇、官公有并社地主の土地無償没収、その用益権の勤労農民への分配！

資本家地主の政府打仆！

プロレタリア独才の労働者農民のソヴエート政府の樹立！

同志片山潜よりの手紙の発表に当つて

全日本の労働者勤労農民下層俗勤生活者同志諸君！

口際共産党極行委員会の一員たる同志片山潜の手紙を諸君の前に公表し得ることを我党は心から喜ぶものである。

同志片山は八十才に近き老体にあり乍ら過激なる青年の意気を以て我々に呼びかけてゐる。

「プルジョア独才を仆し、プロレタリア独才の為に決死的に斗へ!!」と、プルジョアジーと地主とが労働者農民の革命的大衆行動でたゞれ、労働者階級が口家権力を握つてゐるソヴエート同盟では新しい工場、鉱山、鉄道、発電所が続々と建設され、農村でも共営化運動が目覚ましく進んで居り、トラクターが一日に数百台の割で生産されてゐるに引換らず、尚足りない位である。ソヴエート同盟の労働者農民はこの生産力の発展に伴ふその生活、労働條件を向上してゐる。七時間労働制、有給労働及青年は六時間制、一週五日制は実施され、賃銀は一九一三年に比べて約七割の増加である。労働者農民のための文化施設は完備され、住宅は保証され失業者は居らない。ボルシエヴイズムの勝利はこの社会主義建設の成功の中に輝いてゐる。

然るにブルジョアジー、地主、天皇が支配してゐる日、日本ではどうだ！中小工場、銀行は続々と破産して居り、それらの大衆への影響が強くに行はれてゐる。のみならず、残つてゐる企業で次から次へと減賃を行ひ二割乃至大割近くの生産制限を行はざるを得ない状態にある。二百五十万の失業者都が、仆く職と仆さんとふ意志を有するにも拘らず、仆く場所がないのだ！一銭の失業保険もないではないか！うす暗い汚い工場で十時間乃至十二時間も仆かされた上賃銀はでも一方だ。特に政友会内閣による金輸出禁止によつて国債の下落となり物価騰貴となつた、が賃銀は少しも上らないのだ。それだけではなく或地方（例へば長野県）では賃銀なしで仆かせてゐるのだ！長野県一つだけをとつても一九三一年度に於ける賃銀不払は五百万円以上に上つてゐると政府の発表してゐる。八十九は青年婦人労働者である。繊維労働者は既年から今年にかけて我方人となく工場から追ひ出され、賃金は二割も三割も引下げられ、食料費も騰へり、三年切れ一枚又々で解雇（送り）仆さされてゐる状態である。失業者とその家族は喰ふに喰はれず、着るに着られず、しかも家主から追求に尋かされてゐる。ルンペンプロレタリアートの数は日毎に増大してゐる。他方資本家地主の倉庫には食物や衣服類が腐る程山積されてゐるのだ！

勤労農民の生活も労働者の生活にもまして悲い日本勤労農民は豊作だと云つて、苦しみ凶作だと云つて餓死に迫られてゐる。就中東北地方では数十万の婦女子を数四万至数十円で貴つてゐる始末だ。日本の労働者勤労農民は殆んど全く政治的にも社会的にも無権利の状態に置かれてゐる。ストライキ、小作争議とふ様な大衆的組織の自由は極度に制限され口家権力によつて限りなく弾圧されつゝある。日本の労働者農民は生きんが為に叫ぶ事の自由すらないのだ！それに引換らず労働者農民の反帝斗争は益々激化し、大衆運動も激化してゐる。口家権力の攻撃に対して労働者農民大衆は積極的に防衛してゐる。警察署、反動団体、反動的消防団等の協力的暴行に対して、労働者農民は石、棒、瓦、鎌、鉄物等のあり合せのものを手にして斗つたのだ。誰が最の仇敵であるかを経験に依つて理解しつゝある。故に支配階級は社会ファシストの利用、偽者的細民救済才法の採用（少数のルンペンプロレタリアートに対する餅一切れの分配等）と共に、革命的運動に対して、決定的に弾圧してゐる。政友会内閣は更に此の弾圧を強化すると宣言した。特に彼等支配階級の攻撃は我党に集中されてゐる。

日本共産党に対する支配階級側からの追求、迫害、弾圧は言語に絶してゐる。今や日本の監獄、警察には共産党員として、或は共産党に同情したと云ふ嫌疑を受けた人々が、三千名以上になつてゐるのだ。

同志諸君！

日本の支配階級——資本家地主天皇政府——は隣邦中口の分割の為の帝口主義戦争を行つてゐる。これは我党が既に早くより警告が繰り返しに如く中口革命運動の武力的弾圧であり、社会主義祖口ソヴエート同盟に対する戦争の第一歩である。日本の労働者農民は資本家地主の利益以外に何物をも斗ひさゞない。この帝口主義戦争のために、さなきだに苦しい生活の中から、更にるくの犠牲を強制されてゐるのだ！巨大な軍費は労働者農民から絞り取られる。肉弾として送られるのも労働者農民である。しかもそれは自分自身の解放の為ではなく、自分及植民地の労働者農民をよりよく機取せんがためにである。

一切のブルジョア地主政党は云ふ迄もなく、無産政党と称する社会民衆党、労農大衆党等は全部この戦争に賛成してゐる。これ等の無産政党や雑誌「労農」「文戦」等に強硬ふ一派及我党から裏切者として除名された「解党派」等は、「日本共産党に反対である」ことを声明して、天皇の前に、金融ブルジョアジーの前に、その忠誠を誓つてゐる。敢ていふ迄もなく日本の労働者勤労農民下級階級生活者全体に反対することを意味する。

同志諸君！我日本共産党は「階級対階級」の政策を断乎として遂行してゐる。天皇、ブルジョアジー、地主の支配を転覆し、労働者農民共ソエの樹立を目的とするプロレタリア独裁の為に闘ふ今日の斗は日本の労働者勤労農民下級階級生活者全体に反対することを意味する。

一切のブルジョア地主政党は云ふ迄もなく、無産政党と称する社会民衆党、労農大衆党等は全部この戦争に賛成してゐる。これ等の無産政党や雑誌「労農」「文戦」等に強硬ふ一派及我党から裏切者として除名された「解党派」等は、「日本共産党に反対である」ことを声明して、天皇の前に、金融ブルジョアジーの前に、その忠誠を誓つてゐる。敢ていふ迄もなく日本の労働者勤労農民下級階級生活者全体に反対することを意味する。

同志諸君！我日本共産党は「階級対階級」の政策を断乎として遂行してゐる。天皇、ブルジョアジー、地主の支配を転覆し、労働者農民共ソエの樹立を目的とするプロレタリア独裁の為に闘ふ今日の斗は日本の労働者勤労農民下級階級生活者全体に反対することを意味する。

我日本共産党々員諸君 日本救援会々員諸君及び 革命的労働者農民諸君 に告ぐ

片山潜

我が敬愛する同志諸君！諸君が心配して親切な御見舞の挨拶を下すった貴の義気は快方に向かい小生は日々に健康を回復しつゝあります。安心して頂きたい。諸君からの見舞状や電報を受取つて読んだのは、去る九月十八日にクリミヤから帰つてからで、實に強く深く感動した次第である。満中僕を病院に見舞つてくれた一同あの口から党や同盟からの親切な革命的激言を聞いた時、実に其の好意と親切に、非常に感激し、感動し、涙にむせびくゝ言葉が出なかつた。僕は其後数日眠れず看護婦や医士の注意を受けた。然るに諸君の写真や挨拶の書面を受取つたのは、僕がボルシエヴィキ党の懇篤な世話の下に、クリミヤ第一等と称せられる避暑地なるスクウでの六週間の保養で元気になつて帰つた時であつたから、僕は非常な喜を以てこれを見た。

諸君が僕に送つて呉れた書面の言々句々は、諸君の革命的精神と斗争的熱情との結晶である。僕はこれらを読んで、同志諸君が、如何に熱烈に革命運動に従事し、反動的官憲と斗争し、プロレタリアートの修養を切り抜けて、益、革命運動に日も亦尽らずと斯……そこには必ず我党の赤旗がある。否あらしめなければならぬ。

同志諸君！　革を見いた、だが若々しい革命的意気に燃ゆる同志片山の前に我々は諸君と共に誓ふ。「日本労農ソヴエート政府樹立！　プロレタリアート独裁のために死すまで斗ふ！」と。

同志諸君！　起て！　大衆的運動を組織することに依つて支配階級の越窓に突進せよ！　一斉に呼べ！　パンと仕事、土地と自由を与へよ！

日本共産党

つゝ来てゐる。プロレタリアートが拝狂する限り共産党は滅亡としても在存する。それは如何なる力を以てしても絶滅し得ない力である。我党の影響は今や日本全国に行き渡つてゐる。斗争の起る所……そこには必ず我党の赤旗がある。否あらしめなければならぬ。

同志諸君！　革を見いた、だが若々しい革命的意気に燃ゆる同志片山の前に我々は諸君と共に誓ふ。「日本労農ソヴエート政府樹立！　プロレタリアートの独裁のために死すまで斗ふ！」と。

同志諸君！　起て！　大衆的運動を組織することに依つて支配階級の越窓に突進せよ！　一斉に呼べ！　パンと仕事、土地と自由を与へよ！

日本共産党

我が敬愛する同志諸君！　諸君が心配して親切な御見舞の挨拶を下すつた貴の義気は快方に向い小生は日々に健康を回復しつゝあります。安心して頂きたい。諸君からの見舞状や電報を受取つて読んだのは、去る九月十八日にクリミヤから帰つてからで、實に強く深く感動した次第である。満中僕を病院に見舞つてくれた一同あの口から党や同盟からの親切な革命的激言を聞いた時、実に其の好意と親切に、非常に感激し、感動し、涙にむせびくゝ言葉が出なかつた。僕は其後数日眠れず看護婦や医士の注意を受けた。然るに諸君の写真や挨拶の書面を受取つたのは、僕がボルシエヴィキ党の懇篤な世話の下に、クリミヤ第一等と称せられる避暑地なるスクウでの六週間の保養で元気になつて帰つた時であつたから、僕は非常な喜を以てこれを見た。

諸君が僕に送つて呉れた書面の言々句々は、諸君の革命的精神と斗争的熱情との結晶である。僕はこれらを読んで、同志諸君が、如何に熱烈に革命運動に従事し、反動的官憲と斗争し、プロレタリアートの修養を切り抜けて、益、革命運動に日も亦尽らずと斯……そこには必ず我党の赤旗がある。否あらしめなければならぬ。

同志諸君！　革を見いた、だが若々しい革命的意気に燃ゆる同志片山の前に我々は諸君と共に誓ふ。「日本労農ソヴエート政府樹立！　プロレタリアートの独裁のために死すまで斗ふ！」と。

同志諸君！　起て！　大衆的運動を組織することに依つて支配階級の越窓に突進せよ！　一斉に呼べ！　パンと仕事、土地と自由を与へよ！

日本共産党

動に熱中し、反動的官憲と斗争し、プロレタリアートの修養を切り抜けて、益、革命運動に日も亦尽らずと斯……そこには必ず我党の赤旗がある。否あらしめなければならぬ

中口共産党中央委員会の檄

編局の僞に対する絶縁忌避の投書に基へる。
同志諸君！ 諒ふ願せよ！

この檄は十月廿日ドイツ共産党機関紙「ローテ・ファーネ」に発表され、十二月廿六日ソヴエート同盟共産党中央機関紙「プラウダ」に掲載されたものの訳である。

コミンテルンの各口支部に訴ふ

一九三一・一一・一四

『口民党首領とする中口反革命は、帝口主義者共の指導の下に、如何なる代償を拂つてでも中口勤労大衆の指導者たる中口共産党を破壊せん、粉砕せんとしてゐる。共産党員、共産青年同盟員、赤色労仂組合員、口職労仂者救援会員、反帝同盟員、左翼作家同盟員は云ふまでもなく、共産党に同情してゐるか或は共産主ギ者に指導されてゐるといふ嫌疑丈けでそれらの労仂者、農民、学生は惨殺されてゐる。口民党的殺戮者は秘密の為には実に色々な方法を採用してゐる。我々の同志達は生きてゐる儘で焼かれる。生き埋めにされる。絞殺される。或は断首される。口民党は現在の「ザラにある」殺人方法とそれの嫌疑を受けてゐるものにとつては裁判も弁護もないのだ。各地方々々の支配者共は好き勝手に人を殺す命令を出し得るし、且つ、この命令に労仂者や農民に分らない様にして実行されてゐるのだ。

それと同時に、口民党は革命運動及びその指導部たる共産党に対する斗事に於て憎悪すべきプロヴカートル（超スパイ）的方法を用ひてゐる。口民党は共産党中央委員会の署名をせる署名傳の材料になるが如き偽物のビラを出してゐる。口民党は、又、農民に苦しめてゐるかの如く見せかけて職を仂く、村を焼き、農民のものを奪り拂つてゐる。南京・上海等にゐる口民党機関の学生共は親々の庫裏内へ超スパイとしてはいり込む為の特別教育を受けてゐる。買収された奴等、或はその為に仂いてゐる者は我党中央委員会の活動に対する『不満』をデッチあげたり、又は口・ブシヨー・ルン等の如く党を分裂させんと試みてゐる。蒋介石に革命的組織の破壊的分子を買収せんが為に危険な企てを我々にしてゐる。南京政府の緻命的な失策は君々の隊伍を乱さんが為に特別なスパイ（尾行）網を編成せんとしつゝある（中略）

我党にとつて最も悩むべき、そして最も危険であつたのはプロヴカートル（超スパイ）「フー・シュン・チャン（顧順章）」「フー・ホー・ミン」であつた。この裏切者は永い間我党内に仂いて居り、且つその信頼も大きかつた。彼は非合法運動の見地から観て最も危険な、最も困難な仕事を自ら引き受けた。そして党の指導者にはいることが出来、中央委員に入れられた。

然るに重要な革命的斗争が近付いて来た時、彼等、裏切り者は、帝口主ギ者の為に、我々の隊伍を破壊せんとした。彼等は、我々の中央委員会の会議を探知し、我党の行動

…富な侵略戦争の正体を巧みにおおいかくして…る。たかが兵隊は全く反対であるが…体をバクロさせるであろう。

…る七日、関東軍高級参謀、板垣大佐…関東軍と陸軍中央部との打合せ…議…で現在の兵力でやって行けるとは…ばよいまいとは云はぬけれども、…ることは何れの方面から見ても妥当ではないかと思ふ」――朝日新聞。又事件の翌日満蒙視察より帰った南大将は満蒙都督制の即時実施、満蒙交配のための独立口家の建設の指導と積極満州への増兵、を要求してある。又飛行機「愛口号」を満州へ派遣した。等々。

そして政府は昭和製鋼所を新興…直接満州に移し、ソヴエート干渉戦争の重要地点である、この事を注意せよ――を通牒し、そこで大々的に武器を製造しようとしてある。

この ファシストの陰謀は

労働者農民を支配階級の拡大しつゝある侵略戦争に甘んじて同調とならしめる為めに仕組んだのである。

ここで特に注意を要することは、この陰謀の目的は全て戦争との関連の下Kなされてあるとゝふことである。

従つて吾々は、

先づ第一に最も反動的な最も野蛮的な暴力支配に対する大衆的抗議、及び斗争を組織すること

は特に重要である。かゝる陰謀は、労働者農民に対する支配階級の反動攻勢の現はれである事、労働者農民の一切の利益を代表し、「天皇制の廃止」「打倒日本帝国主義！」「労働者農民のソヴエート日本樹立！」の為に最後まで斗ふ唯一の党日本共産党から労働者農民を切り離すため、あらゆる方法で党を「赤色陰謀団」等の「売国奴の団体」等のデマを云ひ触らすであらかの如く宣伝し、党を…なく大衆に説明しなければならぬ。特に注意すべき事は、吾々は天皇一人に対してテロルを加へることを誇りとするやうなアナキスト的方法は断じて取らないと云ふこと、吾々こそかゝるテロリズムに対して斗ふものであること、吾々の目的は、天皇を暗殺することではなしに、天皇制そのもの廃止であることを充分に説明せねばならない。そして吾々は以上の斗争を…動せねばならぬ。かくの如き宣伝煽動及び斗争を組織するに際して特に注意すべきことは、党指導部によつて繰り返し注意されてある如く、

日常的斗争から分離せないことである。

そして、共産党、共青、全協その他の革命的組織のみが…に労働者農民の味方であることを…体的事実を以て説明すると共K、我々は彼等の利益を代表して一切の斗争の先頭に立ち、精力的に斗ふことによつてマルジョアジー及びその手先き共の吾党に対するデマを粉砕し、党の権威と信頼を益々高めて行くことに最善をつくさねばならない。

第二に、民族解放主義に対する斗争は

今日程重要なことはない。労働者農民の味方面して、革命的言辞を弄へつゝある左右社会ファシストに対する斗争を強化することは急務中の急務だ。社民党の赤松はスルジョアジーや軍部の…護の為K赤化反対を高唱し、「社会主義社会主義を指導し…ある為K満州の労働者農民を切り離すため、あらゆる方法で党を「赤色陰謀団」等のデマを云ひ触らすであらかの如く宣伝し、党を…なく大衆に説明しなければならぬ。特に注意すべき事は、吾々は天皇一人に対してテロルを加へることを誇りとするやうなアナキスト的方法は断じて取らないと云ふこと、吾々こそかゝるテロリズムに対して斗ふものであること、吾々の目的は、天皇を暗殺することではなしに、天皇制そのもの廃止であることを充分に説明せねばならない。そして吾々は以上の斗争を…動せねばならぬ。かくの如き宣伝煽動及び斗争を組織するに際して特に注意すべきことは、党指導部によつて繰り返し注意されてある如く、

日常的斗争から分離せないことである。

そして、共産党、共青、全協その他の革命的組織のみが…に労働者農民の味方であることを…体的事実を以て説明すると共K、我々は彼等の利益を代表して一切の斗争の先頭に立ち、精力的に斗ふことによつてマルジョアジー及びその手先き共の吾党に対するデマを粉砕し、党の権威と信頼を益々高めて行くことに最善をつくさねばならない！

第二に、民族解放主義に対する斗争は

今日程重要なことはない。労働者農民の味方面して、革命的言辞を弄へつゝある左右社会ファシストに対する斗争を強化することは急務中の急務だ。社民党の赤松はスルジョアジーや軍部の…護の為K赤化反対！ソヴエート干渉戦争反対！ソヴエート同盟擁護の斗争を…動せねばならぬ。かくの如き宣伝煽動及び斗争を組織するに際して特に注意すべきことは、党指導部によつて繰り返し注意されてある如く、

日常的斗争から分離せないことである。

そして、共産党、共青、全協その他の革命的組織のみが…に労働者農民の味方であることを…体的事実を以て説明すると共K、我々は彼等の利益を代表して一切の斗争の先頭に立ち、精力的に斗ふことによつてマルジョアジー及びその手先き共の吾党に対するデマを粉砕し、党の権威と信頼を益々高めて行くことに最善をつくさねばならない！

第二に、民族解放主義に対する斗争は

今日程重要なことはない。労働者農民の味方面して、革命的言辞を弄へつゝある左右社会ファシスト共の吾党に対する斗争を強化することは急務中の急務だ。社民党の赤松はスルジョアジーや軍部の…護の為K赤化

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労働者団結せよ！

赤旗
第63号
國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

「赤旗」活版日刊期成カムパーニヤの社会主義競争に挑戦せよ …… 1
党中央機関紙に対する再決定 …… 2
再決定に到る討論の報告 …… 2
戦時の革命的メーデーを前にカムパーニヤの月、三月を迎へて …… 5
川辺太一
今年の三・一デー …… 6
三月五日、ゴミンテルン創立第十四週年記念日 …… 7
三月十日、陸軍記念日 …… 8
秋の火花 …… 9

党大衆化ボリシェヴィーキ化の為に
『赤旗』活版日刊期成カムパニヤの
社会主義競争に突撃せよ！

全口の同志、革命的労働者農兵士諸君！

我々は今や近付きつゝある偉大なる階級戦を前にして、勝利の為の第一の條件たる党のボリシェヴィーキ的大衆化を促進に実現し、現在の党の立ち遅れを克服して階級斗争を拡大し発展させる為に、その第一歩の手段として、別紙中央委員会決定の如く党中央機関紙『赤旗』の新聞型活版週刊を獲得し、更に進んでその日刊期成の斗争に当面の党全精力を集中するものである。

我党は日本に於けるすべての工場、鉱山、職場、船舶、兵営、農村に於ける一切の、苛酷なる抑圧されてゐる大衆の利益を擁護し、その足がゝりを準備し、激発し、組織し、展開することに依つて、共産党の指導下に大衆の革命的高揚を発展させ、かくして破産せる資本主義を顛覆しプロレタリア独裁の樹立に向つて階級斗争を指導して行くところのプロレタリアートの唯一の代表者、指導者、宣伝煽動組織者の前衛隊である。若し我党が大衆との緊密なる結合を欠き、その熱烈なる支持を失ふならば、我党は最早大衆的基礎を持たず、何等の力なき無能の徒党たるに過ぎぬであらう。その逆にまた、我党が真にボリシェヴィーキ的大衆党としての確固たる組織的地位を築き上げた時、それは実に何事をも為し得ざるなき強大の威力を有し、文配階級の帝国主義的独裁権力を打仆して全勤労大衆の徹底的解放を保証する、光輝ある厂支的使命の遂行者となり得るのだ。

この点に於ける党中央機関紙『赤旗』の任務と役割とが如何に重大なるものであるかを、我々は再び諸君に対してこゝに繰返す必要はない。

全口の同志、革命的労働者農兵士諸君！

我々は直ちに『赤旗』日刊期成カムパーニヤの具体的計画を告げて、この斗争への諸君の果敢なる大衆的参加と協力を訴へる。我々は先づこのカムパーニヤの第一期として、恰も来るべき帝国主義戦争反対会の会期中に相当する、戦時の革命的メーデーを目指して、飽くとも活版新聞紙型週刊の達成の為に全線に亘る社会主義競争突撃隊の目覚ましき奮斗を展開せんとするのだ。

（一）かゝる突撃隊は何よりも全口の各工場農村に於けるすべての党員、赤旗読者、革命的労働組合員及びその他の左翼諸団体のメンバーを中心として広汎なる大衆的基礎の上に組織せられ、彼等の日常斗争と結合し、その時々のあらゆる社会的諸問題、政治的諸事件を捉へて、大衆の面に巨弾の如く投げ込み、彼等を激励し、組織し、指導しなければならない。

（二）それには常に我党の階級的役割と党中央機関紙の性格、『赤旗』の大衆化即ち党の組織的拡大強化、ボリシェヴィーキ化の現在の時期に於て持つ意義の重要性を宣伝し、その為の大衆的支持の最も緊急なる必要に就いて、直接彼等自身の経験に訴へるやうに精力的煽動の努力がなされなければならぬ。「赤旗読者を大衆的にカクトクせよ！！」

（三）かくて我々の側に意識的に動員された大衆を、必ず何等かの形で我党の支持サークルに編成し、党中央機関紙『赤旗』の配布購読を通じてこれを不断に党活動へと引き寄せ、結び付けることにより、漸次その中から新党員を獲得し、党細胞に加入せしむべきである。「新党員の獲得！！」

（四）『赤旗』をして即時このカムパーニヤそのものゝ集合的指導者、宣伝煽動組織者たる仕事を果せしめる為に、これらの全活動を敏速に中央機関に報告することによつて、労農通信員網を組織し、一号毎に見る〳〵その内容の改善を実現せしめ、直ちに全口的階級的政治新聞として大衆自身の生活と斗争を生々と反映し、大衆自身の支持と協力の隣着に脈打つものたらしめねばならぬ。「労農通信員団を組織せよ！！」

（五）『赤旗』読者の感想と党に対する意見とを、一人々々の新読者から注意深く聞き出してその編輯の計画と通信の方針等に関する民主的討論の要求に応じて、これを積極的に実現せねばならぬ。

（六）紙代の徴収を厳格に励行し、必ずその全額を中央に完納するレーニン主義的規律と訓練を確立せねばならぬ。これなくして共産主義的プロレタリア新聞の発行と維持とは絶対に不可能であることをすべての読者に初めから徹底的に理解せしめる注意が特に必要である。宣伝紙の紙代配布はブルジョア的非階級的方法である。「紙代を完納せよ！！」

（七）然し乍ら現代日本の資本主義社会に於ける日刊『赤旗』の実現は、必然に我々としては可成り巨額の基金を特別に募集することなくして不可能である。それは決して単なる大衆の労力的支持と、紙代の完納のみで充分ではない。更に彼等の直接の血と汗との結晶である五銭十銭の醵金の集積による補助に俟つことを絶対的條件として要求する。「バット代で『赤旗』を活版日刊に！！」

（八）この基金は何よりも第一に、先づ党中央印刷局の建設に当てられねばならない。『第二無新』が巧妙なる非合法的技術を以て尚且つ頻々たる敵の襲撃に妨げられたことを思へば、我々が我々自身の秘密印刷局を持たずして、『赤旗』のかゝる急速なる発展を確保し得ないことは明らかだ。我々の計画は従らなる空論ではなくて、現実の具体性に根ざすものでなければならない。「赤旗印刷局を大衆の手で！！」

（九）我々はその為に当面少くとも五千円の第一期最低基金を必要とする。我々は過去の同様なる実例の経験に依つて、大衆生活の今日の極度に窮乏なる事情をよく知つてゐる。然し乍ら我々は断じてこれだけの基金獲得を以て満足してはならぬ。何故ならば、現在の客観的状態の為にこそ、大衆はそれを敵手に独占せんとする支配階級の攻勢に反撃するの斗争の武器として『赤旗』の必要を益々痛感するからである。「五千円を三ヶ月で！！」

（十）五千円の基金カムパーニヤは五万人の読者獲得によつて容易に達せられるであらう。五万人の『赤旗』読者は労農通信員網の組織者として、又多くの場合に於ては党細胞の組織者として、我々の組織的勢力に結び付けられるのだ。「赤旗」を持つた五万の軍隊は五十万の、百万の大衆を我々の戦列に動員し得るに違ひない。「五万の読者を三月で」全口の同志、革命的労働者及び農兵士諸君！

我々は今、中口に対する帝国主義的戦争と第二次帝国主義世界大戦並にソヴエート同盟に対する日仏米英干渉戦争の危機なる攻火の中に、光輝ある、プロレタリア革命の勝利を目指して、来るべき解放戦の階級的一大決戦を準備しつゝある、日本の労働者農兵大衆が今日の切迫せる危急存亡の時期を突破する為に、今全力を挙げて緊急すべき最大緊要の根本任務は、第二次世界大戦の新型の試練から生れ出たソヴエート革命の成功的指導者、コミンテルンの支部日本共産党の強化拡大によつて口際労働者階級の統一戦線に固く結合することだ。日本共産党中央機関紙、『赤旗』の大衆化、活版日刊期成カムパーニヤは即ちこの党ボリシェヴィーキ化実現の為の第一歩であり、中心手段である。

即時、実質的による全口的社会主義競争を始めよ！

大衆的、階級的成果によつて五千円を成就させよ！

新聞紙型、活版、日刊『赤旗』一万才！

五万人読者獲得、党員総加盟動万才！

日本共産党万才！

コミンテルン万才！

一九三二年三月一日

日本共産党中央委員会

党中央機関紙に関する再決定

中央委員会は『赤旗』第五十八号に発表した党の中央機関紙再編成に関する決定を修正し、紙に更めて左の如き新方針を決定する。

一、党中央機関紙『赤旗』の活版による日刊——そして其の第一歩として先づ当分は『第二無新』型週刊——の達成を期す。

二、その為『赤旗』活版日刊期成カムパーニヤを組織し、現在の党勢力を動員してこれに集中する。

三、それは無論同時に又、党自体の組織的拡大強化『ボリシェヴィキ化の過程であり、これと切り離して真なる『赤旗』の日刊大衆化を為すことは出来ない。

四、右方針の遂行は、たゞ党がその中央部より細胞に至るまでの全機関を挙げて、広汎なる労働者農民勤労大衆の先頭に立ち、活溌なる組織的活動の下に、彼等の日常の要求の為の闘争を準備し、組織し、指導し、展開することに依つてのみ可能である。

五、かゝる階級的大衆斗争の具体的実践の過程を通じ、初めて我党はその多年の伝統的承志たる『五賞』涙欲主義的偏向並に右翼日和見主義的偏向を徹底的に清算し、客観的情勢に対する党の立ち遅れ、その遊離主義、消極政策、跛行状態を克服し得るであらう。

六、我々は党員、スパイ其他一切の階級的仮装——勿論公然たるファシスト、スパイ団的解党派及び右から『左』までの凡ゆる社会ファシストの如きをも含めて——を除く全機構圧、被搾取勤労大衆（才一にプロレタリアート）が一人残らず『赤旗』を購読し、支持することを希望し、それの実現の為に努力する（党員たることを選ばれた極めて少数の最前衛のみの特権と考へたり『赤旗』読者たるには何等か格別の資格を必要とするかの様に考へて、自ら党と大衆とを切り離さんとする古き誤謬主義の残滓を清算すべきである。

党中央機関紙に関する再決定

中央委員会は先に党中央機関紙の再編成に関する方針を決定し、『赤旗』第五十八号にその大綱を発表したが、これが具体的遂行に当り種々の予盾と混乱を生じ改めて決定そのものゝ再検討を必要とするに至つた。

中央委員会はこれに就いて極めて慎重な態度を持し、広く党内の民主的討議に基づく意見の報告を徴し、徹底的に自己批判を加へた結果、先の決定の含む誤りを認め、前記の如きその修正の新決定を採用した。

この問題に関し、我々に報告された多くの意見は、残念乍ら何れも全く正しいとは云へない。たゞそれにも拘らずこの討論は近来にない活発な多数党員の参加を見、党政治生活の一般的向上と中央機関紙の改良発展に対する各党員の熱心なる関心を示したのである。

我々は凡ての同志諸君が必らずや中央委員会の決定した新方針に全く一致して、直ちに勇躍その実現に努力すべきであらうことを確信し、左に中央常任委員会の一員たる同志川辺の討論の要点に関する報告を摘載して説明に代へることにする。——編輯局——

再決定に至る
「討論の報告」

川辺太一

（前書）中央委員会は先に党中央機関紙の再編成に関する方針を決定し、『赤旗』第五十八号にその大綱を発表したが、これが具体的遂行に当り種々の予盾と混乱を生じ改めて決定そのものゝ再検討を必要とするに至つた。

中央委員会はこれに就いて極めて慎重な態度を持し、広く党内の民主的討議に基づく意見の報告を徴し、徹底的に自己批判を加へた結果、先の決定の含む誤りを認め、前記の如きその修正の新決定を採用した。

この問題に関し、我々に報告された多くの意見は、残念乍ら何れも全く正しいとは云へない。たゞそれにも拘らずこの討論は近来にない活発な多数党員の参加を見、党政治生活の一般的向上と中央機関紙の改良発展に対する各党員の熱心なる関心を示したのである。

我々は凡ての同志諸君が必らずや中央委員会の決定した新方針に全く一致して、直ちに勇躍その実現に努力すべきであらうことを確信し、左に中央常任委員会の一員たる同志川辺の討論の要点に関する報告を摘載して説明に代へることにする。——編輯局——

一、『赤旗』第五十八号の『中央機関紙再編成に就いての方針』の誤謬と再検討

『赤旗』第五十八号所載の『中央機関紙の再編成に就いて』は、我々が『有利なる情勢を利用して党の立ち後れを克服する為に、敢て新たなる飛躍に於ける組織的任務につかねばならぬ』ここに『断かる任務遂行の最も重要なるもの一つ』としての『党中央機関紙の再組織』を決定したへ引用は五十八号より）然しなら、一應正しく問題を提起せるこの決定は次の如き誤謬を含むであつた。

第一、我々は極左冒険主義を克服すると言ひながら尚冒険主義的偏向を残してゐた。それは党政治的並に組織的方針を党員及び『赤旗』の読者に欠け示さうとしてゐることに表はれてゐる。即ち政治的煽動は広汎に、たゞ方針は限られた少数者に示さうと考へたところに冒険主義の残滓がある。

第二、便宜主義に堕してゐる。なる程『赤旗』に比して甚だしく不正確にではあつたが、実質上（名目上ではなく）『第二無新』の方が寧ろ機関紙としての性質を広汎に大衆的に果してゐたとは言へ、党中央機関紙には断然不可避とする充分な理由が存在しない退り『赤旗』なる名称を付すべきであり『日本共産党中央機関紙』なることを明記すべきである。たとへ、『一時的』なる條件を附したにしろ、日本共産党日際支部党支部中央機関紙なることを明記せず『赤旗』なる名称を明記しなかつたことは明らかに便宜主義に堕するの誤を犯したものであつた。既に中央機関紙に『赤旗』なる名称が付けられねばならぬことが決定された以上、主としてレーニン主義的教育の任務を引受ける中央委員会発行の理論的機関誌——元の『マルクス主義』の如きもの——は『赤旗』と呼ばるべきでなくて、例へば『ボリシェヴィク』と名附けられるべきである。

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労働者団結せよ！

第三、それは無論同時に又、党自体の組織的拡大強化『ボリシェヴィキ化の過程であり、これと切り離して真なる『赤旗』の日刊大衆化を為すことは出来ない。

第四、右方針の遂行は、たゞ党がその中央部より細胞に至るまでの全機関を挙げて、広汎なる労働者農民勤労大衆の先頭に立ち、活溌なる組織的活動の下に、彼等の日常の要求の為の闘争を準備し、組織し、指導し、展開することに依つてのみ可能である。

第五、かゝる階級的大衆斗争の具体的実践の過程を通じ、初めて我党はその多年の伝統的承志たる『五賞』涙欲主義的偏向並に右翼日和見主義的偏向を徹底的に清算し、客観的情勢に対する党の立ち遅れ、その遊離主義、消極政策、跛行状態を克服し得るであらう。

第六、我々は党員、スパイ其他一切の階級的仮装——勿論公然たるファシスト、スパイ団的解党派及び右から『左』までの凡ゆる社会ファシストの如きをも含めて——を除く全機構圧、被搾取勤労大衆（才一にプロレタリアート）が一人残らず『赤旗』を購読し、支持することを希望し、それの実現の為に努力する（党員たることを選ばれた極めて少数の最前衛のみの特権と考へたり『赤旗』読者たるには何等か格別の資格を必要とするかの様に考へて、自ら党と大衆とを切り離さんとする古き誤謬主義の残滓を清算すべきである。

第三、帝大赤潮細胞の再編成という重要問題の決定に際して大衆的カンパーニア――それは必然的に大衆的討議を要する――の組織を要求しなかった点、この事は決定的に重要である。

以上要約された誤謬の認識から出発して我々は再決定に至るまでに行はれた討論の要旨に移ることにする。

二、大衆的活動への転換に於ける中央赤潮細胞再編成の意義

中央赤潮細胞問題はこゝまでもなく、我党が当面せる全般的任務の正しい理解の上に立って解決されねばならぬ。

経済恐慌の深刻化、全本位制の停止、満蒙問題の独立国家設定に依る事実上の軍事的占領（ソヴェートロシア同盟に対する武力干渉の第一歩でもある）、上海を中心とする揚子江沿岸の排外戦争（それは第二次帝国主義的世界戦争の直接的危険の深化である）、大衆政友会内閣に依る政治的及物の強化（暴力的警察テロルに依る労働者農民の大衆運動への口実的圧力の直接的弾圧の強化、特部、在郷軍人会、青服団、その他各種の反動的諸団体等々を主要部隊とするファシスト的武装組織の結成、隠蔽として行はれる直接に内乱組織圧を予想せる市街的備演習、等々）は日本の労働者階級、勤労農民大衆の上に堪え難き重圧を与えてゐる。支配階級のこの総攻撃に対しプロレタリアート、会実を始めとする勤労被搾取大衆は斗争へと奮起してゐる。ストライキ件数の激増、その形態の戦闘性、失業労働者の大衆的街頭デモンストレーションの増加、農民の形態を採れる貧農民の大衆的蜂起、部分的にではあるが口実政力代闘に対する公然たる反動――これらは日本に於ける革命的情勢を雄弁に物語ってゐる。（各種のファシスト、社会ファシスト共の協力的弾圧にも拘らず、この革命的高揚は増々発展しつゝあり、我党の政治的影響と組織的勢力の増大にとって実に有利な条件を与へてゐる。然り、我党の影響は日一日と増大してゐる。今回の帝国武会総選挙に於て敵の集中的攻撃にも拘らず、東京府下又けで我党に投じられた票数は実に一万数千を超えてゐる事実がこの事を証明してゐる。

然しながら、我々は未だ凡ゆる大衆斗争の先頭に立って指導してゐるとは云へない。更に党は強大な組織（第一に里工場）細胞の基礎の上にガッチリと建設されてはゐない。茲に我党のボリシエビキ化、大衆化が今日特に強調される所以がある。日本における客観的条件は吾党の求リシエビキ化、大衆化にとって非常に有利であるにも拘はらず、我々はそれを充分に利用し得ずに居る。即ち、大衆の左傾化に対して、党の政治的影響力に対して党の組織は余りに弱く立ち遅れてゐるのだ。我々の主要な弱点はこの"立ち遅れ"にある。

この主要弱点たる"立ち遅れ"の党服の過程こそ目時に党ボリシエビキ化の過程である。然らばその克服の途は何処に求めらるべきか？それは日本の党の長い丁実践悪である極左冒険主義並に右翼日和見主義的偏向の決定的清算に求められねばならぬ。レーニン主義からのあらゆる偏向は階級斗争の実践を通じてのみ真に清算され得る。斯くて我々の前には、労働者農民勤労大衆のあらゆる斗争を指導し、組織し、革命的にこれを結集して立てられる。即ち大衆斗争の先頭に立つ事、大衆的活動への急転換は以上の如き見地からなされたものである。

大衆的活動への急転換は党中央部より細胞に至るまでの一切の党機構の集中的精力的活動に依つてのみ可能である。全機構がこの為に、此の重要任務の成功的遂行の為に動かされねばならぬ。就中、党生活の集中的表現である中央機関紙が此の領域に於て演ずべき役割は実に重大である。此の任務のよりよき遂行の為めに"全口的集団的煽動宣伝家"であり、且つ組織者である"中央赤潮細胞"は再編成されねばならぬ。茲にこそ再決定第一にある"党中央赤潮細胞"「赤旗」の活版による日刊――そしてその第一歩として当分は「第二無新」型週刊――の達成を期す"意義がある。

三、討論中に現はれた諸々の誤謬とその批判

1 この再編成は現在の勝利から活版への飛躍の要素を含まないと考へる同志がある。斯かる同志は、本決定の持つ目的は既に第二項で明白にされた如く、中央赤潮細胞の技術上の改変ではなくて第一にその内容の改革、第二にそれにその大衆化にあるのだ。"赤旗"を"プラウダ"や"ローテ・ファーネ"の如き内容、形式共に優れた全口的階級的政治新聞にし、真に大衆的ボリシェヴィキ党の中央赤潮細胞としての任務を成功的に果させる為にこそこれを活版にし、日刊にしなければならないのである。

活版の"赤旗"は、党の政治的並に組織的方針ばかりではなく、日常社会の出来事に対するレーニン主義的説明、党組織の実践的活動に対する指導と援助がなされ、全体として大衆の生々しき生活、斗争の記事で充満されなければならぬ。それは労働者と農民、勤労大衆にとって親しみ易い、而も最上の教師であり、唯一の味方であり、信頼すべき相談相手であり、揺ぎなき指導者であり且つ優れた煽動宣伝家であり、組織者であらねばならぬ。と云って、我々は工場細胞の不必要を主張するのでもない。断然その反対だ。"赤旗"との関係を忘れてゐるのでもない。断然その反対だ。"赤旗"と"赤旗"との緊密な関係の必要をこそ強調するのだ。）最も分り易く言へば、それは、現存の"赤旗"より遙かに充実してゐた頃の"機関者新聞"に近いものとなるであらう。

2 "赤旗"を右の如く再編成する仕事は**軍に、直接"赤旗"の編輯印刷配布の任務に就いてゐる少数の同志達の努力に依つて全く可能**であると考へ、従つて"赤旗"の活版日刊期成を党赤潮全体の再編成、党ボリシエビキ化とは切り離して可能であると考へる同志がある。斯かる同志にとっては、それ故必然に"赤旗"活版日刊カンパーニアを以つて"立ち遅れ"克服のために現在つかむべき重要な一環でないことになる。斯かる同志は、かくて本提案に反対して先づ党赤潮全体の再編成を提案する。

又、他の同志は次の如き見地から吾々の方針に反対し"先づ党赤潮全体の再編成から始めろ！"と云ふ提案に賛成する。同志は言ふ"それなくしては"赤旗"の活版日刊達成は不可能だから"と。即ち"党機関の全機構が整然として順調に運転されて居らず、重要な連絡のベルトが折れたり、曲ってゐたり、肝腎な連絡のベルトが切れたり、外れたりして居て……ガタ〳〵バラ〳〵に個々の組織部分が勝手な組織、不統一な活動をやつてゐるがその全体が一個の完全なる機構としての緊密な有機的関係を保つてゐない"それ故に"その全組織及び活動体系に亘る再編成によってこそ（中略）かく始めて「赤旗」はその使命を立派に果し得るに至るであろう"と。あれも悪い、これも悪いと言ってゐる。あれも直さねばならぬ、これも取り換えねばならぬ。これ等を合計して曰く"先づ全組織及活動体系を再編成せよ！"と。"これは実に素晴らしいテーゼだ。だが茲では全く反対のことがよりはっきりと言つたレーニンの事が思ひ出される。然り茲では全く反対のことが言はれねばならないのだ。党の急速なるボリシエビキ化、党の全組織及活動体系に亘る再編成を斗ひとるためにこそ大衆行動への急転換が必要とされ、それの有力な機行として先づ"赤旗"を活版日刊にする斗争を始めるのだ。甚しくは"無限の根"によつて作られてゐる無限の線"の全部を一度に切むことは不可能だからである。"政治家の一切の技能は手から抜け落ちる事が最も少い、現在の瞬間に於て最も重要な、そしてその環さへ握つてゐれば鎖全体を最も確実に把握し得られる様な正に斯くの如き環を見出してそれにしっかり握まることにあるのだ"（レーニン）。

3 ではどうして中央赤潮細胞の活版日刊――そのためのカンパーニアが正に斯くの如き環であるのか？我々は今やその積極的論拠を明らかにせねばならぬ。

二、三の例をとって説明しやう。

例へば東京の某工場に優秀な組織者が居てそこに模範的な煽動宣伝並に組織活動を展開し常に大衆行動の先頭に立ち素晴らしい成績を挙げたとする（党細胞、同盟細胞、全協分会等の拡大強化）。

大阪の某工場では非常に優れた工場新聞を作つて発行し、全従業員の間に絶大の支持を得るに至つたとせよ。更に例へば、山梨に於いて

八、一デーのデモに労働者と貧農を政治的並に軍事科学的に観て可成り成功的に動員したとせよ。我々がこれらの経験を詳細に『赤旗』紙上に報道し、批判し、更に次への発展の指針を明らかにしたとせよ。そして更に、他地方の優れた経験に依つて補足され、一地方の経験が全口的な経験となり、且つそれが更に発展させられたとせよ。

同志諸君、このことは**第一等の指導者を同時に全口の工場に、農村に派遣した**ことにならないだらうか？ベルトの腐敗を中央部とこれらの第一等の指導者とで補充し、更に急速に而も全口的規模に於て新しい指導者を養成するに役立たないだらうか？勿論、このことは、全口の工場へオルガナイザーが直接出かけた場合とは比較にならない程著だしい相異があらうことは必然にこそ我々は今優れた指導者を特別に養成し、急速に部署に就けやうとしてゐる）。だが我々がプロレタリアートのイニシアチーブを正当に評価する時、この極端な言ひ方も必ずしも、過言ではないだらう。

以上二、三の例からでもハッキリと解るやうに『赤旗』活版日刊カムパーニヤこそは、それが如何に党に依る大衆行動の展開、党組織の拡大強化と緊密いものゝ如く見えやうとも、党赤潮の部分的欠陥の補充と赤潮全体の活発化とに無関係であるかく如く見えやうとも、実に、これこそがその為に現在捕むべき一環なのである。

四、『第二無新』の廃刊を主張する主たる根拠について

権力を奪取したソヴェート同盟共産党は自ら問題外であるが、その他の口際共産党各口支部は如何なる赤潮組織成を有するか。

ドイツ共産党

ローテ・ファーネ（赤旗）　党中央赤潮細胞
デ・インテルナチヨナーレ　中央委員会発行の理論的赤潮紙
パルタイ・アルバイター（党活動者）　中央委員会発行の組織問題に関する赤潮紙
『プロパガンディスト』『アギタートル』（宣伝家）（煽動家）　中央委員会発行宣伝煽動家の為の赤潮紙
中口共産党
紅旗日報　中央赤潮紙
実話　中央委員会発行の政治経済に関する赤潮紙
ボリシエヴィキ　中央委員会発行理論的赤潮紙
党の建設　中央委員会発行組織問題に関する赤潮紙

而して、日本では党、中央赤潮紙『赤旗』の外には無産者新聞社発行の「プロレタリア大衆日刊の独立の政治新聞」と称する『無産者新聞』と党外の書店希望団発行の――実は党の理論赤潮紙――『マルクス主義』等があった。何れも名目上党とは別個の存在とされてゐた。これは微弱微能な日本に於ける当時の特殊事情に適応した戦術から生れた形式であり、当時は正しかつたのだ。だが、今日は最早此の特殊事情は消滅してゐる。茲に於て名目上は党に属し、実質的には我々は二つの「全口的階級的政治新聞」を持つことになつた。（上記の三つのスローガンを想起せよ）にも拘はらず当時このことは全く正しかつたのだ。徹底的に非合法たらざるを得なかつた党とその中央赤潮紙は到底『無新』を廃してこれに代ることは不可能であつた。かくて立方の読者を有する光輝ある『無新』は数百部の『赤旗』と並行せしめられ『赤旗』と並んで党大衆化の宣伝煽動の為の手段に利用されるべきは何故か？

第一、日本に於ける当時の特殊事情は消滅した。こゝな我々は一九二三年以後の党の丁実に立ち入らねばならぬ。一九二三年の所謂第一次検挙以後一時唖然すべき清算派が党内に多数を制し、恥づべき一時的解党の非運に流滅した時七全中の同志佐野学が口際指導部の指令を携へて急遽帰口し、我口の革命的プロレタリアートを日和見主義の泥沼から救い出し、真の大衆的ボリシエヴィキ党として我党を再建すべく、先づ大規模な政治的煽動の全口的政治新聞『無産者新聞』を創刊したのだ。

一、労働階級の全口的政治新聞たらんことを期すこと。

二、労働階級の日常斗争の戦略たらんことを期すこと。

三、前衛組織の促進の任務の遂行を期すこと。

第二、折衷主義――極左セクト主義的偏向と右翼日和見主義的偏向――を克服しなければならぬ。『赤旗』には正しい政策的並びに組織的方針が掲げられてゐるとは言へ、今日の如く階級の再編成という重要問題の決定に際して大衆的カンパーニア――それは必然的に大衆的討議を要求しなかった点、この事は決定的に重要である。

以上要約された誤謬の認識から出発して我々は再決定に至るまでに行はれた討論の要旨に移ることにする。

二、大衆的活動への転換に於ける中央赤潮細胞再編成の意義

中央赤潮細胞問題はこゝまでもなく、我党が当面せる全般的任務の正しい理解の上に立って解決されねばならぬ。

経済恐慌の深刻化、全本位制の停止、満蒙問題の独立国家設定に依る事実上の軍事的占領（ソヴェートロシア同盟に対する武力干渉の第一歩でもある）、上海を中心とする揚子江沿岸の排外戦争（それは第二次帝国主義的世界戦争の直接的危険の深化である）、大衆政友会内閣に依る政治的及物の強化（暴力的警察テロルに依る労働者農民の大衆運動への口実的圧力の直接的弾圧の強化、特部、在郷軍人会、青服団、その他各種の反動的諸団体等々を主要部隊とするファシスト的武装組織の結成、隠蔽として行はれる直接に内乱組織圧を予想せる市街的備演習、等々）は日本の労働者階級、勤労農民大衆の上に堪え難き重圧を与えてゐる。支配階級のこの総攻撃に対しプロレタリアート、会実を始めとする勤労被搾取大衆は斗争へと奮起してゐる。ストライキ件数の激増、その形態の戦闘性、失業労働者の大衆的街頭デモンストレーションの増加、農民の形態を採れる貧農民の大衆的蜂起、部分的にではあるが口実政力代闘に対する公然たる反動――これらは日本に於ける革命的情勢を雄弁に物語ってゐる。（各種のファシスト、社会ファシスト共の協力的弾圧にも拘らず、この革命的高揚は増々発展しつゝあり、我党の政治的影響と組織的勢力の増大にとって実に有利な条件を与へてゐる。然り、我党の影響は日一日と増大してゐる。今回の帝国武会総選挙に於て敵の集中的攻撃にも拘らず、東京府下又けで我党に投じられた票数は実に一万数千を超えてゐる事実がこの事を証明してゐる。

然しながら、我々は未だ凡ゆる大衆斗争の先頭に立って指導してゐるとは云へない。更に党は強大な組織（第一に里工場）細胞の基礎の上にガッチリと建設されてはゐない。茲に我党のボリシエビキ化、大衆化が今日特に強調される所以がある。日本における客観的条件は吾党の求リシエビキ化、大衆化にとって非常に有利であるにも拘はらず、我々はそれを充分に利用し得ずに居る。即ち、大衆の左傾化に対して、党の政治的影響力に対して党の組織は余りに弱く立ち遅れてゐるのだ。我々の主要な弱点はこの"立ち遅れ"にある。

この主要弱点たる"立ち遅れ"の党服の過程こそ目時に党ボリシエビキ化の過程である。然らばその克服の途は何処に求めらるべきか？それは日本の党の長い丁実践悪である極左冒険主義並に右翼日和見主義的偏向の決定的清算に求められねばならぬ。レーニン主義からのあらゆる偏向は階級斗争の実践を通じてのみ真に清算され得る。斯くて我々の前には、労働者農民勤労大衆のあらゆる斗争を指導し、組織し、革命的にこれを結集して立てられる。即ち大衆斗争の先頭に立つ事、大衆的活動への急転換は以上の如き見地からなされたものである。

大衆的活動への急転換は党中央部より細胞に至るまでの一切の党機構の集中的精力的活動に依つてのみ可能である。全機構がこの為に、此の重要任務の成功的遂行の為に動かされねばならぬ。就中、党生活の集中的表現である中央機関紙が此の領域に於て演ずべき役割は実に重大である。此の任務のよりよき遂行の為めに"全口的集団的煽動宣伝家"であり、且つ組織者である"中央赤潮細胞"は再編成されねばならぬ。茲にこそ再決定第一にある"党中央赤潮細胞"「赤旗」の活版による日刊――そしてその第一歩として当分は「第二無新」型週刊――の達成を期す"意義がある。

三、討論中に現はれた諸々の誤謬とその批判

1 この再編成は現在の勝利から活版への飛躍の要素を含まないと考へる同志がある。斯かる同志は、本決定の持つ目的は既に第二項で明白にされた如く、中央赤潮細胞の技術上の改変ではなくて第一にその内容の改革、第二にそれにその大衆化にあるのだ。"赤旗"を"プラウダ"や"ローテ・ファーネ"の如き内容、形式共に優れた全口的階級的政治新聞にし、真に大衆的ボリシエヴィキ党の中央赤潮細胞としての任務を成功的に果させる為にこそこれを活版にし、日刊にしなければならないのである。

活版の"赤旗"は、党の政治的並に組織的方針ばかりではなく、日常社会の出来事に対するレーニン主義的説明、党組織の実践的活動に対する指導と援助がなされ、全体として大衆の生々しき生活、斗争の記事で充満されなければならぬ。それは労働者と農民、勤労大衆にとって親しみ易い、而も最上の教師であり、唯一の味方であり、信頼すべき相談相手であり、揺ぎなき指導者であり且つ優れた煽動宣伝家であり、組織者であらねばならぬ。と云って、我々は工場細胞の不必要を主張するのでもない。断然その反対だ。"赤旗"との関係を忘れてゐるのでもない。断然その反対だ。"赤旗"と"赤旗"との緊密な関係の必要をこそ強調するのだ。）最も分り易く言へば、それは、現存の"赤旗"より遙かに充実してゐた頃の"機関者新聞"に近いものとなるであらう。

2 "赤旗"を右の如く再編成する仕事は**軍に、直接"赤旗"の編輯印刷配布の任務に就いてゐる少数の同志達の努力に依つて全く可能**であると考へ、従つて"赤旗"の活版日刊期成を党赤潮全体の再編成、党ボリシエビキ化とは切り離して可能であると考へる同志がある。斯かる同志にとっては、それ故必然に"赤旗"活版日刊カンパーニアを以つて"立ち遅れ"克服のために現在つかむべき重要な一環でないことになる。斯かる同志は、かくて本提案に反対して先づ党赤潮全体の再編成を提案する。

又、他の同志は次の如き見地から吾々の方針に反対し"先づ党赤潮全体の再編成から始めろ！"と云ふ提案に賛成する。同志は言ふ"それなくしては"赤旗"の活版日刊達成は不可能だから"と。即ち"党機関の全機構が整然として順調に運転されて居らず、重要な連絡のベルトが折れたり、曲ってゐたり、肝腎な連絡のベルトが切れたり、外れたりして居て……ガタ〳〵バラ〳〵に個々の組織部分が勝手な組織、不統一な活動をやつてゐるがその全体が一個の完全なる機構としての緊密な有機的関係を保つてゐない"それ故に"その全組織及び活動体系に亘る再編成によってこそ（中略）かく始めて「赤旗」はその使命を立派に果し得るに至るであろう"と。あれも悪い、これも悪いと言ってゐる。あれも直さねばならぬ、これも取り換えねばならぬ。これ等を合計して曰く"先づ全組織及活動体系を再編成せよ！"と。"これは実に素晴らしいテーゼだ。だが茲では全く反対のことがよりはっきりと言つたレーニンの事が思ひ出される。然り茲では全く反対のことが言はれねばならないのだ。党の急速なるボリシエビキ化、党の全組織及活動体系に亘る再編成を斗ひとるためにこそ大衆行動への急転換が必要とされ、それの有力な機行として先づ"赤旗"を活版日刊にする斗争を始めるのだ。甚しくは"無限の根"によつて作られてゐる無限の線"の全部を一度に切むことは不可能だからである。"政治家の一切の技能は手から抜け落ちる事が最も少い、現在の瞬間に於て最も重要な、そしてその環さへ握つてゐれば鎖全体を最も確実に把握し得られる様な正に斯くの如き環を見出してそれにしっかり握まることにあるのだ"（レーニン）。

3 ではどうして中央赤潮細胞の活版日刊――そのためのカンパーニアが正に斯くの如き環であるのか？我々は今やその積極的論拠を明らかにせねばならぬ。

二、三の例をとって説明しやう。

例へば東京の某工場に優秀な組織者が居てそこに模範的な煽動宣伝並に組織活動を展開し常に大衆行動の先頭に立ち素晴らしい成績を挙げたとする（党細胞、同盟細胞、全協分会等の拡大強化）。

大阪の某工場では非常に優れた工場新聞を作つて発行し、全従業員の間に絶大の支持を得るに至つたとせよ。更に例へば、山梨に於いて

間を誤ますに「赤旗」を嫌むやうになつたらどんなにスバラシイだらう。我々はそれに向つて驀進する。

或る同志は「赤旗」大衆化の先導として「オ二無新」が絶対に必要だと主張する。この同志は「工場新聞の重要性、「工新」と「赤旗」との関係を完全に忘却してゐる。同時にこの同志は街頭分子のみを——無意識的にしろ——前提して、問題を工場の具体的生活として提示してゐない。「赤旗」の革命的性格が明瞭かくの如く「赤旗」が再刊禁止され、大衆化されるが故に「オ二無新」は不用なのだ。（更に次の点も考慮さるべきである。プロレタリアート大衆は勿論のこと優れた労働者ですら党の指導下にある新聞雑誌等の出版物の大洪水の前に目失してゐる現状だ。何故か？　言はまでもなく量に与程遠出されるからではない。一言で言へば、そこには正しい分化と統一とが保たれてゐないからだ。）

第三、政治的並に組織的不統一の病根を切断すべきである。或る同志は「成程形式の如何に拘はらず事実上我々は二つの全国的政治新聞を持つ事になるが党と「無新」「フラクション」との関係を明かにやれば政治的並に組織的対立は或る程度まで避け得るであらう」と楯弁する。我々は今日党の毛一本程の不統一も許してはならないのだ。尚ほ「無新」と「赤旗」の广大を見てもこれは机上の空論であり、抽象論である。我々は何等の主観をも混さない全国的階級的政治新聞なるものを世界中に発見し得ないのである。

要するに報道等といふことはプロレタリアートの政治新聞として許され得ないし、又、そんなものであつては断じてならないのだ。

我々は次に組織の領域に立ち入つて考察する。

オ一に、三・一五以前「無新」読者会に結集された労働的エネルギーをムザ〳〵と消失せしめてはならないこと、「無新」の党大衆化のアレーゼ的役割を認むせよ。矛盾が最も尖鋭化せる今日の「オ二無新」を中心とする集団と「赤旗」を積極とする組織を見よ。組織的不統一が不可避なることは論をまたないが、レーニンが言つてゐる如く、全国的政治新聞が存在する限りそれの周囲に必らずプロレタリアートが結集し、その主張に従つて統一的に斗争することは当然である。従つて今日、「オ二無新」の政治的煽動に依つてその周りに結集し行動するプロレタリアートの一団が党の基本的組織と並存して居り、時たま相互に対立し、又は不統一を来すの恐れ必然である。

ブルジョア教徒の口の中で当時最も政治的自由が存在した一九一七年四月以後の資本家と大地主の共和国ロシアに於て党中央機関紙の外に首都ペテログラード委員会発行の機関紙を持ちたいとの意見に強烈に反対したレーニンの主張は「オ二無新」の問題に対しても今日全くあてはまる。即ちレーニンは(?)政治的並に組織的不統一を来すからいけない。(2)力の結集を必要とする時力の分散を不可避とするからいけない。と主張したのだ。

第四、我々は力を集中しなければならぬ。我々は今、何から始むべきかを既に決定した。我々の有する凡ゆる力を結集してこれに向つて突撃しなければならぬ。たとへその為に他の陣地の後退が一時伴つたり一歩退却が惹き起こされることがあらうとも我々は決定的攻撃目標——赤旗活版印刷所前カムパーニヤ、同時に党の大衆化、ボリシエヴィキ化——に我々の決定的努力を集中して実践するのだ。これこそレーニン主義戦術の基本である。

今日程力の結集を必要とした時はない。然るに我党には今混乱が惹起されてゐる。それ故に次の意見、即ち「党中央機関紙「赤旗」の大衆化＝即＝党の組織的拡大強化の為、可急的に急速に先づその活版週刊を実現し、次いで毎五日発行とする」と同時に他方「無新」をより大衆化すべく、紙面の拡大、大型輪転機印刷及毎五日発行の再興を促進し、成るべく短期間内に日刊の実現を期成せしめる」といふ、同時に二兎を追ふ方針は決定的に非レーニン主義的方針である。

「赤旗」活版日刊期成カムパーニヤに全力を集中せよ！

機関部の充実、印刷所の創設、配布の組織、労農通信員団の組織等々「赤旗」活版日刊カムパーニヤ（基金カムパを含む）は決して生やさしい仕事ではないのだ。（それは同時に党の大衆化、ボリシエヴィキ化の過程である。）

一切の日常斗争と党の政治的カムパーニヤにそれを結合せよ！

かくてのみこれ等の斗争が活況となり、敏速となり、統一あるものとなる。他方に於てかゝる斗争を通じてのみ「赤旗」の活版日刊準備が押し進められ得るのだ。

★

同志諸君!!

「我々は旧いシヤツを脱いで新しいシヤツを着なければならぬ」（レーニン）。それがどんなに汚れて居り、枕ちて居り、小さくなつてゐやうとも着なれたシヤツをスパリと脱ぎ棄てゝ新しいシヤツを着るには、即ち、極左宗派主義右翼日和見主義的傾向を徹底的に克服するには——「赤旗」活版日刊と「オ二無新」の広刊はその為に必要とされるもの一つだ——確かに据さなきレーニン主義的信念と勇気とを必要とする。我々は断乎たる決意を以て、中央委員会で採用された本決定を直ちに、そして徹底することなく、実践に移さねばならぬ。レーニン主義からの凡ゆる傾向の克服、大衆的活動への態勢統一党ボリシエヴィキ化はこのことに依つて一へ進められるであらう。又進められねばならぬ。

戦時の革命的メーデーを前に
カムパーニヤの月 三月を迎へて
総選挙戦後の臨時第六十一軍国議会に対する新たなる斗争の陣容を準備せよ！

—1—

戦争とファシズム、金輸出再禁止に依る資本の攻撃の更に強烈たる進一歩——これらに対する斗争を通じてのみ「赤旗」の活版日刊準備が押し進められ得るのだ。

★

同志諸君!!

「我々は旧いシヤツを脱いで新しいシヤツを着なければならぬ」（レーニン）。それがどんなに汚れて居り、枕ちて居り、小さくなつてゐやうとも着なれたシヤツをスパリと脱ぎ棄てゝ新しいシヤツを着るには、即ち、極左宗派主義右翼日和見主義的傾向を徹底的に克服するには——「赤旗」活版日刊と「オ二無新」の広刊はその為に必要とされるもの一つだ——確かに据さなきレーニン主義的信念と勇気とを必要とする。我々は断乎たる決意を以て、中央委員会で採用された本決定を直ちに、そして徹底することなく、実践に移さねばならぬ。レーニン主義からの凡ゆる傾向の克服、大衆的活動への態勢統一党ボリシエヴィキ化はこのことに依つて一へ進められるであらう。又進められねばならぬ。

注意

来る総選挙の綱領文に附した署名は、単に筆者の責任を明らかにする為に止まるもので党名でもなければ党論本名では決してない。故にそれを組織上の連絡等に使ふことはあり得ないものであるが、官憲や解党派の如き満党のスパイ共が或はこれを利用して何等かの策動を弄することがないとも限らぬから、この点等の為に読者諸君の御注意を乞ふ。——（編輯局）——

中の自己を暴露した。而もその過程に於て、二月十一日の建国祭に対する斗争と十九日の国際失業反対デーを斗ひ、二十日の投票後の二・二六暴動記念日を、果してまたも新たなる敵の検挙逮捕への逆襲として迎へたのだ。

革命の峻路はまことに血みどろの鉄条網に敵はれてある。たが我々は立ち止まつて躊躇し、後退してゐることを許されない。飽くまで一歩々々の足跡を踏み固め、困難な前進の行手を切り拓いて次の敵陣に突撃する。今、目指す戦場の位置と彼我軍隊の配置は如何？

—2—

改選により来る四月二十日を以て召集さるべき第六十一臨時新議会を特徴づけるものは、政府与党政友会の空前の絶対多数である。

皆相大養総裁は「国公正なる民意により政局の安定なり、我が党政策実現の基礎が確立した」と述べてゐる。これは何を意味するか？　すなはち、議会主義的仮面に匿れた天皇ブルジョア地主の金融資本主義的政治機構が、愈々憚るところなき対外侵略軍事戦争と国内反植民地のファシスト的圧制の帝国主義戦争遂行の準備を全く整へたことを云ふのだ。

野党民政党首若槻は「将来の党」として予期せる敗戦の原因を語り、暗に政友による干渉選挙の正体を見破してゐる。議会の多数を誇しつゝ、少数党に政権を譲り渡さざるを得なかつた彼は、今日の無議院議員選挙が、何等の民主的意義なき単なる民衆欺瞞の政治的駈引以外の何物でもないことを、最もよく知る一人である。否、むしろこの駈引の為にこそ、彼は党内の反対派闘論を抑し、甘んじて自ら野に下り政局責任の重圧を引受けたのだ。

社民党書記長赤松は「議会に対する民衆の失望心を支配階級に警告し、大衆発展を阻止せよ」をブルジョア新聞に訴へてゐる。前者は口K試会招致をブルジョアジーの大局の立場から却つて議会主義的幻想の維持を助け、後者は帝国主義戦争反対の平和なる煽動によつて、大衆の革命的反戦行動を抑制し、両者共に

すべきかを、極く簡単に約言するに止める。

日本の帝国主義者共は今回の口会議員總選挙により、その所謂『聖戦の御楯八代武士』としてご千万同胞民衆を自己一人の私利私慾の為に金と虚名に代へて仇敵の手に売り渡さんとする憎むべき裏切者朴春琴と云ふ最も醜悪な一個売国奴の輩出を驚々しい物入りや擡き出した。彼等は之を利用して、その機構する『日鮮融和』の欺瞞政策を宣伝し世界に比類なき野蛮な武断的統治政治の重圧に虐げられ、呻吟してゐる二の植民地被搾取民族の対日感情と反感を怖るべき新たなる爆発の前に緩和して現に遂行中の支那分割強盗戦争の為に最憂慮ざる、敵愾の感を少しでも打かうと躍起になつてゐるのである。

昨年七月の万宝山事件報復中口人虐殺の全鮮的暴動次同じ目的を持つた彼等日本帝口主義政府の頗る巧妙な計画的煽動によつて惹起されたものである事は我々の今尚、記憶に生々しい事実だ。恰かもかの関東大震災当時、朝鮮人襲来の流言飛語を以て罹災民衆の支配階級に対する不平と叛抗を逸らかし民族的偏見に誘導した様に、又も彼等は之によつて帝口主義日本の資本家階級に対する朝鮮労働者農民大衆の怨恨と憤怒とを対支民族的反感に転化し、正しい革命的進路から外らせて誤つた方向に走らせる事に、マンマと一時的成功をかち得たのだ。

然しながら、これをその儘承服させて、彼等の所謂『白衣の狂満同胞保護の自衛行動』なる欺瞞の美名の蔭に、その露骨なる満蒙侵略の野心を隠蔽し、帝口主義的労働者農民の階級的連帯の力と活動とに負ふものである。

革命中口及び社会主義ソヴエートの破壊と称賛の矛二次世界大戦への先頭隊として、すでにその矛一線から矛二戦までも突撃の準を進めてゐる帝口主義日本の支配階級な先づ、その直接特力国内に属する日本、朝鮮、満洲及び台湾のコミンテルン支部共産党員の弾圧と徹底的掃蕩の為に、一切の反動的口実権力を動員し、軍事、警察的白色テロルの光双を振りかざして、いよ〳〵ますます血眼の狂奔に日もこれ足らざる有様であるのは、まことに故なきにあらず。これ故にまた、彼等がこのことを最もよく理解し、それ故にまた、彼等がこのことを最も恐怖してゐるからであることを示す。

それは、日本帝口主義を共同の敵とする日本朝鮮、台湾及び中口の労働者農民、凡ゆる被抑圧、被搾取勤労大衆の解放が、これら各社産党を通じ、万口プロレタリア革命の統一戦線に固く結び付くことなくしては絶対に不可能であることを反証するもの以外の何ものでもない。矛一次世界大戦の直前、ヨーロツパ革命の最初の危機と植民地諸民族蜂起の巨涛の渦中に起つた、一九一九年三、一事件失敗の十三年以前の厂史がまた更にこのことを明白に実事書きしてゐる。

日本帝口主義の現に施行しつゝある支那侵略の強盗戦争を、全極東労農大衆の偉大なる階級斗争に転化し、目前に迫る飢餓と殺戦、破滅とフアシスト的暴圧の矛二次世界大戦を、口際プロレタリアートの決定的革命戦にまで発展せしめるための具体的準備を進むべき当面の緊急任務遂行の一指標として、我々はいま、この一九三二年三、一デーを最も有意義且つ効果的に記念しなければならないのだ。

偶々、東京に於ける朝鮮共産党（日本総局矛）次及び矛二大検挙、治安維持法違反被告事件の控訴統一公判が来る三月初旬の中に開かれる。

我々はこの三一記念日の斗争を期し、最も悲惨果敢なる暗黒階級裁判の下に野蛮的残忍の極刑を擬せられつゝ、勇敢に公判廷の英雄的階級斗争を戦つてゐる、これらの朝鮮の前衛同志諸君を支持して、朝・日勤労大衆農民並び中・中間層生の口際的団結の威力を示し、日本帝口主義に対する強固な革命的共同斗争の戦列を実現せねばならない。

同志諸君！●全口の革命的勤労大衆農民兵士学生諸君！●党、全協、共青、反帝、モップル等々の組織を中心に、先づ廿日の凡ての朝鮮、台湾、中口の兄弟達と手を握れ！●ガツチリと鉄鎖の如く腕を組め！●用意の身構へをして起ち上れ！●進め、そして高らかに叫べ！

朝鮮独立運動三・一記念日万才！

日本、朝鮮、台湾、中口の労働者農民の団結！

3月5日
コミンテルン創立矛十三週年記念日
山宣暗殺・赤衛デー

矛一次世界大戦の鮮血の試練によつて、もろくも崩壊した矛二社会民主々義インタナショナルの廃墟の上に、その小ブルジヨア的日和見主義と背信的裏口主義とに対する各口の革命的前衛分子の果敢なる斗争の火光の中から、矛三共産主ギインタナショナルは、一九一九年三月五日、労働者農民の支配階級に対する最初の勝利を実現した新生ロシア・ソヴエート共和口の首都、モスコーに於ける、その矛一回大会によつて正式に創立された。

コミンテルンの世界史的意義は、それがプロレタリア独才口家の確固たる基礎に根據して、マルクス人の共産主義者同盟と矛一インタナショナルとに於て体現された、全世界労働者の究極的解放の為の偉大なる原理と教義の正統を継承し、資本主義の危機的攻勢に対するプロレタリアートの逆襲的突撃の準備として組織的一大革命軍を再編成し、実践的努力にまで発展せしめた点にある。それがレーニンの輝ける指導の下にボニイルタナショナルを資材せしめた一切のブルジヨア・デモクラシーと口民主義の思想的毒素を容赦なく掃蕩して、同じ帝口主義の桎梏に喘ぐ凡ゆる農民、弱人、青年及植民地半植民地被圧迫民族の大衆を、この口際的階級的統一戦線至迫民族の大衆を、この口際的階級的統一戦線の旗の下に糾合し、結集した点にある。

今、コミンテルン創立矛十三週年記念日を迎ふるに当つて、我々は再び矛二次世界大戦の鉄火の試練の前に、所謂、合法無産党の右から左にまで至るすべての社会民主々義的裏切り者共が、忽ちブルジヨアジーの旗印『祖口防衛』のスローガンの下に走せ参じ、日和見主義の社会ファシスト的本質を完全に暴露し、労働者農民植民地及半植民地諸民族等の他一切の被搾取、被抑圧勤労大衆に、尚、此の上の飢餓と殺戮を強制する事によつて、現社会の破局的危機から資本主義を救ひ出さんとする、ファシスト的暴力支配と帝口主義的強盗戦争に徹刀して、金融ブルジヨアと矛二世地主の利益のために奉仕の忠誠を捧げつゝある目前の事実を見る。

彼等に対する断平たる斗争によつて、敵の陣営に売り渡された大衆を彼等の影響から決定的に切り離し、我々の階級対階級の統一戦線に参還する為に、一プロレタリア革命こそが、我々の未め得る唯一の活路であり、ソヴエート同盟とコミンテルンをヨウゴし、中口革命とすべての植民地民族独立運動を支持して、帝口主ギ的侵略の口際戦争を革命と内乱の階級戦に転化することなくしては、我々の解放が絶対に不可能であることを一厄災なる矛大衆に理解せしめるために、我々は此の日を口と舌ばかりではなく手と打仆日本帝口主義！
朝鮮、台湾、中口の植民地及び半植民地民族の完全なる解放！
日本、朝鮮、台湾、満洲の階級的政治犯人の即時釈放！
日本、朝鮮、中口共産党万才！
帝口主ギ戦争を階級戦争に！
世界ソヴエート革命万才！
コミンテルンの旗の下に！

又を以て、言葉斯りではなく行動を以つて記念しなければならない。かくしてレーニンインタナショナルの創立者マルクス、レーニンの精神は、現実の革命的力として、直に吾々の内部に生かされ勝利の道に吾々を導くであらう。

身を以てコミンテルン支部日本共産党の危機を守り、この口に於ける最初の、そして唯一の革命的代表士として敵の陣営たる帝口政会の壇上に、矛産党首脳等に於ける党業務忍を極めた破壊テロルの野蛮的猛威を暴露し死刑を追加せる治安維持法改正案忽物会承諾等に反対して帝敵に叩きつけ同志山本宣治の支部階級によつて葬られた一周忌の命日に於ける帝口政会の壇上に、矛日即ち三一記念日

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労仂者団結せよ！

3月8日
口際婦人デーを
革命的大衆斗争の
「日としよう」

本田マル子

我々は敗日帳、中口分割戦争が猛々拡大し、帝口主義日祭国の激化せる対立とソヴエート同盟に対する口際的干渉戦争の序幕の中にプロレタリアートの輝ける斗争の日、口際婦人デーを迎へる。

婦人デーはプロレタリアート勤労農民の半数を占むる婦人が男子と共に共同の敵ブルジヨアジー地主に向つて口際的に斗争する日であり、勤労婦人がコミンテルンの指導下に斗ふ革命的プロレタリアート農民の一般的斗争に動員される契機とならねばならないのだ。

それでは我々は日本に於ける一九三二年のこの日を如何に斗ふべきか？

それは勤労婦人の日常要求から出発し、現在の党の主要斗争目標に向つて斗はれねばならない。即ち、中口両分割、ソヴエート中口絞殺、ソヴエート同盟破壊の為の戦争反対の斗争、労仂者運動のファシスト的弾圧と鉄鉱攻撃（三百万失業）に対する斗争であらねばならぬ。

故に、私はこの日こそ吾々勤労婦人が先頭に立つて、婦人の要求をかゝげつゝ帝口主義戦争のインシアティフをとつた日口ブルジヨアジー政府に向つて「戦争反対」「ファシズム反対」「失業反対」の政治的デモを組織すべきだと考へる。かくしてのみ日本の勤労婦人は今年のこの日の口際的な勤労婦人斗争にこたへ得るのだと考へるのだらうか。否！　日本では、植民地的搾取に悩む未組織勤労婦人を挑発して、未だ十分強力に、婦人デーが斗はれた事がないとは云へ、メーデーに於ける勤労婦人のデモ参加は年々激増し、各地のストライキ、小作争議には、勤労婦人及び労仂者農民の妻が、勇敢に参加して、又、息子、兄弟を肉弾として、同じ労仂者農民を殺戮する戦争を廃絶する唯一の途として、事実によつて示さねばならない。これは又当然「ソヴエート同盟擁護」「口中革命を守れ！」「戦争反対」に結び付けられるからその重要性は益々大きい。

第三に、それに続いて、労仂婦人一般の要求を掲げること、特に重要な「民族、性、年令による差別反対！」「同一労仂に対する同一賃銀！」を前面に押し出さねばならぬ。日本は特に封建的家族制家族制度がその経済的基礎と共に強く残存し、婦人の労仂条件は極度に劣悪であり、而もこれに縛られ、困窮の中に閉ぢこめられてゐる勤労婦人一般は、彼女自身――一般に男も――この奴隷的境遇をかう云ふもの、仕方のないものと思ひ込んでゐるから、一層必要なのである。スローガンは右を基礎として諸種の待遇改善要求「一ケ月五日の生理休暇」「十八才以下の青年の六時間労仂制」等々多いが、何れも、夫々の職場、同一工場、産業での婦人のより低い賃銀、待遇の具体的不満から初めること、且つ「反戦」「ファシズム反対」「失業反対」との密接な関連を失つてはならぬ事。婦人デーの意義の徹底と相俟たねばならぬことは忘れてはならぬ。

従つてこの時もソヴエート同盟の勤労婦人が党の指導下に男子と共に斗ひ、現在、封建的及び資本主義的圧制、搾取から解放され、男子と全く同じ地位に真の自由と幸福を得てゐることを知らせ、彼女等も同様にこの途に向つて斗争する決意を持たしめる事は、実に必要不可欠である。この事を更約すれば、勤労婦人の部、分的な要求を共産党の中心的スローガン、罷業、戦争、ファシズムのプルジヨア独裁の打仆、労仂者農民のソヴエート政府（プロレタリア独才）の樹立に結びつける事が現在最も重要であると云ふ事である。資本主義の危機とその活路が決して永久の問題ではなく、労仂者階級の部分的斗争によつて一歩一歩決定されて行く実践的問題、階級斗争の問題であることを強調しなければならぬ。

才四の条件は、以上の方法に基いて婦人デーの斗争を不断の日常斗争として今日直ちに斗つて行く事、この事である。

同志諸君、特に婦人同志諸君！

それには先づ現在の斗争、日常斗争を、その立場から綿密に批判する事だ。現在斗はれてゐるストライキ、小作争議、或は口仂地救済武金募集「暴圧反対」「帝口主義戦争反対」等々のカンパを如何に関連さすか？未組織をも含む職場の全勤労婦人を動員する形態――世話役団、婦人委

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労仂者団結せよ！

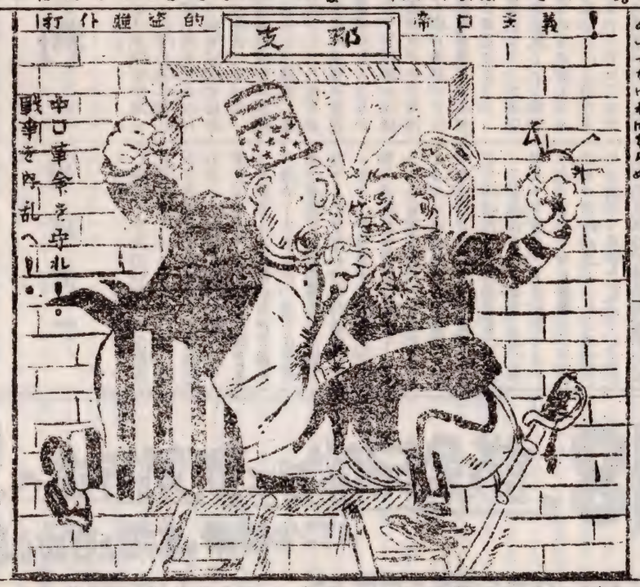
員会等――は出来てゐるか？これを拡大に婦人委員会を斗ひとるべきではないか？最近のカンパの経験の何処を採取すべきか？工場はアゞプロの何れの方面から初めるか？等々微細に計画を定めて今日から継続的に先験に立ち積極的に斗つて行くならば難かしい結果は我々のものである。

所でこゝに私が云ひたいのは特に現在この日何千何万の勤労婦人が街頭に溢れ我慢的な大衆的政治的デモの敢行される事のみが唯一の凡ての結果であつてその外は何にもならぬ等と考へてはならぬといふ事だ。即ち我のスローガンの下に政治的デモを目指して夫々の条件下で斗争を組織する事、最も巧みな方法で三月八日を斗ひぬくこと迄。何れにしろ、この日の為の精力的活動によつて我々は益々多数の勤労婦人を覚醒させ斗争に蹶起させなければならぬ。

殊にどんな情勢にせよ買銀不増で斗つてゐる女工とその農村の父兄との相呼応した斗争は重要な意義を持つものである。諸君はどう思ふか？只我々は絶対に敗北主義に陥つてはならぬ。若し農村で争議中であつたら当日を期して婦人が先に立つて地主宅へデモを、又は県庁有産選挙区へデモを向けることも出来るだらう。この時具体的なスローガンをかゝげる事は容易にもし得るではないか。又このデモが決してそれのみに止まらうとせず北陸分子が前々から近接の都市、地区のプロレタリアート農民、争議団等々と共同斗争を計画準備して之等と当日合流すること、又は捲ぎこむこと、そしてより大なる規模の政治的デモへの飛躍の見透しの用意は是非必要だ。これが尚最大の努力で遂行されたら我々は十分に成功し得たではないか。

最后に忘れてならぬことがある。それは大であれ小であれ当日の成果を見越して日常斗争に積極発展させて組織化する事所謂ストライキで云ふ後始末である。これによつて党の大衆化ボルシエビキー化てふ現在の中心任務の一を遂する事は又カンパニアの斗争の普通の一でなければならぬ。

（以上）



同志稲垣の所論に就て！

A

Q

生

五號ナ六十二号「赤の火花」掲トツプにある同志稲垣の「反動政治の強化と斗へ！」に対し僕は一部分不賛成である。それは同志稲垣が過日の不敬事件」をファシストの陰謀なりと断定してゐる点に対してである。同志稲垣は「手抜捕が…宮内大臣の東宮殿下の名」もう一つある。今やオニ議会「婦人部」は実行されやうとしてゐる。我々は口際婦人デーの為の革命的準備活動によつて「婦人版」を実際に発行する様にし、又之を発展させて行かねばならぬ。

（以上）

ではあるまいか。ファシスト共は金融ブルジヨアジーの傀儡人である。金融ブルジヨアジーは全ブルジヨアジーの支配者であり、之を擁護する為に自己に必要なあらゆる方法手段を講ずる。彼等にとつて都合が悪くなれば天皇制度を破壊して、プルジヨア共和口にすることもあり得る。これは了実的事実として明白である。勿論僕は日本でもそうなると断定してゐるのではない。只そういふこともあり得たし且つあり得るといふ丈けである。だから、この金融ブルジヨアジーの手先共が天皇を殺害するかも知れない。或は脅かすことがあるだらうといふことは考へ得られないことではない。併し乍ら、一九三二年一月の日本にはまだそうした必要はなかつたのであるし、又、我党を始めとする日本の革命的諸団体に対する一層激烈な攻撃を行ふべき口実を作る為にも亦したとすることも言ひ得ないであらう。何故なら、そうしたことをせずとも支配階級は同一の目的を遂し得るからである。ことに、大衆政友会内閣が――我党共関紙が既に正しくバク口せる如く――ファシズム的政策の実行者として組織されたばかりの時に於て尚更のである。然り、支配階級は、この「不敬事件」をいゝモメントとして公然たる攻撃を始めたことは同志稲垣の言ふ如くである。併し乍ら、そのことは、支配階級が自らこの「不敬事件」を企てたのだといふことにはならぬ。但し、同志稲垣が本紙に発表し得ない特別の材料を基礎としてゐるのだつたら問題は自ら異つて来る。

朝鮮は日本帝口主ギ併合されてから実に筆舌に尽し得ない程の惨虐さを以て統治に搾取され、抗争されて来たのである。一人一人の朝鮮人の腹には日本帝口主ギに対する深い憎悪と反抗の念が渦み込まれてゐる。それが今回の事件の原因であると僕は考へる。李氏の取つた手段に対して我々は賛成出来ない。一人の天皇を殺すことは日本帝口主ギを仆すことと同一事ではないのだ。プロレタリアートの組織的革命的力のみが日本帝口主ギを打ち仆し得るのである。だが、我々は、李氏のとつた勇敢な行動に対しては革命家としての敬意を払ふものである。我々の任務は、彼のとつた手段が誤つてゐることを広汎な大衆に理解させ、プロレタリア的な正しい斗争方法を会得させるにある。けれども此の場合忘れてならぬのは彼の英雄的行動を軽視したり、黙殺したりしてはならぬことである。彼はその英雄的決意と力とを「朝鮮の方向に向けるべきであつたかをこそ教へるべきである。

同志稲垣の見解は、朝鮮の労仂者農民大衆の闘争に深く刻み付けられた日本帝口主ギに対する反抗心を軽視してゐる点が誤つてゐる。それは革命的民族解放戦争が日本帝口主ギに反抗する斗争に於て演ずる役割の過小評価に導する危険を内包するものである。何もかもファシストの陰謀として片付けることは事物を真体性に於て把握してゐないことである。

今回の不敬事件を口実として、支配階級が強化して来た反動的政策に対する同志稲垣の評価には全然賛成し乍らも、以上の点で反対するのは、朝鮮の一革命家の行動を余りに軽く取り扱ふことが誤りであることを指摘したい為である。

――以上――

★編輯部註

個人的テロリズムを以て革命運動の方針とするアナーキスト又は民族主ギ者に我々は反対するのである。

定価金五銭

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！
P.1 赤旗 1932.3.8.
赤旗 第64号
日本共産党中央機関紙
国際共産党日本支部

第三回總選擧斗爭に対する 自己批判

川辺太一

我々の手許には尚、報告が来てゐない。東京市のそれすら入手してゐない。我々は詳細な報告を待つて徹底的批判をするが、今取敢えず一応の自己批判を試みる。それは我々の不充分を一日も早く克服したいが為である。

第一に挙げらるべきは中央部の立遅れである。中央部は既に十一月頃から試合の解散と第三回總選擧とを確定して居りながら、そして又部分的にはそれを日程に上せて居りながら、その非ボリシエヴィキ的組織活動の故に總選擧に対する方針を新く一月二十六日に決定した。第六十試合を前にしてその他の論文で總選擧に対する方針を出したとは言へ、更に又府県会議員選擧戦を如何に斗うべきかのパンフレットその他で兵産主義的總選擧斗爭の原則は示されてあつたとは言へ、この爭の故に中央部の今度の立遅れを正当化する事は許されない。我々は大胆にそして率直に我々の誤謬を承認し、かくの如き失敗を二度と繰返さないやうにする為に既に中央部の組織的欠陥を訂正した。党中央部の立遅れは党全体の立遅れの最大の原因であつた。全口的に候補者を確定し公表し得なかつたのも、大衆並に各機関のイニシアチーヴと独自的活動に存したのも、選擧斗爭基金カンパが計画的になされなかつたのも、アジプロ活動が組織式に斗爭の後を汗ダク〳〵で追ひかけたのも——総べては爭するに中央部の立遅れに由来する。

第二、中央部が示した方針は完全に正しかつた。が然し、決して十分具体的であつたとは言へない。原因は何処にあるか？言ふまでもなく中央部が浮き上つてゐるからだ。我々は今日まで非常に困難な程度の中央部を浮き上らさないやうに具体的なレポートや送るやうに、又中央部と大衆とを媒介し結合するやうにと希望した。にも拘はらずこのことは殆んど全く実行されてゐない。我々はこの点の不充分を如何にして訂正するかに就いて具体的方針を決定し既に実行しつゝある。とまれ我々はかう考へる。今日の情勢の下では我々の方針が正しいといふだけでは決して充分でない。もつともつと具体的でなければならぬ。中央部の方針をそのまゝ特定の工場で実行に移すことが出来る程に具体的実践的でなければならぬ、と。

一例を取らう。保釈金が積めない場合には指導運動として公然法的に、保証金を積んだ場合と同じやうに、選擧斗爭をやれと我々は指導した。ところが同志達のやつたのは普通の陰候補運動であつた。例へば、佐野学推擧運動本部を各工場から送出して公然と作ることもしなかつたし、合法的に演説会場を借りてアジプロすることもしなかつた。勿論合法的な斗爭ニューズ等発行しなかつた爭々。今度我々の提試した推擧運動と嘗ての陰候補運動との差異について特に合法性利用の点で両者の間に決定的差異のあることについて、中央部がもつと具体的に説明すべきであつた。それ位のことは皆知つてゐるだらう等と考へることは今日の党には許され得ない。同時に中央部が直接行動の基準を与へ演説原稿の草案を作つてやる位でなければならなかつたのだ。

第三、非合法活動（特に、連絡し技術の未熟。

中央部と地方、地方と地区、地区と細胞間の連絡が甚だしく不敏速不正確なため、細胞からの報告や質問が中央部へ来、中央部の方針が細胞その他実践の場所へ到達するまでに、一週間もかゝる。その間に情勢はグングン進展して了つて、極端に言へば、我々はいつも斗爭を後から後からと追かけてゐたかたちだ。これでは全く仕方がない。特に非常時の連絡方法が平時からハツキリ上手に決定されてゐなかつた為に、中央と細胞との中間部のどこかがやられるとその為に一時連絡が切れ一切の活動が殆んど停止する。例へば今夜の總選擧に於ける十七日の弾圧に依つて急速に然も緊密に中央部と細胞その他の地区との連絡が絶対に必要な丁度その時にそれが全く切断されて了つた。かくて裏弾圧にその後の戦斗に対する司令部の全く正しい方針は中途でストップして了つた。我々は切歯扼腕したが仕方がない。

確実累進的にして急速な連絡が必要な時——激戦時——には必ず味方の重隊（優々指導部にもしに異状——弾圧——があるし更に又戦線も各指導部も絶えず移動するであらう。それ故に優れた共産主義者は平常時からかゝる場合に如何にすべきか？——独り連絡ばかりではない——を深め討論し決定して置かなければならぬ。

我々は今度の選擧戦並に過去一年間の苦い〳〵経験を峻烈に批判して次の二点を即時訂正することを決定した。そして我々はこの問題の研究と解決とに広汎な同志達の熱心な参加を切望

目次
第三回總選擧斗爭に対する自己批判 川辺太一 1
軍備縮小「縮小」会議に於けるソフ同盟代表同志リトヴィノフの演説 楊靖生 3
酒淵水道事件一部の婦口その他 細水生 4
天皇政府軍事運動弾圧を強む 鈴川生 4
軍縮会議の日本代表の「軍縮」案の反面は？ 吉野生 5
党財政の基礎確立に就て 5
軍需品工場の強制労働 6
日本帝国主義者公然と白系露人を組織す 7
極東赤色労働組合書記局総司令官ヂム氏歓迎会を開く 7
戦線で拾つた話その他 7
労働組合本部及ソヴエート戦争防止会議開始 7

3月18日 議会開催日に飢餓行進へ！

パンと仕事、土地と自由を与よ！

失業と飢餓、搾取と隷属を継続するための帝国主義戦争に反対せよ！ 街頭へ！街頭へ！

然合法的に、保証金を積んだ場合と同じやうに、選擧斗爭をやれと我々は指導した。ところが同志達のやつたのは普通の陰候補運動であつた。例へば、佐野学推擧運動本部を各工場から送出して公然と作ることもしなかつたし、合法的に演説会場を借りてアジプロすることもしなかつた。勿論合法的な斗爭ニューズ等発行しなかつた爭々。今度我々の提試した推擧運動と嘗ての陰候補運動との差異について特に合法性利用の点で両者の間に決定的差異のあることについて、中央部がもつと具体的に説明すべきであつた。それ位のことは皆知つてゐるだらう等と考へることは今日の党には許され得ない。同時に中央部が直接行動の基準を与へ演説原稿の草案を作つてやる位でなければならなかつたのだ。

第三、非合法活動（特に、連絡し技術の未熟。

中央部と地方、地方と地区、地区と細胞間の連絡が甚だしく不敏速不正確なため、細胞からの報告や質問が中央部へ来、中央部の方針が細胞その他実践の場所へ到達するまでに、一週間もかゝる。その間に情勢はグングン進展して了つて、極端に言へば、我々はいつも斗爭を後から後からと追かけてゐたかたちだ。これでは全く仕方がない。特に非常時の連絡方法が平時からハツキリ上手に決定されてゐなかつた為に、中央と細胞との中間部のどこかがやられるとその為に一時連絡が切れ一切の活動が殆んど停止する。例へば今夜の總選擧に於ける十七日の弾圧に依つて急速に然も緊密に中央部と細胞その他の地区との連絡が絶対に必要な丁度その時にそれが全く切断されて了つた。かくて裏弾圧にその後の戦斗に対する司令部の全く正しい方針は中途でストップして了つた。我々は切歯扼腕したが仕方がない。

確実累進的にして急速な連絡が必要な時——激戦時——には必ず味方の重隊（優々指導部にもしに異状——弾圧——があるし更に又戦線も各指導部も絶えず移動するであらう。それ故に優れた共産主義者は平常時からかゝる場合に如何にすべきか？——独り連絡ばかりではない——を深め討論し決定して置かなければならぬ。

我々は今度の選擧戦並に過去一年間の苦い〳〵経験を峻烈に批判して次の二点を即時訂正することを決定した。そして我々はこの問題の研究と解決とに広汎な同志達の熱心な参加を切望

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！
P.2 赤旗 1932.2.8.

し且つプロレタリアートの偉大なるイニシアチーヴに期待してゐる。

(1)、中央部内、中央部と各機関並に大衆との結合を確実、緊密、敏速にすること。（我党の最大欠陥の一つたる中央部が大衆の最大多数の立遅れを正当化する事は許されない。我々は大胆にそして率直に我々の誤謬を承認し、かくの如き失敗を二度と繰返さないやうにする為に既に中央部の組織的欠陥を訂正した。党中央部の立遅れは党全体の立遅れの最大の原因であつた。全口的に候補者を確定し公表し得なかつたのも、大衆並に各機関のイニシアチーヴと独自的活動に存したのも、選擧斗爭基金カンパが計画的になされなかつたのも、アジプロ活動が組織式に斗爭の後を汗ダク〳〵で追ひかけたのも——総べては爭するに中央部の立遅れに由来する。

第三、非合法活動（特に、連絡し技術の未熟。

中央部と地方、地方と地区、地区と細胞間の連絡が甚だしく不敏速不正確なため、細胞からの報告や質問が中央部へ来、中央部の方針が細胞その他実践の場所へ到達するまでに、一週間もかゝる。その間に情勢はグングン進展して了つて、極端に言へば、我々はいつも斗爭を後から後からと追かけてゐたかたちだ。これでは全く仕方がない。特に非常時の連絡方法が平時からハツキリ上手に決定されてゐなかつた為に、中央と細胞との中間部のどこかがやられるとその為に一時連絡が切れ一切の活動が殆んど停止する。例へば今夜の總選擧に於ける十七日の弾圧に依つて急速に然も緊密に中央部と細胞その他の地区との連絡が絶対に必要な丁度その時にそれが全く切断されて了つた。かくて裏弾圧にその後の戦斗に対する司令部の全く正しい方針は中途でストップして了つた。我々は切歯扼腕したが仕方がない。

確実累進的にして急速な連絡が必要な時——激戦時——には必ず味方の重隊（優々指導部にもしに異状——弾圧——があるし更に又戦線も各指導部も絶えず移動するであらう。それ故に優れた共産主義者は平常時からかゝる場合に如何にすべきか？——独り連絡ばかりではない——を深め討論し決定して置かなければならぬ。

我々は今度の選擧戦並に過去一年間の苦い〳〵経験を峻烈に批判して次の二点を即時訂正することを決定した。そして我々はこの問題の研究と解決とに広汎な同志達の熱心な参加を切望

第四、日常斗爭との結合が、あれ程繰返し強調されたに拘らず、断じて我々の希望通りの成功を収め得なかつた。日常斗爭と言つても何も是が非でもストライキを！と言ふのではない。何所までも大衆の意向を懐里に察知し、大衆のエネルギイを正確に評価して、斗爭に限度と形態とを与へなければならぬ。この点が完全に欠けてゐる。と、同時にどんな小さな斗爭でもよいから大衆の要求を巧みに取り上げてそれを獲得する事が絶対に必要だ。どんな小さな成功でもよいから、必ず一つくを積み上げて行くのだ。この点が完全に閑却されてゐた。ストライキが現に起つてゐて機が発行されながら、そこではストライキの斗爭だけを取扱つてそれを選擧斗爭と結合する事を完全に忘れてゐる。他方其処の地区委員会は選擧斗爭日報を出しながら上記のストライキの爭を一言半句も取扱つてゐない。と言ふ極端な例さへ見受けられる。これは多分報告の問題ではないかと思ふ（我々はそれを希望してゐる）が、とまれ日常斗爭と選擧斗爭との結合に我々は決して成功したとは言へない。これは今度の選擧斗爭——否独り選擧斗爭のみでなく我党——の決定的弱点である。（市役所・市電左尾至端等相当多くの職場で可成り成功的に両者を結合して斗つた。これらの詳細は他日発表する。）

第五、我々は今日も尚多分に合法主義の残滓を背負ひ込んでゐる。その爭は供托金が出来ないと言つて選擧運動を一時中止したり、推薦運動ではつまらないと言つて選擧斗爭から力を抜いた少数の同志の行動の上に最もよく現はれてゐるとはいへ、それは決して一部同志だけの弱点ではない。これは今度の選擧斗爭——否独り選擧斗爭のみでなく我党——の決定的弱点である。（市役所・市電左尾至端等相当多くの職場で可成り成功的に両者を結合して斗つた。これらの詳細は他日発表する。）

第五、我々は今日も尚多分に合法主義の残滓を背負ひ込んでゐる。その爭は供托金が出来ないと言つて選擧運動を一時中止したり、推薦運動ではつまらないと言つて選擧斗爭から力を抜いた少数の同志の行動の上に最もよく現はれてゐるとはいへ、それは決して一部同志だけの弱点ではない。これは今度の選擧斗爭——否独り選擧斗爭のみでなく我党——の決定的弱点である。（市役所・市電左尾至端等相当多くの職場で可成り成功的に両者を結合して斗つた。これらの詳細は他日発表する。）

第六、政治的並に組織的水準が低い。

吉田候補が「全協組合員では絶対にない」と否定したのは決定的に同違つてゐる。何も積極的に否定する必要はない。黙つてゐればよい。むしろ反対に日本共産党や全協は自己のだといふ爭を主張すべきである。その他演説会の弁士の演説内容も甚だしく抽象的であつた。これらニ三の例を見ても政治的水準が低いことを端的に示してゐる。更に選擧斗爭本部の組織機成等も全くアナーキーであつたといふべきであり、過去の経験を摂取してゐたとも見えなかつた。

第七、非合法活動の技術に未熟な結果我々の方針を伝へる事が出来なかつたのが最大の原因であつたとはいへ、暴圧を喰つた場合、殆んどペシャンコに叩かれてゐた。機関にも敵は指一本触れることが出来なかつた。そして却つてストライキに大衆を動員し得なかつた銀糸猛々の他の同志があつたストライキで敵が「広尾の同志を徹底して見ろ、直ちに結束してストライキで来ふぞ！」と、会労幹者が威嚇してゐるからである。即ち一方は大衆の信頼があり、支持があるにも拘はらず、他方は大衆から支持されてゐなかつた。機関にもへばり付よりの同志であつたからである。ここに潮み取らるべき教訓がある。極左セクト主義的日和見主義は断じて自己を守り得るものですらあり得ない！

第七、社会ファンストに対する斗爭の不充分。

こんな例がある。十五日、東京中央斗爭委員会が開かれると聞いて吉田候補が拔打に行く為に、「何時から開かれるか」と尋ねたらダラ幹山下が電話口に出て「七時から？」と答へた。実は四時から始まつて会は七時には終る筈であつたのだ。吉田候補はダラ幹の罠にかけられて会が終つた後へ行つたのだ。こんな例はザラにある。余りにもあり過ぎるので同志達は「今更ダラ幹のバクロでもないし」等と考へてゐるやうであるが、これは決定的に同違つてゐる。社会ファシストを大衆から切り離すことなくしては、プロレタリアートの勝利は不可能だ。

第八、敵の逆宣伝を一つ一つ暴露する爭を怠つたことは重大な誤謬である。一切のブル新聞記事が一字一句同じである爭の程に現はれてゐるやうに、敵の逆宣伝は警保局、警視庁から作つて計画的に、新聞社へ渡されるものである。然るに我々は、これに対して殆んど何等の爭実をも示さなかつたのに、プロレタリアート倉庫の多くがブル新聞の逆宣伝を怜も爭実であるかの如く思ひ込まされやうとしてゐるのだ。（この点でも「赤旗」活版日刊の必要が痛感される）「赤旗」がどしく号外を出した爭は「赤旗」活版日刊への正しい前進であつたとはいへ、尚ブル新聞のデマを打破するには全く不充分であつた。我々はこの方面でも甚だしく立遅れてゐる。南県に立合つた某ブル新聞記者の話に依れば、「佐野学」「鍋山貞親」「三・一五」に過ぎなかつたとの爭だ。我々はかゝる爭実と並んで、次の爭実、吉田候補の得票数がブル新聞に発表された四百幾票ではなくその幾十倍の一万数千票である爭をこゝに発表する。それ故にこそ敵は逆宣伝に大童になり狼狽してゐる爭を物語つたのであり、それ故にこそ、今、徹底的弾圧の準備を急ぎつゝあるのだ。我々は爭の真相を全大衆の前に明白にする爭に対するこれまでの不熟心不敏速を決定的に改めなければならぬ。「アレはブル新聞の逆宣伝だ」と平気で放置してはならぬ。

第九、政治的並に組織的水準が低い。

吉田候補が「全協組合員では絶対にない」と否定したのは決定的に同違つてゐる。何も積極的に否定する必要はない。黙つてゐればよい。むしろ反対に日本共産党や全協は自己のだといふ爭を主張すべきである。その他演説会の弁士の演説内容も甚だしく抽象的であつた。これらニ三の例を見ても政治的水準が低いことを端的に示してゐる。更に選擧斗爭本部の組織機成等も全くアナーキーであつたといふべきであり、過去の経験を摂取してゐたとも見えなかつた。

第八、非合法活動の技術に未熟な結果我々の方針を伝へる事が出来なかつたのが最大の原因であつたとはいへ、暴圧を喰つた場合、殆んどペシャンコに叩かれてゐた。機関にも敵は指一本触れることが出来なかつた。そして却つてストライキに大衆を動員し得なかつた銀糸猛々の他の同志があつたストライキで敵が「広尾の同志を徹底して見ろ、直ちに結束してストライキで来ふぞ！」と、会労幹者が威嚇してゐるからである。即ち一方は大衆の信頼があり、支持があるにも拘はらず、他方は大衆から支持されてゐなかつた。機関にも敵は指一本触れることが出来なかつた。そして却つてストライキに大衆を動員し得なかつた銀糸猛々の他の同志があつたストライキで敵が「広尾の同志を徹底して見ろ、直ちに結束してストライキで来ふぞ！」と、会労幹者が威嚇してゐるからである。即ち一方は大衆の信頼があり、支持があるにも拘はらず、他方は大衆から支持されてゐなかつた。機関にも敵は指一本触れることが出来なかつた。

2

以上の如き多くの不充分があつたにも拘はらず、今度の總選擧斗爭は、以下の要約に示されてゐる如く、我党の伝統的闘爭たる極左セクト主義的日和見主義を克服し、大衆行動を指導し組織する大衆党にまで、飛躍的大発展を遂げる為の、出発点をなす爭実である。

第一、合法性をどうすれば巧く利用する爭が出来るかの問題を具体的実践的に解決し始め確信を得た。そして我々がこれまで余りにも不必要に非合法に陥つてゐた爭を実践的に批判し得た。

第二、仕事を大衆的に民主的に進める爭を理解し始め、その威力を観知した。即ち非合法方針を主張を排し（秘密にコソ〳〵と大衆と切り離れてやるのではなしに）集会等も公然と持ち、大衆的に討論し民主的に決定し、斗爭本部会や選擧事務所への代表を送出して斗爭を進めるといふ方法を理解し始めた。「コミンテルン」・プロフインテルンが強調した方法はこれだな！」と体験的に学び且つ確信を持ち始めた。だが、かゝる否真会がどんなに大衆の武器として力強いものであるかを十分経験的に教

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労働者団結せよ！

へ込み、これを恒常的な工場委員会に転化するまでには至らなかった。

第三、斗争を断然、工場の中に移す方針を取り且つこれを実行した。

第四、合法的・非合法的組織並に活動をレーニン主義的に巧みに結合する方法を実践に移し始めた。（例へば党関係の赤旗号外・斗争日報・工場新聞等と選挙斗争本部の合法的な選挙斗争ニュース等との結合、工場細胞から党中央部に至るまでの党組織の複雑な非合法活動と従業員大会、懇談会、選挙斗争本部等の全く合法的な組織との結合等）。

第五、工場と工場、大衆と大衆とが直接交渉を持ち互に協力した。（東電、市従等々）。

第六、大衆並に各代表が、決して充分ではなかったが、とまれイニシアチーヴを発揮し積極的活動を展開した。（多くの地方で中央部の方針（立候れた）を待たないで独自的に候補者を決定したり斗争方針を立てたりした等々）。

第七、大衆行動の先頭に立つ事に於ける一歩前進を示した。

第八、党の政策を公然と宣伝煽動した。パリーフレットや煽動内容が甚だしく抽象的であったに拘はらず、大衆のスパラシイ支持を得た。）

第九、党大衆化拡大強化のモメントたらしめた。

第十、党の主なるものである。

3

我々は二三の事実を示す。

東電では従業員大会（二）を開いて吉田候補を立候補させることを公然と大衆的民主的に決議した。あらゆる努力を払つて候補届出を済ませて公然立候補した。それに関聯して一切の合法性を利用しやうとした。他の選挙区では指導運動を公然合法的に斗った。東電の同志が東電従業員を代表して市電広尾車庫に行き吉田候補を立候補せしめた事を報告し支持応援を求めた。市電（広尾）では従業員大会（二）を開いて東電の兄弟の提案を入れ、断然吉田候補支持を決議し、直ちに基金募集カンパを展開した。吉田候補選挙斗争本部から全市の主なる工場へ候補者自身又は労働者が模様に出かけた。市従労員は諸所全体に亘つて吉田候補支持を決議した。市従市電のプロレタリアートを始め全市に亘つて（十八日までに我々の手許へ達入った報告では）尠くとも二十工場で、公然と大衆的に従業員大会又は懇談会が持たれ、選挙斗争委員会が選出され吉田候補選挙斗争本部への代表が決定された。

吉田候補の本部へは、全市のプロレタリアートが殺到した。プロレタリアートの住家や組合の事務所が全市的に選挙事務所に提供された。投票日を共同戦作で斗ひ大挙デモで投票場へ押しかけた報告が続々と本部へ入つた。

消費組合の如き地区では組合員が事務所に乗込んで投票場へデモで繰り込んだ。

第廿五区だけではなく全市的に吉田候補応援斗争所を設け吉田候補応援に名をかりて合法性を利用して斗ひ、第三区では同志佐野学、第四区では同志杉浦第二の選挙斗争を展開した。等々。

× × ×

吉田候補並に選挙斗争本部の同志が一方に於て合法性を一〇〇%に利用し、他方に於ては全く非合法に昼夜兼行である工場へ出かけて革命的煽動を逆へ、我党の政策を煽動宣伝し、殊大なる支持を得た。合法的演説会を利用し、合法的に選挙斗争日報を発行した。等々。

以上の如く合法性を利用して公然と斗争を展開する事、特に大衆的民主的に斗争する事は、その反面に於て党の厳格なる非合法組織並に活動を前提する事なくしては断じて成功し得ない。現にそれは、党の中央部から細胞に至るまでが地下に於て非合法的に可成り成功的に組織的に斗争した結果であつた。そしてこの活動の中絶した時、合法舞台の活動も亦停止して了つた。

とはいへ両者のレーニン主義的結合は断ほんの緒に就いた許りだ。問題は正にこれからだ。

4

我々の批判はギリスト教的自己陶酔ではない。それは過去の経験を徹底的に分析することから教訓を引出す為なのだ。日本の党は若い。とはいへ一九二八年から計算しても既に足かけ五ケ年の長い間弾圧の下に文字通り血みどろの斗ひを続けて来た。その間には高潮な戦斗の華々しい経験があかなはれた事の華々しい経験が積まれてゐる。にも拘はらず我々は余りにも少しも、か其処がら損取してゐない。そして一度ならず二度三度と同一の失敗を繰返してゐる。これは日本の党の最大の弱点だ。この点は即時改めなければならぬ。同様の意味に於て今度の総選挙斗争の経験も中央部では最大限度に詳細な報告を蒐集し徹底的に分析批判し更にこれを大衆化する為に同志が一方に於て合法性を一〇〇%に利用し、他方に於ては全く非合法的に昼夜兼行で党工場へ出かけて党の政策を煽動宣伝し、殊大なる支持を得た。合法的演説会を利用し、合法的に選挙斗争日報を発行した。等々。

以上の如く合法性を利用して公然と斗争を展開する事、特に大衆的民主的に斗争する事は、その反面に於て党の厳格なる非合法組織並に活動を前提する事なくしては断じて成功し得ない。現にそれは、党の中央部から細胞に至るまでが地下に於て非合法的に可成り成功的に組織的に斗争した結果であつた。そしてこの活動の中絶した時、合法舞台の活動も亦停止して了つた。

とはいへ両者のレーニン主義的結合は断ほんの緒に就いた許りだ。問題は正にこれからだ。

4

我々の批判はギリスト教的自己陶酔ではない。それは過去の経験を徹底的に分析することから教訓を引出す為なのだ。日本の党は若い。とはいへ一九二八年から計算しても既に足かけ五ケ年の長い間弾圧の下に文字通り血みどろの斗ひを続けて来た。その間には高潮な戦斗の華々しい経験があかなはれた事の華々しい経験が積まれてゐる。にも拘はらず我々は余りにも少しも、か其処がら損取してゐない。そして一度ならず二度三度と同一の失敗を繰返してゐる。これは日本の党の最大の弱点だ。この点は即時改めなければならぬ。同様の意味に於て今度の総選挙斗争の経験も中央部では最大限度に詳細な報告を蒐集し徹底的に分析批判し更にこれを大衆化する為に

『社会主義の勝利のみが唯一絶対の平和の保証である』

―梅詰生―

ジエネバの軍備『縮少』会議に出席せるソヴエート同盟外務人民委員同志リトヴィノフが行つた演説が二月十二日のブルジョア各新聞に発表された。このブルジョア的に歪められ、且つ短く切捨てられた同志リトヴィノフの演説が全部それにも拘はらず我々にとつて非常に有意義である事を確認するものである。

我々は彼同志リトヴィノフの演説全部を引用しまい。

その根本的な二三の点にだけ触れる事にする。第一、同志リトヴィノフはソヴエート同盟のみが『完全なる軍備撤廃』の主張者である事を指摘してゐる。先年ソ同盟政府は『軍備撤廃』の具体案を提出したがソ同盟代表を除く全ての代表者共はこれを一蹴したのであつた。その次に同じくソ同盟代表に依つて提出されたる『実質的軍備縮少』案も亦同じ運命に陥つたのであつた。我々は労農ソヴエート政府が只に『決議案』の提出に留まらず、（そして最も重要な事であるが）平和政策の実行者である事をも知つてゐるのである。世界帝国主義は社会主義建設を妨害せんと執拗な敵視が戦争を挑んだが、ソ同盟の徹底的平和政策は常に之を暴露し、克服し来つたのである。極く最近労農ソヴエート政府は日本に対して『不侵略条約』を提案したのであつたが、日本の支配階級は『東洋平和の維持者』と看板を掲げてゐながらこの提案を拒絶する事に依つて、その侵略政策者たる事の正体を、ソヴエート同盟に対する武力的攻撃を始めるのだといふ帝国主義的強盗の正体を自らバクロしたのである。英米・仏・伊・独等が何れもソヴエート同盟に対する武装的干渉を行ひつつある事は衆知の事実である。同志リトヴィノフはこれ等の事実を指摘し、軍備縮少会議に対する各国政府の欺瞞性をバクロした。ジエネバの軍縮会議が軍縮ではなく、即ち各国の軍備拡大を協定するものであるといふ同志リトヴィノフの指摘は全く正しい。

同志リトヴィノフの演説は、ソヴエート同盟の平和政策を暴露すると共に、ソヴエート同盟の平和政策の実行者たる労農ロシアの偉大なる力を示すものである。

我党の弱点とその克服の方向を示し得てゐると確信する。昨日の経験を党立遅れ克服の為の今日の斗争の弾丸とする事は、最も主として東京の経験に限られてゐる――であるとはいへ、レーニン主義の鉄則である。

我党の細胞とその指導部は、この演説を最も広範な労働者大衆の中に持ち込み、ソヴエート同盟の平和政策を支持する大衆的運動を組織しなければならない。

我々は、ソヴエート同盟の平和政策を支持する大衆的運動を組織すると共に、帝国主義者の軍備拡大政策に対する大衆的闘争

その説明内容中には「五万円を以つて内地に於ける銃砲火薬類取締の警官（百七十五人）を増加し……云々」とある。「内務事件後長崎上海、神戸上海間航行船に移動警察員を乗組せしめておるが最近上海事件に依る緊張の激増を見てゐるので此の機会に目下大増員を行つてゐる……」と報告し、それに就いて討議したそうである。

支配階級が恐れてゐるのは武器が反動団体の手に渡ることではない。何故なら反動分子は利害関係をすら持つてゐるのであり、短刀、ピストル等は苦ふまでもないからである。彼等が恐れるのは労働者農民の手にこれ等の武器が渡ることである。反動団体の口を借りて言はしめてゐる如く何今や日本帝国の転換期に立つてゐる口のである！　プロレタリアートと資産階級との闘争が天皇に向つて飛躍すべき時機が近付きつゝある事は支配階級は知つてゐるのである。「プロレタリアート及び一般勤労大衆に対する口西戦争に外ならぬファシスト的政策は強くして愈々増々その圧迫さを感覚されて行く。

司法省でも内務省でも左右両翼の転換に就き研究中であると報ぜられてゐる。反動団体の口を借りて言はしめてゐる如く何今や日本帝国の転換期に立つてゐる口のである！　プロレタリアートと資産階級との闘争が天皇に向つて飛躍すべき時機が近付きつゝある事は支配階級は知つてゐるのである。「プロレタリアート及び一般勤労大衆に対する口西戦争に外ならぬファシスト的政策は強くして愈々増々その圧迫さを感覚されて行く。

司法省でも内務省でも左右両翼の転換に就き研究中であると報ぜられてゐる。

治安維持法改悪に就ても内務省と司法省との間に意見の相違があるとか、内務省では治安維持法改悪に就ては消極的であるとか、司法省では積極的であるとか、種々の噂が伝へられてゐるが、最近上海事件に依る緊張の激増を見てゐるので此の機会に目下大増員を行つてゐる……」と報告し、それに就いて討議したそうである。

支配階級が恐れてゐるのは武器が反動団体の手に渡ることではない。何故なら反動分子は利害関係をすら持つてゐるのであり、短刀、ピストル等は苦ふまでもないからである。彼等が恐れるのは労働者農民の手にこれ等の武器が渡ることである

る。そして一両国と我の残業手当より は休んだ方がましだといふ戦時労働強化に対する不満と反抗が湧き上りかけてゐる。

△ 東京職業紹介所では三百名の旋盤工を募集してゐるが、それは砲弾や小銃弾のタマゲツリ又は兵器の製造にあてられるのであるといふ。

△ 鉄道従業員は戦争開始以来全く非常時下と同一で、全体に亘って規定今が出て居り、時間外労働に対しても「非常時」の理由で殆んど何等の手当も給与されてゐない。軍隊輸送に当る運輸手達の間には戦争に関係して行はれる露兵隊側からの圧迫に対する不満がモリ上つてゐる。更にこの強制労働、時間外労働無手当にも拘らず、年末に行はれる二万人減首に対する鉄道従業員の動揺は急々大きくなりつゝある。日常的闘争がこの機に戦争と直接に関聯してゐるのを基礎に依つて救へられた鉄道従業員同盟は革命的労働者を中心として職斗的な労働委員会を作らうとする気運を醸成しつゝある。

△ 全口何れの工場でも「戦時だから」、「満洲や上海で仂いてゐる兵隊さんを見ろ」を口実として増産が強化され、労仂条件が増々悪化されてゐるので労働者に活動を望めてゐる。

帝国主義戦争の陰謀極をバクロし、下からの統一戦線による大衆的斗争委員会設立に向つて斗争に活動を望めてゐる。

極東赤衛軍総司令官 同志ブリューヘル

極東赤衛軍總司令官示威的警告を發す
『逐年その熱力を增大』

ハバロフスク特電（廿六日発）＝極東赤衛軍總司令官同志ブリューヘルは本日断乎たる警告を発し、「場所ロシアはその領土を帝国主義者により蹂躙さるゝを許さない」と述べた。同志は更につけ加へて曰く、

「労農ロシアの勤労大衆は断かにその労仂を誇けるであらう。極東軍は口境にありて我等の祖国を厳然兇牟りつゝある。我々は白衛軍並びに帝国主義者の侵略ロシア土に入るを許さないものである。何人と雖も我々の赤旗百万の威力及びその他の資源を破壊しようとするならば一九二一年に於るよりも更に頑強に抵抗に立つであらう。極東赤軍は退等その労仂を増大しつゝあるのである。その赤軍は革命の所産を防衛すべく、口家の命令に適ちに応ずるの用意がある。」と。

露紙の論調

モスコー廿六日発電通ソウエート聯邦中央執行委員会の機関紙イズウエスチアは、ソヴエートの領土を狙ふ日本の野心に警告を与ふ

「東京来電によれば、今回の戦争で株曾有の大勝を得た政友会の鈴邨会長、東亘の両閣就中ソヴエート同盟との満蒙同題の徹底的解決を要求してゐるといふ。しかし日本の社会が渇望する所は単に満蒙や満業权でなくもつと遠大な野心を包蔵してその片鱗を遺しうせんとしてゐる。満洲事変上海事変はその一端を暴露したと称して左の如く論評してゐる。

「東京来電によれば、今回の戦争で株曾有の大勝を得た政友会の鈴邨会長、東亘の両閣就中ソヴエート同盟との満蒙同題の徹底的解決を要求してゐるといふ。しかし日本の社会が渇望する所は単に満蒙や満業权でなくもつと遠大な野心を包蔵してその片鱗を遺しうせんとしてゐる。満洲事変上海事変はその一端を暴露したと称して左の如く論評してゐる。

△

ーのファシスト的支配そのものがまた矛盾に充ちたものであることを否定するものではない。ファシストの社会的デマゴーグが資本に対する大衆の憤懣をかき立て大衆の階級的成長を助長する場合があるのである。そして吾々はかくいふ事によってファシズムがブルジョア独裁の一つの支配形態にすぎないといふ事を否認しないのである。階級闘争しつゝある資本主義的支配は階級に於ける資本主義的生産方法の機に応ぜる多くの矛盾を暴露して行くのだ。我々が幾度か繰り返したる如く、ファシスト的組織は社会民主主義者との共力の下にのみ行はれ得るのだ。大衆的支持を喪失しなければならぬ。だから口民社会党の綱領及びその「行動」が金融ブルジョアジーの利益と「対立」してゐると思はれるのは、だゞそう見える丈であって、本質的には完全に一致してゐるのである。表面の現象形態に捉はれずに底を流れてゐる生産関係を見よといふ我々の基礎の意味がよく理解された事と思ふがどうだらう。

第三の問題、口民社会党は如何にして成立するか？これはドイツのヒットラー運動を模倣してゐるものではあるが日本資本主義の危機が甚だしくして云ふ意味で正しく「日本的」であり、「輸入物」でないと云へる。同一の帝国が同一の結果を生むとは限らぬが、帝口主義の社会的必要が各口に於て相似せる現象を生むとは云ひ得るのである。現在日本でこのヒットラー派運動の理論的根拠は雑誌「日本社会主義」に求められるべきである。而して「行動」とは如何なる内容のものであるか？これは「日本社会主義」の連中はスレルスフオードに私淑する事実に大であること云はねばならぬ。社会主義の看板を掲げて資本主義を死守してゐるこの一派、反ユダヤ人種主義の点に於ては全くヒットラーと同一の思想である。

「日本社会主義」の連中はスレルスフオードに私淑する事実に大であること云はねばならぬ。社会主義の看板を掲げて資本主義を死守してゐるこの一派、反ユダヤ人種主義の点に於ては全くヒットラーと同一の思想である。

以上スレルスフオードの思想の紹介は固志千エロックの論文に依つたのである。

「日本社会主義」の連中はスレルスフオードに私淑する事実に大であること云はねばならぬ。社会主義の看板を掲げて資本主義を死守してゐるこの一派、反ユダヤ人種主義の点に於ては全くヒットラーと同一の思想である。

「一部金融資本を排撃」を標榜として金融資本を先鋒とする日本口家の手先となつて個々の銀行に対しては、由にのべ大銀行の外に、家族株制度を強化し中小銀行の株を買占めて、その支配権を握つて、大銀行の株を買占めて、その支配権を握つて、大銀行の株を買占めて、その支配権を握つて、大

工場、農村、兵営に、大衆的に
『赤旗』活版日刊期成会を作れ！

赤旗 第65号
日本共産党中央機関紙

目次
『赤旗』活版日刊期成カムパを作れ！ ……1
一、東京府下の総選挙後報 ……1
日本共産党に一万三千票 ……2
一、『赤旗』活版日刊期成カムパニアの先頭に立て！ ……2
一、血の日曜日を記念せよ！ ……2
一、パリ・コムミューンの第十六年記念日 ……2
一、『赤旗』読者の獲得を決議せよ ……4
一、情報 ……4
一、上海四巻の奇蹟 ……5
一、日本帝国主義『新満洲』を作る ……6
一、全日本労農大衆党結成万歳 ……7
一、各級党会議より ……8
一、日本共産党中央委員会より ……8
一、同志諸君に訴う ……10
一、『赤旗』編輯局より ……10
一、『モップの月』の斗争の指導 ……11

一

中央委員会は機関紙、『赤旗』の大衆化の方針を決定しその具体的活動を始めた『赤旗』活版日刊期成カムパニアがこれである。このカムパの眼目は『赤旗』読者を大衆的に獲得して党の政治的影響を最も広汎な大衆の中にまで直接持ち込み、それによって党自身を真のボリシエヴィキ的大衆党とする為の第一歩を踏み出した点にある。

二

党はこのカムパを全力を以て遂行せねばならぬ。特に経営部細胞は『赤旗』を経営内に大衆的に持ち込む為にこのカムパの先頭に立たねばならぬ。日本中のあらゆる工場に職場に農村に兵営に『赤旗』を持ち込まねばならぬ。

三

『赤旗』活版日刊期成カムパは日本の全労働者農民兵士の事業である。あらゆる工場に職場に農村に兵営に『赤旗』活版日刊期成会を大衆的に作らねばならぬ。細胞はこの為に先頭に立て！！ 未だ細胞の確立してゐないところでは、党員、赤旗読者、オ二無新読者、革命的労働組合員は自己のイニシアチーヴでこの期成会を促進し組織せよ！！

四

党員、赤旗読者のゐる期成会は直ちに赤旗配給の線に沿ひ期成会の活動を上に報告し基金を集め期成会に参加した全ての労働者農民兵士を直ちに、『赤旗』読者とせよ！！

オ二無新読者、全協組合員等のイニシアチーヴで作られた期成会は直に無新なり組合なりの線を通じて期成会の活動を上に報告し基金を送れ！！『赤旗』配給部は直に期成会の会員数に相当する『赤旗』を送付するだらう。

五

期成会はカムパの後には『赤旗』読者グループにと発展すべきである。このカムパを通じて『赤旗』の飛躍的発展が実現せられると共に『オ二無新』は廃刊せられるであらう。『オ二無新』の発送者は即時期成会組織の先頭に立ち、『赤旗』の読者となれ！！

『赤旗』編輯局
『オ二無新』編輯部

六

『赤旗』活版日刊期成会は最も広汎な大衆をとらへねばならぬ。党はこの大衆的活動方法への大胆なる進出を通じて逆境に新党員を獲得し党のボリシエヴィキ化を促進せねばならぬ。これは実に党の大衆的活動方法への巨大な前進である。

七

これらの方法は党活動の急所の鍵であり現情勢下に於ては、この鍵を成功せしめるか否かは一に我々の活動の如何にかかつてゐる。我々は計画的に組織的にこのカムパを押し進めて大衆の生きた革命的エネルギーを大胆に評価し、このカムパに引寄せねばならぬ。

★工場に職場に農村に兵営に即時『赤旗』活版日刊期成会を！！ 特に大経営に！！

★党員、『赤旗』読者、『オ二無新』読者はこのカムパの先頭に立て！！

★中央印刷局直営『赤旗』基金五千円を二ケ月で！！

★★★『赤旗』読者五万人獲得万才

★★★党員倍加運動万才！！

『赤旗』救国型活版万才！！

★日本共産党のボリシエヴィキ化万才！！

一九三二年三月八日

『赤旗』編輯局
『オ二無新』編輯部

日本共産党に——一万三千票
東京府下の総選挙後報

東京府下で我党は数少の同志佐野学、杉浦啓一、鍋沢清八を浜相者として立て、オ五区では職場大会で推薦され立候補した。吉田君は我党の集約的スローガンたる『パンと出事、土地と自由を与へよ』のスローガンを掲げて活動したが不幸にして官憲に補はれてしまつた。

我党員及び党の政策に賛成せる労働者農民に対する立部階級の圧迫は党員君への投票に対しても加はらず東京府下だけで、しかも口会議員選挙有資格者の中に一万三千名の我党政策に賛成する人々があるといふ事を示すものに外ならぬ。極度の非合法に追ひ込められ、公然たる活動会の開催は勿論、一枚のビラすらも多くの党員なしには撒布されないやうな状態にある我党にとつてこの事は実に重要な意義を有する。

社会民衆党、労農大衆党へ投じられた票の多数とは比較にならぬ程の力を持つものである。況んや選挙権を持たない大衆の間にある我党支持を計算する時に於ては尚更である。

我党員及び党のスローガンに投票せる人々は大きな決意を以て敢行したのである。我々は彼等を組織的に確保しなければならぬ。我々は勝利に向つての堅塁を一歩々々築きつゝあるのだ。我々の政策は正しいのだ。我々の政策のみが、失業と飢餓の資本主義制度、帝国主義戦争の危険からの唯一の活路を与へてゐる。

東京府下の一万三千票はこの事の一つの証明である。

（吉野生）

鉄の火花

俺達の代表、吉田由市君の捕はれたことを聞き
親愛なる東京の兄弟諸君に檄文を送る
大阪郊外××電車有志

飯にさ迷ふ二百五十万の失業者、東北地方の餓死に瀕せる農民の救援をせずに、たゞブルジョアジーの命を長らへさす為の満洲侵略、反ソ・ウエート戦争は今中口で敢行されてゐる。

かゝる秋、明るれようとしてゐる第六十一議会はこの戦争を遂行する為に十五億と云ふ莫大な軍事予算を決定し、当々労働者と農民の血と汗とから搾りとらうとしてゐる。

この第六十一議会に対して吾々労働者から『パンと仕事と土地と自由を与へろ』と立候補した吉田由市君が暴虐なる白色テロルの手に捕はれたことを吾々民主々義者共が如何に感激ぶつてゐるか。余すところなく曝露されねばならぬ。

左右の社会民主々義者共が行儀よく党全体に沈黙を守つてゐる時、退に労働者農民と共に戦争反対の斗争を組織しなければならない。恐らく同志意識が何故何処で立候補したかを調べることの出来ない様な労働者であつても自分の周に迫ちにふりかゝつて来るかも知れない戦争問題に対しては喰ひ入る様に正しい態度をとれに対して如何にすべきかを知りたがつてゐるのだ。

他方に我々はこの我々の代表者吉田由市君が暴虐なる白色テロルの手に捕はれたことを吾々はブル新聞を通じて知つた。

吉田君は『労働者の為には死を以て斗ふ』と云つた、そしてブル共は今吉田君を捕へ、凡ゆるテロでをテソテあなてガンコクに文手込まうとしてゐるのだ。

吉田君こそ我に吾々の利益を代表した吾々の候補者だ。吉田君を敵の手にまかして置いてはならない。帝国主義労働者は、日本共産党、全協の旗の下に断乎として吉田君を敵の手から奪ひ取らねばならない。

遠い大阪で叫いことは判らないが、東京地方の兄弟諸君が車庫に、工場に吉田君の為に大衆的抗議運動をまき起されるであらう事を期待し吾々も此大阪の地で凡ゆる白テロ裏切りをケ飛ばして共に斗ふであらう事を信つて簡単乍ら檄文を送る。

戦争反対の大衆斗争をまき起せ！

井上晴子

日本の帝国主義ブルジョア共は極東に於ける帝国主義的略奪のヘゲモニーを握つてをり口内、口際プロレタリアートの反対を無視して愈々猛烈に帝国主義侵掠を強化してゐる。工場や農村から勤労大衆が彼にさらはれる様に後から後から奪はれて行く。

昨日まで一しよに仕事して仲間が一切の生活を投げすてゝ失神した様に呆然と一枚の赤い紙に呪ひ付けられて戦場へ送り込まれる鬼ガを労働者農民は明日は我身として戦ぜキヨウくと見送つてゐる。凡ゆる鳴物入りの戦争熱のアヲ、戦場の暁さの甘い御馳にも拘らず労働者農民は決して有頂天になり切る事は極東に於ける帝国主義ブルジョア共のキヤモフラージを利し、誰を殺すかを知れない労働者であつても今日では階級的な本能によつて感じてゐる。だがブルジョア共のキヤマンは尚多くの反動的な考へを労働者農民の頭に残すことに成功してゐる。同一の現象に対して我党は正しいプロレタリア的見解を持ち、他の場合には排他的な見解をもつ。『戦争に反対すれば白色テロに殺されるぞ戦争に行つても殺されるぞ、どうせ殺されるなら敵（支那）を二人でも三人でも殺して死ぬ』それが遥れた労働者の絶望的な叫びだ。

現在も今日も工場の新並みに赤い紙が舞ふ。我々の宣伝煽動は今日こそ最も階級的に戦争に対びかけねばならない。戦争の本質を特に二の戦争の特殊性と結びつけて明かにし労働者農民に自分の力を自覚させ如何に戦争に対して真実の敵に対してこれへばならないかと、戦争の敵導をブルジョア共に任せておく事は誤りだ。帝国主義ブルジョア共がこの戦争に付いて階級対階級の問題に如何に意識的に用意周到であるか。ブルジョアジーのファッショ化、自口の解放と敵口の兵士とに対する取扱ひ方に於ける巧妙さ。ブルジョアジーのイニシアチーブによる指導的活動によつて可能である事又其が党活動の大衆化、党員並に『赤旗』読者レの真に画期的な意義をもつものであり、戦争を明白にした。工場農村を組織的単位とする社会主義革命の内容は次の如くである。

一、党員、『赤旗』読者を何名獲得したか。

一、細胞何組織、何人参加。

一、『赤旗』並につ

一、『赤旗』編輯局

一、『赤旗』編輯部

計五一円三五銭也

同志諸君！ 『赤旗』の大衆化は只党員及び『赤旗』読者の獲得によつてのみ可能である事を銘記せよ。

読者獲得二千名

労働者農民大衆のイニシアチーブによる指導的活動によつて可能である事を銘記せよ。

読者獲得一千名

党員倍加

読者獲得一千名

党員倍加

読者獲得一千名

党員倍加

Пролетарий всех стран, соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！

諸君の代表者がアルメニア地方を訪問したぞ！

昨年ソヴエート同盟アルメニア地方の大地震に際し、日本の労働者農民は我党の組織せる感同運動に大衆的に参加し、更に代表者を送るべきこと、且つその具体的方法は中央部に一任すると提案した。我党はこの大衆的提案に基いて直に然るべき方法を講じた。

一九三二年三月下旬、我々は「プラウダ」紙に依り、この日本の革命的労農大衆の意志を代表する、大衆より送られた代表者がアルメニアの各地方へ（但し既に数個の様であったが）を親しく慰問してゐることを知り得た。

同志諸君！諸君が熱烈に希望したアルメニヤ地方慰問使はソヴエート同盟の労農大衆に会つて、親しく諸君の熱情と義損金を伝へたのだ。我々は諸君と共に、諸君から送られた代表者から何等かの形で「建設のソヴエート同盟訪問記」が送られるであらうことを期待してゐる。

三・一五第四週年を迎ふ

一

血の三・一五から早くも満四ケ年を過ぎた。

それは日本の革命運動にとつて測に絶き試練の四年間であつた。

一九二八年三月以来、同年の八月と翌一九二九年の四月、一九三〇年には二月及び七月、一九三一年にも八月及び十二月、そして更に今年に入つて最近の怒涛の如き闘争に於ける二月の検挙と、大きなものだけでも以上八回に亘り、尚日常不断の小検挙を加へれば、実に数千の同志達が逮捕投獄されたのだ。そしてその度毎に、敵は必ず我党の壊滅をはやし立て、宣伝した。

だが依然として今日まで我党は存在する。しかも密にさびかつたばかりではなく、急々益々確実たる大衆的支持の基礎の上に、革命の「赤旗」を高く掲げて進軍しつづけた。執火に油を注ぐ如く、白又を酒つて倒くまで残虐し、白又を酒つて倒くまで残虐し、拡大、発展させて来た。

我党は最早、支配階級の如何なる地獄的暴圧をもつてしても、断じて破壊され得ない現実の革命的勢力として自己を確証した。それは文字通り共産主義の妖怪として、日夜ブルジョア天皇地主の夢を驚ひ、現を背かしつゝある。

二

レーニン的ボリシエヴィキ党は、常に鉄と血の試練によつて自らを浄め、自らを強める。それは火花の中に鍛へられ、赤熱の焔を放つ鋼の規律と訓練を獲得する。公然たる非合法的大衆党の活動は、一にもニにも、そして何も彼も、かゝる最も厳格な規律の訓練なくして、絶対に不可能である。

この点に於て、過去四年間の経験は、我党にとつて何物にも代へ難い貴重な至宝であつた。それは一つ〳〵数千の幾千先輩同志の生きた教訓を以て我々に残された尽史の教訓なのだ。

我々は果してそのすべてを充分に汲み取り、完全に学び取つてゐるだらうか？

否、否！若しさうだつたら我党は現在もつと〳〵偉大なる発展を遂げてゐるだらう。

我々は昨年の三・一五記念日に当り、この事を最も積極的に銘記した。そして党ボリシエヴィキ化のスローガンを提出し、依来今日まで満一ケ年の間絶えずそれを叫びつゞけて来た。しかも今その成果は余りに貧弱であり、過去の教訓はやはり尚、同様に繰り返されてゐる。

我々は当時の「赤旗」三・一五記念特輯号から、若干の引用文を次に掲げて、も一度自己批判の資料に供したい。

『だが、三・一五に際して決定的な過誤が犯された。それは中央及び地方の組織者が組織方針を誤り、組織技術を無視した点である。例へば、党員名簿を作製して置いたばかりでなく、それをムザ〳〵と敵の手に渡したのである。組織原則上記録すべからざる諸事項を記述して置いたばかりでなく、それを易々と敵の手に渡してしまつた事である。

『このことはコミンテルンに於て最も厳烈に非難された。にも拘はらず、同一の誤謬が四・一六に於ても、繰り返し犯されてゐる。

『それは日本共産党の過去に於ける一大汚辱である。

『我々はかゝる過去の誤謬を実践的に清算することを誓ふ。』

三

今や我々には本年の三・一五記念日を、当面の重大なる時局に忘ずる党ボリシエヴィキ化の為に躍進的な一大突撃を以て迎へんとしてゐる。党中央機関紙、「赤旗」の大衆化と活潑日刊期成カムパーニアが、即ちその為の我々の断ずる革命的決意の具体化だ。

それは切迫せる第二次帝国主義世界戦争に対する我々の必然的決戦の為の階級的躍進準備の第一歩であり、その成敗は我が全労働者農民勤労大衆の死活を決定する根本条件となるものだ。

我々はこの我党の飛躍なる突撃戦の展開を、敵が如何に妨害だてしく恐怖し、その阻止妨害の為にあらゆる努力を集中しつゝあるかを知つてゐる。反動的到る処の取締りに名を藉る白色テロ、更に新たなる暗黒の更に新たなる暗黒の

Пролетарий всех стран, соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！

資本主義発展の帝国主義的時代の開始を前にするパリ・コミユンは必然的にプロレタリア独裁の未成熟の形態に止められた。それは尚小市民的な民主々義を残存させたプロレタリアートの独裁であつた。そしてこゝにこそパリ・コミユンの敗北の原因があつたのである。パリの労働者は来たに彼等の階級敵を持つてゐなかつた。パリの武装せる民衆はコミユンがバリケードである事を知らなかつた。ヴエルサイユの反革命軍に対する武装攻撃の放棄、小市民的民主々義幻想は二ケ月の後コミユンを反革命の無惨な血しぶきの中に打ち仆したのである。

一九一五年革命はプロレタリア独裁の形態をそして成熟させる形態であつた。革命の社会的基礎はコミユン革命のそれより広汎であり且緊かつた。そして一九一七年の十月のソヴエート政権に於てプロレタリアートの独裁は最高の形態をとつたのである。そしてこのプロレタリア独裁のソヴエート政権こそは資本主義の帝国主義的段階と社会主義の生誕の時期に適応したものであつた。十月のソヴエート政権はかくして反革命の鎮圧の後急速に社会主義建設の途に進む事が出来たのである。

パリ・コミユンの遺せる教訓はレーニンに依つて継承された。コミユンの経験の中に或程度示された帝国主義的段階に於けるプロレタリア革命の諸条件、方法、目標はレーニン主義に依るプロレタリア革命の戦略戦術の体系の定式化となつたのである。そしてプロレタリア革命のレーニン主義的戦略と戦術が階級の真切着となつた。インターナショナルを放棄し、オニインタナショナル成立の尨大的な根拠となつたのである。

（二）

日本の革命的プロレタリアートは今革命的主導への新たなる決意を以てパリ・コミユンの国際記念日を迎へる、六十年前のパリ労働者の英雄的行為を受け継ぐものは世界革命に前進しつゝある全世界の革命的プロレタリアートである。オニインタナショナルは帝国主義者の中口攻撃等に参加して彼等は又パリ・コミユンの革命的要素を継承し口際プロレタリアートの祖国を建設したソヴエート同盟の勤労者に対する干渉の先頭に立つてゐる。共産主義インタナショナルは全世界の労働者勤労民衆に向つてソヴエート同盟に対する干渉戦の一切の準備を粉砕し、「ソヴエート同盟を守れ！」と呼びかけてゐる。

普仏戦争の敗北、共和口の成立、ティエールの政府を武装せるパリ勤労民衆の委員会による二重支配（一八七〇年九月四日から三月十八日まで）口民衛兵の中央委員会（赤色衛兵代表者のソヴエート）による双力の奪取。これはパリ・コミユンの成立の経過であつた。こゝには支配階級の政戦を内乱に導いた煽げる教訓がある。パリのコミユンはフランス並にプロレタリアのプルジヨアジーの共同の武力攻撃に依つて惨敗した。プロレタリアートに対するプルジヨアジーの協力は革命運動の尸実に於て幾度となく繰り返されてゐる。十月革命と一九二七年十二月の広東蜂起及びそれに続く中口革命に対する口際帝口主義の干渉がこれである。現在に於て、それは最も大規模な組織的な干渉戦争として進展してゐる。地主の会民主々義は大衆の革命化に依つて危機を招来してゐる。産業の平和や共同戦線党の理論は半飢餓状態に追ひやられ益々革命化し行く大衆から見棄てられて行つてゐる。

口家社会主義はこれら社会民主々義的思想に代るものとして登場したのである。口家社会主義者はプロレタリア口際主義に対するブルジヨアジーの有利な武器となつてゐる。口家社会主義者は「当面の敵はコミンテルンである」と言ひ「赤色ファシスト日本共産党撲滅」を叫んでゐる。口家社会主義は「戦争のことなら軍部が専門だ。荒木陸相は反資本主義的な立場にある。これなら口民も安心して軍部に任せることが出来る」と言つてゐる。口家社会主義者はかくして「全口民よ、愛口の熱に燃えよ！」と叫ぶ。彼等は「口民の口家生活至上の原理は口民大衆の現実的必要、一の全一体としての口民の必要あるのみである」と言ひ階級斗争に於けるプロレタリアートのヘゲモニーを否定してゐる。而も彼等は階級斗争を認めてゐないが、彼等は階級斗争にファシスト的口民運動を置き代へてゐる。天皇制のブロレタリア独裁、天皇制と資本主義との完全なる分離は現時に依つて直接されてゐるが、それはプロレタリアートの真実の独裁たるソヴエート政力とは何等の縁もないものである。

パリ・コミユンと二つのロシア革命、殊に偉大なる十月がその

産主義者の戦略 ―ソヴエート革命・ソヴエート政権の問題―が浸透して行く事を妨害してるのである。だがプロレタリアートの革命と階級の方法形態に関する共産主義的理論は社会民主々義的改良主義、社会主義、階級協調の思想から解放され漸次革命化しゆく広汎な労働者農民によって理解されるであろう。天皇制プロレタリア独裁の革命の共産主義的戦略に対抗するにはあまりにも貧弱である。ファシストに特有な種々な思想の借りものは彼等のこの中心的スローガンにあって最も無恩用である。益々広汎な大衆が共産主義者の旗の下に永久に輝くパリ労働者の英雄的共産党に対して科学的社会主義の建設者カールマルクスの言葉を送る。

『パリの労働者とそのコミューンとは、新社会の先駆として崇敬されるであらう。彼等の殉難者は、労働者階級の偉人なる心の中に、彼等自身に対する永久不滅の記念碑を打ち建てた。ア史は彼等の敵刑者を、恥辱の刑柱に釘づけ、そして如何なる救力もそれを除き得ないであらう。コミューンは実に高級な、且つ実に原始性に富める政治的形態であった。コミューンの真の秘密は、その労力に於てそれが労働者階級の政府であり、搾取者級に抗する生産者階級の斗争の結果であったといふ事実にある。それは労働者の解放を実現し得べき公然の政治的形態であつた。

失業者の家

建設の運動を大衆的に捲き起せ！

京山 登

一、

「失業者の家」は別に今我々が新しく考へ出したものではない。それは現に東京郊外三河島の労働者地帯に存在してゐる。そこでは常に近在の失業者や明日の失業に脅かされてゐる職業労働者が集合し、相互に助け合ひ、慰め合ひ、共同の生活と問題について話し合ひ、一致して斗争に進出してゐるのだ。殊らく永だ我々の知らぬ多くの處に何等かの名称と形式でこれと同様のものが經つも出來てゐるに違ひない。

我々はこの大衆的創意の立派な結実を、失業反対運動の始めて成功なる一組織形態として、その重要性を高く評価し話題の特別な注意を喚起しなければならぬ。

我々はここに、失業者同盟、労働救援会、全協、合同、消費組合、文化聯盟（プロレタリア科學研究所、プロレタリア舞踊研究所等の合法的大衆団体が提携して、全国各地の失業者住居地（東京では勿論とも五六ヶ所）に適当な家を借り「失業者の家」建設の運動を公然大衆的に捲き起すことを提唱する。だが以上の合法的大衆団体全部の提携が出來るまで待つ必要は決してない。その地区の失業者委員会、失業者有志又は失業者長屋の自治的性能は皆ら中心になつてでも、即時この運動を開始しなければならぬ。この家の名前―看板―は必ずしも統一的に一定することはいらない。地方地方の気持にピッタリしないやうな名前は変更さるべきである。大衆から離れ易い革命的な名前をもつてゐるやうに感ずる時は、気になるやうな極左主義は止めなければならぬ。

「失業者の家」の管理者も大衆の意向に從つて決定されるのであるが失業者委員会が管理に当るべきであらう。

第二、「失業者の家」は更に労働者の小供の遊び場に開放され、託兒所、幼稚園が開設されるであらう。これは教育者組合の問題に待たなければならぬ。

プロレタリア文化聯盟や労働者農民のソヴエート友の会はこゝで商々の右翼的な講習会や芝居やキネマや音楽会や展覧会等の家族慰安会を組織して開催して失業者達にその家族と共に慰安と団結を與へる様に努力すべきである。

失業者大衆の信頼を得た後は、プロレタリア聯盟士団や借家人同盟の同志は借金や家賃等々の相談所を、消費組合は日用品の廉賣所等を開設するであらう。

更に新聞雑誌クラブ、図書閲覧等がこゝに設備されるだらう。

之等の斗争事項、設備等の問題は絶えず失業者の集会で考慮され、決定され、失業者委員会によつて実行される

日本帝國主義「滿洲國」を作る
民族自決主義の仮面の下に
露骨なる侵略政策を断行す

（三月九日長春に於て「滿洲國」の建國式が挙行された。ブルジョア新聞紙の報ずるところによれば「二十年来宿願の獨立國家の誕生」「東洋の獨立」「王道樂土」「五族協和」の理想國家の出現を以て「わが國（日本）野心の悪吹きによるものと断言することは見當違いといい得るであろう」と。）

一九三二年三月八日
（黒川生三）

日本帝国主義は滿洲占領によって經濟的軍事的根據を確保し、上海地方の占領によって對英米戰に於ける有利な軍略的地歩をとり始めた。日本はこの戰爭以前にハワイ諸島を占領せんと計畫したが、アメリカ海軍の太平洋への集中に依ってそれは不可能となった。アメリカは太平洋横斷の大演習を口實としてパナマ運河條約の自由を拘束條約によって獲得した。更にフイリッピンから上海へ派遣された軍艦の相次としてハワイからマニラへ向つてうごくの軍艦が送られてゐる。印度、印度支那から英仏の海軍が上海へ向けて集中されつゝある。露（ソ）、支（中）、英、佛、米、伊、日等の國々にもプロレタリアートの革命的勢力を決定的にするであらうことと等々の客觀に憑れ乍らも帝国主義者は戰爭とファシズムとによって現状を切り抜けようとしてゐるのだ。然り、資本主義各國は戰爭問題によって動いてゐない。資本主義世界は何れも戰爭の危機にある。

（三月八日、ホノルル發）

米國陸軍省は、日本軍が滿洲國の名の下にドシく安隊が動かされてゐる。ソヴエート同盟との國境を流れる黒龍江の沿岸、小興安嶺のふもとには砂金が多量に埋れる。その「調査隊」は既に一ヶ月も前に出發してゐる。「調査隊」に備へる爲に武器が伴はれたこと、言を俟たない。

更にハルピンを中心として白系ロシア人將校は反革命部隊を組織されてゐる。ソヴエート同盟との國境地帯は緊張の度を加へつゝある。

（ロンドン特電）

日本帝国主義が滿洲占領の最後の目的は、ソヴエート同盟への武裝的攻撃にあることは、今や公然の秘密である。

（ロンドン特電）

日本の支配階級は滿洲國の建國を認めてはゐるが、それは決して「多事多難」であることを認めてはゐる。それ故にこそ日本帝国主義は滿洲國の國防軍の名の下に、ソヴエート同盟との國境を軍事的に固めつゝある。

（ロンドン特電）

日本帝国主義は滿洲國の建國を認めてはゐるが、それは決して「多事多難」であることを認めてはゐる。それ故にこそ日本帝国主義は滿洲國の國防軍の名の下に、ソヴエート同盟との國境を軍事的に固めつゝある。

被害の準備と我等の用意。

日本帝国主義は滿洲占領によって經濟的軍事的根據を確保し、上海地方の占領によって對英米戰に於ける有利な軍略的地歩をとり始めた。日本は單獨行動以前にハワイ諸島を占領せんと計畫したが、アメリカ海軍の太平洋への集中に依ってそれは不可能となった。アメリカは太平洋横斷の大演習を口實としてパナマ運河條約の自由を拘束條約によって獲得した。更にフイリッピンから上海へ派遣された軍艦の相次としてハワイからマニラへ向つてうごくの軍艦が送られてゐる。印度、印度支那から英仏の海軍が上海へ向けて集中されつゝある。露（ソ）、支（中）、英、佛、米、伊、日等の國々にもプロレタリアートの革命的勢力を決定的にするであらうことと等々の客觀に憑れ乍らも帝国主義者は戰爭とファシズムとによって現状を切り抜けようとしてゐるのだ。然り、資本主義各國は戰爭問題によって動いてゐない。資本主義世界は何れも戰爭の危機にある。

（三月八日、ホノルル發）

米國陸軍省は、日本軍が滿洲國の名の下にドシく安隊が動かされてゐる。ソヴエート同盟との國境を流れる黒龍江の沿岸、小興安嶺のふもとには砂金が多量に埋れる。その「調査隊」は既に一ヶ月も前に出發してゐる。「調査隊」に備へる爲に武器が伴はれたこと、言を俟たない。

更にハルピンを中心として白系ロシア人將校は反革命部隊を組織されてゐる。ソヴエート同盟との國境地帯は緊張の度を加へつゝある。

（ロンドン特電）

日本帝国主義が滿洲占領の最後の目的は、ソヴエート同盟への武裝的攻撃にあることは、今や公然の秘密である。

（ロンドン特電）

日本の支配階級は滿洲國の建國を認めてはゐるが、それは決して「多事多難」であることを認めてはゐる。それ故にこそ日本帝国主義は滿洲國の國防軍の名の下に、ソヴエート同盟との國境を軍事的に固めつゝある。

戰爭擴大の必然性。

よしんば百歩譲つて對ソ同盟戰爭として各帝国主義者が一時的に協力し得たとしても、それは非常に短期間にすぎないであらう。

「戰爭の技術的兵力が對ソ・對支戰爭が單に地方的に局限されると期待するのは笑止千万である。ロシア（ソ）領域内に於ける軍事的勢力から見て、無限の準備と人命とを要する大戰爭となるだらう。何故なら帝国主義国相互間の衝突を惹起するだらう」（ラデック）。何故なら帝国主義国間の矛盾は結局に於ては戰爭に導かれるからうである。戰爭に依つてのみ新しい勞力關係が決定されるのだ。

被害の準備と我等の用意。

日本帝国主義は滿洲占領によって經濟的軍事的根據を確保し、上海地方の占領によって對英米戰に於ける有利な軍略的地歩をとり始めた。日本は單獨行動以前にハワイ諸島を占領せんと計畫したが、アメリカ海軍の太平洋への集中に依ってそれは不可能となった。アメリカは太平洋横斷の大演習を口實としてパナマ運河條約の自由を拘束條約によって獲得した。更にフイリッピンから上海へ派遣された軍艦の相次としてハワイからマニラへ向つてうごくの軍艦が送られてゐる。印度、印度支那から英仏の海軍が上海へ向けて集中されつゝある。露（ソ）、支（中）、英、佛、米、伊、日等の國々にもプロレタリアートの革命的勢力を決定的にするであらうことと等々の客觀に憑れ乍らも帝国主義者は戰爭とファシズムとによって現状を切り抜けようとしてゐるのだ。然り、資本主義各國は戰爭問題によって動いてゐない。資本主義世界は何れも戰爭の危機にある。

（三月八日、ホノルル發）

米國陸軍省は、日本軍が滿洲國の名の下にドシく安隊が動かされてゐる。ソヴエート同盟との國境を流れる黒龍江の沿岸、小興安嶺のふもとには砂金が多量に埋れる。その「調査隊」は既に一ヶ月も前に出發してゐる。「調査隊」に備へる爲に武器が伴はれたこと、言を俟たない。

更にハルピンを中心として白系ロシア人將校は反革命部隊を組織されてゐる。ソヴエート同盟との國境地帯は緊張の度を加へつゝある。

（ロンドン特電）

日本帝国主義が滿洲占領の最後の目的は、ソヴエート同盟への武裝的攻撃にあることは、今や公然の秘密である。

（ロンドン特電）

日本の支配階級は滿洲國の建國を認めてはゐるが、それは決して「多事多難」であることを認めてはゐる。それ故にこそ日本帝国主義は滿洲國の國防軍の名の下に、ソヴエート同盟との國境を軍事的に固めつゝある。

戰爭擴大の必然性。

よしんば百歩譲つて對ソ同盟戰爭として各帝国主義者が一時的に協力し得たとしても、それは非常に短期間にすぎないであらう。

「戰爭の技術的兵力が對ソ・對支戰爭が單に地方的に局限されると期待するのは笑止千万である。ロシア（ソ）領域内に於ける軍事的勢力から見て、無限の準備と人命とを要する大戰爭となるだらう」（ラデック）。何故なら帝国主義国相互間の矛盾は結局に於ては戰爭に導かれるからうである。戰爭に依つてのみ新しい勞力關係が決定されるのだ。

被害の準備と我等の用意。

日本帝国主義は滿洲占領によって經濟的軍事的根據を確保し、上海地方の占領によって對英米戰に於ける有利な軍略的地歩をとり始めた。日本は單獨行動以前にハワイ諸島を占領せんと計畫したが、アメリカ海軍の太平洋への集中に依ってそれは不可能となった。アメリカは太平洋横斷の大演習を口實としてパナマ運河條約の自由を拘束條約によって獲得した。更にフイリッピンから上海へ派遣された軍艦の相次としてハワイからマニラへ向つてうごくの軍艦が送られてゐる。印度、印度支那から英仏の海軍が上海へ向けて集中されつゝある。露（ソ）、支（中）、英、佛、米、伊、日等の國々にもプロレタリアートの革命的勢力を決定的にするであらうことと等々の客觀に憑れ乍らも帝国主義者は戰爭とファシズムとによって現状を切り抜けようとしてゐるのだ。然り、資本主義各國は戰爭問題によって動いてゐない。資本主義世界は何れも戰爭の危機にある。

（三月八日、ホノルル發）

米國陸軍省は、日本軍が滿洲國の名の下にドシく安隊が動かされてゐる。ソヴエート同盟との國境を流れる黒龍江の沿岸、小興安嶺のふもとには砂金が多量に埋れる。その「調査隊」は既に一ヶ月も前に出發してゐる。「調査隊」に備へる爲に武器が伴はれたこと、言を俟たない。

更にハルピンを中心として白系ロシア人將校は反革命部隊を組織されてゐる。ソヴエート同盟との國境地帯は緊張の度を加へつゝある。

（ロンドン特電）

日本帝国主義が滿洲占領の最後の目的は、ソヴエート同盟への武裝的攻撃にあることは、今や公然の秘密である。

（ロンドン特電）

日本の支配階級は滿洲國の建國を認めてはゐるが、それは決して「多事多難」であることを認めてはゐる。それ故にこそ日本帝国主義は滿洲國の國防軍の名の下に、ソヴエート同盟との國境を軍事的に固めつゝある。

…る、それ故に…報知新聞は…

…れを以て「我非帝斗戰の決行が…免令に取はれた事を感謝する」と宣言するであらう。支那征服の為の戰爭はその時こそ始まるのだ。

三

帝国主義日本は以上述べた外に滿洲をソヴエート同盟に対する武力干渉の地盤としてゐる。更に山を通ふと称して遼にハルピン以西、以北にまで軍隊を出動せしめ得ること、そして馬占山が滿洲の背後にあつて重要都長となつてゐる事は当初から日本軍と彼との間に秘密條約があつて八百長戰をやつたと言ひ得るであらう。東支鉄と南滿鉄との分岐點たる長春に首都を置いたことも決して単なる偶然や思ひ付きからではない。そこを軍略上の重要地點としてをることは日本帝国主義がソヴエート同盟を攻撃するに当つて絶対必要なことなのだ。「滿洲帝国」の最北地點を長春とすることは今では吉林くなつた。彼等は云ふだらう「長春を中心として滿洲は守られねばならぬ」と。

日本軍はハルピン以東へ進出しつゝある。一面吸力面へは既に各要所の軍隊が送られ、同時方面へは匪賊討伐の名の下にドシく安隊が動かされてゐる。ソヴエート同盟との国境を流れる黒龍江の沿岸、小興安嶺のふもとには砂金が多量に埋れる。その「調査隊」は既に一ヶ月も前に出發してゐる。「調査隊」に備へる爲に武器が伴はれたこと、言を俟たない。

更にハルピンを中心として白系ロシア人將校は反革命部隊を組織されてゐる。ソヴエート同盟との國境地帯は緊張の度を加へつゝある。

（ロンドン特電）

日本帝国主義が滿洲占領の最後の目的は、ソヴエート同盟への武裝的攻撃にあることは、今や公然の秘密である。

（ロンドン特電）

日本の支配階級は滿洲國の建國を認めてはゐるが、それは決して「多事多難」であることを認めてはゐる。それ故にこそ日本帝国主義は滿洲國の國防軍の名の下に、ソヴエート同盟との國境を軍事的に固めつゝある。

全口協評議会
第一回拡大中央委員会を
成功的に遂行せしめよ！

（編輯局より）

全口協評議会が三月下旬を期して第一回拡大中央委員会を開催しようとしてゐる事は、既報の通りである。この委員会が公然と大会を開き得ない今日それに代る最高の会議として非常に重要な意義を持つてゐる。我党はこの会議を成功させる為に積極的に指導し、我党並びに赤色労働組合の拡大強化の為に闘ひ抜かねばならぬ。我党当面の労働組合政策は赤色労働組合の拡大強化であり、ファシテルン第五回大会の決議及び第八回中央部会の決議の実践化の為に全力を注ぐことである。そのためには凡ゆる困難が利用され排除されねばならぬ。拡大会議は正にその一つである。

さて此の問題は考るべき拡大会議を成功的に遂行する為に全口協評議会及革命的反対派は如何に活動すべきか？ 党員は如何に活動すべきか？ 先づ第一に全口協評議会並に其の指導的分子たる革命的反対派は革命的労働組合運動の政策を精密的に把握し、之が実現の為に全力を注ぐことである。

一、大衆的革命的反対派の組織と活動。

二、すべての斗争と戰争とプアシズムに対する斗争に集中すること。

全口協評議会の革命的反対派は以上の問題を基礎としてゐつと其体化して認識せねばならぬ。重要なことはプロフアインテルンの決議の正しかつたこと、その決議の実践化の為に立てる日本共産党及全口協評議会の指導が正しかつた事を実例を以て熾烈に実践化することである。断くして左派な大衆の中にそれを普遍化する為ならば、自然成長的に斗争及主義者の偏見と惰性を脱却して進みつゝある大衆及未組織労働者大衆の側に獲得し得るであらう。のみならず「全協はプロフインテルンの方針を機械的に直輸入れ、プロフインテルンに直属して労働組合をも分裂させてゐる」といふ右からの批判をも為し得ず、全協及反対派の為に攻撃の口実を与へる事もなくなるであらう。我々の前方には革命に依つて勝利を得た大なる労働者農民の口、社会主義祖国及その行手を輝かしてゐる。

中口、朝鮮、日本人労働者勤労農民の革命的同盟、その帝国主義者日本に対する不屈の英雄的斗争こそが満蒙の地に、全協中口に平和の為に、赤色労働組合の為に、我々の任務はこの事を…

（編輯局より）

ストライキ或は示威運動の小さな日常斗争に基く斗争組織の可能性があるような場合に只一般的な宣伝だけに制限してゐるのはヨリ以上によくないことである。斗争が起らないか、或は起し得ない様な場合にあつても、我々の政策の宣伝によつて動めた関心をたゞそれだけに止めずに何者の形で革命的労働組合運動と組織的に結びつけるように活動すべきであらう。例へば公然と代表を送出し得るような処では組合員だけでなく組合員が中心になつて赤組織労働者を参加させて政策を討論し代表を送出すべきであらう。又その様な力のないところでも政策を中心として集りを持ち彼等の注文希望等を聞きそれをそこで決議として発表するといふ方法もあり、又文化組織、補助組織等、又その利用し得る一切のものを我々大衆的に拡大全協に対する注意を喚起せねばならぬ。

第三、以上は準備活動の一般的方法であるが、この方法を成功的に行ふ為には如何に困難であらうとも断乎として企業の中で工場の中で集会を組織し集団的に討論せねばならぬ。拡大会議も工場内大衆の支持を受けてゐること、その様に活動することが準備の中心ならねばならぬ。斗争の準備或は斗争を終つた後の批判等と結びつけられることは最も秘訣的である。

第四、拡大会議を通じて積極的に組合員を獲得せねばならぬ。大衆は当然的に革命的政策と戰術に進んでゐるばかりでなく、現実に革命的労働組合をさがし求めてゐるのである。若しも全口協評議会及革命的反対派が組合員獲得に当つて積極的分子を組合及反対派に引き入れるために努力せねばならぬ。この点に於てこの方面の受動性を最も警戒することが必要である。

之を要するに、全口協評議会の拡大会議は従来の組合大会等に見受けられた様な工場大衆とは無関係にゴツソリ開かれるのでなく組織、赤組織を問はざる全労働者大衆及び失業者大衆の全注意と関心の中に開かれねばならぬ。それは全口協評議会の政策、戰術を徹底的に宣伝するのみならず、工場内大衆、失業者大衆の…

全國協議會の選擧斗爭報告の一部より

——企業内に力を集中せよ——

「……今度の斗爭に於ては全國全口会議派と協力して、全協の方針を生かし、経営内の活動を進めてゐる。即ち、前回総選擧斗爭同盟より立候補せる松坂町議上田音市君の推薦をヒラと集会とによつて労働者農民に訴へ推薦運動を開始した。松坂附近では、電燈料不払による取り外し反対、農工銀行利子支払延期、松坂町へ協議費村会併につき運動者に一万八千円の礼金を送ることに反対、その金を失業救済に充てよ！との要求が一般的に広まつてをり、更に労働者間には単価値下げ反対の要求が昂まつてゐた。その間で推薦運動が行はれ……（中略）……現在起つてゐる以上の要求の下に盛況に開かれる組合会を開き、上田君を出さゞ、出来るだけ広汎に工場労働者、農民を動員し、前記の要求を更に工場、農村に持ち帰らせ、工場を基礎に大衆斗爭を起すことに決定。直ちに実行されつゝある。……

日化支部準備会、日本セン斗支部準備会が結成された。……（下略）」

「……八幡、口鉄、新興製鉄の企業内活動の方針を立て、実行したごと、えば口鉄に於て着目せい。鉱山K対しては南組織的基礎がなかつたに拘らず、選挙を利用して働きかけ斗行された。この斗爭を企業内斗爭を基礎に工代を以て斗つたこと、この斗爭を通じて経営を基礎として軍要産別の支部確立の方向に進人でゐること（金属）……下略」。

「……高田地方は一月八日の県協議会への暴圧反対の斗爭の大め団体協議会を持ち、斗爭ニユースを発行し、重要工場の斗爭レポをのせ、重要工場へ飛しこんだが、直接に大衆の要求を統一して斗爭を起さうとせず……選挙中、高田〇〇K大衆的ブループの結成があつた。日本曹達は共済組合自主化、自主的消費組合獲得の斗爭を開始した。

長岡は指令を待たず、政治的関心を利用して、日本共産党反対会議の要旨を開拒し、三宅正一一派の徹底的暴露を計つた。……長岡〇〇に職場反対斗爭委員会が結成された。

この地方は従来での割合に組織し企業内活動の方針を立て、実行したごと、えば口鉄に於て着目せい。鉱山K対しては南組織的基礎がなかつたに拘らず、選挙を利用して働きかけ斗行された。この斗爭を企業内斗爭を基礎に工代を以て斗つたこと、この斗爭を通じて経営を基礎として軍要産別の支部確立の方向に進人でゐること（金属）……下略」。

「北九州、三重、長岡では方針を具体化し、重要産業組織に方針をたて要求の統一の動に斗ひ、長岡福岡では経営を基礎とする統一戦線組織を得た。特に福岡では工代で候補者が推薦され、更に之を機会に斗爭が強化された。

報告者は更に、「関東、大阪では方針が具体化されず、大阪地按、東京地区では斗爭の統一の為に斗はず……有利な条件を有してゐても企業内の斗爭が昔かしか起されなかつた」と指摘してゐる。我々は東京、大阪等の大工業都市、中心的都市で我々の方針が具体化されなかつた事を基礎に思ふ。かゝる都市でこそプロレタリアの斗爭の根拠地が形成されねばならなかつた。勿論部分的には相当に広汎な組織が出来てゐるが

同志A・Tの抗議に答ふ

本誌號外の上で『下中彌三郎、赤松克麿を主とする日民社会党……云々』と書いたこと、及び別の箇で『社会民主党は全体として日民社会党の構成部分となり、全労大党の一部分それに加はるであらう』と云ふ意味のことを書いたのに対し、同志A・Tは『それは誤謬である。現在では下中と赤松は相反目してゐる……云々』と論じて、明らかに抗議を申込んでゐる。

我々が以上の見解を述べたのはたしか一九三二年の一月末か二月始めにかけてゞあつた。その当時、下中、赤松は最も密接に交渉してゐたのであつた。傍し、我々はこれ等二人だけの個人的交渉の結合に依つて彼等がその背後に持つ政党或はグループの全活動に対する展望を與へたのではない。

況んや日民社会党創立準備会は事実上主として下中が劃策してゐたものであり、彼等の発表せる政綱紙を見ても下中がこの党創立のチャンピオンとして活躍してゐたことが明白である。況んや、赤松は社会民主党の書記長として『日民社会主義を高唱し、雑誌『日本社会主義』の上でも公然とその主張を述べて居り、その理論は社会民衆党内でも相当に支持されてゐた。而してこの要旨な破廉恥漢の力が大いに影響して社民党大会は『社会主義』の文字を看板とする天皇主義を公然と賛助の投票入、一切の機に、この両者の間には根本的には理論的一致が見られる。それは両者の掲げてゐる政策、綱領を一見すれば直ちに明白である。下中を中心とする一つのグループ、赤松を書記長とする社会民衆党——この二つが各々独んど同一の綱領を掲げて居ると云ふ事と、この二つのもの、中の有力者が一堂に会して談合してゐた、しかも大いに意見の相異なかつたと云ふ事から出発して、この両者が『全体として合同するであらう』と云ふ展望を開くことは決して誤りではない。併し乍らこの事は、未だ如何なる條件の下で、如何なる形式の下で、何時頃合同するかを断定したものではない。

ファシスト社会ファシスト共に常に椅子の奪ひあひや、個人的感情の衝突などでクツ着いたり、離れたりするのだ。彼等の間には『完全なる統一』は勿論どあり得ないと云ひ得る。革命的プロレタリア倉庫が資本の牙城に肉迫するのを喰ひ止めると云ふ時には仲良く主人の御用を努めるのであるが、それ以外の時には、彼等は何時でも資本家から貰ふ手当金の分け前の事でイガミあつてゐるのだ。だから、三月になつて下中と赤松との個人的関係が悪くなつてもそれが永久的だとは云へない。又たとへこの二人の間がよくならなくとも、そして下中が『日民社会党の活動をなし得ない程窮力にならうとも、支配階級が必要とする場合には色々なグループが作られるだらうし、且つ合同もするであらうことは全く自明の理である。そしてその場合現在の社会民衆党が全体としてその中の構成部分となるであらうことは疑い得ることである。

但しその事は社会民衆党やその他ファシスト団体の影響下にある労働者農民大衆がそれ等の指導者と全然同一のものだと云ふのではない。それ等の間で、我々側からの活動が充分に展開されねばならぬことは云ふまでもない。

（A・9生）

反革命的ロシア人 淫賣婦の媚を賣る

先日雑誌『日本及日本人』発行所主催による白系ロシア人歓迎会が開かれ、そこで帝政ロシア時代の陸軍大佐ボロディコフ、現東北大学教授パヴロフスキー、男爵ウルバンガリーが演説をした。

五ケ年計画を四ケ年で衆々と仕上げる見透しを持ち、第二次五ケ年プランを決定してゐるソヴエート同盟が明日にもつぶれるかの様に考へ、衆しかりし——資本家地主にとつて——ツアールのロシアを夢に描いてゐるこれらの反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

彼等反革命家共は『シベリアの独立』を第一のスローガンとしてゐるらしい。ソヴエートシベリアが隆々と社会主義建設に成功し、我々の労働者農民が社会主義競争や生産突撃隊に加入し、ツアール時代には陰惨そのものゝ如く想像されてゐたシベリアに全然別な明るい社会主義都市が発展し、共同農場にトラクター隊が行進して今日この有様であることを見、彼等の反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

彼等反革命家共は『シベリアの独立』を第一のスローガンとしてゐるらしい。ソヴエートシベリアが隆々と社会主義建設に成功し、我々の労働者農民が社会主義競争や生産突撃隊に加入し、ツアール時代には陰惨そのものゝ如く想像されてゐたシベリアに全然別な明るい社会主義都市が発展し、共同農場にトラクター隊が行進して今日この有様であることを見、彼等の反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

彼等反革命家共は『シベリアの独立』を第一のスローガンとしてゐるらしい。ソヴエートシベリアが隆々と社会主義建設に成功し、我々の労働者農民が社会主義競争や生産突撃隊に加入し、ツアール時代には陰惨そのものゝ如く想像されてゐたシベリアに全然別な明るい社会主義都市が発展し、共同農場にトラクター隊が行進して今日この有様であることを見、彼等の反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

彼等反革命家共は『シベリアの独立』を第一のスローガンとしてゐるらしい。ソヴエートシベリアが隆々と社会主義建設に成功し、我々の労働者農民が社会主義競争や生産突撃隊に加入し、ツアール時代には陰惨そのものゝ如く想像されてゐたシベリアに全然別な明るい社会主義都市が発展し、共同農場にトラクター隊が行進して今日この有様であることを見、彼等の反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

先日雑誌『日本及日本人』発行所主催による白系ロシア人歓迎会が開かれ、そこで帝政ロシア時代の陸軍大佐ボロディコフ、現東北大学教授パヴロフスキー、男爵ウルバンガリーが演説をした。

五ケ年計画を四ケ年で衆々と仕上げる見透しを持ち、第二次五ケ年プランを決定してゐるソヴエート同盟が明日にもつぶれるかの様に考へ、衆しかりし——資本家地主にとつて——ツアールのロシアを夢に描いてゐるこれらの反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

彼等反革命家共は『シベリアの独立』を第一のスローガンとしてゐるらしい。ソヴエートシベリアが隆々と社会主義建設に成功し、我々の労働者農民が社会主義競争や生産突撃隊に加入し、ツアール時代には陰惨そのものゝ如く想像されてゐたシベリアに全然別な明るい社会主義都市が発展し、共同農場にトラクター隊が行進して今日この有様であることを見、彼等の反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

彼等反革命家共は『シベリアの独立』を第一のスローガンとしてゐるらしい。ソヴエートシベリアが隆々と社会主義建設に成功し、我々の労働者農民が社会主義競争や生産突撃隊に加入し、ツアール時代には陰惨そのものゝ如く想像されてゐたシベリアに全然別な明るい社会主義都市が発展し、共同農場にトラクター隊が行進して今日この有様であることを見、彼等の反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

彼等反革命家共は『シベリアの独立』を第一のスローガンとしてゐるらしい。ソヴエートシベリアが隆々と社会主義建設に成功し、我々の労働者農民が社会主義競争や生産突撃隊に加入し、ツアール時代には陰惨そのものゝ如く想像されてゐたシベリアに全然別な明るい社会主義都市が発展し、共同農場にトラクター隊が行進して今日この有様であることを見、彼等の反革命的分子の悪さき笑ふと同時に帝国主義日本が積極的に彼等を援助してゐることを知らねばならぬ。

（A・9生）

「モップルの月」の斗争を我党の指導の下に展開せよ！

国際赤色救援会日本支部は三月十八日パリコムミューン記念日の翌一日際モップルデーを中心として、三・一五から四・一六までに一ヶ月間を「モップルの月」の大カムパーニアを組織し、広汎なる大衆的アジプロ活動を展開することに決定した。

モップルは決して単なる階級斗争の犠牲者救援機関ではない。組織者として、斗士として具体的な実情に注意に拂ふ技術の訓練である。

我々は党員、革命的労働者並農民諸君が凡ゆる方法を以て「進んでこの事を遂行する事を期待する」

（一九三一・一二・一四）

「モップルの月」の斗争を我党の指導の下に展開せよ！

国際赤色救援会日本支部は三月十八日パリコムミューン記念日の翌一日際モップルデーを中心として、三・一五から四・一六までに一ヶ月間を「モップルの月」の大カムパーニアを組織し、広汎なる大衆的アジプロ活動を展開することに決定した。

モップルは決して単なる階級斗争の犠牲者救援機関ではない。組織者として、斗士として具体的な実情に注意に拂ふ技術の訓練である。

我々は党員、革命的労働者並農民諸君が凡ゆる方法を以て「進んでこの事を遂行する事を期待する」

（一九三一・一二・一四）

「赤旗」活版日刊期成カンパニア
成績発表……(二)

〇・月七五		千葉縣北部地區委員会
〇・六〇		××支局「オ二無新」読者班
二・六五		東京市城西地区本部会
一・一〇	(オ二回分)	「赤旗」印刷局
〇・二〇		青　坊
〇・七五	読者三名獲得	〇〇地区職場工場カンパ支持会
〇・五五		××電車班
二・〇〇		大阪××地区××工細
五・〇〇		党中央組合部
〇・七六		江東地区××工細
〇・五〇		城西地区××街頭細胞
二・〇〇		中部地区本郷会書記局
〇・六三		日本倉庫××工場分会
〇・三〇		×　〇　△　生
五・〇〇		「赤旗」中央配布部
〇・四三		××工場細胞
五・〇〇	(オ一回分)	小・玉　生
一・二八	読者十六名獲得	××地区××工場「旗の友」会
三・〇〇		「オ二無新」編輯局
〇・六〇		△△地区××工場「赤旗」活版日刊期成委員会
八・〇〇		シンパサイザー
〇・二八		××支局「オ二無新」読者班
一・九五	読者七名獲得	××地区××化学工場「赤旗」読者グループ
五・〇〇		党員××生
一〇・〇〇	(オ二回分)	「オ二無新」印刷局

計金五八円三二銭　読者獲得計三十一名

累計百九円六十八銭　読者獲得五十一名

以上は十五日までに編輯局の手許に届いた報告である。

オ二回目発表成績はオ一回に比し全く進歩してゐない。カンパニアの波は高まらないで停滞してゐる。カンパニアは未だ真の大衆的運動となつてゐない。党員や革命的労働者諸君は五千円基金募集、赤旗五万人獲得活動が大衆的な活動方法に依つて、工場の中に大衆的な赤旗活版日刊期成会（名称は何でもかまわぬ。大衆の意向に依つて決めるのが一番よい）を作つて行くことに依つて、はじめて成功するのだと云ふことを知らねばならぬ。この成績表にはほんの僅かではあるが「赤旗」活版日刊期成会が細胞員や「赤旗」読者、「オ二無新」読者のイニシアチーブをもつた指導的活動によつて作られたよい経験がある。

××地区××工場の細胞員は工場新聞でカンパーニアの意義を集中的にアジ・プロし（会員を）その工場内に一つの雰囲気——赤旗に対する絶大の関心——を作り出した。この雰囲気は更に十八日の失業デモの為めの宣伝的組織的活動によつて戦闘的に高められた。斯くしてこの工場では「第二無新」読者、組合分会員、その他未組織ではあるが勝れた戦斗的な数名の労働者が「旗の友」会に組織されたのである。そして我々はこの「旗の友」会がカンパーニアの終了期限までには三倍に発展するであらうと云ふ通信員からの確信に充ちた報告を受けた。「赤旗」活版日刊期成カンパーニアの社会主義競争で現在の所答ある第一位はこの××地区××工場の労働者諸君が獲つてゐる。

我々はその他の工場に於ける「旗の友」会或は「赤旗」活版日刊期成会の組織に関する通信員からの極く簡単なレポを受けとつた。又遺憾なことはレポートがあまりにも簡単すぎることである。期成会の組織は最も重要な経験である。我々は諸君がすぐ詳細なレポートを今一度送る事を依頼する。経験は凡ての工場によつて採取されねばならぬ。経験は斗争の指導者である。

我々は最後に、この社会主義競争に突撃隊となつて活動してゐる全国の同志諸君に、とり分け諸君の周囲に諸君の革命的イニシアチーブをもつて、「赤旗」大衆化の為の大衆的組織へ期成会、旗の友会等々、を作ることに成功した同志諸君に吉はねばならぬ。カンパニアを成功させるものは諸君が大衆の増大せる力を大胆に評価し諸君の活動に大衆を引き入れる事、共産主義者の活動に革命化しつゝある大衆を大担に参加させること、この様な「新しい努力と新しい性勢」（レーニン）の上に諸君が活動を開始する事以外にあり得ないと云ふことだ。大衆的な「赤旗」活版日刊期成会（名称は何でもよい）を作ると云ふこと、これが諸君の任務だ！

脱慨補塡
下より三段二十五行目星印のところに続く。

（工場新聞は「赤旗」オ六十三号所載の中央委員会の決議と檄文、更に同志川辺の論文の抄録をのせ、更に「旗の友」会を援唱した。）

共産主義の教材をもつて

「赤旗」編輯局
（以下余白）

Пролетарий всех стран, соединяйтесь!
★万国の労働者団結せよ！
P.1　赤旗　1932.3.22.

赤旗
第66号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

副期的に重要な一九三二年のメーデーに対する方針——全協拡大中央委員会の任務に就いて　1
日本赤色救援会オ三回全国大会に当つて　4
ニュース　4
消費組合運動における左翼の任務　5
「赤旗」活版日刊期成カムパーニヤ」を通じて党並に全ての革命的組織の財政確立へ　6

副期的に重要な一九三二年のメーデーに対する方針

1 一九三二年のメーデーは、オ二次帝口主義世界大戦と反ソヴエート同盟干渉戦争の直接的危険——ソヴエート同盟干渉戦争は既に始められてゐるーファシズムの横行に対する口際プロレタリアートの新たなる革命的昂揚の中に迎へられる。昨年のメーデー後、一ケ年の間に口際的、口内的情勢は激変した。世界経済恐慌は、資本主義経済体制を震撼させると共に世界的規模に於けるプロレタリアートの大衆的革命化を促進させた。ドイツに於ける革命的危機の著しき成熟はヴエルサイユ体制の危機を益々深刻化し、日本帝口主義は、資本主義的矛盾口以来未だかつて遭遇したことのない危機から救け出るために、ソヴエート同盟、ソヴエート中口攻撃の準備としての満蒙を植民地化し、六個師団の軍隊の外に在郷軍人を集団的に移住させた。更に日本帝口主義は中口の門戸上海地方一帯を占領してしまつた。参謀本部は皇族を待つてシベリヤ侵略を断行すると公言してゐる。彼等は六十五万の軍隊を以てソヴエート同盟の赤軍に、三十五万の軍隊を以てソヴエート中口の赤軍に当る戦略を立てゐる。海軍は既に全ての軍人に動員令を下した。各重港には憧かに一隻づつを残したのみで全ての重艦は既に出征してゐる。日本帝口主義は才二次帝口主義世界戦争、ソヴエート同盟、ソヴエート中口攻撃戦争の想定の下に断乎として口家総動員計画——又に全ての生産部門ばかりでなく、全ての民動団体、青年団、在郷軍人会、処女会及伏新聞雑誌からキネマ、寄席に至るまで、参謀本部のタクトに踊らされてゐる——を敢行しつゝある。

2 飛躍的変化は更に戦争を契機としてブルジヨア独裁のファシスト的形態へ の躍進、ファシズム運動の公然たる全線的展開、社会ファシストのファシストへの急転換の理に現れてゐる。口民社会主義の看板をかけた公然たるファシスト赤松一派と日本共産党労働者派を偶称する解党派スパイ団との合流。更にこれへの田所・松谷・藤岡等の参加・平凡社々長、下中を中心とする総聯合のグラ幹一派の口民社会党等々。すべてこれらは秘密細胞組織で参謀本部に統一される事によつて、色々な名称を以て現はれてゐる一切のファシスト団と結びついてゐる。

3 社会民主々義者がブルジヨアジーにとつてその利用価値が減じつゝあるとはいへ、決して、不必要になつたのでもなく、又存在しなくなつたのでもない。守部を中心とする社会民衆党内の右翼社会民主々義者から山川・荒畑を中心とする労農派の左翼社会民主々義者にいたるまでの存在は、ファシストと共に尚ブルジヨア独裁維持の二大支柱である。

4 恐慌の一切の犠牲を無職化されて「失業と飢餓」に更らされてゐるプロレタリアート、貧農を始めとする一切の勤労者の双肩には更に今日、益大なる戦争費用と、戦争のための強制労働、奉仕労働の負担とがのしかゝつてゐる。都市並に農村の働き手は戦争に引き出されて困窮にされてゐる。かくて、ブルジヨア地主の恐慌切り抜けの為のファシスト独裁の強盗戦争は全ての勤労者を文字通り屠殺し尽さうとしてゐる。このことを理解し始めたプロレタリアート、貧農、勤労者大衆の裡には今や階級的反抗の熔岩が灼然たる大衆的爆発、失業内へ反戦ビラを撒いたと言ふ軍曹の銃殺、企業家と口家全額負担の失業保険を即時制定して即時実施しろ！

5 「階級」の斗ひが副期的に白熱化せる一九三二年のメーデーは、それ故に、又、副期的に重要である。プロレタリアートは、半プロレタリアートはこの日、排外主義に熱狂せる裏只中で（例へば朝日新聞や、新愛聞）帝口の攻撃戦争の第二次帝口主義世界戦争を打ち出せよ！　中口、朝鮮、台湾その他から即時撤退せよ！　ソヴエート同盟、ソヴエート中口を擁護せよ！　と高唱するであらう。プルジヨア独裁の擁護者であり、プロレタリアートの最悪の敵であるファシズム、社会ファシズムを撲滅せよ！　と叫ぶであらう。労働者、貧農を始めとする全ての勤労者を失業と飢餓、野蛮な虐殺から解放する唯一の道ソヴエート日本を建設せよ！　と叫ぶであらう。興隆しつゝある社会主義の口、全世界プロレタリアートの祖口、ソヴエート同盟では、全勤労者が社会主義の勝利を祝福し、帝口主義者の攻撃に対しては断乎たる革命的平和主義を以て祖口擁護を宣言する示威の日として祝はれる、だ。

かくて此の日、全世界は赤旗を以て包まれるであらう。

6 日本のプロレタリアートと貧農は、その偉大なる革命的エネルギーを発揮して階級的団結に対する斗争を宣言してゐる。メーデーはその一つの集中的斗争日である。ソヴエート日本建設のための斗争を指導し得る唯一の党たる我日本共産党は此の日も亦、大衆の先頭に立つて斗ふ。我々は大衆の革命化のテンポに未だ甚だしく立ちおくれてゐる。我々は既にこの立ちおくれてゐる克服のために党ボリシエヴイキ化の具体的手段として「赤旗」活版日刊期成カムパーニアの社会主義競争に突撃しつゝある。メーデー人の準備斗争はこのカムパーニアと結合せられて真に彼等の大衆的行動への急転換に於ける決定

的モメントとなるであろう。あらゆる斗争はこの目標に向って集中されねばならぬ。例へば、更に「モップルの月」「失業者の家」「公判斗争」「全協拡大中央委員会のための斗争等々。これらは全て大衆団体をセクト主義的且和見主義、不必要なる非合法主義から解放して広汎な大衆の団体――たらしめ、必然に合法性を獲得せしめる事に重点を置き党の町水地を広大無辺たらしめるにある。上述の如き合法的並に非合法的全活動は全てメーデーを目標に斗ひ進められつゝある。それ故に今年のメーデーは党ボリシエヴイキ化、大衆的団体の大衆化の社会主義獲得の大勝矣であり、我々の努力のバロメーターであり、更により高き斗争の出発点である。

7 目指す同志並に組織及び団体は、何よりも先づメーデーまでの一ヶ月有半を大衆の――大小を問はず――利益のための日常斗争を精力的に展開し具体的に指導することから始むべきである。斗争をサボり、大衆行動に尻ごみし、大衆の意志に反し、大衆の利益を裏切るやうな指令を地下派から投げつけることを唯一の斗争と心得てゐるが如き同志は断じて勝利し得ないし、大衆の切実な部分的要求のための斗争をこれまでのやうに軽視するやうな公式主義の抽象的指導者は夢にも栄冠は望み得ない。日常斗争の最高の形態はいふまでもなくストライキである。過去の多くの例が示してゐる如く、ストライキ中の労働者こそが政治的大衆示威に最も大衆的に魅力に参加するのである。だが無計画無準備のストライキ煽動が如何に害悪であるかは、横浜市電のストライキが実証した。我々は斗ひを通じて大衆市の全従業員並に電車電灯工場に一斉にストライキを起す戦略の下に今から徹底的に計画を練り、十二分に準備活動を展開しなければならぬ。そのために、我々は目標企業に特別のオルガナイザーを派遣する。が更に党員並に革命的労働者の全てがこれを自己の問題として取り上げ、積極的に参加することを切望する。

8 昨年、広汎な大衆動員に成功した新潟車庫では、「組織に行かう」と大衆ミーテングしてメーデーに引き出した。山梨では、大衆を城塞してメーデーのデモに参加させた。かくの如きことは二度と行はれてはならぬ。共産主義者、革命的労働者倶楽部は、早くから特別の工場や集会に依つてメーデー広汎に徹底させ、彼等をして自発的に参加させなければならぬ。メーデー斗争基金カムパニア、メーデーのダ、ソヴエートの友の集り、演説会、報談会、展覧会、キネマ、芝居、スポーツ、ピクニック等々のメーデーのための準備活動は必ず大衆的規模に於て公然と行はれなければならぬ。過去全ての政治的大衆示威の後の批判はキマリ切つて「準備斗争が不充分であつたゝめ当日工場からの動員が利かなかつた」といふのであつた。今度こそはかゝる批判を繰返すな！

9 「メーデーはその独立以来、国際プロレタリアートの「国家権力に対するのである。だが無計画無準備のストライキ煽動が如何に害悪であるかは、横浜市電のストライキが実証した。我々は斗ひを通じて大衆市の全従業員並に電車電灯工場に一斉にストライキを起す戦略の下に今から徹底的に計画を練り、十二分に準備活動を展開しなければならぬ。そのために、我々は目標企業に特別のオルガナイザーを派遣する。が更に党員並に革命的労働者の全てがこれを自己の問題として取り上げ、積極的に参加することを切望する。

8 昨年、広汎な大衆動員に成功した新潟車庫では、「組織に行かう」と大衆ミーテングしてメーデーに引き出した。山梨では、大衆を城塞してメーデーのデモに参加させた。かくの如きことは二度と行はれてはならぬ。共産主義者、革命的労働者倶楽部は、早くから特別の工場や集会に依つてメーデー広汎に徹底させ、彼等をして自発的に参加させなければならぬ。メーデー斗争基金カムパニア、メーデーのダ、ソヴエートの友の集り、演説会、報談会、展覧会、キネマ、芝居、スポーツ、ピクニック等々のメーデーのための準備活動は必ず大衆的規模に於て公然と行はれなければならぬ。過去全ての政治的大衆示威の後の批判はキマリ切つて「準備斗争が不充分であつたゝめ当日工場からの動員が利かなかつた」といふのであつた。今度こそはかゝる批判を繰返すな！

9 「メーデーはその独立以来、国際プロレタリアートの「口家権力に対するメーデーの闘争的意義は、我々が万難を排して赤色メーデーを独自的に断行した点にある。今年のメーデーはまた以上に独自に断行されるといふだけでは満足出来ない。プロレタリアートの要求や意向をジグザグしてブルジョアジーの命令通りに行はれる官許メーデーへは一人のプロレタリアートをも参加させないで全労働者

新聞紙型、活版、赤旗の
標題の意匠を募集す！
カムパニヤの成功的遂行によつて、赤旗の新聞紙型活版実現の日は近い。
我々はこの厖大な事業を記念するために、懸賞の意匠を広く諸君諸君から募集する。諸君は一週間以内に面白き意匠、筆を執れ！
合法的新聞紙型、活字版赤旗の最初の発刊の日は近い！
赤旗編輯局

とゝして本来の意味に於けるメーデーではない。一九三一年メーデーの劃期的意義は、我々が万難を排して赤色メーデーを独自的に断行した点にある。今年のメーデーはまた以上に独自に断行されるといふだけでは満足出来ない。プロレタリアートの要求や意向をジグザグしてブルジョアジーの命令通りに行はれる官許メーデーへは一人のプロレタリアートをも参加させないで全労働者

10 来、国際プロレタリアートの「国家権力に対する内の文化サークル、モップル班労救班、労働者農民のソヴエート友の会、反帝班、婦人、全協、全農等の大衆団体が現在の絶互セクト主義的日和見主義を克服して自己本来の役割を成功的に果すべきである。大衆団体の活動を強化せよ！ 大衆団体を大衆化せよ！

13 今年のメーデーに課せられた劃期的意義の一つは我々が労働婦人、農村婦人、労働者農民の妻帯妹、等の婦人を如何に多く動員するか、特に未来――百既に現在――の階級戦士たる少年隊を如何に多く動員し得るかにある。更に在郷軍人とその家族、出征兵士の家族、階級的政治犯人の家族を大衆的に動員しなければならぬ。

14 特に陸海軍兵士に呼びかけ、兵営、軍艦内で活動し、軍服を着けた労働者農民をメーデーに動員する等、二百五十万の兵業者とその家族を広汎に動員することは、今年のメーデーに課せられた大きな任務の一つである。

メーデーは、労働者と貧農の革命的同盟軍の闘争であり、共同行動の演習であらねばならぬと同時に、プロレタリアートは唯一の革命的階級として、最も勇敢に、最も軍事科学的に、メーデー斗争の先頭に立ち、プロレタリアートのヘゲモニーを現実に確立しなければならぬ。農民の間に階級意識と階級斗争とが甚だしく高まつてゐた三重のメーデーがプロレタリアートの多くゐる都市で行はれて大成功を収めた経験は、我々に偉大な教訓を与へてゐる。

15 メーデーデモの軍事科学的準備と予行演習の如何はメーデーのための上述の如き一切の準備活動と共に赤色メーデーの成功と失敗とを決定する。我々は三月十八日モップルデーに行はれる失業反対斗争のデモの経験を徹底的に分析し、批判検討するであらう。

16 我々はメーデーに対しても、全市的又は地方的集合地点、集合時間、出発時間、デモが向つて進撃する目標地点を早くから、もつと大胆に公表する方針である。

17 各工場、鉱山、車庫、船舶、商舗、官公廠、農村では、未組織たると改良主義組合たるとを問ふことなく又「五賢」を除外することなく全労働者、全貧農が下からの集会を開いて、メーデーのスローガンを大衆的に決定し、ブルジヨア独裁政府並にその奴隷たるダラ幹からのスローガンの撤回又は戒厳令要求に断乎として反対することを決議し、メーデー斗争本部会を下から大衆的民主的に送り出し、これにメーデーまでの一切の斗争を遂行せしむべきである。メーデー斗争本部会は必要に応じて屡々拡大会議を召集して、常に大衆の意向を聞き、民主的決定に俟つべきである。

18 ファシスト、社会ファシストに依つて計画されるソ同盟主義記念日、排外主義宣伝のファシスト的メーデー準備の打合せ会に対する我々の方針は、かゝる会合へ多数の党員並に革命的労働者農民がありゆる努力を払つて大衆的民主的に送出され、積極的に参加し、冒頭されやうとするメーデーの革命的意義を煽動宣伝し、労働者農民の切実な要求――即ち我々のかゝげるスローガン――をわかり易く、辛棒強く、親切に説明し、支持させる事に成功し、反対にファシスト、社会ファシスト共の階級的裏切り計画をバクロし、粉砕し、官許メーデー計画を赤色メーデーに転換すべく努力すべきである。

19 大衆的民主的基礎の上に立つ赤色メーデーが我々の方針通りに成功的に行

20

日本共産党中央委員会発行月刊機関誌
党建設者 別冊
（定価10セン）
読メ！
本書は党の宣伝煽動並に組織活動に関する具体的な指導方針と豊富な全口的経験を集めたものである。全部の党員、革命的労働者農民は本書に依つて新たなる段階に於ける党活動の新たなる方法と形態を学び取れ！ そして工場と農村からバリ〳〵突撃せよ！

は利得ないが、官許メーデーは実質上不可能となる筈であるが現在の我々の力関係、ブルジヨア独裁のファッショ的弾圧並にファシスト、社会ファシストの反革命的策動や、スパイ活動を正当に評価する時、去年に比して飛躍的に反動化したメーデーがブルジヨアジーの奴隷共に依つて計画され、意識の後れた労働者、貧農が相当多数に動員され、赤色メーデーに対抗して行はれるであらう事を我々は率直に承認しなければならぬであらう。昨年、我々は改良主義の組織の革命的反対派等の同志を官許メーデーに参加させる方針を取つたが、今年は全労働者に、赤色メーデーのみに参加せよ！と呼びかける。そして五月一日（日曜日）は早朝から夜まで一日中をデモりつゞけることを提案する。

21 労口会、大民クラブ、口士館、質業舎、神道聯盟、関東口粋会、愛口学生班、愛口青年聯盟、愛口労働者聯盟、帝口在郷軍人会有志、青年団有志等々は「メーデー擁護対策委員会」を開催して、反革命的示威と白色デロルとを以て国際プロレタリアートに挑戦してゐる。赤色メーデーは、大衆的民主的に有志を募つて自衛隊警備隊を編成して自らを守らなければならぬ。「一人の労働者をも警察へ渡すな」同志を大衆の力で奪還せよ」自衛隊警備隊には必ず婦人や少年戦士を加ふべきである。今年の赤色メーデーは、ファシスト的白色デロルとの戦斗を予想する事が要求されてゐる。我々は数千、数百の堂々たる大部隊の軍隊で、これに対抗しなければならぬ。「デモ組織については別に詳述する。

22 メーデーのスローガンは大衆が民主々義的討議によつて、それを都市又は地方で具体化し、統一し、メーデー行進の旗に掲ぐべきである。それ故に、中心的スローガンは例へば、A工場とB農村、C都市、D地方とは異るものがあるだらう。かくて、始めて、部分的スローガンが真に工場、農村の切実な要求となり、大衆のスローガンとなる。これらのスローガンは当日までに、全大衆に広汎に宣伝煽動さるべきであり、メーデー後の大衆斗争の鍵の声となるべきである。日本のプロレタリアートは、メーデー斗争を契機として、今度こそ、口際的スローガンを、真に大衆的なものたらしめなければならぬ。

23 一九三二年の劃期的メーデーて、我々は党の立ちおくれを急速に克服し、迫りつゝある決定的斗争の決定的条件たる「革命の主観的条件」を十二分に整備しなければならぬ。メーデー準備を組織せよ！ メーデーを組織せよ！ そして更に、メーデーの後を組織せよ！

24 口際プロレタリアートの共同斗争の万口の労働者団結せよ！ 食と仕事と土地と自由を与へよ！ 賃銀低下を伴はざる（有害な産業の七時間労働制を実施して失業者を産へ！ 戦争のための強制労働、奉仕労働、賃銀三割以上値上げ！ 民族、性、年令に依る差別反対、同一労働に対する同一賃銀！ 少年及婦人労働者の特別保護！ 失業、半失業反対！ 企業家と口家全額負担の失業保険を即時制定し即時実施しろ！ 失業保険が実施されるまで失業手当を現金でよこせ！ 十数億の軍事費、警察費等、労働者農民並にその家族を救へ！ 労働者農民弾圧費で、失業者、貧窮者に衣食を与へよ！ 天皇、資本家、地主の宮殿、大邸宅を開放して労働者、貧窮者に提供せよ！ 電灯料、水道料、ガス代、汽車電車運賃、等に対する斗争！ 食糧の小作料、税金、借金の免除！ 労働者農民の教育費口家全額負担！ 十八歳以上の男女に同一の政治的権利を与へよ！ 陸海軍兵士の待遇をよくしろ！ 兵士代表で軍隊、軍艦生活の管理委員会を組織せよ！ 懲戒罰の廃止！ 兵士に労働組合加入並に組織の権利を与へよ！ 兵士に選挙権及び政治的集会への出席の自由を与へよ！

25 だが、これら一切の成功は、その地下に、死を恐れざる革命的情熱あり、最も厳格なる鉄の規律あり、最も卓越せる非合法技術ある党の細胞から中央部に至るまでの非合法活動を前提してのみ、可能である。例へば中央部と全口の細胞との連絡が「正確、緊密、敏速」であり、如何なる弾圧にも断じて切断されないやうに二重三重の方法を確立して置くことが、特に絶対必要である。

25 メーデーの主たるスローガンは次の如くである。

帝国主義戦争をプロレタリア革命の内乱に転化せよ！
失業と飢餓の天皇制、資本家地主の政府を打ち倒せ！
大地主、天皇、寺社の土地の没収！
銀行、鉄道、その他一切の大企業没収！
労働者農民のソヴエート政府樹立万才！
プロレタリア独裁万才！
ソヴエート同盟、朝鮮、台湾、中口、アメリカ等の革命的労働者農民と手を握れ！
日本労働組合全口協議会万才！
太平洋労働組合会議万才！
全労、全農、其他一切の改良主義組合内の革命的反対派万才！
日本共産青年同盟万才！
日本共産党大衆化万才！
革命的口際労働組合の指導部プロフインテルン万才！
共産主義青年インタナショナル万才！
口際プロレタリア革命の指導部コミンテルン万才！
世界ソヴエート共和口万才！

一九三二年三月十七日

日本共産党中央委員会

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労働者団結せよ！
P.4. 赤旗 1932.3.22.

全協拡大中央委員會の任務に就て

三月末に開かれる全協拡大中央委員会は大きな政治的意義を有する。その全般的問題に就ては同志章川が本紙前号に述べてゐるので我々はこゝで革命的労働組合の戦略・戦術の基本的向題の若干を扱ふことにする。

今回の拡大中央委員会の中心議題は「革命的労働組合運動の諸任務」の規定大けではなく、この規定を「如何にして実行するか？」の問題である。何をなすべきか？の問題は「それを如何に遂行するか？」の問題と切り離すことは出来ない。

経済斗争を組織せねばならぬ」とゝふコミンテルン・プロフィンテルンの規定に全然首肯するものである。所が実際にはゞうであつたか？言葉の上丈けで賛成ではなかつたか？それはわれ〳〵自身の問題に対する正しい解答と確信とが欠けてゐたが為であると言ひ得るであらう。そこからして、経済斗争に対する非積極的態度、無計画的斗争立ち遅れが生れて来るのだ。上層我関からの指令、指導は余りにも一般的抽象的であつた。かくして、我々の前には、産業別及地方別的な行動綱領の具体化と云ふ問題が立てられる。各産業、各地方又は各重要企業所に各々そこでの特殊的条件を考慮に入れての要求の作製、斗争方法の決定がなされてこそ始めて真に大衆的斗争を系統的に、計画的に準備し、指導することが出来る。経済斗争の独自的指導の正しい遂行は正にストライキの戦略を持つことである。

第二。組織概念（と言ふよりは名称のみに）拘泥主義の清算

第八回プロフィンテルン中央評議会々議で採用された日本の組合運動に関する決定によれば、全協の組合会合といふ名称にのみこだはつてゐることは決して賢明なことではないのである。たとへば、親睦会とかスポーツ団体、又は文学サークルとして組織するならば、検挙すれば、大衆的に、下からの統一戦線戦術の適用によつて、大衆を組織し得る条件と形勢がある限に、之を見向きもせずに、只全協の名称にのみ拘泥してゐるが為に何等の仕事もなし得ず、二人或は三人の分会準備会は組合や党の文書を読み合つてゐるとゝふやうなことを指してゐるのである。又、全協加盟組合員は五名位たび影響下分子と目されてゐる労働者は二十乃至三十名ある場合でも同様ことが言ひ得る。重要なことは名称のみにあるのではなく、その組織が革命的組合の戦術を如何に忠実に遂行し得る大衆的なものかにあるのだ。二人或は三人の組合員が敢則的に活動しなければならぬことは言ふまでもないが、問題は如何に有効に活動するかにある。大衆的組織を作らずにへすればよいといふのではなく、その大衆的組織が全協の政策を遂行し得る様に組合員がその組織のイニシアチーヴをとり、指導に当らねばならぬと云ふのである。かくすることに依つてその組織はたとへ名称が〇〇工場親睦会であらうとも実質的には革命的労働組合なのである。

全国協議会の旗を下ることとは決して同一ではない。否、全協の旗、その革命的政策の正しい実行こそが右のことを要求するのである。下からの統一戦線戦術の正しき適用とは、大衆の現実的要求を基礎として、それの獲得の為の組織を作ることである。如何なる反動的に革命的組合の組織が厳として存在する時、全国的中央指導部は何時でも再建し得るし、且つ、敵の逆襲、迫害に抗することが出来るのである。

序に言及しなければならぬことは現に存在する文化団体の組織してゐる工場、経営内の文学演劇、スポーツ等々のサークルの問題である。労働組合運動と文化運動とは異なるものだといふ見地から工場内、経営内にある是等のサークルの活動を文化運動の範囲内にのみ止めよう、押し込めようとする指導者は日和見主義者である。それらは団結の名ある労働者は二十乃至三十名ある場合でも同様ことが言ひ得る。重要なことは名称のみにあるのではなく、その組織が斗争から比較的に抵抗の少い教育面に逃避することなのだ。文化団体下のサークルとして何をなすべきか中心問題ではなくて、当該工場・経営の労働者能率員は何をなすべきか？が中心なのだ。革命的組合員はかゝる組織を先づ如何にして該工場内に於ける現実問題に関する斗争へ動員させるかを中心問題としなければならぬ。そこでは文化サークルの指導者との対立や縄張り争ひをやることではなくて、如何にしてそれと協力し、正しく利用するかでありねばならぬ。

第四。プロレタリア民主々義の実行。組合代表の選挙と云ふことは非合法下にある革命的組合にとつては非常に困難ではあるが、たゞ不可能ではない。一寸話が分りさうだから、小才が利くからとゝふので街頭分子を指導的核関に入れるといふ従来のやり方は全然改められねばならぬ。企業にシッカリした基礎を持つた指導者をこそ我々は持たねばならぬのである。永文斗争の中心はかゝる指導者によつて特に成功的にたへ初めは不手ぎわであらうとも——実行されるのである。労働者大衆の中から、如何にしてこの団体を正しく組織し得る条件と形勢があるかの点に、実際の仕事を見向きもせずに、只全協の名称にのみ拘泥してゐるが為に何等の仕事もなし得ず、二人或は三人の分会準備会は組合や党の文書を読み合つてゐるとゝふやうなことを指してゐるのである。又、全協加盟組合員は五名位たび影響下分子と目されてゐる労働者は二十乃至三十名ある場合でも同様ことが言ひ得る。重要なことは名称のみにあるのではなく、その組織が斗争から比較的に抵抗の少い教育面に逃避することなのだ。文化団体下のサークルとして何をなすべきか中心問題ではなくて、当該工場・経営の労働者能率員は何をなすべきか？が中心なのだ。革命的組合員はかゝる組織を先づ如何にして該工場内に於ける現実問題に関する斗争へ動員させるかを中心問題としなければならぬ。そこでは文化サークルの指導者との対立や縄張り争ひをやることではなくて、如何にしてそれと協力し、正しく利用するかでありねばならぬ。

第四。プロレタリア民主々義の実行。組合代表の選挙と云ふことは非合法下にある革命的組合にとつては非常に困難ではあるが、たゞ不可能ではない。一寸話が分りさうだから、小才が利くからとゝふので街頭分子を指導的核関に入れるといふ従来のやり方は全然改められねばならぬ。企業にシッカリした基礎を持つた指導者をこそ我々は持たねばならぬのである。永文斗争の中心はかゝる指導者によつて特に成功的にたへ初めは不手ぎわであらうとも——実行されるのである。労働者大衆の中から、如何にしてこの団体を正しく組織し得る条件と形勢があるかの点に、実際の仕事を見向きもせずに、只全協の名称にのみ拘泥してゐるが為に何等の仕事もなし得ず、二人或は三人の分会準備会は組合や党の文書を読み合つてゐるとゝふやうなことを指してゐるのである。又、全協加盟組合員は五名位たび影響下分子と目されてゐる労働者は二十乃至三十名ある場合でも同様ことが言ひ得る。重要なことは名称のみにあるのではなく、その組織が斗争から比較的に抵抗の少い教育面に逃避することなのだ。文化団体下のサークルとして何をなすべきか中心問題ではなくて、当該工場・経営の労働者能率員は何をなすべきか？が中心なのだ。革命的組合員はかゝる組織を先づ如何にして該工場内に於ける現実問題に関する斗争へ動員させるかを中心問題としなければならぬ。そこでは文化サークルの指導者との対立や縄張り争ひをやることではなくて、如何にしてそれと協力し、正しく利用するかでありねばならぬ。

第五。組合財政の確立。この問題は全国協議会及び加盟全産業別組合の前に最も厳然に立てられてゐる。金がないからといふことを口実として活動をサボり、如何にしてこの問題を正しく解決すべきかを問題にしないといふ組合の幹事が指導者多数あることによつて極めて正しくあることは決して善意に満ちたる現象ではない。否、かゝる現象は最も悪質に清算されねばならぬ。

全国協議会をして真に大衆的労働組合にすること、それによつて**公然たる存在**を獲得することは革命的組合の中心任務である。拡大中央委員会はその問題の具体的解決の為に両僧されるのだ。拡大会議は右に述べた諸問題を正しく取扱ふことによつて勢力を上げ得るであらう。拡大会議の成功はまた我が党の組合政策の正しき実践として全党員の双肩に負はされたる重大な任務である。

（三月十五日）

〔三堀猛〕

日本赤色救援會第三回全國大會に當つて

日本赤色救援会の第三回全国大会は、来る四月一日より三日間に亘つて挙行される。

戦争と、一層狂暴化せる白色テロルと、この真只中に闘はれる大会は、また同会がモップル（国際赤色救援会）加盟後最初の全国大会であり、今秋十一月モスクワに開かれるモップルの世界大会を前にして、その意義は益々重大である。

今、内地、台湾、朝鮮の牢獄に、三千人に余る階級的政治犯人が満ち溢れ、ストライキ・小作争議の犠牲者は未曾有の数に上つてゐる。これらの犠牲者の救援と、救援のために、白色テロル反対の斗争を強力に展開することは、（労働者農民斗一の急務である。（全日）

全大会を期してモップルに参加せよ！

全日本大会をして戦争及び白テロ粉砕の一大示威だらしめよ！

日本赤色救援会の拡大強化万才！

以上

Пролетарий всех стран соединяйтесь
★万口の労働者団結せよ！
P.5 赤旗 1932.3.22.

ニュース

参謀本部戦備をさく怠りなし

△**奉**天郊に飛行場設置。チチハルまでも伸したのはこの為であつた。東支鉄、シベリア鉄道破壊のための戦略的施設なり。

△**朝**鮮羅南会道に飛行場建設。朝鮮の革命運動弾圧、ソ同盟攻撃の為。敦化号の建造もこれらにコンタンがある。

△**カ**ラフトへ大砲の輸送（前々号を見よ）増々甚し。同時に令や大飛行場建設中。同方面海峡を強行軍でシベリアへ!!ソ同盟攻撃へ!!

△**荒**木陸相上海派遣軍中将一師団及び久留米からの混成旅団撤退を称賛した後「心配する必要なし」と声明す。然り、その前日に「宇都宮師団全部上陸すべきであつたから。その外武装部隊の大部隊あり、機械兵隊あり、重砲の増派あり、「心配する必要なし」である。

△**満**州及び上海に派遣されてゐる日本軍の総数は七十四、五万を算す。動員令は全日的に下つてゐる。

△**中**口米軍隊の活躍は目ざましい。日ソ危険軍の中にもその数の常備ありて指導す日と日本の大臣が公表した（本紙前号）。上海親玩撃の後に上海増派に暴動を企画した。赤軍は北満（ソ）を攻めた。北満には便衣隊の活躍あり。これ日本帝国主義者の画策の種である。

△**満**州及び上海に派遣されてゐる日本軍の総数は七十四、五万を算す。動員令は全日的に下つてゐる。

△**中**口米軍隊の活躍は目ざましい。日ソ危険軍の中にもその数の常備ありて指導す日と日本の大臣が公表した（本紙前号）。上海親玩撃の後に上海増派に暴動を企画した。赤軍は北満（ソ）を攻めた。北満には便衣隊の活躍あり。これ日本帝国主義者の画策の種である

消費組合運動」に於ける左翼の任務

三月二十日、二十一日の両日に開催消費組合飛躍第二回大会及びそれに引続き二十二日、二十三日の両日、日本無産者消費組合戦闘同盟準備会第二回拡大中央委員会が開催される。

これらの会議を前にして最近愈〻深刻化に於ける「無産階級」統一戦線の問題に関連し、所謂「超党派」の問題に就き同組合内の左翼の一部若干の政治的混乱が生じて居る。

我々が消費組合を以て「超党派」的団体と云ふのは、それが一定の政治的傾向を持ち、その為に結集した団体、即ち政党ではなくして、政党の外に独立した一般大衆の経済的利益を基として組織された団体であると云ふことに外ならぬ。

従つて消費組合に全団体として一政党の支持を強制することは出来ない。それは絶対に間違ひである。だが、同時に又その内部では尼ゆる政治的意見の討議、その為の宣伝煽動及活動の自由が存在しなければならぬ。之が最も必要な根本的問題である。それは労仂組合、農民組合、モップル、労農救援会、反帝同盟その他将々の党外大衆団体組織の場合と全く同様である。

併し乍ら、この事は消費組合の政治的階級中立を意味するものでも決してない。否日の如く全社会最も明白な階級対階級の政治的陣営に分裂してゐる時に、如何なる大衆生活の微少な日常経済上の問題も、階級的政治斗争の見地を離れて最初的組織を決定する事は不可能である。それは絶対に不可能である。

三月二十日、二十一日の両日に開催消費組合飛躍第二回大会及びそれに引続き二十二日、二十三日の両日、日本無産者消費組合戦闘同盟準備会第二回拡大中央委員会が開催される。

これらの会議を前にして最近愈〻深刻化に於ける「無産階級」統一戦線の問題に関連し、所謂「超党派」の問題に就き同組合内の左翼の一部若干の政治的混乱が生じて居る。

我々が消費組合を以て「超党派」的団体と云ふのは、それが一定の政治的傾向を持ち、その為に結集した団体、即ち政党ではなくして、政党の外に独立した一般大衆の経済的利益を基として組織された団体であると云ふことに外ならぬ。

従つて消費組合に全団体として一政党の支持を強制することは出来ない。それは絶対に間違ひである。だが、同時に又その内部では尼ゆる政治的意見の討議、その為の宣伝煽動及活動の自由が存在しなければならぬ。之が最も必要な根本的問題である。それは労仂組合、農民組合、モップル、労農救援会、反帝同盟その他将々の党外大衆団体組織の場合と全く同様である。

併し乍ら、この事は消費組合の政治的階級中立を意味するものでも決してない。否日の如く全社会最も明白な階級対階級の政治的陣営に分裂してゐる時に、如何なる大衆生活の微少な日常経済上の問題も、階級的政治斗争の見地を離れて最初的組織を決定する事は不可能である。それは絶対に不可能である。

それ故に我々消費組合の活動とその発展の為に無関心でゐることはいゝ加減され難い筈である。我々は我々の立場に立つて参加し、支持し、指導し、不断の地味な大衆的日常斗争を通じてそれを我々の革命的戦線に引き入れ、更に出でゝは我々の正しい階級的政策を果させねばならぬ。

その為に最も革命的理論を振り起し、行動的に組合全体にこの様な積極的な活動を要求し、その為に組合全体に対する指導権を獲得しなければならぬ。

労仂争議、小作争議の応援救援活動への参加から、安い品を高く売る為の団体購買に至る迄、凡ゆる日常闘争を通じて、組合員大衆の政治的訓練を行ひ、彼等を革命的戦線に獲得しなければならぬ。

消費組合運動は、かゝる斗争を通じて、消費組合内に於けるブラクション活動を確立、強化、拡大し、我々の左翼的任務を果さねばならぬ。

左翼のかゝる組織的指導なくしては、消費組合運動は到底その現在の階級的使命を正しく遂行し、ソヴエート同盟の社会主義建設に於ける大衆の偉大なる革命的役割の如き将来の仕事を期待し得ないであらう。

「赤旗活版印刷」期成カンパニアを通じて……党並に凡ての革命的組織の財政確立へ！

「財政活動をもつとく」

「討論化せねばならぬ」

X X生

党がその一周年の伝統的な輝かしい記念日を迎へるに当つて、我々は党の革命的な指導の下に、我々の新聞「赤旗」の財政確立の為に、全力を挙げて闘はねばならぬ。

我々は「直ちに実行する」事を誓ひ、その実現に努力する」事を誓ひ、と共に、それを通じて、各〻この斗争の具体的成果の一つとして党並に赤旗の革命的組織の財政確立に向つて進まねばならぬ。

我々のモットーを払つて勇敢に斗はれた第六回党並労斗拡大会議の決議に従ひ、党並にその指導に成功のプラスを加へ得たかその全体的成果はまだ我々は明らかに知らない。だが全組織の全部門を挙げて斗はれたこの斗争はその組織その部門の同志に如何多の教訓を、殊に自分の仕事のどこに欠陥があつたかをハッキリ示した筈だ。

試に我々の有するすべての報告書は斗争に依つて始めて明白にされる。勿論一の欠陥は他の幾多の欠陥とそれからそれへと結び付きから合つて我々の行動の上に表はれるものであらうがその一つとして、特に、この進撃斗争を通じて表はれた大きな欠陥として我々は革命的組織の「財政問題」「財政活動」に関心しなければならぬ。

我々はよく「財政問題」「財政活動」と云ふ事を聞く。「無産青年」或ひは「労仂新聞」が出ないとか、「印刷は出来上つたが、金がないから出せないとかゝ云ふ事を聞く。或ひは又口の下に斗ふ我々は「金」のない為に色〻と口実を設けて活動が必要だ。

だが「金」のない事は斗争の回避を意味するものではない。

「金」のない事は斗争の回避を意味するものではない。

「金」のない事は斗争の回避を意味するものではない。

面の敗北戦術を排して職場に根
張つた。全部の軍勢を軍事的に統
約三台の車を準備上に留め、統
率の整備を合図として全員がそれ
れに立てこもり、そこを拠点団
本部にし、完全に生産のノド笛
を押へた　これは経営に敵が利
用し得る武器を逆に行動の指揮
することによつて攻撃に出たと
ころの現実な戦術であつた。従
業員側のすべての作戦が敵味方
の力関係を充分に評価し、自己
のカを最大限に発揮する方法に
於てなされ、常に会社側の意表
に出で終始、敵の作戦を無効に
終らせた。例へば地下電車の引
上作業に対抗して工アーブレー
キとハンドブレーキをイツパイ
に掛け、車台とレールを密着さ
せた車の如き、そしてそれに必
要なワイヤーロープや鉄線等が
前以て準備されてあつた等々。
かゝる方法は交通事業はかりで
なく、あらゆる企業あらゆる工
場のストライキに充分利用され
ねばならぬ。

才四、政民主義者の応援に名
を借る指導（実は売り渡し）を
断乎としてハネツケること、之
は当然なことではあるが、これ
までも屢々ストライキで最初か
ら政民主義者によつて或は中途
から政党の口車に乗せられて無
元場を飯まされた苦い経験から
従業員自身が全口協議会の方針
とその指導のみを信頼しそれに
よつて行動したことが争議勝利
の根因の重要な一つとして挙げ
られねばならぬ。

ストライキが始まるや東京交
通労働組合の政民主義幹部共が
打ち連れて争議団を訪問し、親
切らしく応援を申出んだが、彼
等の所謂「応援」が何であるか、
何であつたか？　よく知り抜
いてゐる従業員は「頭だけの応
援は真の平だ」「有難迷惑だ」
と云つて追ひ返した。
この従業員の覚悟、その行動、
その意義は全口の労働者大衆の
間に広く宣伝されねばならぬ。

才五　述べられた斗争各員の
すべての欠点、その条件を一つ
一つ従業員大会にはかり、そこ
の決議に基づいて交渉が行はれ
たことも積極的とすべきである。
百五十数名かの全従業員の間に
は髪の毛一本のスキもなかつた
といふ固い結束は斗争の準備中
斗争中、斗争の打切りに際して
完全に争議団大衆の全意志が反
映される様な完全な民主々義的
方法がとられたからである。其
と同時に特筆すべきは婦人の要
求が最後まで全員によつて積極
に支持された姿である。政民主
義者が申し訳的に婦人の要求
を掲げ、女連に入るや、ハヤム
ヤに引き下して知らぬ顔を決め
こむのとは全く反対に最後まで
男女労働者が一致してこの要求
を貫徹する為に斗つたことは婦
人の特殊的要求が男子労働者と
の堅き共同によつて獲得され、
婦人の特殊的部分的要求を支持
して斗争することは労働者の全
般的利益を守る上に絶対に必要
であるといふことがハツキリと
実証された。この事実は革命的
労働組合に於てさへ婦人の要求
が片手間に取扱はれ、軽視され
てゐる傾向に対する大きな教訓
でなければならぬ。

才六、ストライキ団が可成り
巧みな駈引政力を発揮したこと
が争議勝利の原因の一つとして
数へられる。争議団は、従来あ
つた様な力と条件も持へずに公
シヤラに行動するのではなく
孔々相得り得られる条件を相互
の力関係の正しい評価によつて
見極めてゐて、それを固守とし
て交渉に当つて充分に駈引をや
つた。そして廿一ケ条の要求条
項が承認されるや充分に余力を
残して秩序正しくストライキを
打ち切り、資本家側が若し強硬
に出でさてそれに対して充分
な力打ち出来る様に陣営を再組
織した。即ちこの争議を通じて
全協日本交運に大衆的に加盟し
たばかりでなく、地下鉄従業員
クラス」といふ会議を組織し、日
本交運を支持する示威を採用し、
その下に日常の斗争を引ふこと
に決めた如きその一つである。
以上は主として ストライキの
積極的成果に就てゐるが、我
々は不充分な点を見逃してはな
らぬ。それは次の点である。

才一、争議団が幻想的の調停
を拒否し、会社側と直接交渉し
て解決をつけなかつたことであ
る。争議団は前以て妥協し得る
限度を従業員大会によつて決め
たとはいへそれを以て直接交渉
せず、その条件と調停条件が接
近して初たとき又ふことに気づ
かずにその調停に引付けられ
てしまつた。あの場合言葉は
穏かでもよい「直接会社側と話
をつけるから手を引いて貰ひた
い」と云ふ風に自信の調停を拒
否することが必要であつた。

才二、全口協議会がこの争議
を機として同種企業或は他の産
業の工場に応援の斗争を喚起し
て争議を拡大する為に充分積極
的でなかつたこと、特に日本交運
が初め電鉄やバス相手に同様な
問題で不安と動揺が高まりつつ
あつた時期を捉へて大衆を捲き
込み、全市を動員する様な大衆
的政治ストライキに発展させる
ことを大きな不充分として批判
せねばならぬ。ブルジヨア新聞
は三面記事のトツプに大きく書き立てゝゐたのであるか
ら、革命的労働者がせめて全口
協議会の開かれる迄の間に、自己
の力を最大限に発揮する方法に
ついて、例へば市電の為に市民
大会を開き、市電の為に市民大
会を開き、市電の為に市民大
会を開き、市電の為に市民大

日本赤色救援會第三回大會に送るメッセージ

大會代議員諸君！

親愛なる大會代議員並に大會に參加せる全労働者農民諸君！

日本共産党中央委員會は戰爭と革命の時代のオニの丁度此の時期に於て資本家他主の荒れ狂う白色テロルの裡に不斷の活動を組織し、組織と斗爭とを拡大、強化しつゝある日本赤色救援會の第三回全国大會に對し無限の親愛と敬意とを以て挨拶を送る。

日本赤色救援會の創立以來四ケ年に及ぶ革命的傳統は、日本プロレタリアートの解放の爲の斗爭に於て、最早消しがたき存在となった。日本赤色救援會が常に日本の労働者農民を始めとする一切の被抑圧勤労大衆、更に口際プロレタリアートの協力の下に、国境を超え民族を超え、凡ゆる労働者農民の階級斗爭の戰線者とその家族に對して物質的精神的強力的に救援し、支配階級のテロルに對して斗爭し来つた業績に對して、我が党は日本並に全世界のプロレタリアートを代表して心からの感謝の意を表する。

大會代議員諸君！

我々は諸君に隨君の大會が今日極めて重大なる意義を有する時期に於て開かれつゝある事を注意する。日本帝国主義の中国に對する根強き戰爭の脅威の中に、第二次帝国主義世界戰爭プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟攻撃の直接的危險及びファシズム支配の出現と云に對する。プロレタリアート會戰を始めとする一切の勤労者の斗爭の指導との間に大會は開かれる。階級對階級の斗爭が今日程激化した事はない。經濟恐慌の底なしの深化は三百万を超える失業者を街頭に捨れしめ、特に戰爭の爲に負を強めた労働階級に依る搾取の増大と相俟つて勤労大衆の生活を根底から破壊し、飢餓線上につき落してゐる。「斗爭か然らずんば死か」との命題は今日日本に於ける全勤的勤労大衆の凡ての問題に於て資本家他主の荒れ狂う白色テロルの裡に不斷の活動を組織し、組織と斗爭とを拡大、強化しつゝある日本赤色救援會の第三回全国大會に對し無限の親愛と敬意とを以て挨拶を送る。

日本赤色救援會の創立以來四ケ年に及ぶ革命的傳統は、日本プロレタリアートの解放の爲の斗爭に於て、最早消しがたき存在となった。日本赤色救援會が常に日本の労働者農民を始めとする一切の被抑圧勤労大衆、更に口際プロレタリアートの協力の下に、国境を超え民族を超え、凡ゆる労働者農民の階級斗爭の戰線者とその家族に對して物質的精神的強力的に救援し、支配階級のテロルに對して斗爭し来つた業績に對して、我が党は日本並に全世界のプロレタリアートを代表して心からの感謝の意を表する。

以って相対するのである。かゝる絶対な階級的差異は全く問題である。労働者の眼上にも受けてはいる人間の態度である。

かくの如き階級的覚醒の存在は組合の如き時に極度の反感を起させる。そして、職場的に日常闘争と対立するに至る。このことは党並びに革命的労働組合にとつて此上なき損失を与へる。我々は党の立場からこの弱点な組合の如き生を批難するのではなく先づ労働者の団結を拒絶しなければならぬ。党員は先づ第一に大衆の中で叔成を獲得しなければならぬ。それなしに大衆運動の組織は不可能である。

我党が現在の情況に於ける戦術的重要任務は大衆的活動方の採用である。企業内の不平不満をとり上げて斗争を準備し、指導し、その斗争の過程に於て党組織の拡大強化をはかるのが我々全体の重要任務なのであり、中央執行委員の活躍期成も亦それの実行への参加を意味する。党の工場細胞の最も重要な任務は革命的労働組合を工場内に組織することだ。革命的組合こそが政治的見地、性、民族、年齢の差別なく労働者である限り総ての従業員を資本との斗争の為に組織し得る最も基本的な組織であり、党の広汎なる財水池だからである。かゝる大衆団体を組織し、その中で活動せる積極的分子を大胆に党組織員に採用して始めて我党のボリシエビキー化が成功的に行はれる。故に、労働組合を作り、それを強化して行くことと工場細胞の活動とを対立的に、それとこれとは別のものであるといふ見合に考へることは許し難き誤謬である。党の独自的活動とは、飽が労働組合とか、モツアルとか、又は消費組合等の大衆団体の持つ一定の制限に束縛されることなく、労働階級の前衛としての立場から行動することを意味するのだ。だから大衆団体としてはなし得ないことでも党としては断乎として行はねばならぬことが幾らもあるのだ。

工場内にある党員の任務は如何にして労働者大衆を階級的政策の下に結集せしめるかにある。だから革命的労働組合員であつた人が党員に採用されたならば、従来よりも一層献身的にこの任務遂行の為に仇かねばならぬのである。そして既に存在してゐる組合分会の活動を如何にして大衆的に転せしめるかに関する実際的活動を強め、かくすることに依つて自己に対する分会員の信頼を基ソとして分会の指導権を握ることが出来、更に工場内大衆全体の指導者行動の為のべられてゐるであらうか、遺憾乍ら然りく答へることに躊躇せざるを得ぬ。一方ファシスト共は死物狂ひの態度の下に、革命的言辞をさへ弄ひ返して之等労働者の革命的勢力を自己の影響下に捲き来すことに努力してゐる。

吾々は小冠其他の労働者大衆がファシストの手先として反革命の陣営に立つたことを単に彼等少数のみの丈の事件と見ることは出来ない。多かれ少なかれ現状勢力者等がファシストの指導下に置かれてゐる事実を物語つてゐる。これは吾々共産主義者の責任ではないだらうか。吾々の動労農民に対する動労農民の不十分を示すものではないだらうか!?

今日の時期に於て動労農民をファシストの影響下に委ねることは日本の革命運動に致命傷を与へることを意味する。

吾々は現状の共産主義者、革命的貧農諸君の努力的活動に期待すると共に、都市の革命的プロレタリアート諸君が農業農民問題を討論の問題とせずして工場細企業内で日程に上されんことを切望して止まぬ。（山野）

高利貸の家を 群集襲撃

岐阜県船津町で

【岐阜電話】岐阜県吉城郡船津町大津神社に於て廿三日挙行した遊泉祭りを挙行した遊泉数百名は一団となつて乱出し団町村潭伊三郎、津野庄平、飯島正次、浅井和平の四戸を襲ひ表戸や格子を破壊する等乱暴を働いたので警戒中の船津署員は消防組と協力して暫時着手五名を検挙した。

高山区裁判所より安藤検事出張取調係官の検挙に努めて居り、其の数四、五百名に亘する見込み。

暗殺事件と 農村の疲弊

編輯部より——日本山野の論文は大体に於て正しく問題をとらへてゐる。ボロリ燃地が小アルジョアの思想であるとか、プロレタリアートの斗争方法、農業革命への動員方法等の積極的意見が述べられてゐるが、編輯部は同志山野の題目及び他の一ヶ所に若干の補足をした。

昨年、団等のブル、四代表共が暗殺されたので支配階級はアワて捜いてゐる。しかも暗殺指導者は実に彼等が養成し来つたところの戦も反動的天皇主義者である点で、彼等自ら口火を切り刈り取られた様なものである。

ばら撒いた種子は必ず生えるであろう。

吾々は然し乍らこれを只喜んでますますやるべきであらうか否！

何故か？

小冠其他四人組は如何なる出

有であるか、彼等は何れも貧小農の子弟である。今日日本の動労農民は彼等の悲惨にも増して悲惨な生活からの血路を見出すために悩み抜き斗争的に燃え立つてゐる。彼等の革命的エネルギーは爆発の直前にある。しかも吾々共産主義者の手は農村の革命的エネルギーを大衆的武装蜂起に依る労農ソビエト政権樹立の当の農村革命。大衆的武装蜂起に依る労農ソビエト政権樹立の当の農村革命。その準備として動労農民の革命的結集といふ正しい方向に指導せしめなくてはならない。

吾々の動労農民に対する責任は重大である。

党の経営細胞は企業内労働者大衆を

大胆

にカムパーニヤに引き寄せ且つカムパーニヤに参加せる革命的労働者を広汎に党活動に参加させよ！

これは今や一ヶ月の準備によつていよく、奥の大衆的展開への新段階に入つたカムパーニヤの遂行に伴ふ必要且つ当切の事柄である。

これに応じて読者の組織の強化、通信網の確立が党員に具体化され益々と赤旗拡上に表現されねばならぬ。

我々は今カムパーニヤの第二の時期の開始に当つて次の事項を永遠実行して行ない同志諸君にその徹底を実行を要求する。

一、各企業は責任通信者を決めて直ちにカムパーニアの遂行状態に関する報告を送れ。

一、赤旗配布の職場別カストを何時作つて上部配布者に知らせよ。

一九三二年三月二十九日

赤旗編輯局

【続】……特頁より……

大衆的煽動の方法と斗争の敢発と組織との計画及その実行の経過を具体的に書かねばならない。そしてかゝる報告の為めに責任通信員を選定し、毎週一回その通信報告を提出することがそれ自体赤旗大衆化の最も不可欠の一条件であり、カムパーニヤの内容の一つである。

赤旗

はこれらの報告によつて満たされ、それを批判して、経験を大衆的に普及し、第一的指導の役割を果す為、カムパの進展と共に急激に増大する読者の要求に応ずる為める四月五日発行の次号から取り敢す当分才二頁新の数頁を以て活版実現を断行する事になつた。これと共に

第二

頁新聞は廃刊される。才二頁新の読者は全部赤旗の読者とならねばならぬ。だが言ふまでもなく赤旗の大衆化はこれによつて達成されたのではない。企業に於ける赤旗の細胞組織活動のみが「赤旗」を真の

赤旗活版日刊期成発表

報告

金額	読者獲得数	氏名
〇・一五	四名	×硝子工組
〇・二六	三名	××バス××車庫
一〇・〇〇		一教育者
〇・八七	五名	××紡績工組
〇・三五	八名	××地区××工組
一・二五	五名	××鉄道試団
〇・六二		東京城西地区××工組
〇・三五		東京江東地区××工組
〇・二八		東京江東地区××工組
〇・四五	二名	大阪××工場有志
〇・三七	三名	口鉄××重庫
〇・二六	八名	××ゴム工場
〇・五〇		千葉県××分会員会
〇・九〇		××農村細胞
二・〇〇		福新編輯局労働部
一・一〇		福新編輯局政治部
一・〇〇（第一回追加分）		××××××文書配布係
〇・七五	五名	右同
〇・七〇	八名	右同
〇・二五		東京印刷
〇・五八		金属××分会
五・〇〇		××
〇・二四	二名	××機関有志
〇・二五	三名	××工場有志
〇・五〇	八名	××P読者有班
〇・四二		兼屋突撃隊
一・一〇〇		東京南下××野村
〇・二〇		東京府下××川村
〇・七五		××高五製組織再建準備会員
〇・七〇		××製鉄工場
〇・五〇		同
〇・六五	十名	同
三・〇〇		××細胞
〇・五〇		同
〇・五〇		同
〇・〇〇		×生
〇・〇〇		東大
〇・五〇		東大
二・五〇		御殿読者グループ
一〇・〇〇		×生
小計二百十五円八十銭		読者獲得五十三名
累計三百二十五円四十八銭		
読者獲得百四名		

赤旗活版日刊期成カムパーニヤの開始以来すでに約一ヶ月を経た。今日までの

成績

は未だ甚だしく本来分であり、我々の揚げる二ヶ月間に募金五千円、読者五万人の獲得といふ目標を満たすこと縁りに遠い。だがこれは極度の非合法下に強制されてゐる連絡上の困難その他我々の運動の現実的諸条件のために於て、一ヶ月間といふ短時日が、やうやく

全口

的規模における広汎な大衆活動を準備し得る最短期間であることを思へば、決して失望すべき不成績と速断することは出来ない。

このカムパは特別な重なる一時的の募金運動にのみ止まるものでなく、実に党ボリシエヴィーキ化、その公然たる大衆的行動への

急転

換の具体的組織形態である。それは地味な、根気強い基礎工事の準備の上にのみ真に健実に発展と展開することが出来る。線偽花火のやうな出発は絶対に不可能である。

このカムパの意義が充分に理解され、全国各並びに革命的労働者農民諸君の同に、現在の革命的昂揚の

時期

にかける党大衆化のための支持と、次竟が、カムパーニアの根本な計画的準備に集中されてゐる事は、我々の何よりも重要な成果である。これは過去一ヶ月間の募金応募額のみに依つて未だ表面に表れてゐない。それは次の一ヶ月間に於けるカムパの躍進的

昂揚

を以て実践的に証明されるであらう。日常的経済斗争の敢発と組織化、その先端に立つ全ての党細胞の大衆的活動、そこに築く拠げられた「赤旗」の堆塁を我々はこのカムパに於て実現するのだ。我々のカムパに於て真に一人々々の赤旗読者を獲得するのでなく赤旗の下に結集する革命的大衆を組織するのだ。

赤旗活版日刊期成カムパーニアの社会主義競争は又募金第集競や新読者獲得競のそれとは異つてその勝敗を決定されない。全ての細胞、突撃隊、赤旗日刊期成会、或ひグループ等の報告は必ずその

月六回

國際共産黨日本支部
日本共産黨
中央機關紙
【錢三金一部一】【定價】

活字赤旗の發行に當り
全國の勞農大衆へ！

勞農諸君！

全國の勞働者農民諸君！

階級闘爭の發展と共に、我々は遂に我々自身の機關紙を持つ事の必要を痛感するに至つた。我々は我々の意志を發表し、我々の行動を通報し、我々の思想を宣傳し、我々の團結を鞏固にする爲めに、我々自身の機關紙を持つ事の必要を痛感するに至つた。

我々は、我々の機關紙を持つ事によつて、我々の敵の中傷と嘲笑とを一掃し、我々の敵の壓迫と干渉とを排除し、我々の敵の暗黒と陰謀とを打破し、我々の敵の欺瞞と威嚇とを粉砕し、我々の敵の買收と離間とを撃退し、我々の敵の包圍と攻撃とを突破して、我々の機關紙を持つ事によつて、我々の敵の一切の妨害を排除し、我々の敵の一切の攻撃を

電燈料値下げの闘争を 積極的にたゝかへ!

―動員された大衆を赤色メーデーに参加せしめよ!

動勞大衆が潤澤な収入を得ているのに、料金を値下げることもなく依然として暴利をむさぼるため電燈料に對する値下げ運動が各地に擡頭しつゝあるが、殊に東京電燈會社の如きは、第一回の値下げ以來、僅か二年餘りの間に、更に二回の値上げを敢行して、現在の料金は實に値下げ前の倍額に上つてゐる。

即ち去る四月一日から、東京電燈會社は、從來の電燈料金を一割五分値上げして、一燈一ヶ月金七十五錢を、金八十六錢五厘に引上げ、電力料金を一割値上げして、一馬力一ヶ月金十二圓を、金十三圓八十錢に引上げた。

しかもこの値上げは、單に東京電燈會社ばかりでなく、東京瓦斯會社も、東京市電も、東京市水道も、悉く値上げを敢行して、都會の勞働者大衆を苦しめてゐる。

だがたとひ市町村が、電燈會社と結託して、料金を値上げしようとも、勞働者大衆が團結して、これに反對すれば、決して値上げは出來ない。

奈良では、去る二月の衆議院議員總選擧の際、政友會の候補者が、電燈料金値下げを公約して當選したが、その後、電燈會社と結託して、値下げ實行を怠つてゐるので、奈良市民は、電燈會社に對する値下げ運動を起し、市會議員に對しても

同志××の遺書

同志××の遺書の發表に當つて

同志××は有能な才能を他に持つ人であつた。××に於て死んだ。我々は彼の闘争の爲にこれを悼む。同志の死んだ後の××の××君への××君の階級意識の確立及び××の××君への××無政府××の最後迄生き闘ひ抜いた。

××君は××君の××君の××君の

月六回
週報共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙
【定価一部金三銭】

四・一六革命的記念日を通じてメーデー準備闘爭を強化せよ

職場に工職に日常闘爭を激化し大衆の間でのメーデー闘爭委員會を作れ

四・一六の記念日の三週間前が來た。三年前この日全國に於て、資本主義的地主政府の白色テロルと闘つてゐた二千人の勞働者農民が逮捕され、それらの闘ひは全國的に擴大され、東京市ケ谷豊多摩、大阪等を初めとして全國の刑務所に三年の長きに亘つて監禁されてゐる。だが二千人、四・一六を合して三千餘名の逮捕によつても日本の勞働者農民の革命的昂揚と進展は阻止できない。三千人の拘禁された勞働者農民の闘ひの記念日は、むしろ全國の革命的勞働者農民の闘ひへの歴史的の爆發點となつた。

更に一九三二年の第四メーデーは、一九三一年の劃期的のメーデーの傳統を繼いで更に全國に大規模に準備されてゐる。

だが、今日迄の全國的勞働者農民大衆の資本主義的地主政府への大示威としての革命的メーデーの勞働者農民のメーデーへ向つての大衆的闘爭に發展せんとする傾向に對しては、闘爭の鎭壓と飢餓の政府に向つての勞働者農民のメーデーへの大衆的闘爭に對しては、社會ファシストは敵對的にメーデー骨拔にせんとし集會を禁止し、メーデー骨拔のための會議を開き大衆の革命的昂揚を壓殺しようとしてゐる。

全國總同盟は、勞働者大衆の闘爭意志を裏切つて、メーデーを單なる勞働者の示威運動にまで引き下げ、メーデーを國家主義的示威にすらしめようとする意圖をさらけ出し、更に全國勞働組合反對同盟は、メーデーを單なる勞働者の大衆的示威運動にまで引き下げ

年度變りの失業增加に反對して
江東の失業者大會
警備隊に守られ堂々開催

（江東通信員發）三月廿六日（晴）市役所前、勝鬨橋の袂、江東勞働紹介所登錄セーデイ及び復歸が讀まれ、引續いて大會が開かれ、第一回大會が開かれた。この大會を準備するため各現場から選出された百名の準備委員會が開かれ、準備委員を組織して當日に備へた。

大會は當日各方面から參加した百名の官犬を見下ろす樣に開かれた。先づ議長團（議長一名、副議長二名）が選ばれ、次いで左の要求スローガンを滿場一致で可決した。

一、失業者に仕事を與へろ！
一、失業者に對する國家保險を即時實施せよ！
一、勞働者の賃銀を引下げるな！
一、勞働者の賃銀を二割引上げろ！
一、八時間勞働制を嚴守せよ！
一、勞働者の團結權を確立せよ！
一、勞働者の言論、集會、結社の自由を確立せよ！
一、勞働者の政治的自由を確立せよ！
一、婦人勞働者の産前産後の休養を與へよ！
一、婦人勞働者の生理休暇を與へよ！
一、婦人勞働者の育兒時間を與へよ！
一、婦人勞働者の育兒設備を完全にせよ！
一、婦人勞働者の育兒費を國家で負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を資本家に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を地主に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を官吏に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を軍人に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を富豪に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を銀行に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を株主に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を重役に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を社長に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を會長に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を總裁に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を大將に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を元帥に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を天皇に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇后に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太子に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太后に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太后に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太后に負擔せよ！

（以下同じ）

次に大會の名稱を「失業者大會」と決定した。

次に「失業救濟費の增額」「失業者の賃銀引下反對」「三共電機に大量首切を斷行せよ」「閉會後デモに移ること」「江東勞働紹介所に對する件」として左の要求スローガンを決定した。

一、失業者に仕事を與へろ！
一、失業者に對する國家保險を即時實施せよ！
一、勞働者の賃銀を引下げるな！
一、勞働者の賃銀を二割引上げろ！
一、八時間勞働制を嚴守せよ！
一、勞働者の團結權を確立せよ！
一、勞働者の言論、集會、結社の自由を確立せよ！
一、勞働者の政治的自由を確立せよ！
一、婦人勞働者の産前産後の休養を與へよ！
一、婦人勞働者の生理休暇を與へよ！
一、婦人勞働者の育兒時間を與へよ！
一、婦人勞働者の育兒設備を完全にせよ！
一、婦人勞働者の育兒費を國家で負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を資本家に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を地主に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を官吏に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を軍人に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を富豪に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を銀行に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を株主に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を重役に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を社長に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を會長に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を總裁に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を大將に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を元帥に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を天皇に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇后に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太子に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太后に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太后に負擔せよ！

（以下同じ）

閉會後デモ敢行
ガラス青年工先頭に

閉會後デモに移つた數百の勞働者はスローガンを叫び、江東勞働紹介所に向つて「首切反對」「賃銀引下反對」「三共電機に大量首切を斷行せよ」「江東勞働紹介所に對する件」として左の要求スローガンを決定した。

一、失業者に仕事を與へろ！
一、失業者に對する國家保險を即時實施せよ！
一、勞働者の賃銀を引下げるな！
一、勞働者の賃銀を二割引上げろ！
一、八時間勞働制を嚴守せよ！
一、勞働者の團結權を確立せよ！
一、勞働者の言論、集會、結社の自由を確立せよ！
一、勞働者の政治的自由を確立せよ！
一、婦人勞働者の産前産後の休養を與へよ！
一、婦人勞働者の生理休暇を與へよ！
一、婦人勞働者の育兒時間を與へよ！
一、婦人勞働者の育兒設備を完全にせよ！
一、婦人勞働者の育兒費を國家で負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を資本家に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を地主に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を官吏に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を軍人に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を富豪に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を銀行に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を株主に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を重役に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を社長に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を會長に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を總裁に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を大將に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を元帥に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を天皇に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇后に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太子に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太后に負擔せよ！
一、婦人勞働者の育兒費を皇太后に負擔せよ！

（以下同じ）

京モスの姉妹
書休にサボ

京モスの姉妹たちは、十日間の書休みにサボをやつた。女達をみんなが賃銀で搾取されてゐるのだ。

★ストライキが出來ない。

★ストライキが出來ない。

★ストライキが出來ない

出征兵士の手紙

はしがき

この手紙の筆者である兵士Aは對馬出動部隊の一人として去る二月出征したが、彼の勞働者出身で同志Aは對馬出動部隊の一人として去る二月出征したが、彼の勞働者出身で同志Aは對馬出動部隊の一人として去る二月出征したが、彼の勞働者出身で

ありもともと勞働運動の熱心な同志の一人であつたが、今度召集されるや、直ちに勇ましく軍隊生活に入つて來る特權階級の軍隊生活とは全く異つた勞働者出身の兵士の眼に映じた軍隊生活の一端を、汽車で通過する時、出征軍人の見送りの同志の感激的行爲をみて、我々が送つてやつたと感激し、我々が送つてやつたと感激し、我々が送つてやつたと感激し

月六回
赤旗
國際共産党日本支部
日本共産黨
中央機關紙
【定價一部金三錢】

メーデーまであと十日
メーデー週間に
ビラ、デンタンを張りめぐらせ
メーデー懇談會、メーデー歌合唱會等を組織せよ
全勞農失業者婦人をメーデーに！

既にメーデー準備の闘爭は工場に職場に農村に擴大されてゐる。二十五日から始まるメーデー週間は、更にメーデーの革命的大示威に向つての我々の一切の準備會議を、週間の第一日から第七日迄に於ける全國的革命的行動實現への總動員の具體的計畫をもつて埋めねばならぬ。

第一に準備闘爭として、從來の工場、職場、農村に於ける全國的闘爭の發展、六大都市の產業、殊に重要なる——ゼネストへの準備が、大衆のゼネストへの自覺的に擴大されねばならぬ。オルガナイザー及び突擊隊は、この闘爭を領導し、激發し、組織的政治的ストライキ闘爭に轉化せしめねばならぬ。

第二に、メーデー週間にはかくの如き闘爭の激發化とメーデーの革命的大示威への動員とを結合して、職場、工場、農村、學校、兵營、街頭に於ける我々の日々の闘爭を、メーデー週間の一日々々の闘爭に結集せねばならぬ。

第三に、メーデー週間には、勞働者、農民、失業者、婦人、子供、學生、兵士、水兵、漁夫、職人、家族ピオニールの代表者、更に各種の宗教團體その他の大衆團體の名に於けるものとなりつゝある。そしてこの廣汎な大衆化をその目的意識的な

明拾九日から 四・一六公判始まる

階級裁判反對、前衛卽時釋放

治安維持法撤廢を叫んで前衛を迎へよ

明る四月十九日から我等のはうとして居る。

餘計な事ですが、その他のうゝ人権擁護に關する諸問題、活動が必要であります、文化のみならず、日本全國の勞働者農民の共産主義者に對する同一にあつかうとして「治安維持法」を改惡しようとしてゐる。

（以下略）

出征兵士の手紙

その2

二月×日附の君のお便りをうけとつた。僕は一週間許り前から鼠蹊腺（鼠蹊部のリンパ腺）に腫物が出來て、軍醫殿の御厄介になつてゐるので暇がないので、左の事について少し許りお話しやう。

一、召集兵の部分は僕の現役當時の一年兵許りだ（主に）昭和六年度の現役兵だ（四年五年も多少ある）二年兵は殆んどだ。

二、補充隊は野戰部隊の出發が決つた事が判ると、直ぐ全部署外の農民に分宿して、野戰部隊が編成されてから全部一緒に入る。

三、野戰部隊の編成は、第一中隊、第二中隊、第三中隊、機關銃隊（一ケ中隊は三ケ小隊）一ケ大隊は三ケ中隊よりなつてゐる）この中隊編成は野戰部隊の編成だ）

四、補充隊編成は今年一月に入營した兵全部と其二年兵（少々）（約十名）それから召集された兵（約十五名位）の現在一年兵が去隊（除隊）といはれて二年兵になつてゐる。この編成は野戰部隊の一ケ大隊なので、一ケ中隊に約百名位ゐる。

五、一般兵卒達の狀態は、一ケ中隊に通信兵が十一名、一ケ小隊に二名宛ついてゐる。この通信兵は、一ケ中隊に十一名、一ケ小隊に二名宛ついてゐる。この編成は野戰部隊編成の一大隊なので、一ケ中隊に約百名位ゐる。

六、兵營生活は、一ケ中隊に入營した兵を、一ケ中隊を二ケ分隊、一ケ分隊を二ケ小分隊、一ケ小分隊を四ケ小銃隊に編成してゐる。

七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

四十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

五十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

六十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

七十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

八十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

九十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百二十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百三十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百四十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百五十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百六十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百七十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百八十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

百九十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百二十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百三十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百四十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百五十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百六十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百七十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百八十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

二百九十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百二十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百三十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百四十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百五十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十六、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十七、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十八、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百六十九、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百七十、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百七十一、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百七十二、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百七十三、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百七十四、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百七十五、現在一年兵は、去年の十一月に入營した兵で、現在二年兵になつてゐる。

三百七十六、現在

「闘争日誌餘白」(2)

メーデーを準備せよ！

（ノンナリオ風に）

鎌田滋子

一ばいに、メーデーデモのデップで。入り亂れる色蒼共、赤い旗。

（ハーデー近し）

（同志諸君！用意はいか）

再びメーデーの列の中から、大歡呼。

その列の中から、一人、二人、

の勞働者の姿がだんだん大きくなつて來る。

（メーデーがやつて來る。）

その勞働者が歩いてゐる。

工場の煙突。

ベルトのうなり。ハンマーのひびき。

その隣に、さゝまる勞働者の住家が立つてゐる。そのまはりとり卷いて五六人の勞働者。

（メーデーが近づいた。）

うむ。今年で十三回目だ。

その歴史を聞かうとてくれよ。

（第一回メーデー一九二〇年）

一ばいに世界各地で開かれた。

（ニ九二〇年五月二日）

上野公園に集つた五千の勞働者。

（メーデーはプロレタリアートの自覺の表現）

そこに政府は組合幹部の一部と妥協して「大衆のメーデー」を、二回から三回の幹部の壓迫に屈して「大衆のメーデー」を、二回から三回の幹部の壓迫に屈して「大衆のメーデー」を、二回から三回の幹部の壓迫に屈して「大衆のメーデー」を、

（メーデーは公然たる活動）

我々はこれをぶち破らなければならぬ。一人の勞働者、一人の婦人をも取り殘さぬやうな、全勞働者の團結に行はなければならぬ。それは公然たる活動だ。

メーデーは公然たる勞働者の示威の日だ。

（メーデーは全勞働者の團結の日だ。）

（メーデーは全勞働者の團結の日だ。）

（メーデーは全勞働者の團結の日だ。）

メーデーの檄

勞働者、勤勞農民、兵士諸君!!

世界プロレタリアートに對する世界プロレタリアートの階級的連帶感の表現として、メーデーは來た。五月一日此の日全世界のプロレタリアートは資本の搾取と壓迫に反對する闘爭力と戰闘的意志を示すべく足並揃へて團結の力を示すのだ。一九九二年のメーデーは國際的プロレタリアートの血に彩られた歴史の第四日目の記念日である。此の日こそ全世界の勞働者が、改惡と戰爭の脅威を粉碎し資本主義の壓迫に對して戰闘的に團結をかためるために、メーデーを祝賀し、殺人的な軍備擴張に反對するために、全世界の勞働者が團結して、

地下鐵從業員に彈壓

從業員二十數名を檢擧

獲得した勝利を守れ！

周到な資本と革命的戰術を以つて勞働者の爲めに闘ひ續けた地下鐵從業員組合は、今や警視廳の手によつて、その組織は全く破壞されんとしてゐる。

この組合は、昨年の大爭議の際、會社の不當な彈壓に對して、會社側と團體交渉を行ひ、遂に會社側をして、從來の不當な待遇を改善せしめ、從業員の勞働條件を著しく向上せしめた。

然るに、會社側は、この組合の存在を極度に恐れ、組合の中心人物を、次から次へと馘首し、遂に、組合の中心人物を全部馘首してしまつた。

そこで、組合は、會社側の不當な馘首に對して、絶えず抗議を申込んでゐたが、會社側は、これを全然無視してゐた。

そこで、組合は、最後の手段として、會社側の不當な馘首に對して、團體交渉を行ふ爲めに、ストライキに入らんと準備を進めてゐた。

ところが、會社側は、この組合の動きを察知するや、先手を打つて、組合の中心人物を、次から次へと檢擧し、遂に、二十數名の檢擧者を出すに至つた。

檢擧された從業員は、神奈川地方の全勞働者と諸君の勝利が確立されるまで、最後の勝利まで、即刻團結の旗の下に集まれ！

城北××バス　蹶起か

城北の××バス六〇名の兄弟たちは、會社の不當な時間給に反對し、團體交渉を開くべく、××君を代表者として會社側と交渉したが、會社側は、これを全然無視してゐた。

そこで、城北

四・一六公判開かる

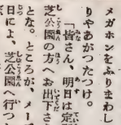
同志の即時釋放を要求せよ！

四・一六の公判は十九日(火)より開かれてゐるが、我がL支部・全露農過民衆、獄中婦人同志救援會・全露赤色救援會・全露勞働組合中央評議會・全露協同組合中央會・全露勞働者消費組合中央會・全露勞働者農民協同組合中央會・全露勞働者農民協同組合中央會・全露勞働者農民協同

闘爭日誌餘白(3)

――ある老職工の手記

郷利樹



村のタコ坊主奴、いつもの通りに出てくるわ。ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。だが、俺の方が起きるのが早いんだ。ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。だが、俺の方が起きるのが早いんだ。ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。だが、俺の方が起きるのが早いんだ。

どう考へても俺には我慢ならない。

……村のタコ坊主奴、いつもの通りに出てくるわ。

冷や水だ！　ざまあ見ろ！　ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。だが、俺の方が起きるのが早いんだ。ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。だが、俺の方が起きるのが早いんだ。

えても生意気の勞働者だぞ。何だいべらぼうめ、木村のやつ！　ふん、主任づらしやがって、カナリヤの餌ばかりかまけてやがる。小金ためるのに眼の色変へ勞働者の癖に。ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。

へてやあるまいし、勞働者の癖に。ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。

ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。ふん、俺のことを老人の癖に生意気だ。

「赤いかんよ、赤は

赤旗カムパーニアの繼續に際して　全黨員並に全讀者に檄す！

同志諸君！

赤旗カムパーニアは全黨員、全大衆的勞働者農民の熱烈なる支援の下に遂行されて、今や我々が設定した第一期の終りまでに、カムパーニアはやや普通の赤旗カムパーニアの成果以上の成果を擧げつゝある。カムパーニアの最も重要な點は、カムパーニアの成果が具體化され、且擴充されたことにある。カムパーニアは單に政治的煽動のみならず、實に黨員並に大衆運動の眞實の指導部たる黨細胞の組織化しつゝあることを意味する。

更にまかの事實は、勞働者農民大衆の間に於ける黨の政治的影響の增大、正しい組織の確立、黨と大衆との結合の强化を促進し、黨と大衆との間の障壁を打破つて、黨と大衆との間の關係を變革しつゝあることを意味する。

×

先づ第一に、メーデーに向つて中央機關紙「赤旗」の活版發行のカムパニアを組織した。大衆的活動の基礎の上に、大衆的な「赤旗」の讀者網を促進する爲に、我々は大衆運動の眞實の指導部たる黨細胞の組織化に向つて、全力を擧げて努力しなければならない。

×

第二、メーデーに對して如何なる方針を採用したか！

×

×

第三、我々の方針は如何に實行されたか！

×

×

第四、メーデーは以上の如き我々の下からの統一戰線の旗の下に開はれた。

×

×

第五、我々が最後に附加せねばならぬことは、

×

×

（三）　第七十四號　★萬國の勞働者團結せよ！　昭和七年五月十六日

共産黨はメーデーを如何に闘つたか？

橋詰虎雄

一九三二年のメーデーは、黨のスローガンの下に大衆的に闘はれた。是れ實に共産黨を動員した全勞働者大衆の闘爭であり、黨の獨自的指導の下に行はれた大衆的政治ストライキの發展であつた。

メーデーに對する日本帝國主義の準備は、昨年の十月革命記念日の時よりも遙かに嚴重であつた。メーデーに對する日本帝國主義の準備は、昨年の十月革命記念日の時よりも遙かに嚴重であつた。

青少年を先頭に
職場から中心地へ
岡山の全農青年部闘かふ

岡山では全農青年部が中心になり、郡役行動に少年部が参加し、官許デモ、或は職場から中心地へのデモ行進等の闘争を行ふ事になつた。

三保村では、青年部が中心になり、村役場へ押しかけ、村長に面会を求めて、村政の不正を糺し、村長の辞職を迫つた。

中部では、北部と同様の闘争を行ふ事になつた。

西部では、代表者会議を開いて、三百九十人動員の計画をたて、二月廿日までにデモを決行する事になつた。

南部では一時から五時迄、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

東部では、五箇所に分れて、官許デモを行ふ事になつた。

北部（生駒山中心）では、二百名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

西大江では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

西成では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

三島では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

豊能では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

泉北では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

泉南では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

南河内では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

中河内では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進を行ふ事になつた。

北河内では、二百十名の動員を目標として、各支部で、大衆的に、職場から中心地へのデモ行進

公開禁止の暴壓に 四・一六の同志闘ふ

裁判所に押しかけて 革命的支持を表示せよ

四月十九日以來開廷　大正十一年（一九二二年）四月十九日木、土）に、一六の公判が日米反産階級の勞働組合會政黨組織の指導者、社會運動家四十名、それに保釋出獄の同志數十名、それに傍聽者を合せて、實に數百人の大群衆が、東京地方裁判所の門前に集まつた。

だが　同志諸君！　老いも若きも、男も女も、勞働者も學生も、如何にして作られたかを生々しく描き出した、この法廷鬪爭の事實を上げて、聖壇法の問題を、又、この公判廷が、日本プロレタリア革命の重要性から、戰ふ日本プロレタリアートの革命的指導者を、如何に取扱つたかを、如何に取扱つたかを、如何に取扱つたかを

小說　南西の風晴れ

——闘爭の中から(五)

浦路美子

「明日行くよ」

「行くさ、モチ！」

漸く足の日ぬを待つ少年生の心に楽しい彼女だった。

×

あとから追ひ越す都電電車が、どれもこれもメーデー行の労働者で一ぱいなのだ。

「やあ、お早やう！」

「メーデーばんざあい！」

歌から歌へと歩いてゆく彼女達に、小供の様に無邪気な挨拶を投げてゆく。

×

空は青色、爽やかな五月。太陽が朝の光に輝いて、郷新橋の老舗に明るくなりかけたうちに鍵ばんでゆく工場の屋根、今日は、なんと楽しく力強く映る事だろう。

×

工場は今日一日の休業に、男女労働者の顔にも、何時もの疲労の色はなく、希望に輝いている。

×

堀立場の前には人、人、人の人のルツボ。そして聴こえるアコーデオンの旋律。

「ピピのピイだ。何たい、あはては歌い込んで来た。

「ふん、バクダンでも投げ込んだちやあるまいし、お巡りの奴、ひとが労働歌を歌うとなると、すぐ飛んで来やがる。

×

「ほんとうだわ、ほんとうだわ」

「ヨイトマケの唄」

「メーデー歌」

「インターナショナル」

「赤旗」

「日本共産党万歳！」

「国際共産党万歳！」

「ソビエト同盟万歳！」

「日本労働組合全国協議会万歳！」

「世界労働者団結万歳！」

「日本共産青年同盟万歳！」

「……でめつて、内にしては来官有の「約的な感覚、外にしては満洲における……」

「はい、なに？」

「なに、なに？」

「なんだ？」

「なに？」

「なんだ？」

「なんだ？」

「なんだ

赤旗カンパニヤの
社會主義競爭に就て

一、社會主義競爭の意義

社會主義競爭は次の如き方法によつて遂行される。

（一）各地區相互の間で競爭する。

この競爭は次の諸點について行はれる。

1 新たに得らるる勞働者數。

2 讀者のある企業數。

3 勞働者、農民、小作人、兵士、職工、學生及びその他の勤勞小市民と、その他企業とに於て、讀者數は如何なる比率を以て増加したか。

4 基金の社會的構成。

5 基金の社會的構成。

比率を以て増加したか。

（二）全國の重要企業間で競爭する。

この競爭に參加するには、下からの希望と我々の政治的立場との兩立場より決定する。

1 鑛業、農業、鐵道、電氣、交通等の重要企業。

2 重要企業とその他企業とに於て、讀者數は如何なる比率を以て増加したか。

3 勞働者、農民、小作人、兵士、職工、學生及びその他の勤勞小市民と、その他企業とに於て、讀者數は如何なる比率を以て増加したか。

4 基金の社會的構成。

5 基金の社會的構成。

（三）東京、大阪の二大都市に於いて競爭する。

この競爭の內容は地區に於ける同樣である。

以上の三カンパニヤは九月一日を第一期として十一月七日を第二期として、更に二期に分ちて競爭する。

二、カンパニヤの政治的意義と戰術

我々はまづ第一に本部に於て、カンパニヤの目的であり、又その意義である全國の勞働者農民の政治的組織化を、カンパニヤの大衆的な動員によつて實現することに努力しなければならぬ。

カンパニヤの目的は、單に新聞の讀者數を増加することのみではない。我々が當面の問題として、又最も重要な問題として、

反ソ干渉の爲の軍事的ファシスト的支配への急進行

―ファッショ團の東京擾亂事件

五月十五日夕刻、首相犬養毅が、海軍將校の一團に襲撃されて、射殺された事件は、政友會本部、警視廳の襲撃、政友會總裁鈴木喜三郎の自宅、警視廳の襲撃、市內各所の警察署の襲撃が次々に行はれた。近衛師團の一部が出動して、警戒に當つたが、非常召集された歩兵が、銃や彈藥を持つて營門を出たのは、實に二時間の後であつた。近衛師團の出動が遲れたのは、警視廳の襲撃が豫定の計畫通りに行はれたからである。

今次の事件は、昨年十一月三日の東京に於ける「ファシスト」の擧行した「陸軍の觀兵式」に於ける「ファシスト」の示威運動と、今年二月二十六日の「ファシスト」の擧行した「昭和維新の斷行」と稱する、政友會本部、三菱銀行、政友會總裁、警視廳の襲撃、市內各所の警察署の襲撃が次々に行はれた。近衛師團の一部が出動して、警戒に當つたが、非常召集された歩兵が、銃や彈藥を持つて營門を出たのは、實に二時間の後であつた。近衛師團の出動が遲れたのは、警視廳の襲撃が豫定の計畫通りに行はれたからである。

今次の事件は、昨年十一月三日の東京

農村に於けるメーデー闘爭

地區別にデモを組織し 前橋で集中的デモ

群馬の全國會議派闘ふ

（通信員發）群馬では全國會議派の同志達が各地の農民組合會議の同志達と連絡をとり、三ヶ所へ集合地を決定して平日メーデーに參加する事を目標として、メーデーに參加する爲めの準備會を開いて種々協議をなし、各地區毎に於ける宣傳ビラ、ポスターの貼付やその他で闘ふこと、各地區から前橋へデモを敢行する事、前橋へデモを敢行して革命的メーデーに突入して革命的氣分を盛り上げる事等を決めた。

當日デモは四地區に分れ、勢多、那波、佐波、山田の各地區で開かれ、最後に前橋市に於て開かれた。即ち

西毛地區では朝九時、八十名の農民が動員され、赤旗を先頭に高崎驛前に集合地へ向けデモを行ひ、警官の妨害を排除しつゝ前橋へ進行しやうとするや二百名の警官隊が集合地に突入し、こゝに約一時間に亘つて亂鬪となり、遂に七名の同志が檢束されたのであつた。

勢多、佐波兩地區の農民組合員百名は、三名の警官隊が集合地に突入しやうとするや、之を排除しつゝ、赤旗を先頭に前橋へ向けデモを行ひ、途中警官隊の妨害を排除しつゝ前橋驛前に集合、農民組合の旗を先頭に赤旗を振り呼びかけつゝ前橋へ向けて行進した。集合地前迄一般一〇、〇〇〇人に達し、集合地前に未組織一〇〇人を決め又民組合の「石炭の勞働組合」農民組合の「石炭の勞働組合」農民組合の「石炭の勞働組合」農

十億の公債・三億の戰費
「擧國一致」内閣の收奪政策
臨時議會提出豫算並に諸法案

第六十二臨時議會は六月一日から開かれる。會期は僅かに二週間内閣は提出豫算によつて前大藏大臣内閣と交代したものを踏襲すると共に、從來の政策を變更しようとしたものを撤廢すると發表した。このことは政友内閣と民政内閣との政策の相違は全くないことを示すものである。

金融　資本の利益擁護政策を執行する高橋が政權を握つたことは、金融資本家にとつて何の變りもない。

潮流　における階級の對立は益々激化しつゝある。第五回の國勢調査によつて明かになつた如く、都市人口の激増、農村人口の減少は、都市に於ける勞働者階級の數を益々増大し、農村に於ける小作農民の窮乏を益々深刻ならしめつゝある。

動勞　者の要求の方向を全く無視して、第五回の國勢調査によつて明かになつた如く、都市人口の激増、農村人口の減少は、都市に於ける勞働者階級の數を益々増大し、農村に於ける小作農民の窮乏を益々深刻ならしめつゝある。

金融　恐慌は全國化し、つゝある。實に昨年の十月以來の數次の大小の銀行の休業は、銀行關係に於ける資本の集中を益々促進し、中小商工業者の没落を益々激化しつゝある。

戰費　を以て一層軍閥勞働者と農民に對する壓迫を強化しようとしている。

豫算　第二十億八千萬圓

後繼　内閣の出現は、政治的には、ブルジョアジーの代表者の政黨内閣の復活であるが、經濟

八・一デー前後の最終陳述へ
四・一六同志の公判進む

擧國一致＝天皇政府のテロルと階級裁判に反對！
共産黨員の卽時釋放の政治的大衆ストライキ、デモを組織せよ！

昨年七月開始された二・一に公開裁判を以てする暗黑裁判は、五・中間、四・一六事件の公判裁判のみを意味するのでは以來、一年間プロレタリアートの解放闘争の最後に全勢力を集中して行はれた、中間の一部を終り、先月九日せる「共產主義者に法律を與へよ」の最大規模の公判が續行されて、四・一六同志の公判が續行されて、四年の長期の裁判を通じて、

上海通信勞働者 三千名の總罷業

全國郵便從業員の支持の上に スト委員會を組織

賃銀不拂額 全國で二百十萬圓 ……但し政府調査で……

豐橋土建勞働者 求めて罷業

全國水平社解消 鬪爭委員會を組織

メーデー各地情報（二）

メーデー準備期間中の 工場新聞に表れた 主要弱點に就いて

東和ゴム爭議團 全勞ダラ幹 排撃の實例多

暴壓のさ中で開かれた 作家同盟第五回大會

遞從、遞友と合同 ファシスト黨へ加入

水平社六團體 全勞・勞大排撃を聲明

失業者クラブ

メーデー各地情報（一）

三千名の示威

高砂

川崎

長野

橫濱

水戸

尼崎市

名古屋メーデー 右翼組合は大衆 を屋内に閉込む

岐阜

靜岡

新潟

伊勢町

小濱

福井

廣島

鹿兒島

高知

和歌山

札幌市

長崎市

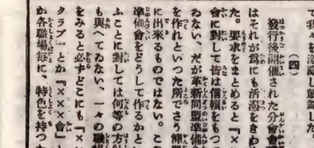
「革命」的言葉と行動を以て「農村救濟」を喋々する天皇資本家地主の奴僕を倒せ！

農村を救濟し得るものは天皇資本家地主の打倒、勞働者農民の政府樹立の爲に闘ってゐる共産黨のみだ！

先に非ず　虐殺され又は殺されんとする大衆を救い闘ふ者は、先ず自己の内部や、隣人や、電車の中や、廊下や、工場や、坑内部や、農村や、漁村や、兵營や、監獄や、其の他一切の場所に於ける、あらゆる階級的闘爭の中に、最も積極的に、最も大胆に、最も犧牲的に、最も先頭に立つ者でなければならぬ。

五月一日は又もや來た。去年の五月一日は、日本の勞働者階級が、初めて團結の力を以て、資本家階級に對して、その示威運動を承認せしめた日である。

この日を境として、日本の勞働者階級は、その團結の力を益々強固にし、その闘爭の力を益々大胆にし、その闘爭の範圍を益々擴大して來た



従業員二萬の工場に闘爭を打建てる我細胞(二)

××××××細胞會

自主的な親睦團體である我々××細胞會は、この會の中で第二號に比べて素晴しい發展を遂げた。それは具體的に工場内外兩面に向つて建てゝ行く方針を確立してゐるからである。

四月五日、第三號の第一號ビラを我々××細胞會の名で發行した。それは工場内外兩面に向けられた。

（一）第三號の第一號ビラは、××會の地盤の爲に闘はねばならぬ。このことが革命的××會の××會の××會の

言しておく。

我々は「擴大」前の全協の同志諸君の態別受持分擔をハッキリとは知つてゐないので、その全部が松原であるとは明言することは輕率であるが、彼の獨裁してゐた或る態別でも之れに似た問題のあることを附記しておく。

彼は全協指導部の一人であり、同時に黨フラクであり乍ら、全協内に於て黨の信用を破壊する政策を遂行して來たのだ。産別組合の同志達に對しても同じことだ。

斯くの如く黨の統制外にある「黨フラクション」の松原が何故に全協中央部に指導部員として頑張つてゐることが出來たのか？　根本的には

ブロツインテルン第五回大會で指摘せられた、「主義」による機關の選出が未だ實踐的に遂行されず、機關の「一任制」がその跡を絶たないからである。

そして彼が、プルジョア政治屋的手腕の持主であり、他の同志諸君の多くが、闘爭經驗に於て、比較的若く、政治的手腕に於て未訓練である、といふことである。

そうした關係から、彼は全協常任の同志達からは全般的に支持されてゐた樣である。

政治家としての手腕に於ては、彼なんかとは段違ひに優れた同志Zが百パーセント彼を信認してゐたことは決定的誤謬であつた。玆にも機關の「任命制」の最惡のものが現はれてゐる。

全協常任の同志達の信用が如何に厚からうと、我々は絶對にないとよい。若しそんなことがあつたとしたら此の同志を眞正なるスパイと斷定しなければならぬ。我々は同志溝上の幾多の偏向に對して指摘することが出來る。然し飽くまで同志として尊敬するのが正しいと今でも思つてゐる。

此の時の被害も大きかつた割合には我々には詳細には判つてゐない。彼れ松原からの報告の外我々の所へは資料となつてゐるものは遺入らなかつたのだから。

四、全協指導部の檢擧と彼れ

擴大會議を開催するといふ二日前の四月十九日（實は此の日に開催の筈のところ、或る產別で不注意に大衆的に明言することは輕率であるが、彼の獨裁してゐた或る態別でも之れに似た問題のあることを附記しておく。

彼は全協指導部の一人であり、同時に黨フラクであり乍ら、全協内に於て黨の信用を破壞する方面の活動を意識的に遂行して來たと斷定することが出來る。

彼は黨フラクション以外の同志達に對しても常に黨のデマを巧妙にアヂプロすることを忘れなかつた。×××地方から何も知らないで上京して來た同志達に對しても彼は先づ、黨に對するデマを吹き込み、黨の影響から切り離して彼の個人的影響下におき、彼のみを絶對に信用せしめる政策を遂行して來たのだ。產別組合の同志達に對しても同じことだ。

斯くの如く黨の統制外にある「黨フラクション」の松原が何故に全協中央部に指導部員として頑張つてゐることが出來たのか？　根本的には

ブロツインテルン第五回大會で指摘せられた、「主義」による機關の選出が未だ實踐的に遂行されず、機關の「一任制」がその跡を絶たないからである。

そして彼が、プルジョア政治屋的手腕の持主であり、他の同志諸君の多くが、闘爭經驗に於て、比較的若く、政治的手腕に於て未訓練である、といふことである。

そうした關係から、彼は全協常任の同志達からは全般的に支持されてゐた樣である。

政治家としての手腕に於ては、彼なんかとは段違ひに優れた同志Zが百パーセント彼を信認してゐたことは決定的誤謬であつた。玆にも機關の「任命制」の最惡のものが現はれてゐる。

全協常任の同志達の信用が如何に厚からうと、我々は絶對にないとよい。若しそんなことがあつたとしたら此の同志を眞正なるスパイと斷定しなければならぬ。我々は同志溝上の幾多の偏向に對して指摘することが出來る。然し飽くまで同志として尊敬するのが正しいと今でも思つてゐる。

此の時の被害も大きかつた割合には我々には詳細には判つてゐない。彼れ松原からの報告の外我々の所へは資料となつてゐるものは遺入らなかつたのだから。

五、擴大會議の指導とメーデー闘爭に就て

以上の如き大檢擧の直後に、擴大會議を豫定通り遂行したことは絶對に正しい。だが擴大會議は、實踐的方面の或る部分が歪められて指導されてゐる。會議の全體的批判は他の同志によつて近く詳細に書かれると思ふから略し、黨の指導を意識的に歪めたのではないかと思はれる部分の二だけを玆で觸れることにする。

（イ）　規約の作製に就て

組織に規約が如何に必要かべからざるものであるかは說明することを要しないことである。レーニンの指導せるボリシエヴイキーがメンシエヴイキーと分裂せしに至る迄の中心はレーニンの起草せる黨規約第二條の討論から始まつてゐるし、嘗評議會が、總同盟から分裂する時も規約修正の個所に於て、決定的闘爭が闘はれたのであつた。それ程組織の規約は重要なものである。

我黨は全協の擴大會議をして、全協の規約を作製せしむべく、フラクの同志に指令し、草案を起草させることにした。擴大會議までに草案出來次第我々に見せて貰ふことにした。擴大會議までに或る同志からの報告によると、草案は起草され、一應常任委員會の討議に附した結果、

「規約なんてものは裝飾に過ぎない。規約を持たなくともプロフインテルンには綱領もあり決議もある。我々はそれを實踐すればよいのだ。闘爭は遂行することが出來る。規約を持てば活動が拘束される等の手から反出まで」

と云つて、全協の有力な一同志（彼は喜んで賛成しなければならぬ立場にある同志なのだが）から我々は抗議され、反對された。此の時協から派遣されて當時專任的に此のスパイ的に信用してゐた樣だから。

（ニ）　責問を拒否せんとする彼れの態度

當時、全協内の同志達から彼れ松原のフラクションとしての權利を復活して貰ひたいとの再三の要求があつたので前記所持金問題を明らかにさせること、昨年秋逮捕されてから「病院脫出」するまでの詳細な報告書を提出させることを要求したが、全協の同志達は自らそれを遂行することを好まずして、我黨委員會の一同志（Y）に松原を紹介したそれは去る三月二十一、二日頃のことである。

同志Yは前記二項に就いて松原に要求した。松原は此の要求に應ずる態度を示さなかつた。

「今更ら報告をよこせなんて僕をスパイ扱ひにするんですか？」

「報告書は出るとすぐに黨に提出して呉れる樣にと說明して同志Zに（全協責任者）に出してある」

「金の問題は、報告しろといふのなら「いや」とは言はぬ、成る程二千四、五百圓の金を或るシムパから貰つたが、それは組織に貰つたのではなく、僕個人として貰つたのだ。そして喀ず半分は全協の責任者同志Zにあげたがそれも決して全協の組織にではなく同志個人にあげたものである。その點を先づ念頭に置いて聞いて貰ひたい」

「黨はモット太つ腹で人を使ふ樣にならなければ駄目だ、さう云つて置いて欲しい（黨上部機關にといふ意）」

「元々自分の方から頼んで入れて（入黨させて）貰つたのではない」

「僕が病院を脫出するときに幾百圓かの金を持つてゐたとかデマを飛ばしてゐる奴があるさうだが、僕をスパイ扱ひにする以前にそのデマを破つて見せるから、僕はスパイをする樣な人間ではない。——勢働者の氣持に響き得る。——」

等々が同志Yを通じての我黨の要求に對する彼れの態度であり答へであつた。

それは同志Zが逮捕されたことも半信半疑であつた頃なのだから同志Yが彼れに遂つて此の問題を話すときは未だ彼れをスパイの嫌疑者としてはゐなかつたのである。故に話しの過程に於ても態度に於ても彼をスパイだと思つてゐるらしく彼れに感ぜしめる何物もある筈がないのである。然し彼は自らスパイではない」スパイではない」と繰り返し強調し、興奮してゐるらしく見せかけることを決して忘れはしなかつた。

「逮捕されてからスパイとなつて出て來る者があることを我々は經驗によつて知つてゐる。誰がさうであるかは、當人の其の後の活動を徹細に點檢しなければ判らないが、之れが組合フラクとして、彼に與へられた最も重要なる任務の一つであり、且つそれは黨フラクションとしての任務のイロハである。それを彼は果してゐない。

その反對に彼は、黨の權威を大衆から剝ぎ取るための策動を續けて來たのである。地下鐵ストライキに際して我黨員會開催のためのカンパ最中であつたにも拘らず、「擴大」を提出したのが四月十七日であつた。此の清算報告書の寫しを提出したのが四月十七日であつた。此の清算報告書は翌十九日に全協中央部の同志達の逮捕によつて、敵の手に渡つたかどうかは未だ知つてゐない。

乙は黨フラクションとしての松原からの報告書として提出されたものゝ一部であつて、之れ等の仕事がなされたのである。

「全協内黨フラクションの指導下に之れ等の仕事がなされて來たことを我々は銘記しなければならぬ。

四月上旬であつたと記憶するが、活版刷「勞新」に「地下鐵スト終發する」の大見出しで掲載し、當時擴大中央委員會開催のためのカンパ最中であつたにも拘らず、「擴大」の記事を全然書かなかつた爲に、此の「勞新」二萬五千部は配布を中止し、ストックとして了つたとは同志Zからの報告であつた。（我々その「勞新」を見てはゐない）之れは直接には機關紙部の責任であるが、常任として當時機關紙部を統制してゐたのは松原であつた。

全協フラクの同志諸君は、各產別組合中央フラクを我黨各產別フラクの指導を一任せよと、强硬に主張して讓らなかつたが、全協内同志諸君の獨當なる產別の報告なるものは未だ見てゐない。他の同志諸君のことは玆では觸れないとしても。

乙は黨フラクションとしての松原からの報告書として提出されたものゝ一部であつて、之れは殆ど此のまゝの形で、日本交運本部の署名で「勞新」にも發表され

月六回
赤旗
日本共産党日本支部
中央機関紙
【昭和一一年三月】

天皇と「擧國一致」の欺瞞に依て勞働者農民に飢餓、テロル、干渉戰爭を押しつける臨時議會に反對せよ!!

勞働者農民に破滅を齎す「非常時」救濟の一つ一つの政策に反對せよ!!

資本の「非常時」總攻撃に對し凡ての勞働者は從業員大會、工場代表者會議を開いて要求せよ!

解雇賃下勞働强化反對!

勞働銀値上!　賃下を伴はざる七時間勞働制の實施!

「農村救濟」の欺瞞に反對し、農民大會、農民代表者會議を開いて全國の凡ての勞働農民は要求せよ!

借金棒引!　貧小農の租稅免除!

小作料全免!　土地を農民へよこせ!

凡ての失業者は失業者大會、失業者會議を開いて窮迫せる勞働者農民と共に要求せよ!

瓦斯賃錢値下ガス水道料を全免せよ!

天皇、資本家、地主政府の米倉を開けろ!

食と仕事、土地と自由を與へよ!

全勞働者の統一戰線萬歲

全勞働者農民の統一戰線萬歲!

勞働者農民の革命的同盟萬歲!

共産黨の旗の下に凡ての勞働者農民は危機の革命的活路、プロレタリア革命の勝利＝勞働者農民のソヴエート政府樹立の爲に革命的大衆的鬪爭に躍進せよ!

論說

非常時の道德

「非常時」に處しての國民の道德は、「非常時」に處しての國家の道德と、必ずしも一致しない。

六十二國會議は、非常時に處するための支配階級の政治的な方針を決定した。

この方針を實現するための支配階級の政治的な施設が、「非常時」である。

「非常時」に處しての國家の道德は、この支配階級の方針を擁護し、これを實現するための道德である。

「非常時」克服の鍵の一つとして、「擧國一致內閣」の問題が擡頭するに至つた。

「擧國一致內閣」とは、一言にして言へば、日本の支配階級の獨裁的政治形態である。

六月四日の東京朝日新聞は、「擧國一致內閣」の實現に關して、次の如く報じた。

「擧國一致內閣の實現は、單に政黨の問題ではなくて、實は國家の問題である。從つて、この內閣は、政黨內閣ではなくて、國家內閣である。」

「擧國一致內閣」の實現は、單に政黨の問題ではなくて、國家の問題であるといふことは、この內閣が、政黨內閣ではなくて、國家內閣

世界恐慌の新段階
愈々深化
米國經濟危機
―金本位停止近し

今年に入つてアメリカの經濟恐慌は愈々深化した。一月には再び金融恐慌が擴大し、二月の生産指數は、鋼鐵三二七・三二六・四半期の切下げ、國内の金融も梗塞し、昨年一月―六月―六〇・五）内勤務停止

八·一反戰デー目指して工場に闘爭を激化せよ！

帝國主義戰爭打倒のために

工場の軍事的勞働強化と闘へ！

凡ゆる工場で戰爭のため勞働條件惡化す

居殘、殘業手當を要求せよ！

戰爭が勞働者の生活に與へたもの、それを私たちは、決して忘れない。

赤旗通信員は、いつも工場の中に現實に行はれてゐる軍事的勞働强化を傳へてきてゐる。大森ガス電氣の戰車、軍用自動車製造のためのひどい殘業、又日本鋼管の「一本棒」七十四號、東京電氣機の夜の夜中の勞働强化、軍艦に積つてゐるガスマスク製造工場の、軍艦の鋲の打音の轟音、又日本鋼管の勞働强化

★帝國主義戰爭反對
國際闘爭會議の檄

かれてゐる。日本帝國主義と
中國に於ける勞働者、農民、
北方露國の革命、
上海の血腥い虐殺、
日本の血腥い虐殺の
後に、日本はソヴエート同
盟國境に進軍してゐる。
ソヴエート同盟が滅亡
し、上陸し、其大な富源がソ
ヴエート同盟の攻撃のために集結してゐる
資本家の手に渡されるまで、
資本家の布告はない。
戰爭の脅威は消えない。
資本家は狂つてゐる。
ロシアの軍隊解散後、
ロシアの勞働者農民は
暴虐にも
積んだ百の組が、
ハンブルグ……ロンドン等の大港を
出發してゐる。
ロシアへ送ける日本の
軍需品は、
ソヴエート政府の
手に渡されて、
ロシアの勞働者農民は
暴虐にも
積んだ百の組が、
ハンブルグ……ロンドン等の大港を
出發してゐる。

ロシアへ送ける日本の
軍需品は、
ソヴエート政府の
手に渡されて、
ロシアの勞働者農民は
暴虐にも
積んだ百の組が、
ハンブルグ……ロンドン等の大港を
出發してゐる。

日本帝國主義は、
ロシアに於ける
勞働者、農民の
敵である。
日本帝國主義は、
ロシアに於ける
勞働者、農民の
敵である。

日本帝國主義は、
ロシアに於ける
勞働者、農民の
敵である。

日本の帝國主義のために
東亞に於ける
それは
日本の
日本の

婦人勞働者、勞働者農民兵士の妻を帝國主義戰爭反對の旗の下に！

第×回婦人部會討論より

山下盤子

農民、兵士の妻と云ふ風に、勞働者と農民、兵士の妻と云ふ風に、勞働者と農民、兵士の妻と云ふ風に、勞働者と

論說

農業革命への道

農民委員會活動を擴大強化せよ

一

六月三日自由ブルジョア農民政黨の代表者たる農民協會（日本農民組合と全國農民組合との合同によつて出來た）の中央委員會は、農民委員會の組織と活動とに關する決議を採擇した。

この決議は、農民委員會の組織と活動とに關する最も重要な決議である

八・一反戰デーに向つて戰爭擴大の爲の勞働強化反對の大衆鬪爭を起せ！

軍需品製造の勞働條件極惡化反對
工場代表者會議を開け!!
早出殘業、無手當の危險作業、臨時工解雇反對の
金屬、化學、交運産業の職大工代へ！

ソヴエート同盟及び革命中國攻撃戰爭擴大の爲めたる計畫は進んでゐる。ブルジョアーは國内全部に亙つて總動員計畫を組織しつゝある。

至る所の工場に軍需の爲の殘業と、軍事的合理化が行はれ、軍需品製造は、軍部、鐵道、運輸、通信、金屬、化學の總ての勞働者を貧下層勞働者の犧牲に於て苛酷にしぼりつゝある。

金屬及び化學、交運産業の勞働者諸君！

無手當の危險有毒作業、殘業と無賃銀の早出居殘り強制作業、臨時雇の大量解雇、凡ゆる形の貧下層勞働者の犧牲に於ける軍需品製造の爲めの各種の勞働條件の惡化、更に

國際プロレタリアートの反戦闘争

大統領選挙戦を反戦闘争で闘ひ抜け！

アメリカ共産党全労働者に檄す

過日開かれたアメリカ共産党中央委員会第四回総会は来るべき十一月の大統領選挙戦に対する党の態度を決定すべく、その準備として党スタッフの改造を断行した。即ち従来の書記長ルイス・フラニー（党中央委員）同志スタッフ（黒人労働運動の為に奮闘）を党の組織部長に任命すると共に、党の宣伝煽動部長ジェームス・キャノン

小說

奪還！

大西五郎

今日のコア祭りで儲と爺でこしらいよ。」

公が公判廷の證言をやったんだ。とても威勢がよかったんで。そいつをまた聞いて貰はう。何時もセカ〳〵と忙しい奴が、十六人も一どきに集まったんだ。これは關東小野が他の工場にあたことがあるので、それを纏まいて纏めアプつてたからだらう。小野はどうだったい？」

と、みんなが聞く。

「小野は偉えオヤヂ神りしてゐるぜ！」

一緒に行つた爺公が云つた。

「それア共產黨になる位だもの。」

「おいつア始めからやる氣だ。長にガミ〳〵喰つてかゝつた。あんなんでなくちや駄目だ。

「小野の陳述を聞くと、方々に入つて歩いてゐるんだが、そのどこでもストライキを起して爺公なつてるんだ。ストライキの時なんか何時でも眞先に立つてやつたんだ。さうだ、そら、あの大森のガス會社の爭議ナ、あの時もやつたさうだ——」

「ん、俺も知つてる」

村井といふがくらゐ働いて、この頃おれのうちの「會」やクラブに入つてをた男だ。あの時から偉かつたよ！

と、當時の事をあらまし話した。

「それから經濟工作へ入つたさうだよ。杉浦さんが指導してゐたんだ。」

八・一反戰デー目指して反戰の大衆鬪爭を起せ！

城北工場勞働者大衆の 工代會議開かる

工代會議を通じて 各工場の鬪爭へ！

賃銀低下と勞働條件惡化に苦む東京城北の一工場

屬工場（爭議を機に附近同盟者の全部が組織の六工場と出版勞働者支援勞働者が參加して工場代表者會議が持たれた。（東京城北通信員の通信）又

大阪の阪南地區の山森皮革工場のストライキを機會に、この工場と同樣の小皮革工場百餘工場の勞働者が團結して工代會議を結成せよ！

會に、この工場と同樣の小皮革工場百餘工場の勞働者が團結して工代會議を結成せよ！

工場の參加によつて、スト鬪爭の擴大强化が期待された。工代會議が結成されて工代ニュースが數回發行され、共同のデモを行つて松永製革工場がストに起つた。この鬪爭を、遂に附近數工場に勞働者が團結して鬪爭を呼び起した。（大阪通信員の通信）又

大阪の阪南地區の山森皮革工場のストライキを機會に、この工場と同樣の小皮革工場百餘工場の勞働者が團結して工代會議を結成せよ！

會に、この工場と同樣の小皮革工場百餘工場の中に、二十二工場の參加によつて、スト鬪爭の擴大强化が期待された。工代會議委員會が組織されて工代ニュースが數回發行され、共同のデモを行つて松永製革工場がストに起つた。この鬪爭を、遂に附近數工場に勞働者が團結して鬪爭を呼び起した。（大阪通信員の通信）又

大阪の阪南地區の山森皮革工場のストライキを機會に、この工場と同樣の小皮革工場百餘工場の中に、二十二工場の參加によつて、スト鬪爭の擴大强化が期待された。工代會議委員會が組織されて工代ニュースが數回發行され、共同のデモを行つて松永製革工場がストに起つた。

月末になつ

獄中同志からの手紙(二)

佐野學

前略――今回の一六代議士の檻獄に際しても、軍の反帝的闘争に対して、これは白色テロルの強化であり、ファシズムの一つの現われであると、ハッキリと知らせる事が出来ず、ただ単に「言論圧迫」として取扱ったことは、我々の大きな欠陥であった。

我々は、この欠陥を、今後の闘争の中で、どしどし克服して行かねばならない。

一、赤旗カムパ

赤旗カムパは、今度で、もう三回目だ。

一回目は、昨年の十月革命十周年記念の時であった。

二回目は、今年の二月、第一回普選の時であった。

この二回のカムパは、共に、我党の組織力と、大衆的政治力とを、飛躍的に強化した。

今度の三回目のカムパは、我党の組織力と、大衆的政治力とを、更に一段と強化するために、行なわれねばならない。

二、労働農民の組織

我党の組織力と、大衆的政治力とを、飛躍的に強化するためには、労働農民の組織を、飛躍的に強化しなければならない。

労働農民の組織を、飛躍的に強化するためには、労働農民の闘争を、飛躍的に強化しなければならない。

労働農民の闘争を、飛躍的に強化するためには、労働農民の闘争を、政治的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、政治的に指導するためには、労働農民の闘争を、経済的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、経済的に指導するためには、労働農民の闘争を、日常的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、日常的に指導するためには、労働農民の闘争を、細胞的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、細胞的に指導するためには、労働農民の闘争を、組織的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、組織的に指導するためには、労働農民の闘争を、計画的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、計画的に指導するためには、労働農民の闘争を、系統的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、系統的に指導するためには、労働農民の闘争を、全国的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、全国的に指導するためには、労働農民の闘争を、国際的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、国際的に指導するためには、労働農民の闘争を、プロレタリア国際主義の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、プロレタリア国際主義の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、ソヴェート同盟擁護の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、ソヴェート同盟擁護の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、帝国主義戦争反対の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、帝国主義戦争反対の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、内乱内戦の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、内乱内戦の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、革命的大衆行動の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、革命的大衆行動の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、ボルシェヴィキ的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、ボルシェヴィキ的に指導するためには、労働農民の闘争を、レーニン主義的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、レーニン主義的に指導するためには、労働農民の闘争を、マルクス主義的に指導しなければならない。

労働農民の闘争を、マルクス主義的に指導するためには、労働農民の闘争を、弁証法的唯物論の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、弁証法的唯物論の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、史的唯物論の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、史的唯物論の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、階級闘争の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、階級闘争の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、プロレタリア独裁の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、プロレタリア独裁の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、プロレタリア革命の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、プロレタリア革命の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、世界革命の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、世界革命の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、コミンテルンの立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、コミンテルンの立場から指導するためには、労働農民の闘争を、レーニン主義の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、レーニン主義の立場から指導するためには、労働農民の闘争を、マルクス主義の立場から指導しなければならない。

労働農民の闘争を、マルクス主義の立場から

八月一日國際反戰デー

大衆的ストライキ、街頭デモンストレーションへ!!

全世界のプロレタリアート勤勞農民、被壓迫民族の、戰爭及び帝國主義の強盜的壓迫に反對する決意を國際的に一致して示す日——國際反戰デーは一九二九年の第四回大會に於て、國際赤色救援會と國際勞働組合（インターナショナル）との提唱によつて、帝國主義戰爭の危險に對する闘爭の日として、又ソヴエート同盟の擁護の日として、全世界の勞働者、農民、兵士、學生、婦人、青年、少年、黒人等の革命的大衆行動の日として、初めて決定されたのである。

一九三二年の國際反戰デーは三つの點——帝國主義——殊に帝國主義列强國間の戰爭と、植民地半植民地の民族解放闘爭、及び帝國主義の最後の支柱たる社會民主主義の相對立つ二大陣營が、上海地方の軍事的衝突は中國の分割、植民地化の問題が、極東に於ける帝國

八・一反戰デーに向って計畫的に反戰の大衆鬪爭を起せ！

急迫したソ同盟攻撃戰爭反對の 行動委員會を作れ！

戰爭反對に宣傳煽動を集中し 工場に反戰鬪爭を打樹てろ！

勞働者農民の組織ソヴエート同盟攻撃の増大する計畫が現に全國の工場、殊に全露化學勞働組合の工場に直接勞働者と關東貸下勞働團、無產者手藝勞働作業、臨時休業勞働者等の街頭に於ける闘爭が起りつゝある。今まで日常鬪爭を發展して反戰鬪爭の組織へと發展しつゝあるのだ。この公式化の下に立つてゐる。工場代表者會議等の大衆鬪爭が東京、神北に、大阪兩地區に起つて來組織勞働者の廣汎なひき入れた鬪爭が起りつゝある。

我々は今やかんの如き勞働者の直接的要求に基づく大衆的鬪爭の中に、既に時日の問題と云ふ支配級のソヴエート同盟攻撃を粉碎し得る鬪爭を現實に打樹てねばならない。

小說

戰爭から歸ってきた職工

——八・一（反戰デー近づく

清水賢一郎

工場長の山ぢが殺されかけ、それから歸って行くと、杉田の歡迎會は始めて我々の「職場だけの人ちがいなので金にガヤ〳〵言はれないで

八・一反戰デー目指して反戰の大衆鬪爭を組織せよ！

戰爭による勞働強化反對！

ガスマスク製造工場の兄妹

斷乎サボタージュ

更に强制殘業五時間に　押へに押へた不滿爆發！

（通信員發）女工さんが等閑するやうなヒドイ勞働強化をおしつけ、勝手に無理な殘業を强ひては、勝手に無理な殘業を强ひては、一日から今度は殘業四時間のホース、お前、聖等の勞働に更に强制殘業五時間を押しつけた。

たまりかねた從業員は、誰も彼も、「こうして良々に餘計殘業に働かされてはどうなる！もしこれ以上働かせるならば同じく勞働に從事する家族の勞働賃金の大增額を要求せよ！」と、兄妹は斷乎としてサボタージュに入つた。

この强制殘業で　會社は殘業賃金を臨時工から一人につき四十四錢、女工から二十錢、本工九時までの殘業手當六圓といふ金額を節減し、それで從業員には四時間分の勞働强化をやらせるのである。

陸軍ではこの工場を官營にしたいがさうすると貸與金上をせねばならぬので名目だけ民營にしてをいて監督官を軍人上りの者にやらせ、今までのひどい低賃銀で、つき使ひまくつて就業をかけ軍隊式にしてヒドイ勞働强化を斷行せんとしてゐるのだ。

仕事場では、あちこちで從業員が集まり、ストライキして　戰爭による軍事的勞働强化と闘はふとふ氣運が漲ち充ちてゐる。

この時六月廿日、日本共産黨のビラが撒布され、上らせ、軍需品工場の戰爭による勞働强化反對の聲が全國的に擴がつてゐる。

陸軍の兵器工場の　步增一錢もつかぬ　强制殘業！

×××通信員

ソヴエート同盟攻撃の切迫オエライ人の親玉どもで、東北、北陸、中部地方の軍需工場、當日は大（各職場のこと）は女工さんが六、男工は七時までの殘業で步いてゐたのに、兄妹時を祝つてゐるのに、兄妹の憤慨に油まつてゐる。

八・一デー目指す大企業の鬪爭

長崎三菱造船所　二千人解雇　盆賞與で

一昨年千八百名を解雇して不況の回復と特需とで又も三菱造船所は不況を大義に轉嫁更に二千人を馘首せうと盆賞與給後の不況の襲來を豫想して勞働者の首切りを企圖してゐる。しかも現在の三菱の勞働者の氣の緩んだ

市電從業員に　賞與減額廢止！

極秘に市電當局內定

東京市電當局では二十四日午後二時から緊急重役會議を開いて

窮乏農民を救濟しろ！　と鬪爭を起して八・一デーに備へよ！

大凶作と饑饉、惡食と疫病！　戰爭はそれを倍加してゐる

反戰活動を强めよ！

八月一日に反戰の大デモを組織せよ！

全農民、革命的農民諸君！

關東、東北、北陸、中部地方の窮農は上旬關西に於ても、今年は昨年以上の大凶作である。米作もまた今年は昨年以上の大凶作であることは、既に發表された。その上に、又共同の反戰デモを組織して、又共同の反戰デモを組織して、

全農民、革命的農民諸君！

このやうな情勢は農村で　大衆的な反戰鬪爭を組織することが、しかも今すぐ　大衆の指導と統一ある行動とによつて、

勤勞大衆の敵　天皇の正體

窮乏故の「御料林伐採を嚴罰

中小農を引込み　搾取を一層强める　天皇政府の「農村救濟」策大綱

稀代の「天皇」

高利貸の「强制取立績出

「凱旋」した失業兵

強盜戰爭資で俺達を救へ！

電燈料鬪爭

大衆行動で　農工銀行を屈服

—三重の借金支拂猶豫同盟—

まき起る農民委員會運動

兵士の間に放げる反戰活動

「勞働者と農民の政府」と金持ち「地主の政府」

失業者懇談會で　米をよこせ！

高田町水久保數十名の大衆

手當賃與減額反對！　速時、要求を！

ダラ幹の鬪爭防止策

「反戰ゼネスト」を叩き破つて　首切

城北では突擊隊を組織　飯場、井戸端會議でアヂ

家族大會を開け！

社會主義競爭で　全國協議會

擴大會議決定實踐に進む

失業苦で　除隊中止を申出

プルジョアー地主的天皇制の階級裁判に反對せよ！

公判同志の最終陳述を期して

黨員釋放・奪還の爲の大衆的示威・ストを決行せよ！

一箇年の長きに亘る三・一五、中間四・一六の公判廷は來る七月四日から同二十六日（火、木、土の六回）の最終陳述にまでさまざまに發展轉化して來た。法廷の同志等はこの最終陳述を以て集中的且つ總括的に闘ひ取つた勞働者農民大衆の最も切實且つ緊急な政治的要求と、之によつて暴露された天皇制の階級的本質と、之に對する勞働者農民大衆の憤りの爆發とを結合して、大衆的な勞働者農民解放の爲の革命的闘爭に發展させる爲に、全勞働者農民に檄する。

謂ふまでもなく、この最終陳述は單なる辯護ではない。同志等はこの陳述を通じて、革命的な立場から、天皇制の階級的本質を徹底的に暴露し、之に對する勞働者農民大衆の最も切實且つ緊急な政治的要求と憤りの爆發とを結合して、大衆的な勞働者農民解放の爲の革命的闘爭に發展させる爲に、全勞働者農民に檄する。

この檄文は、全國の勞働者農民諸君！

一、全勞働者農民大衆の公判闘爭を組織して行くことを以て最も緊急な任務とせよ！

北は樺太から南は臺灣に至る全國の勞働者農民大衆の公判闘爭を組織して行くことを以て最も緊急な任務とせよ！

二、全國の勞働者農民大衆の公判闘爭を通じて、全國的に集中的且つ總括的に闘ふことによつて、天皇制の階級的本質を暴露し、之に對する勞働者農民大衆の最も切實且つ緊急な政治的要求と憤りの爆發とを結合して、大衆的な勞働者農民解放の爲の革命的闘爭に發展させよ！

三、全國の勞働者農民大衆の公判闘爭を通じて、全國的に集中的且つ總括的に闘ふことによつて、天皇制の階級的本質を暴露し、之に對する勞働者農民大衆の最も切實且つ緊急な政治的要求と憤りの爆發とを結合して、大衆的な勞働者農民解放の爲の革命的闘爭に發展させよ！

**全勞働者農民大衆の公判闘爭を組織して行くことを以て最も緊急な任務とせ

小說

「戰爭から」歸つて來た職工 (2)
——八・一(反戰)デー近づく

清水賢一郎

杉田驛の北育工業は職夥が始まると、飛行船の側やパラシュートや瓦斯マスクを作り出した。その爲に二百人も增員の從業員の所へ、六百人の職工を入れた。此等の石本達とは其の時戸締と鑛山と鑛業とに入つたんだつた。

ありつけた職場だ。非常時やら、軍需品やらで、景氣は好いし、殊に此の工場は、ぶツ續けに注文がくるので、殘業やら、日曜出勤やらで、月收は平均百圓以上にもなつた。

だとか、そんな事は、此の工場にまるでなかつた。

「共產黨のひとさ」

誰が知つたか振りのことを云つてゐる。

「おつかない。でも本當のことかしら？」

「共產黨の人つて、どんな顏してゐるんだらう？」

「こら、ハル！　お前も持つてるだらう。出せ！　持つてないわ、見たけどウソよ！」

おちよさん、とつても面白いこと言つてたわ。おちよさんは、私たちの百分の一も働かないで百倍もお給金を貰つてゐるつて。そして、大學の方にお婆さんを聞つてゐるつて。

「本當？　感心好きのハルエがキヤツ〳〵と笑つた。それを聞くとオヤヂはユデ蛸のやうに眞赤になつたから、と思ふと、急に態度をかへて、

「こら、ハル！　お前も持つてるだらう。出せ！　持つてないわ、見たけどウソよ！」

おちよさん、とつても面白いこと言つてたわ。おちよさんは、私たちの百分の一も働かないで百倍もお給金を貰つてゐるつて。そして、大學の方にお婆さんを聞つてゐるつて。

「本當？　感心好きのハルエがキヤツ〳〵と笑つた。それを聞くとオヤヂはユデ蛸のやうに眞赤になつたから、と思ふと、急に態度をかへて、

「共產黨のひとさ」

誰が知つたか振りのことを云つてゐる。

「おつかない。でも本當のことかしら？」

「共產黨の人つて、どんな顏してゐるんだらう？」

「こら、ハル！　お前も持つてるだらう。出せ！　持つてないわ、見たけどウソよ！」

おちよさん、とつても面白いこと言つてたわ。おちよさんは、私たちの百分の一も働かないで百倍もお給金を貰つてゐるつて。そして、大學の方にお婆さんを聞つてゐるつて。

「本當？　感心好きのハルエがキヤツ〳〵と笑つた。それを聞くとオヤヂはユデ蛸のやうに眞赤になつたから、と思ふと、急に態度をかへて、

「戰爭をやれば事しが樂になると傳染病を鎭めたのが、この樣だ。それに戰爭へ行けば行つたで、郷代になつて仕事がない。歸つたら歸つたで、失業者の運命と云はれてゐる。

「鑛山とか、鑛業とか、工場とか、土方とか、そんな仕事は、戰爭に行つて、歸つて來ると、皆、それ〴〵の仕事に就けるやうに、ちやんと、世話してくれるんだつて。

「ハルエ、お前は、どうよ！」

「あゝ、おちよさんか、お婆さんの病氣は、どうだい？」

「ありがとう、お蔭樣で、此の頃は、大變元氣になつて、毎日、工場へ出かけるやうになつたの。」

「それは、よかつたね。」

帝國主義の侵略性を強化した現在の日本帝國主義の搾取制度（）が明らかである。

日本の工業が國家の資存し、それを利用すればするほど、それは益々多く國内市場へ益々多く依存するようになり、その市場の暴力的、軍事的擴大の道へ益々強く馳り立てられたのであった。

當時ツアール・ロシアに於てさうであったやうに、日本資本家は、革命化しつゝある國内の勞働者階級の成長、日本帝國主義の弱點を暴露する社會主義の國際的發展に對する恐怖から、益々露骨に軍國主義的、帝國主義的政策を採るに至った。

そして、日本帝國主義者は、日本プロレタリアの基本的大衆の眞の解放を目指す社會主義の運動に對しては、ありとあらゆる彈壓を加へた。

このために、「最新の資本主義的段階」としての帝國主義が前資本主義的諸關係の特に濃密な網に絡つてゐるところの日本の資本蓄積の基礎最も薄弱なる點を、最も鋭く衝いたことは言ふまでもないであらう。

日本の資本主義の特徴を完全に描き出したとは言へないまでも、日本資本主義の特徴を理解するためには、この一點、即ち日本プロレタリアの基本的大衆の眞の解放を目指す社會主義の運動に對しては、ありとあらゆる彈壓を加へたことを忘れてはならないであらう。

日本に於ては、すべての封建的關係は決定的には清算されなかつた。それ故に常に國内用、占、その掠奪の爲の便宜を利用しやうと努力してゐる。何よりも先づ日本の地主と資本家階級との更に本質的關係に於ける、日本の勞働者階級の狀態にある。彼等は本質上、奴隸的取扱を受けてゐる。日本の資本家から無慈悲な搾取を受けてゐるばかりでなく、日本の地主階級からも、亦、注意しなければならぬ。

日本に於ては、すべての封建的關係は決定的には清算されなかつた。それ故に常に國内用、占、その掠奪の爲の便宜を利用しやうと努力してゐる。何よりも先づ日本の地主と資本家階級との更に本質的關係に於ける、日本の勞働者階級の狀態にある。彼等は本質上、奴隸的取扱を受けてゐる。日本の資本家から無慈悲な搾取を受けてゐるばかりでなく、日本の地主階級からも、亦、注意しなければならぬ。

日本に於ては、すべての封建的關係は決定的には清算されなかつた。それ故に常に國内用、占、その掠奪の爲の便宜を利用しやうと努力してゐる。何よりも先づ日本の地主と資本家階級との更に本質的關係に於ける、日本の勞働者階級の狀態にある。彼等は本質上、奴隸的取扱を受けてゐるばかりでなく、

長しつゝある革命的闘争の結末如何は、かゝつて日本共産党自己の弱さ、成長する大衆の活動性からその立遅れを克服した時にのみ、たゞその陣列を思想的且つ組織的に堅固化し、勞働者、農民及び都市貧民の最も廣汎な大衆との結合（それは現在は極めて弱いが）を無大し、彼等の闘争の先頭に立つてのみその役割を果すことが出來るであらう。

然し、日本共産党は、若し根本問題——日本に於ける來るべき革命の性質と任務とに關する問題——に關してのその誤つた規定を訂正しないならば、幾百萬勞働大衆をそのスローガンの下に動員し得ないであらう。即ち、日本共産党中央委員會によつて作成された政治テーゼ草案には、來るべき日本革命の性質は、ブルジョア民主々義の任務を廣汎に含むプロレタリア革命である。」

來るべき革命の性質の

かゝる誤れる規定は、農業革命の任務の過少評價に、正に來るべき革命の最大特徴の一つたる農業問題の鋭さの無理解に、地主的土地所有の完全なる破壊の必要の無理解に直接に結びついてゐる。我々がこの論文の始めに國内に存在する封建的殘存物の力に就いて、地主的土地所有と資本との結合に就いて語つたことからも、不可避的に生ずる結論は大の如くである。「プロレタリアートの指導の下に於ける農民の、土地革命の爲めの、地主に對する闘争と

來るべき日本革命の樞軸の一つ、中心的任務の一つである。この事情の過少評價は、日本の同志によつて犯されている最大の誤謬である。日本の同志の許に現はれてゐる中、最も重大なものは、來るべき革命の性質の無視、日本の中農は地主と現存支配とに對する革命的闘争をなし得ないといふ、全く誤つた、運動の實踐によつて覆へされる認識も亦、同じの樣に沿つてなされてゐるのである。

他方に於て、日本の同志は來るべき革命のプロレタリア的性質に關するテーゼを押し出しつゝ、それによつて君主制の打倒（二）——國内に於ける政治的反動と封建主義の全殘存物との主要な支柱、現在主要打撃が向けられねばならない日本勞働大衆のこの敵——の役割の過少評價を示してゐるのだ。日本の同志は日本君主制の專制主義的性質を掩ひ、性急な「日本の國家權力は、金融資本のヘゲモニーの下に於けるブルジョアジーと地主との手中に存する」といふ結論を引き出してゐる。

一八

六八年の所謂明治維新後、日本に形成された專制的君主制は、それに引きつゞく全期間に亘つてたゞ一面非立憲的形態にかくれたゞけで、事實上專制主義の如何なる制限も君主々義的官僚の權利と勢力との如何なる制限もこれを絶對に許すことなく、地主的土地所有と資本との結合は、自らを完全無缺の權力を保持して來たのである。事實、封建主義の歴史的産物たる日本君主制は、以前は地主階級に依存してゐたが現在は獨特の資本主義的發展——金融資本と封建主義の巨大な殘存物との融合——の結果、ブルジョアジーに依存し、他方ではブルジョアジーに依存してゐる。これら二つの搾取階級の利益を代表して、その政策を遂行してゐる。然し、この日本君主制の階級的性質は、君主々義官僚が一定の獨自的役割を有する事に關する問題を決して除去するものではない。ロシア君主制に就いてレーニンが語つたことを想起しやう——「……ツアールの君主制の階級的性質は、ニコライ地主的土地所有の廢止（二）一日七時間勞働制と勞働者階級の狀態の徹底的改善との實現の側から）巧みに戰争と軍事的警察的君主制に對する政治的闘争の軌道に導くことを前提とする。共産黨の全活動は現在根本的任務——戰争と君主制とに對する闘争と密接に結びついた大衆の死活的要求のための闘争の排除し、ソヴエート權力を樹立し、革命的方策を實施しつゝ、急速な社會主義革命への轉化とプロレタリアートの獨裁に對する最も野蠻な經濟的政治的抑壓の數日に大衆をこの方策の實施に取り立てるであらう。

日本の勞働者農民革命は、君主制を打倒し、中央及び地方の政權からブルジョアジーを含めての一切の搾取階級を排除し、ソヴエート權力を樹立し、革命的方策を實施しつゝ、急速な社會主義革命への轉化とプロレタリアートの獨裁に對する勞働者階級の闘争の先頭に立つてのみその役割を果すことが出來るであらう。

然し、日本共産黨は、若し根本問題——日本に於ける來るべき革命の性質と任務とに關する問題——に關してのその誤つた規定を訂正しないならば、幾百萬勞働大衆をそのスローガンの下に動員し得ないであらう。即ち、日本共産党中央委員會によつて作成された政治テーゼ草案には、來るべき日本革命の性質は、ブルジョア民主々義の任務を廣汎に含むプロレタリア革命である。」

來るべき革命の性質の

かゝる誤れる規定は、農業革命の性格の過少評價に、正に來るべき革命の最大特徴の一つたる農業問題の鋭さの無理解に、地主的土地所有の完全なる破壊の必要の無理解に直接に結びついてゐる。我々がこの論文の始めに國内に存在する封建的殘存物の力に就いて、地主的土地所有と資本との結合に就いて語つたことからも、不可避的に生ずる結論は大の如くである。「プロレタリアートの指導の下に於ける農民の、土地革命の爲めの、地主に對する闘争と

日本

の同志は、こゝに引用したレーニンの言葉に就いて眞劍に熟慮しなければならぬ。日本の同志は、外ならぬこの君主制の力によつて國内に最も反動的な警察的支配と勞働者農民の最も完全なる政治的無權利、勤勞大衆に對する最も野蠻な經濟的政治的抑壓とが維持されてゐるのだといふことを理解しなければなら

ぬ。特に今、日本帝國主義による滿洲の掠奪戰爭に際して君主々義的官僚の役割は更に一層高まりつゝある。日本の同志は、日本に於ける來るべき革命は何よりも先づブルジョア＝地主的君主制、軍事的＝警察的君主制に對して向けられねばならぬことを明瞭に意識しなければならぬ。日本革命の來るべき段階の根本任務は如何なるものかゞ、それは（一）君主制の打倒（二）ブルジョア民主々義段階の任務を實現するための系統的な且つ決定的な闘争は、勞働者なければならぬ。部分的要求の綱領を作成し、

日本

の同志は、こゝに引用したレーニンの言葉に就いて眞劍に熟慮しなければならぬ。日本の同志は、外ならぬこの君主制の力によつて國内に最も反動的な警察的支配と勞働者農民の最も完全なる政治的無權利、勤勞大衆に對する最も野蠻な經濟的政治的抑壓とが維持されてゐるのだといふことを理解しなければなら

社會主義革命への強行的な轉化の傾向を有する（Potsch）革命の來るべき段階をブルジョア民主々義革命と規定することは正當である。

日本

革命の來るべき段階は、ブルジョア民主々義的なものと呼んだからとて、吾々は決してこの革命の任務を低く見たり、その意義を小さくするものではない。資本家階級はプロレタリアートのより古い歴史的仇敵が打倒されない内は充分に廣汎には展開され得ず、勝利を以て終ることは出來ない（レーニン）。革命の條件に適應して、プロレタリアートの獨裁のための闘争に於て廣汎な勤勞大衆を獲得しつゝ共産黨は彼等を革命、基本的スローガンの爲の闘争に驅起せしめなければならぬ。下からの統一戰線戰術を實施しつゝ、共産黨は勞働者、農民と地主階級の打倒の任務——に從屬せしめなければならぬ。帝國主義戰爭に向け、この戰爭に於ける社會民主主義指導者及び一色勞働組合幹部の役割を暴露しなければならぬ。共産黨は、中國の完全な獨立のために戰ひ、中國からの即時撤兵を要求しなければならぬ。共産黨は、君主制とその社會民主々義的從僕共の國内階級平和樹立の政策に對して斷乎として闘争しなければならぬ。共産黨は、ストライキ闘争を最大限に展開しなければならぬ。

日本

帝國主義者のソヴエート同盟に對する武力干渉の準備に關聯して、日本共産主義者の前に特に責任ある重要な任務が提出されている。共産黨は、社會主義建設の成功と、ソヴエートの勞働者農民の達成と、そしてソヴエート同盟の平和政策とを全力を盡して宣傳しなければならぬ。共産黨は、勝利せる社會主義の國に對する日本帝國主義者の戰爭準備の諸方策を暴露し、これをあらゆる手段をつくして妨害せねばならぬ。

現在に於ける日本共産主義者の主要任務は以上の如くである。中心的煽動スローガン帝國主義戰爭と警察的君主制に對する、米と土地と自由のための、勞働者農民の政府樹立のための民衆革命——の下に、日本共産黨はその周圍に幾百萬の大衆を結集し、來るべき革命的爆發に向つて大衆を指導なく、確信を以て堪へ眞の大衆黨に轉化しなければならぬ。

ロシア版　カー・イー　誌

一九三二年第八—九號

三月三十日號卷頭論文——

1954年8月31日　第1版発行　『赤　旗』第二巻　　定価 1000円
1961年10月10日　第2刷発行

編　者　　アカハタ本局
発行者　　田　畑　　弘

発行所　　株式会社　三　一　書　房
東京都千代田区神田駿河台2の9
電東話京（201）9581～5番
振替東京 84160番